秋田県文化財調査報告書第190集

東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書Ⅴ

―― 手取清水遺跡 ――

1990・3

秋田県教育委員会

秋田県埋蔵文化財センター

東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書Ⅴ

―― 手取清水遺跡 ――

1990・3

秋田県教育委員会

空中写真　（北▷南）　　（昭和62年11月 5 日撮影）

空中写真　（南▷北）　　（昭和62年11月 5 日撮影）

1　ＳＬ323旧河川　北西端から中央部を望む　（北西▷南東）

2　ＳＬ324旧河川　（Ａ区－ＮＨ71グリッド）土層断面　（北▷南）

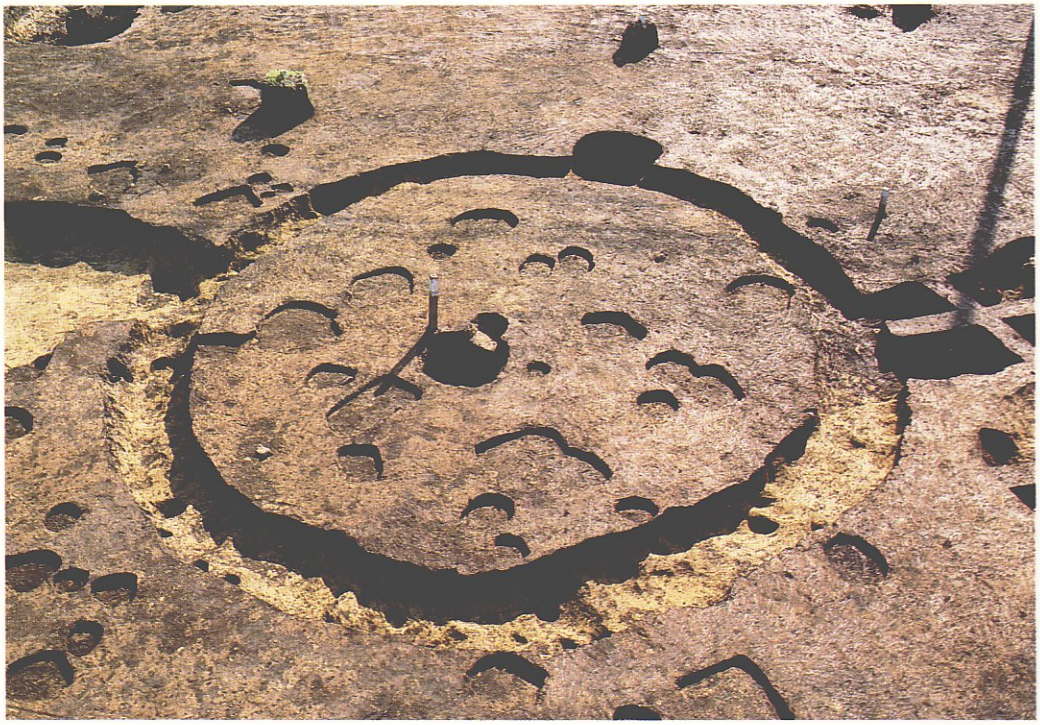
1　ＳＬ324旧河川　（Ａ区－ＮＪ72グリッド）遺物（ＲＰ450～456）出土状況　（北▷南）

2　ＳＬ323旧河川　（Ｃ区）　木簡（ＲＷ1207）出土状況

1　ＳＬ323旧河川　（Ｃ区）　将棋駒（ＲＷ1167）出土状況

2　ＳＬ323旧河川　（Ｃ区）　鋤（ＲＷ1168）出土状況

1　ＳＥ067井戸跡　曲物出土状況

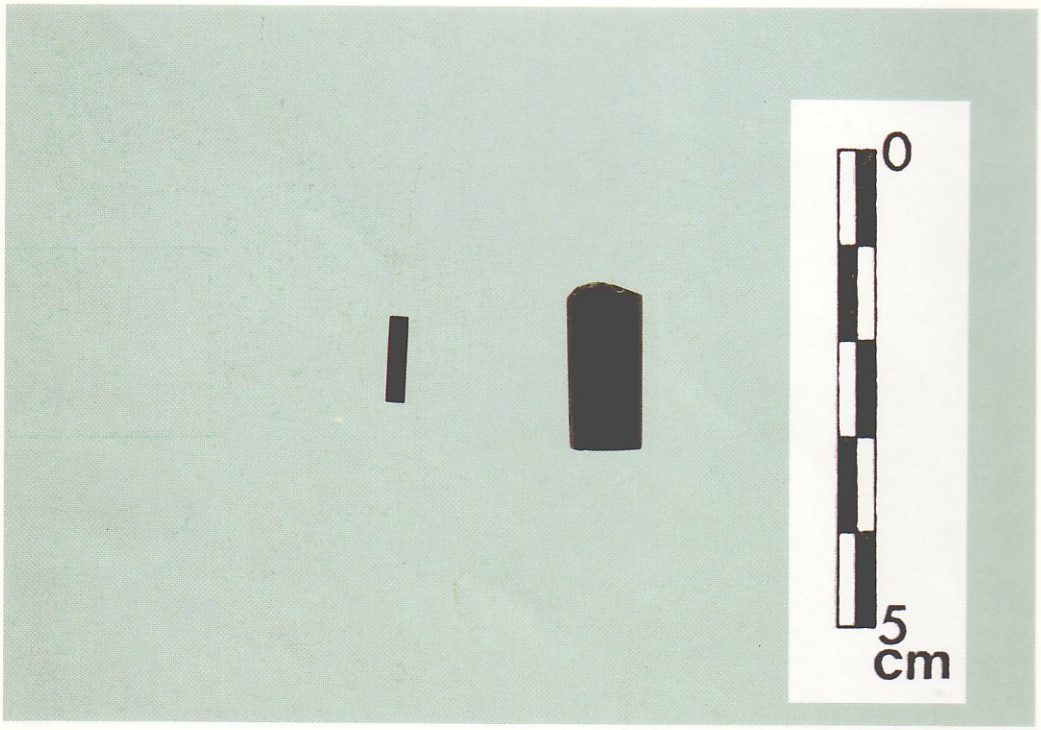


2　ＳＤ130溝状遺構　完掘　（北東▷南西）

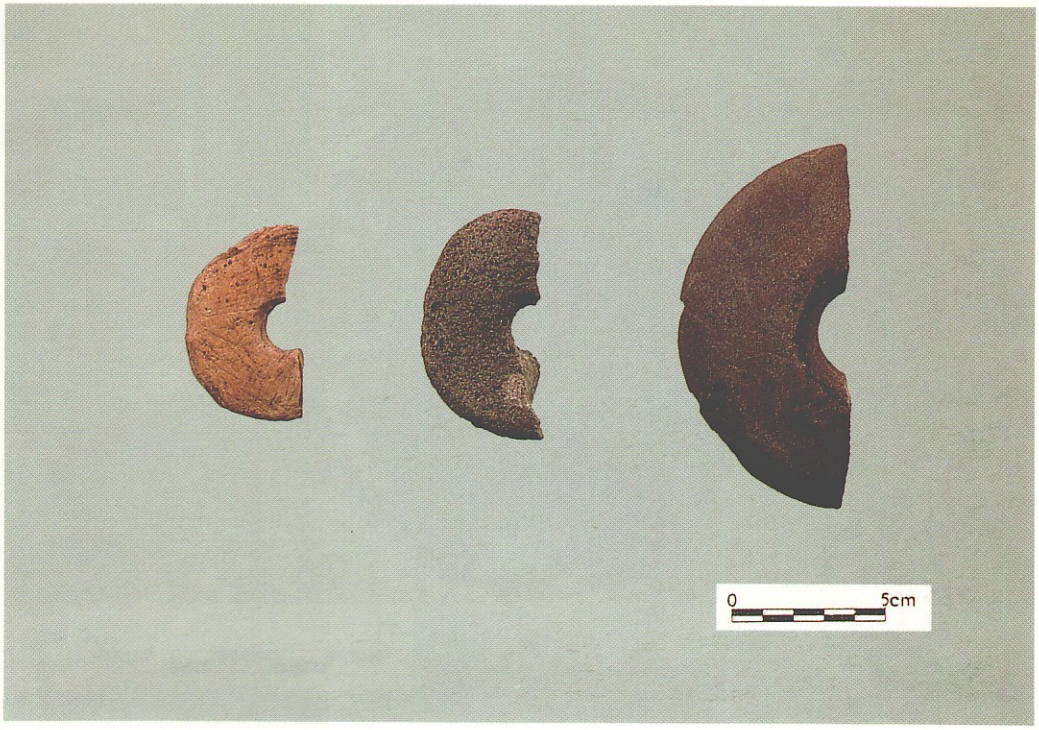
1　ＳＫ156土坑　土層断面　（南▷北）

2　ＳＸ084その他の遺構　完掘　（西▷東）

1　ＳＸ153その他の遺構　完掘　（南西▷北東）



2　管玉



1　環状石斧

2　墨書土器

1　漆皿

2　擂粉木・箸・ヘラ状木製品

序

秋田県には、私達の祖先が営々として築きあげてきた貴重な文化遺産が数多く残されています。東北横断自動車道秋田線は、秋田県の高速交通体系の根幹となるもので、すでに秋田市から横手市までの57.4kmについては、平成３年度の完成を目指して着々と工事が進められております。

秋田県教育委員会では、工事に先立って昭和60年度から遺跡の発掘調査を実施し、歴史的に貴重な資料を得て逐次その成果を公表してまいりました。本報告書は、昭和62年度に調査しました手取清水遺跡の調査成果をまとめたものであります。調査の結果、縄文･弥生時代、古代～近世まで長期の歴史を物語る多くの土器、石器、陶磁器、木製品などの遺物が出土し、掘立柱建物跡や土坑などの生活跡を示す遺構を検出することができました。特に河川跡から出土した木簡（６点）や墨書土器（132点）などの文字資料は、古代･中世史の解明に寄与できると考えます。

本書が学術上はもちろんのこと、埋蔵文化財に対する理解と保護のために広く活用いただければ幸いです。

最後に本書を刊行するにあたり、御援助、御協力を賜りました日本道路公団仙台建設局、横手市教育委員会並びに関係各位に対し心からの感謝の意を申し上げます。

平成２年１月20日

秋田県教育委員会

教育長　橋本　顕信

例　言

1．本報告書は、東北横断自動車道秋田線建設事業に係る手取清水遺跡発掘調査報告書である。

2．本報告書の執筆分担は以下のとおりである。

柴田陽一郎……「第1章　はじめに」「第3章　調査の概要」「第4章第1節　3　竪穴住居跡・4　竪穴状遺構・5　井戸跡・6　溝状遺構・7　河川跡・9　配石遺構・10　土器埋設遺構・11　焼土遺構、　第2節　1（1）②石器、第2節　3　中世・近世、5　木製品」「第6章　まとめ　1（2）石器、2（2）　その他の遺構について・2（4）　木製品について、3　おわりに」

山崎　文幸……「第4章第1節　1　柱列・2　掘立柱建物跡」「第4章第2節　2（1）と（2）の土器、第2節　5　文字資料」「第6章　まとめ　2（1）掘立柱建物跡・柱列跡や出土遺物について・（3）　文字資料について」

和泉　昭一……「第4章第1節　8　土坑・12　その他の遺構」

船木　義勝……「第2章　遺跡の立地と環境」「第4章第2節　1（1）・（2）の①土器・②土製品」「第6章　まとめ　1（1）縄文・弥生時代の土器について」

高橋　忠彦……「第4章第2節　1の（2）の③石器．④石製品」

3．第5章　自然科学的分析の花粉・大型植物遺体・灰像・火山灰の各分析は（株）パレオ・ラボに、脂肪酸分析は（株）北海道測量図工社（現・ズコーシャ）に、放射性炭素年代測定は学習院大学に委託した。なお、灰像分析は（株）パレオ・ラボを介して、東京大学総合研究資料館　松谷暁子氏にお願いした。

火山灰分析は、東北大学農学部　庄司貞雄氏・山田一郎氏（現・農林水産省農業環境技術研究所　土壌調査分類研究室）にお願いした。心から感謝申し上げる。

4．土色の表記は、農林省農林水産技術会議監修　財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帳』に拠った。

5．発掘調査および遺物整理にあたって、下記の方々からご指導・ご助言を賜った。　記して感謝の意を表する次第である。（順不同・敬称略）

秋田大学教育学部教授　新野直吉

国立歴史民族博物館考古研究部教授　吉岡康暢

東北大学文学部助教授　今泉隆雄

奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部考古第一室長　黒崎　直

奈良国立文化財研究所研究員　寺崎保広

筑波大学歴史・人類学系助手　山田昌久

広島県草戸千軒町遺跡調査研究所指導主事　下津間康夫、学芸主事　佐藤昭嗣

福井県立朝倉氏遺跡資料館主査　南　洋一郎

(社)日本将棋連盟将棋博物館学芸員　小泉信吾

山形県教育庁文化課主任技師　野尻　侃、技師　阿部明彦

東京都立石神井高等学校教諭　菊地照夫

秋田県工業技術センター川連指導所専門研究員　阿部繁三郎

秋田市秋田城跡調査事務所主査　小松正夫、社会教育主事　日野　久

横手市教育委員会主任　沢谷　敬

凡　例

1．柱穴に付した数値は、地山からの深さである。

2．各遺構・遺物に付している略記号は以下のとおりである。

掘立柱建物跡	ＳＢ、柱列	ＳＡ、溝状遺構	ＳＤ、井戸跡	ＳＥ
竪穴住居跡	ＳＩ、竪穴状遺構	ＳＫＩ、土坑(土壙)	ＳＫ、配石遺構	ＳＱ
旧河川	ＳＬ、土器埋設遺構	ＳＲ、焼土遺構	ＳＮ、その他の遺構	ＳＸ

3．文字資料の釈文に付した符号の詳細については、便宜上、本文中に記してある。

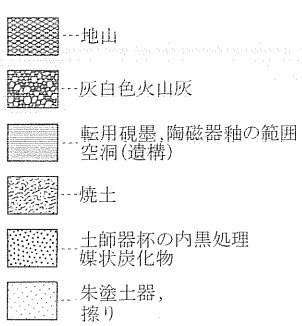
4．遺構はすべてその性格に関係なく通し番号とした。

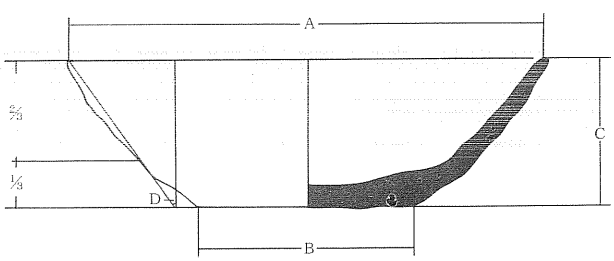
5．挿図中の遺物実測図と拓本は時代毎に通し番号とし、図版中の遺物もそれにしたがった。

6．文章中および表中の法量の推定値は(　)で表示した。

7．須恵器は土師器と区別するため，挿図中の実測図断面を黒く塗りつぶした。

8．挿図中のスクリーン・トーン、シンボルマークは以下のように使い分けた。





A：口径　B：底径　C：器高　D：外傾度
E：底径指数＝B/A　F：高径指数＝C/A×100
坏の法量計測基準

目　次

序
例言・凡例
目　次(挿図・表・図版)

第1章　はじめに
第1節　発掘調査に至るまで …… 1
第2節　調査の組織と構成 …… 2
第2章　遺跡の立地と環境
第1節　遺跡の位置と立地 …… 3
第2節　歴史的環境 …… 6
第3章　発掘調査の概要
第1節　遺跡の概観 …… 15
第2節　調査の方法 …… 17
第3節　調査の経過 …… 18
第4章　調査の記録
第1節　検出遺構 …… 23
1．柱　列　跡 …… 23
2．掘立柱建物跡 …… 30
3．竪穴住居跡 …… 52
4．竪穴状遺構 …… 70
5．井　戸　跡 …… 81
6．溝状遺構 …… 83
7．旧　河　川 …… 108
8．土　　坑 …… 113
9．配石遺構 …… 136
10．土器埋設遺構 …… 130
11．焼土遺構 …… 153
12．その他の遺構 …… 153
第2節　出土遺物
1．縄文・弥生時代
(1)遺構内出土遺物
①　土器 …… 172
②　石器 …… 193
③　石製品 …… 222
(2)遺構外出土遺物
①　土器 …… 222
②　漆塗土器 …… 238
③　土製品 …… 253
④　石器 …… 253
⑤　石製品 …… 256
2．平安時代
(1)遺構内出土遺物
①　土器 …… 277
(2)遺構外出土遺物
①　土器 …… 280
3．中世・近世
(1)遺構内出土遺物
①　陶磁器 …… 291
②　古銭 …… 291
③　鉄製品 …… 302
(2)遺構外出土遺物
①　陶磁器 …… 302
②　古銭 …… 302
4．文字資料
(1)木簡 …… 302
(2)将棋の駒 …… 305
(3)墨書土器 …… 305
5．木製品 …… 312
第5章　自然科学的分析
第1節　花粉分析 …… 347
第2節　大型植物遺体分析 …… 364
第3節　灰像分析 …… 373
第4節　火山灰分析 …… 379
第5節　脂肪酸分析 …… 386
第6節　放射性炭素年代測定 …… 398
第6章　まとめ …… 399
写真図版

挿図目次

第１図　遺跡位置図 …… 3
第２図　成瀬川･皆瀬川緩扇状地の土壌型と地形面 …… 4
第３図　遺跡の範囲と周辺の地形 …… 5
第４図　Ｅ区深掘土層 …… 6
第５図　周辺遺跡分布図(１:50,000) …… 8
第６図　周辺地形図･調査範囲図 …… 13･14
第７図　遺跡基本土層 …… 17
第８図　遺構配置図･調査区分模式図 …… 21･22
第９図　ＳＡ掘立柱列－１ …… 31･32
第10図　ＳＡ掘立柱列－２ …… 33･34
第11図　ＳＡ掘立柱列－３ …… 35･36
第12図　ＳＡ掘立柱列－４ …… 37･38
第13図　ＳＡ掘立柱列－５ …… 39･40
第14図　ＳＡ掘立柱列－６ …… 41･42
第15図　ＳＡ掘立柱列－７ …… 43･44
第16図　ＳＡ掘立柱列－８ …… 45･46
第17図　ＳＢ掘立柱建物跡－１ …… 51
第18図　ＳＢ掘立柱建物跡－２ …… 53･54
第19図　ＳＢ掘立柱建物跡－３ …… 55･56
第20図　ＳＢ掘立柱建物跡－４ …… 57･58
第21図　ＳＢ掘立柱建物跡－５ …… 59･60
第22図　ＳＢ掘立柱建物跡－６ …… 61･62
第23図　ＳＢ掘立柱建物跡－７ …… 63･64
第24図　ＳＢ掘立柱建物跡－８ …… 65･66
第25図　ＳＢ掘立柱建物跡－９ …… 67
第26図　ＳＢ掘立柱建物跡－10 …… 68
第27図　ＳＢ掘立柱建物跡－11 …… 69
第28図　ＳＢ掘立柱建物跡－12 …… 71･72
第29図　ＳＩ060竪穴住居跡 …… 73･74
第30図　ＳＫＩ026･030竪穴状遺構 …… 75
第31図　ＳＫＩ063･111竪穴状遺構 …… 76
第32図　ＳＫＩ112竪穴状遺構、ＳＫ226土坑、ＳＸ117･159その他の遺構 …… 77
第33図　ＳＫＩ120竪穴状遺構、ＳＫ118土坑 …… 78
第34図　ＳＫＩ111･112竪穴状遺構、ＳＥ152井戸跡、ＳＤ157･169･199溝状遺構、ＳＫ226土坑、ＳＸ113･117･153･159･160･216･217･319その他の遺構、ＳＢ174掘立柱建物跡 …… 79･80
第35図　ＳＥ014･028･031･067井戸跡、ＳＫ032土坑 …… 84
第36図　ＳＥ086･088･125･215井戸跡 …… 85
第37図　ＳＥ116井戸跡、ＳＤ134溝状遺構 …… 86
第38図　ＳＤ130溝状遺構、ＳＫ132･162土坑、ＳＸ167その他の遺構 …… 97
第39図　ＳＤ279溝状遺構、ＳＸ310･311その他の遺構 …… 98
第40図　ＳＤ281溝状遺構、ＳＸ312～316･321･322･327その他の遺構 …… 99･100
第41図　ＳＤ282溝状遺構、ＳＸ317その他の遺構 …… 101
第42図　Ｄ区の溝状遺構(ＳＤ)土層断面図－１ …… 102
第43図　Ｄ区の溝状遺構(ＳＤ)土層断面図－２ …… 103
第44図　Ｄ区の溝状遺構(ＳＤ)土層断面図－３ …… 104
第45図　Ｄ区の溝状遺構(ＳＤ)土層断面図－４ …… 105
第46図　Ｄ区の溝状遺構(ＳＤ)土層断面図－５ …… 106
第47図　Ｄ区の溝状遺構(ＳＤ)土層断面図－６ …… 107
第48図　旧河川遺物出土状況図－２(ＳＬ323－Ｃ区) …… 109･110
第49図　旧河川遺物出土状況図－３

（ＳＬ323－Ｃ区）〔Ｂ部分の拡大〕‥ 111
第50図　河川跡遺物出土状況図－４
（ＳＬ323－Ｃ区－）〔Ｃ－Ｅ部分の拡大〕
…………………………… 112
第51図　ＳＫ010･011･013･017･018･
024･025土坑 ………………… 131
第52図　ＳＫ012土坑、ＳＸ016
その他の遺構 ………………… 132
第53図　ＳＫ036･037･040･082･
083･156土坑 ………………… 133
第54図　ＳＫ043･294土坑、ＳＸ050･254･259
その他の遺構 ………………… 134
第55図　ＳＫ059･064･066･085土坑 ……… 135
第56図　ＳＤ079･168溝状遺構、ＳＫ115･
123･124･136･137･146土坑 ……… 136
第57図　ＳＫ138･250･253土坑、
ＳＤ056･251溝状遺構 ……… 137･138
第58図　ＳＫ128･147･164･189･194･211土坑、
ＳＸ131･133･181･182･192･318
その他の遺構 ……………… 139･140
第59図　ＳＫ145土坑、ＳＸ139～144
その他の遺構 ………………… 141
第60図　ＳＫ148･186･187･212･
213･214土坑 ………………… 142
第61図　ＳＫ179･185土坑、ＳＸ149
その他の遺構 ………………… 143
第62図　ＳＫ187･188･198･200土坑、
ＳＱ237配石遺構 ……………… 144
第63図　ＳＫ193･219･235･252土坑、ＳＸ233･
234･238･328その他の遺構 ……… 145
第64図　ＳＤ121･122溝状遺構、ＳＫ195土坑、
ＳＸ184･196･266その他の遺構、
ＳＡ172柱列、ＳＢ173･190
掘立柱建物跡 ………………… 146
第65図　ＳＫ202･225･236･247･249土坑 …… 147
第66図　ＳＤ244溝状遺構、ＳＫ245･258土坑、
ＳＸ081･238･239その他の遺構 …… 148
第67図　ＳＫ267土坑、ＳＸ229･230
その他の遺構 ………………… 149
第68図　ＳＤ269溝状遺構、ＳＫ270土坑、
ＳＸ209その他の遺構 ………… 150
第69図　ＳＫ280土坑、ＳＸ183･255･265
その他の遺構、ＳＮ271焼土遺構 ‥ 151
第70図　ＳＫ304･306土坑、ＳＤ303･
305溝状遺構 ………………… 152
第71図　ＳＲ023･034･126･295
土器埋設遺構 ………………… 154
第72図　ＳＮ015･283焼土遺構 ………… 155
第73図　ＳＸ033その他の遺構 ………… 173
第74図　ＳＸ084その他の遺構 ………… 174
第75図　ＳＸ084遺物出土状況図 …… 175･176
第76図　ＳＸ114･129･248その他の遺構 …… 177
第77図　ＳＸ153･155その他の遺構 ……… 178
第78図　ＳＸ160･216･217その他の遺構 …… 179
第79図　ＳＸ180その他の遺構 ………… 180
第80図　ＳＸ180その他の遺構断面 ……… 181
第81図　ＳＸ184･195･266その他の遺構、
ＳＤ121･122溝状遺 ……… 183･184
第82図　遺構内出土土器
（縄文･弥生時代）－１ ………… 194
第83図　遺構内出土土器
（縄文･弥生時代）－２ ………… 195
第84図　遺構内出土土器
（縄文･弥生時代）－３ ………… 196
第85図　遺構内出土土器
（縄文･弥生時代）－４ ………… 197
第86図　遺構内出土土器
（縄文･弥生時代）－５ ………… 198
第87図　遺構内出土土器
（縄文･弥生時代）－６ ………… 199
第88図　遺構内出土土器
（縄文･弥生時代）－７ ………… 200

第89図　遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－8 …… 201
第90図　遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－9 …… 202
第91図　遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－10 …… 203
第92図　遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－11 …… 204
第93図　遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－12 …… 205
第94図　遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－13 …… 206
第95図　遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－14 …… 207
第96図　遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－15 …… 208
第97図　遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－16 …… 209
第98図　遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－17 …… 210
第99図　遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－18 …… 211
第100図　遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－19 …… 212
第101図　遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－20 …… 213
第102図　遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－21 …… 214
第103図　遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－22 …… 215
第104図　遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－23 …… 216
第105図　遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－24 …… 217
第106図　遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－25 …… 218
第107図　遺構内出土石器
(縄文・弥生時代)－1 …… 224
第108図　遺構内出土石器
(縄文・弥生時代)－2 …… 225
第109図　遺構内出土石器
(縄文・弥生時代)－3 …… 226
第110図　遺構内出土石器
(縄文・弥生時代)－4 …… 227
第111図　遺構内出土石器
(縄文・弥生時代)－5 …… 228
第112図　遺構内出土石器
(縄文・弥生時代)－6 …… 229
第113図　遺構内出土石器
(縄文・弥生時代)－7 …… 230
第114図　遺構内出土石器
(縄文・弥生時代)－8 …… 231
第115図　遺構内出土石器
(縄文・弥生時代)－9 …… 232
第116図　遺構外出土土器
(縄文・弥生時代)－1 …… 239
第117図　遺構外出土土器
(縄文・弥生時代)－2 …… 240
第118図　遺構外出土土器
(縄文・弥生時代)－3 …… 241
第119図　遺構外出土土器
(縄文・弥生時代)－4 …… 242
第120図　遺構外出土土器
(縄文・弥生時代)－5 …… 243
第121図　遺構外出土土器
(縄文・弥生時代)－6 …… 244
第122図　遺構外出土土器
(縄文・弥生時代)－7 …… 245
第123図　遺構外出土土器
(縄文・弥生時代)－8 …… 246
第124図　遺構外出土土器
(縄文・弥生時代)－9 …… 247

第125図　遺構外出土土器
(縄文・弥生時代)－10 …… 248
第126図　遺構外出土土器
(縄文・弥生時代)－11 …… 249
第127図　遺構外出土土器
(縄文・弥生時代)－12 …… 250
第128図　遺構外出土土器
(縄文・弥生時代)－13 …… 251
第129図　遺構外出土土器
(縄文・弥生時代)－14 …… 252
第130図　遺構外出土石器
(縄文・弥生時代)－1 …… 257
第131図　遺構外出土石器
(縄文・弥生時代)－2 …… 258
第132図　遺構外出土石器
(縄文・弥生時代)－3 …… 259
第133図　遺構外出土石器
(縄文・弥生時代)－4 …… 260
第134図　遺構外出土石器
(縄文・弥生時代)－5 …… 261
第135図　遺構外出土石器
(縄文・弥生時代)－6 …… 262
第136図　遺構外出土石器
(縄文・弥生時代)－7 …… 263
第137図　遺構外出土石器
(縄文・弥生時代)－8 …… 264
第138図　遺構外出土石器
(縄文・弥生時代)－9 …… 265
第139図　遺構外出土石器
(縄文・弥生時代)－10 …… 266
第140図　遺構外出土石器
(縄文・弥生時代)－11 …… 267
第141図　遺構外出土石器
(縄文・弥生時代)－12 …… 268
第142図　遺構外出土石器
(縄文・弥生時代)－13 …… 269
第143図　遺構外出土石器
(縄文・弥生時代)－14 …… 270
第144図　遺構外出土石器
(縄文・弥生時代)－15 …… 271
第145図　遺構外出土石器
(縄文・弥生時代)－16 …… 272
第146図　遺構外出土石器
(縄文・弥生時代)－17 …… 273
第147図　遺構外出土石器
(縄文・弥生時代)－18 …… 274
第148図　遺構外出土石器
(縄文・弥生時代)－19 …… 275
第149図　遺構外出土石器
(縄文・弥生時代)－20 …… 276
第150図　出土遺物(古代)－1 …… 283
第151図　出土遺物(古代)－2 …… 284
第152図　出土遺物(古代)－3 …… 285
第153図　出土遺物(古代)－4 …… 286
第154図　出土遺物(古代)－5 …… 287
第155図　出土遺物(古代)－6 …… 288
第156図　出土遺物(古代)－7 …… 289
第157図　出土遺物(古代)－8 …… 290
第158図　陶磁器－1 …… 292
第159図　陶磁器－2 …… 293
第160図　陶磁器－3 …… 294
第161図　珠洲系陶器－1 …… 295
第162図　珠洲系陶器－2 …… 296
第163図　珠洲系陶器－3 …… 297
第164図　珠洲系陶器－4 …… 298
第165図　古銭 …… 301
第166図　鉄製品 …… 301
第167図　文字資料－1 …… 313
第168図　文字資料－2 …… 314
第169図　文字資料－3 …… 315
第170図　文字資料－4 …… 316
第171図　文字資料－5 …… 317

第172図　文字資料－6 …… 318
第173図　文字資料－7 …… 319
第174図　文字資料－8 …… 320
第175図　文字資料－9 …… 321
第176図　文字資料－10 …… 322
第177図　文字資料－11 …… 323
第178図　文字資料－12 …… 324
第179図　木製品－1 …… 329
第180図　木製品－2 …… 330
第181図　木製品－3 …… 331
第182図　木製品－4 …… 332
第183図　木製品－5 …… 333
第184図　木製品－6 …… 334
第185図　木製品－7 …… 335
第186図　木製品－8 …… 336
第187図　木製品－9 …… 337
第188図　木製品－10 …… 338
第189図　木製品－11 …… 339
第190図　木製品－12 …… 340
第191図　木製品－13 …… 341
第192図　木製品－14 …… 342
第193図　木製品－15 …… 343
第194図　木製品－16 …… 344
第195図　木製品－17 …… 345
第196図　試料採取地点の断面図 …… 348
第197図　地質柱状図と
花粉分析用試料採取層準 …… 350
第198図　A・B地点の主要樹木花粉分布図 …… 357
第199図　A・B地点の主要草木
花粉・胞子分布図 …… 358
第200図　C地点の主要花粉分布図 …… 359
第201図　分析地点の地位図 …… 360
第202図　秋田県低地における
樹木花粉比較図 …… 361
第203図　地質柱状図と大型植物遺体
分析用試料の採取層準 …… 365
第204図　テフラ分析結果一覧図 …… 381
第205図　屈折率測定結果 …… 382
第206図　手取清水遺跡遺構平面図 …… 392
第207図　SX153遺構内外の
土壌試料採取地点 …… 393
第208図　遺構内外から採取した
土壌の燐分布 …… 393
第209図　遺構内外土壌試料に
残存する脂肪の脂肪酸組成 …… 394
第210図　遺構内外土壌試料に
残存する脂肪のステロール組成 …… 395
第211図　遺構内外土壌試料、遺跡遺物および現生
動物油脂の脂肪酸組成樹状構造図 …… 396
第212図　遺構内外土壌試料に残存する脂肪の
脂肪酸組成による種特異性相関 …… 396
第213図　山王川層出土土器の変形工学分1～3
C－2型、4・5　C－2型、4・5
C－3型　（須藤隆1983より） …… 400
第214図　手取清水遺跡における弥生土器の
分類と編年－1 …… 403・404
第215図　手取清水遺跡における弥生土器の
分類と編年－2 …… 405・406

付図1　A区河川跡・土層断面図
付図2　A・B・C区遺構配置図、SD溝状遺構配置図
付図3　D区遺構配置図・SD溝状遺構断面図
付図4　E区遺構配置図・SD溝状遺構断面図
付図5　F区遺構配置図・SD溝状遺構断面図
付図6　河川跡遺物出土状況図－1
付図7　D区掘立柱列跡（SA）、掘立柱建物跡（SB）配置図

表目次

第１表　周辺遺跡一覧表 …… 9
第２表　漆塗土器観察表 …… 238
第３表　平安時代土器(坏･埦)
法量一覧表－１ …… 279
第４表　平安時代土器(坏･埦)
法量一覧表－２ …… 280
第５表　平安時代土器(坏･埦)
法量一覧表－３ …… 281
第６表　平安時代土器(坏･埦)
法量一覧表－４ …… 282
第７表　陶磁器一覧表 …… 299
第８表　珠洲系陶器一覧表 …… 300
第９表　出土銭貨一覧表 …… 301
第10表　墨書土器一覧表－１ …… 306
第11表　墨書土器一覧表－２ …… 307
第12表　墨書土器一覧表－３ …… 308
第13表　墨書土器一覧表－４ …… 309
第14表　墨書土器一覧表－５ …… 310
第15表　墨書土器一覧表－１ …… 310
第16表　墨書土器一覧表－２ …… 311
第17表　墨書土器一覧表－３ …… 312
第18表　木製品一覧表－１ …… 326
第19表　木製品一覧表－２ …… 327
第20表　木製品一覧表－３ …… 328
第21表　A･B･C地点の樹木花粉化石の
組成表 …… 353･354
第22表　A･B･C地点の樹木花粉化石の
組成表 …… 355･356
第23表　手取清水遺跡の
大型植物遺体一覧表(本) …… 366
第24表　手取清水遺跡の
大型植物遺体一覧表(草本) …… 367
第25表　現地取り上げ種実 …… 370
第26表　オニグルミ核測定値一覧表
(ＳＫ086) …… 371
第27表　オニグルミ核測定値一覧表 …… 372
第28表　手取清水遺跡出土の灰から
検出された灰像と炭化種子 …… 375
第29表　テフラ分析結果一覧表 …… 382
第30表　粒径組成 …… 385
第31表　一次鉱物組成 …… 385
第32表　手取清水遺跡遺構の
残存脂肪抽出量 …… 397
第33表　遺構内外土壌試料に分布するコレステロールとシトステロールの割合 …… 397
第34表　将棋駒一覧表 …… 415
第35表　墨書土器器種･器形分類 …… 416
第36表　墨書土器坏切離別分類 …… 416
第37表　墨書土器墨書部位別分類 …… 416

図版目次

巻首図版１　空中写真(北▷南)
巻首図版２　空中写真(南▷北)
巻首図版３　1.ＳＬ323 北西端から中央部を望む(北西▷南東)
2.ＳＬ324(Ａ区－ＮＨ71グリッド)土層断面(北▷南)
巻首図版４　1.ＳＬ324旧河川　(Ａ区－ＮＪ72グリッド)遺物(ＲＰ440～456)出土状況(北▷南)
2.ＳＬ323旧河川　(Ｃ区)木簡(ＲＷ1207)出土状況
巻首図版５　1.ＳＬ323　旧河川(Ｃ区)将棋駒

(RW1167)出土状況
2.SL323旧河川　(C区)鋤(RW1168)出土状況
巻首図版6　1.SE067井戸跡　曲物出土状況
2.SD130　完掘(北東▷南西)
巻首図版7　1.SK156土坑　完掘(南▷北)
2.SX084その他の遺構　完掘(西▷東)
巻首図版8　1.SX153その他の遺構　完掘(南西▷北東)
2.管玉
巻首図版9　1.環状石斧
2.墨書土器
巻首図版10　1.漆皿
2.擂粉木・箸・ヘラ状木製品

図版1　空中写真(上が北) …… 423
図版2　空中写真(D区)(上が北) …… 424
図版3　空中写真(D区)SB177・SK124(上が北) …… 425
図版4　空中写真(D区)SKI111～113・SD169(上が北) …… 426
図版5　空中写真(D区)SB175・SKI112・SD168・169・SE152・SX117・153・155(上が北) …… 427
図版6　空中写真(D区)SD130・SK121・132・SX129・131・133・149(左が北) …… 428
図版7　空中写真(D区)SB175・SKI113・SKI120・SD169・SK118・SX081・SX084(左が北) …… 429
図版8　1.調査区近景(B区～F区)(北▷南)
2.調査前(A区－北西部)(南東▷北西) …… 430
図版9　1.SL323旧河川　(A区)調査状況(南東▷北西)
2.SL323旧河川　(A区)調査状況(南東▷北西) …… 431
図版10　1.SL323旧河川　(A区)調査状況(南東▷北西)
2.SL323旧河川　(A区)調査後(南東▷北西) …… 432
図版11　1.SL323旧河川　(A区)調査状況(南東▷北西)
2.SL323旧河川　(A区)調査状況(北西▷南東) …… 433
図版12　1.SL323旧河川　(A区)調査後(北西▷南東)
2.SL323旧河川　(A区)完掘(北東▷南西) …… 434
図版13　1.SL323旧河川　(A区)完掘(南▷北)
2.SL323旧河川　・B区調査後(南▷北) …… 435
図版14　1.D区北部からA～C区を望む(南東▷北西)
2.SL323旧河川　・B区(南▷北) …… 436
図版15　1.C区北西部調査終了後(南▷北)
2.A区調査状況(北▷南) …… 437
図版16　1.D区調査状況(南▷北)
2.A区南東部調査状況(北西▷南東) …… 438
図版17　1.D区南東部調査終了後(北▷南)
2.D区南東部調査終了後(西▷東) …… 439
図版18　1.D区調査状況(南▷北)
2.D区調査状況(北東▷南西) …… 440
図版19　1.D区南東部調査終了後

(西▷東)
2.E区プラン確認状況(西▷東) ···· 441
図版20 1.F区調査状況(南▷北)
2.F区プラン確認状況(南▷北) ···· 442
図版21 1.F区調査状況(南▷北)
2.F区調査終了後(東▷西) ····· 443
図版22 1.D区基本土層
2.SL323旧河川 (A区－NH71·72グリッド)土層断面(南東▷北西) ····· 444
図版23 1.SL323旧河川 (A区－NH72グリッド)土層断面(北▷南)
2.SL323旧河川 (A区－NH71·72グリッド)土層断面(北西▷南東) ····· 445
図版24 1.SL323旧河川 (A区－NJ73グリッド)遺物出土状況(北▷南)
2.SL323旧河川 (A区－NJ73グリッド)火山灰·遺物出土状況
(南東▷北西) ····· 446
図版25 1.SL323旧河川 (C区－MD53グリッド)木簡－RW1207－出土状況
2.SL323旧河川 (C区－MD53グリッド)鋤－RW1168－出土状況 ····· 447
図版26 1.SL323旧河川 (C区－MD52グリッド)木製品－RW1249～1252－出土状況
2.SL323旧河川 (C区－MD52グリッド)木製品－RW1037～1045－出土状況
·····448
図版27 1.SL323旧河川 (C区－MD53グリッド)木製品－RW1089～1104－出土状況
2.SL323(C区－MG60グリッド)土器出土状況 ····· 449
図版28 1.SB019·020·022掘立柱建物跡 完掘
(南▷北)
2.SB100掘立柱建物跡－D区－完掘
(南▷北) ····· 450
図版29 1.SB100掘立柱建物跡－D区－断面
(西▷東)
2.SB170掘立柱建物跡－D区－完掘
(南▷北) ····· 451
図版30 1.SB174掘立柱建物跡－D区－完掘
(南▷北)
2.SA178·210柱列－D区－完掘
(南▷北) ····· 452
図版31 1.SI060住居跡 検出状況
(北▷南)
2.SI060住居跡 完掘(東▷西) ···· 453
図版32 1.SKI026竪穴状遺構 検出状況
(東▷西)
2.SKI026竪穴状遺構 完掘
(北▷南) ····· 454
図版33 1.SKI030竪穴状遺構 断面
(南▷北)
2.SKI030竪穴状遺構 遺物出土状況
(東▷西) ····· 455
図版34 1.SKI030竪穴状遺構 断面
(南▷北)
2.SKI030竪穴状遺構 断面
(東▷西) ····· 456
図版35 1.SKI111竪穴状遺構 検出状況
(西▷東)
2.SKI111竪穴状遺構 断面
(東▷西) ····· 457
図版36 1.SKI111竪穴状遺構 遺物出土状況
(北西▷南東)
2.SKI112竪穴状遺構 完掘
(北西▷南東) ····· 458
図版37 1.SKI120竪穴状遺構 完掘
(西▷東)
2.SKI120竪穴状遺構 断面
(東▷西) ····· 459

図版38　1.ＳＥ014井戸跡　完掘(北▷南)
2.ＳＥ014井戸跡　断面(南▷北) ‥‥ 460
図版39　1.ＳＥ028井戸跡　完掘(北▷南)
2.ＳＥ028井戸跡　断面(北▷南) ‥‥ 461
図版40　1.ＳＥ031井戸跡　完掘(東▷西)
2.ＳＥ031井戸跡　断面(東▷西) ‥ 462
図版41　1.ＳＥ067井戸跡遺物　出土状況
(西▷東)
2.ＳＥ067井戸跡遺物　出土状況
(東▷西) ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 463
図版42　1.ＳＥ067井戸跡遺物　出土状況
(東▷西)
2.ＳＥ067井戸跡　完掘(西▷東) ‥‥ 464
図版43　1.ＳＥ086井戸跡　断面(西▷東)
2.ＳＥ086井戸跡　遺物出土状況
(西▷東) ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 465
図版44　1.ＳＥ088井戸跡　完掘
(北東▷南西)
2.ＳＥ116井戸跡　完掘(南▷北) ‥‥ 466
図版45　1.ＳＥ116井戸跡　断面
(北西▷南東)
2.ＳＥ125井戸跡　断面(南▷北) ‥‥ 467
図版46　1.ＳＥ125井戸跡　完掘(南▷北)
2.ＳＥ152井戸跡　断面(東▷西) ‥‥ 468
図版47　1.ＳＥ215井戸跡　遺物出土状況
(東▷西)
2.ＳＥ215井戸跡　完掘(東▷西) ‥‥ 469
図版48　1.ＳＤ130溝状遺構・ＳＸ167その他の遺構
完掘(南西▷北東)
2.ＳＤ134溝状遺構・ＳＥ116井戸跡　完掘
(南西▷北東) ‥‥‥‥‥‥‥‥ 470
図版49　1.ＳＤ279溝状遺構　完掘
(北西▷南東)
2.ＳＤ279溝状遺構　断面
(北▷南) ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 471
図版50　1.ＳＤ281・282溝状遺構　完掘
(北▷南)
2.ＳＤ281溝状遺構　断面
(北▷南) ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 472
図版51　1.ＳＤ281溝状遺構　断面
(西▷東)
2.ＳＤ282溝状遺構　完掘
(東▷西) ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 473
図版52　1.ＳＫ025土坑　完掘(南▷北)
2.ＳＫ059土坑　完掘(東▷西) ‥‥‥ 474
図版53　1.ＳＫ059土坑　断面(東▷西)
2.ＳＫ064土坑　完掘(南▷北) ‥‥‥ 475
図版54　1.ＳＫ066土坑　完掘(北▷南)
2.ＳＫ085土坑　骨出土状況 ‥‥‥‥ 476
図版55　1.ＳＫ124土坑　完掘(南▷北)
2.ＳＫ124土坑　断面(南▷北) ‥‥‥ 477
図版56　1.ＳＫ132土坑　完掘
(北西▷南東)
2.ＳＫ132土坑　調査状況
(北西▷南東) ‥‥‥‥‥‥‥‥ 478
図版57　1.ＳＫ132土坑　断面
(南東▷北西)
2.ＳＫ138土坑　完掘(西▷東) ‥‥‥ 479
図版58　1.ＳＫ138土坑　断面(西▷東)
2.ＳＫ156土坑　完掘(南▷北) ‥‥‥ 480
図版59　1.ＳＫ156土坑　断面(南▷北)
2.ＳＫ188土坑　完掘(南▷北) ‥‥‥ 481
図版60　1.ＳＫ188土坑　断面(南▷北)
2.ＳＫ188土坑　完掘(南▷北) ‥‥‥ 482
図版61　1.ＳＫ193土坑　完掘
(南西▷北東)
2.ＳＫ193土坑　断面
(南西▷北東) ‥‥‥‥‥‥‥‥ 483
図版62　1.ＳＫ198土坑　完掘(西▷東)
2.ＳＫ211土坑　完掘
(北西▷南東) ‥‥‥‥‥‥‥‥ 484
図版63　1.ＳＫ211土坑　断面

（北西▷南東）
2.ＳＫ211土坑　断面
（北西▷南東）…… 485
図版64　1.ＳＫ250土坑　完掘（東▷西）
2.ＳＫ250　土坑断面（東▷西）…… 486
図版65　1.ＳＫ250　土坑灰混入状況
（東▷西）
2.ＳＫ252土坑　完掘（西▷東）…… 487
図版66　1.ＳＫ252土坑　断面（西▷東）
2.ＳＫ252土坑　断面（西▷東）…… 488
図版67　1.ＳＫ258土坑　完掘（東▷西）
2.ＳＫ306土坑　完掘
（南東▷北西）…… 489
図版68　1.ＳＲ023土器埋設遺構　断面
（南▷北）
2.ＳＲ023土器埋設遺構　断面
（東▷西）…… 490
図版69　1.ＳＲ295土器埋設遺構　土器出土状況
（東▷西）
2.ＳＲ295土器埋設遺構　完掘
（東▷西）…… 491
図版70　1.ＳＸ050その他の遺構　灰層検出状況
（南▷北）
2.ＳＸ050その他の遺構　断面
（南▷北）…… 492
図版71　1.ＳＸ050その他の遺構　完掘
（北▷南）
2.ＳＸ081その他の遺構　完掘
（西▷東）…… 493
図版72　1.ＳＸ081その他の遺構　断面
（西▷東）
2.ＳＸ084その他の遺構　完掘
（西▷東）…… 494
図版73　1.ＳＸ084その他の遺構　遺物出土状況
（西▷東）
2.ＳＸ084その他の遺構　断面
（南▷北）…… 495
図版74　1.ＳＸ084その他の遺構　断面
（西▷東）
2.ＳＸ113その他の遺構　完掘
（北▷南）…… 496
図版75　1.ＳＸ113その他の遺構　断面
（北▷南）
2.ＳＸ113その他の遺構　断面
（北▷南）…… 497
図版76　1.ＳＸ129その他の遺構　完掘
（東▷西）
2.ＳＸ133その他の遺構・ＳＫ211
土坑　断面（北▷南）…… 498
図版77　1.ＳＸ133その他の遺構　断面
（南▷北）
2.ＳＸ133その他の遺構　断面 …… 499
図版78　1.ＳＸ133その他の遺構　断面
（西▷東）
2.ＳＸ149その他の遺構　完掘（西▷東）
…… 500
図版79　1.ＳＸ149その他の遺構　断面
（北▷南）
2.ＳＸ153その他の遺構　完掘
（西▷東）…… 501
図版80　1.ＳＸ153その他の遺構　断面
（南▷北）
2.ＳＸ167その他の遺構　完掘
（東▷西）…… 502
図版81　1.ＳＸ180その他の遺構　完掘
（南▷北）
2.ＳＸ180その他の遺構　完掘
（西▷東）…… 503
図版82　1.ＳＸ180その他の遺構（Ａ区－ＮＨ73グリッド）－ＲＷ704－出土状況
（北東▷南西）
2.ＳＸ180その他の遺構（Ａ区－ＮＨ73グ

リッド)－RW705－出土状況
(南▷北) …… 504
図版83 遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－1 …… 505
図版84 遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－2 …… 506
図版85 遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－3 …… 507
図版86 遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－4 …… 508
図版87 遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－5 …… 509
図版88 遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－6 …… 510
図版89 遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－7 …… 511
図版90 遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－8 …… 512
図版91 遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－9 …… 513
図版92 遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－10 …… 514
図版93 遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－11 …… 515
図版94 遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－12 …… 516
図版95 遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－13 …… 517
図版96 遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－14 …… 518
図版97 遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－15 …… 519
図版98 遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－16 …… 520
図版99 遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－17 …… 521
図版100 遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－18 …… 522
図版101 遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－19 …… 523
図版102 遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－20 …… 524
図版103 遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－21 …… 525
図版104 遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－22 …… 526
図版105 遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－23 …… 527
図版106 遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－24 …… 528
図版107 遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－25 …… 529
図版108 遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－26 …… 530
図版109 遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－27 …… 531
図版110 遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－28 …… 532
図版111 遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－29 …… 533
図版112 遺構内出土土器
(縄文・弥生時代)－30 …… 534
図版113 遺構内出土石器
(縄文・弥生時代)－1 …… 535
図版114 遺構内出土石器
(縄文・弥生時代)－2 …… 536
図版115 遺構内出土石器
(縄文・弥生時代)－3 …… 537
図版116 遺構内出土石器
(縄文・弥生時代)－4 …… 538
図版117 遺構内出土石器
(縄文・弥生時代)－5 …… 539

図版118　遺構内出土石器
（縄文・弥生時代）－6 …… 540
図版119　遺構内出土石器
（縄文・弥生時代）－7 …… 541
図版120　遺構外出土土器
（縄文・弥生時代）－1 …… 542
図版121　遺構外出土土器
（縄文・弥生時代）－2 …… 543
図版122　遺構外出土土器
（縄文・弥生時代）－3 …… 544
図版123　遺構外出土土器
（縄文・弥生時代）－4 …… 545
図版124　遺構外出土土器
（縄文・弥生時代）－5 …… 546
図版125　遺構外出土土器
（縄文・弥生時代）－6 …… 547
図版126　遺構外出土土器
（縄文・弥生時代）－7 …… 548
図版127　遺構外出土土器
（縄文・弥生時代）－8 …… 549
図版128　遺構外出土土器
（縄文・弥生時代）－9 …… 550
図版129　遺構外出土土器
（縄文・弥生時代）－10 …… 551
図版130　遺構外出土土器
（縄文・弥生時代）－11 …… 552
図版131　遺構外出土土器
（縄文・弥生時代）－12 …… 553
図版132　遺構外出土土器
（縄文・弥生時代）－13 …… 554
図版133　遺構外出土土器
（縄文・弥生時代）－14 …… 555
図版134　遺構外出土土器
（縄文・弥生時代）－15 …… 556
図版135　遺構外出土土器
（縄文・弥生時代）－16 …… 557
図版136　遺構外出土石器
（縄文・弥生時代）－1 …… 558
図版137　遺構外出土石器
（縄文・弥生時代）－2 …… 559
図版138　遺構外出土石器
（縄文・弥生時代）－3 …… 560
図版139　遺構外出土石器
（縄文・弥生時代）－4 …… 561
図版140　遺構外出土石器
（縄文・弥生時代）－5 …… 562
図版141　遺構外出土石器
（縄文・弥生時代）－6 …… 563
図版142　遺構外出土石器
（縄文・弥生時代）－7 …… 564
図版143　遺構外出土石器
（縄文・弥生時代）－8 …… 565
図版144　遺構外出土石器
（縄文・弥生時代）－9 …… 566
図版145　遺構外出土石器
（縄文・弥生時代）－10 …… 567
図版146　遺構外出土石器
（縄文・弥生時代）－11 …… 568
図版147　遺構内出土遺物（古代）－1 …… 569
図版148　遺構内出土遺物（古代）－2 …… 570
図版149　遺構内出土遺物（古代）－3 …… 571
図版150　遺構内出土遺物（古代）－4 …… 572
図版151　遺構内出土遺物（古代）－5 …… 573
図版152　遺構外出土遺物（古代）－6 …… 574
図版153　遺構外出土遺物（古代）－7 …… 575
図版154　遺構外出土遺物（古代）－8 …… 576
図版155　遺構外出土遺物（古代）－9 …… 577
図版156　遺構外出土遺物（古代）－10 …… 578
図版157　遺構外出土遺物（古代）－11 …… 579
図版158　遺構外出土遺物（古代）－12 …… 580
図版159　遺構外出土遺物（古代）－13 …… 581
図版160　陶磁器－1 …… 582

図版161　陶磁器－2 …… 583
図版162　陶磁器－3 …… 594
図版163　珠洲系陶器－1 …… 585
図版164　珠洲系陶器－2 …… 586
図版165　珠洲系陶器－3 …… 587
図版166　古銭－1 …… 588
図版167　文字資料－1 …… 589
図版168　文字資料－2 …… 590
図版169　文字資料－3 …… 591
図版170　文字資料－4 …… 592
図版171　文字資料－5 …… 593
図版172　文字資料－6 …… 594
図版173　文字資料－7 …… 595
図版174　文字資料－8 …… 596
図版175　文字資料－9 …… 597
図版176　文字資料－10 …… 598
図版177　文字資料－11 …… 599
図版178　文字資料－12 …… 600
図版179　文字資料－13 …… 601
図版180　文字資料－14 …… 602
図版181　文字資料－15 …… 603
図版182　文字資料－16 …… 604
図版183　文字資料－17 …… 605
図版184　文字資料－18 …… 606
図版185　文字資料－19 …… 607
図版186　木製品－1 …… 608
図版187　木製品－2 …… 609
図版188　木製品－3 …… 610
図版189　木製品－4 …… 611
図版190　木製品－5 …… 612
図版191　木製品－6 …… 613
図版192　手取清水遺跡より産出した花粉化石－1 …… 614
図版193　手取清水遺跡より産出した花粉化石－2 …… 615
図版194　手取清水遺跡より産出した花粉化石－3 …… 616
図版195　手取清水遺跡の大型植物遺体－1 …… 617
図版196　手取清水遺跡の大型植物遺体－2 …… 618
図版197　手取清水遺跡の大型植物遺体－3（現地取り上げ） …… 619
図版198　ＳＫ252－1から検出された灰像の顕微鏡写真と炭化粒の実体顕微鏡写真および走査型電子顕微鏡写真 …… 620
図版199　ＳＫ252－2から検出された灰像の顕微鏡写真と炭化粒の実体顕微鏡写真および走査型電子顕微鏡写真 …… 621
図版200　ＳＫ252－3から検出された灰像の顕微鏡写真と炭化粒の実体顕微鏡写真および走査型電子顕微鏡写真 …… 622
図版201　ＳＸ084から検出された灰像の顕微鏡写真と炭化粒の実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡写真 …… 623
図版202　ＳＫ138から検出された灰像の顕微鏡写真と炭化粒の実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡写真 …… 624
図版203　ＳＫ149から検出された灰像の顕微鏡写真と炭化粒の実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡写真 …… 625
図版204　鉱物顕微鏡写真 …… 626

第１章　はじめに

第１節　発掘調査に至るまで

東北横断自動車道秋田線は、秋田市－横手市－岩手県北上市を結ぶ県期待の高速交通体系の基幹をなす道路である。昭和53年11月には、秋田市－横手市間57.4kmについて第８次施行命令が下された。これに伴い昭和54年11月に、日本道路公団仙台建設局長から秋田県教育委員会教育長あてに、計画路線内に存在する埋蔵文化財包蔵地の分布調査の依頼があった。これを受けて秋田県教育委員会では、昭和55･56年の２ヶ年にわたって遺跡の分布調査を行い計画路線内に44遺跡が存在することを報告した。(註１･２) さらに昭和58年にはこれら遺跡の詳細分布調査を行い、最終的に路線内に37遺跡が存在することを報告している。(註３･４)

その後、路線内の37遺跡の保護について、日本道路公団と秋田県教育委員会との間で協議されたが、路線変更の不可能のことから最終的には記録保存の措置をとることで合意し、昭和60年度から調査を開始したのである。(註５)

調査は秋田市寄りの遺跡から順次着手し、昭和60年には河辺郡河辺町七曲地区の６遺跡、(註６) 翌61年には仙北郡協和町中淀川地区の上ノ山Ⅰ･上ノ山Ⅱ･館野遺跡の３遺跡、(註７) それに同町峰吉川地区に所在する半仙遺跡の一部の調査を実施した。さらに昭和62年には半仙遺跡の残りの部分と、西仙北サービスエリア予定地の上野台遺跡とその北側の寺沢遺跡、(註８) 仙北郡南外村の大畑潜沢Ⅲ･小出Ⅰ･Ⅱ･Ⅲ遺跡の一部、大森町の下田遺跡、横手市の手取清水遺跡の調査を実施したのである。

註１　秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第79集　1981(昭和56年)

註２　秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第93集　1982(昭和57年)

註３　秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第116集　1984(昭和59年)

註４　その後の範囲確認調査などで遺跡の範囲が路線内に及んでいないことが判明したものがあり、37の遺跡のうち、実際の調査の対象となる遺跡は24遺跡である。

註５　秋田県教育委員会　『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書Ⅰ』　秋田県文化財調査報告書第166集　1988(昭和63年)

註６　７遺跡の範囲確認調査を実施したが、石坂台Ｖ遺跡（遺跡№32）は路線内に範囲が及んでいなかったので調査対象から外された。

秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第126集　1985（昭和60年）

註７　秋田県教育委員会　『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書Ⅱ』　秋田県文化財調査報告書第166集　1988（昭和63年）

註８　秋田県教育委員会　『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書Ⅲ』　秋田県文化財調査報告書第180集　1989（平成元年）

第２節　調査の組織と構成

調査主体　　秋田県教育委員会

遺跡名・所在地・調査面積・調査期間・調査担当者

番号	遺跡名	所　在　地	調査面積	調査期間	調 査 担 当 者
9	手取清水	横手市清水田新田字皿川端22外	13,000㎡	昭和62年4/17～8/12	柴田陽一郎（文化財主任） 山崎　文幸（文化財主事） 沢田　康志（非常勤職員） 和泉　昭一（非常勤職員） 村上　光明（非常勤職員） 鎌田　　茂（非常勤職員） 小山内　透（非常勤職員） 石川恵美子（非常勤職員） 能登谷宣康（非常勤職員）

専門指導員　工　楽　善　通　奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター集落遺跡研究室長
　　桑　原　滋　郎　宮城県多賀城跡調査研究所長
　　小　林　達　雄　国学院大学文学部教授
　　白　石　建　雄　秋田大学教育学部教授
　　須　藤　　隆　東北大学文学部助教授　　（五十音順）

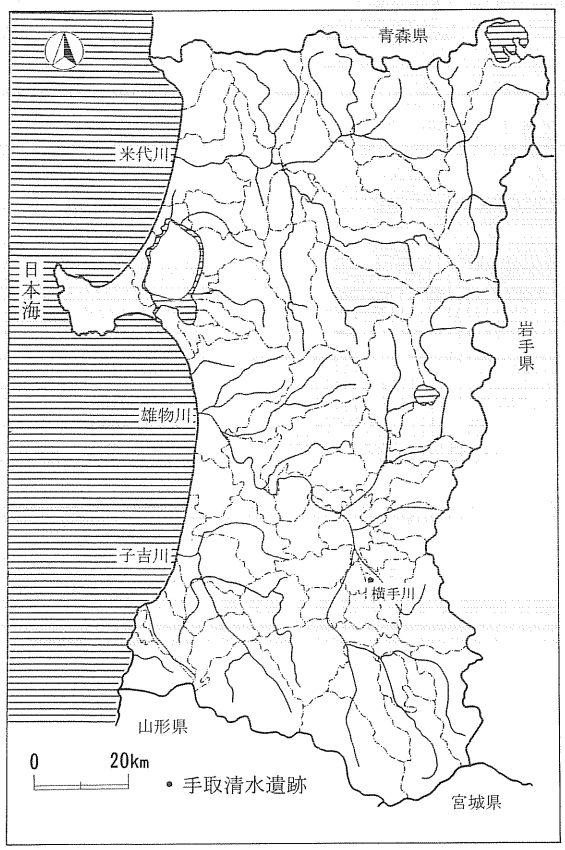
総務担当　加　藤　　進　秋田県埋蔵文化財センター主査（現・秋田県立博物館主査）
　　佐　田　　茂　秋田県埋蔵文化財センター主査
　　高　橋　忠太郎　秋田県埋蔵文化財センター主事

協力機関　横手市・横手市教育委員会

第２章　遺跡の立地と環境

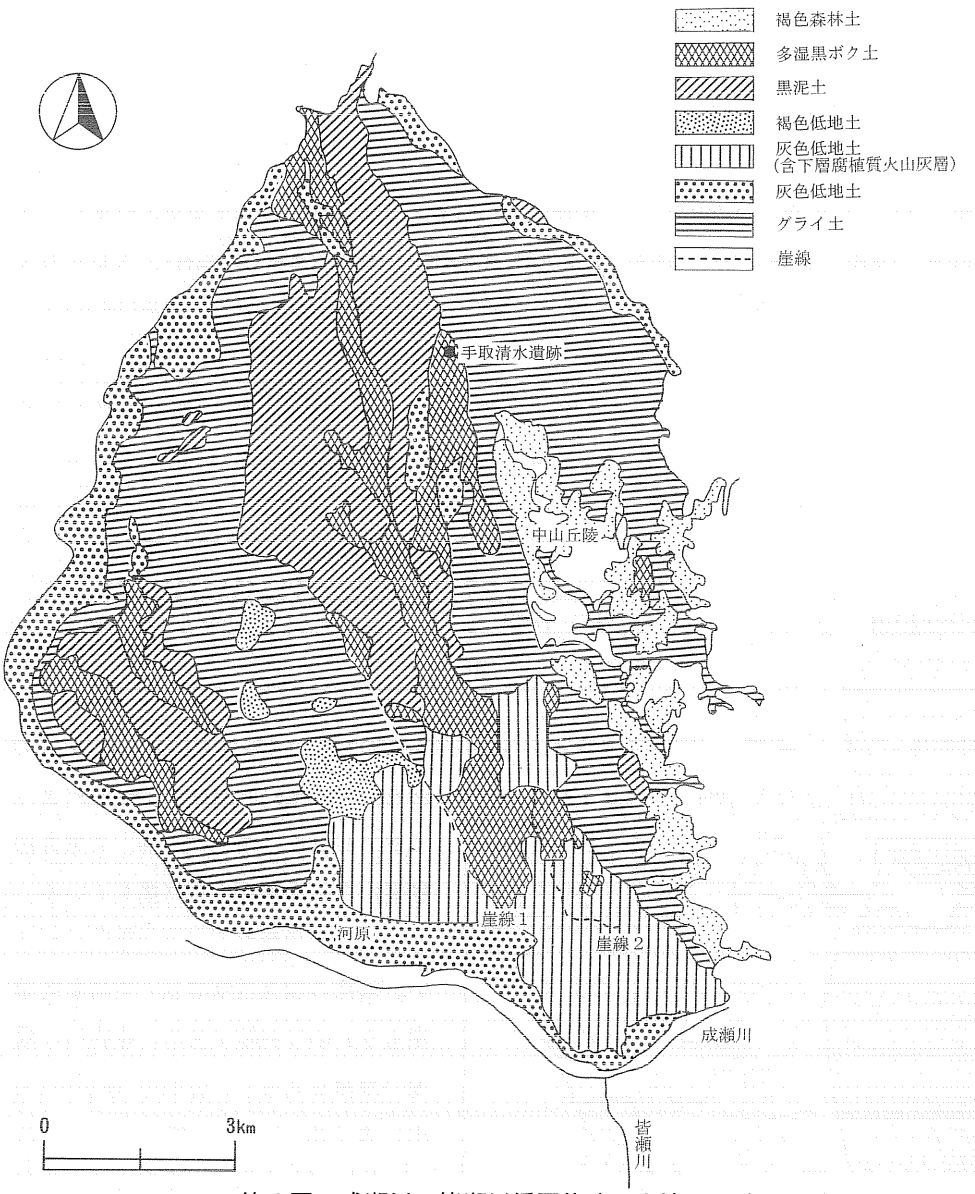
第１節　遺跡の位置と立地

横手市は秋田県南東部、雄物川の上･中流域に拡がる横手盆地のほぼ中央東部に位置し、北を大曲市･六郷町、東を山内村、西を大雄村、南を平鹿町と接し、面積110.6km^2、人口４万３人余の中核都市である(第１図)。手取清水遺跡は横手市清水町新田字皿川端(通称「塚堀」という)にある。遺跡はおおよそ北緯39度20分、東経140度30分にあり、奥羽本線横手駅から直線距離にして北西５kmの地点である。「塚堀」は市の西端にあたり、西は大雄村、南は平鹿町に隣接している。西境の一部を流れる大戸川が、北端で南東からの皿川を合わせ北流を続ける。県道横手－大森－大内線はその合流地点を通り、東西方向に走る。大戸川に沿って南北に長い横手市域内の北部県道沿いに塚堀、南部の市道上猪岡－般若寺線沿いに般若寺などの集落がある。水田中心の純農村地帯である。



第１図　遺跡位置図

横手盆地は西奥羽内陸盆地列のなかで最大の盆地で、南北の長さ60km、東西の幅15kmと南北に狭長な範囲である。その東縁は真昼岳断層崖によって奥羽山脈に、西縁は姫神、大黒森岳層崖によって出羽山地に接している。盆地北部の角館付近では分離段丘が多い。南部の国見岳断層崖と東鳥海断層崖もきわめて明瞭である。雄物川は盆地の西縁を北流し、皆瀬川･横手川(旭川)･丸子川･玉川など奥羽山脈から流れる諸河川を合わせ、出羽山地を先行的に横断し日本海に注ぐ。河床の海抜高度は盆地南部で100m、盆地尻は20mである。盆地名は盆地内最大の集落であった横手に由来する。盆地の大部分は奥羽山脈から流れ出る諸河川のつくる複合扇状地と西部の沖積低地とか



第２図　成瀬川・皆瀬川緩扇状地の土壌型と地形面

らなっている。やや大型の扇状地は丸子川扇状地など９個を数えるが、これらのうち南部　皆瀬川、西馬内川扇状地を除くと、現成扇状地である。

成瀬川、皆瀬川緩扇(註２)状地の地形をみると、腕越－梨ノ木－下醍醐(崖線１)、増田－浅舞(崖線２)をむすぶ３～５ｍの北西－南東方向の二段の崖線があって、高･中･底位の三面に大別される。(第２図)崖線は南西に向かって非対称的配置をなし、相対的沈降方向を示している。さき

の高･中･低位三面の土壌型は高位面ではグライ土が、中位面では黒泥土と多湿黒ボク土が主体であり、低位面ではグライ土が主体で黒泥土･多湿黒ボク土等も西端域にみられる。

皆瀬川･雄物川の狭長な池溝帯には、国見岳･東鳥海ブロックの断層崖下に標式的な小扇状地が並んでいる。かつて雄物川は網状流路をなし、河道の変遷や氾濫を繰り返しながら西へ西へと移動した痕跡を認めることができる。盆地西縁の大雄村付近の沖積低地では泥炭層(通称「田村根ッコ」)の分布がみられ、旧くは湖沼であったことを推定させる。横手市街地の西側にある中山丘陵は金峰山山地の支脈が盆地面下に埋没し切れずに残った凝灰岩丘陵地である。

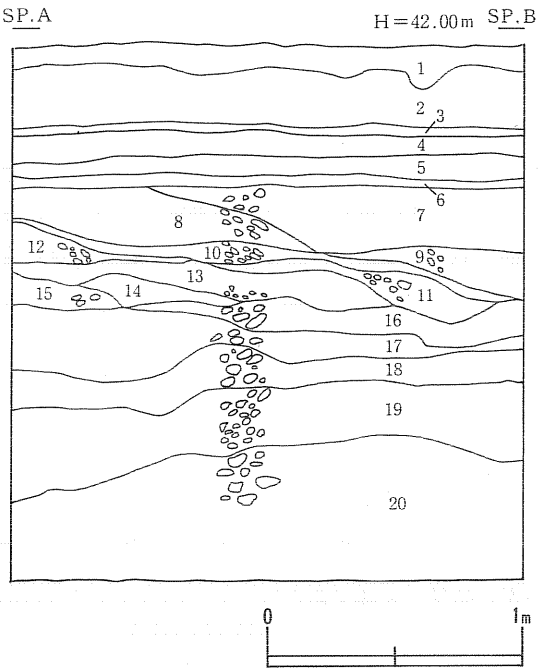
遺跡は大戸川と皿川の合流地点より皿川を約300m遡った皿川の左岸に接した位置にある。遺跡の範囲と東北横断自動車道路線を明示したのが第３図である。調査地点は標高40.3～42.9mの河岸段丘上であり、おおよそ40.3～40.8，41.5～41.8，42.2～42.9mの小さな三段丘面からなり、多くの遺構は最も高い標高 42.2～42.9mの段丘面から検出された。他の低い段丘面は河道の氾濫原で、遺構は少なかったけれど多量の遺物が発見された。第４図はＥ区深掘の土層図であり、おおよそ20層に分層できた。土層を大きく見ると、上層は砂層と粘土層、中層は砂層、下層は礫層が主体である。

第３図　遺跡の範囲と周辺の地形

第２節　歴史的環境

手取清水遺跡と横手市内の遺跡を中心に据えて、周辺の平鹿町・大雄村内の遺跡についても取り上げて概観してみる。

手取清水遺跡と周辺の遺跡(註３)を示した第５図の遺跡数は62遺跡である。範囲内の遺跡について時代別に分けてみると、縄文時代30・弥生時代２・古墳時代１・古代32・中世以降７・不明７となり、縄文時代(38％)と古代(41％)が圧倒的に多い。縄文時代と平安時代が重複する遺跡が17遺跡(27％)もある。また、縄文時代の時期のわかる遺跡のうち、後期～晩期



第４図　Ｅ区深掘土層

Ｅ区深掘
1　黒褐色土(10ＹＲ2/3) 粒子細、粘性あり　炭化物径１㎜
2　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5/4) 極細砂粒、粘性若干
3　灰白色土(5Ｙ7/2) シルト質の粘土層、粘性若干、酸化植物痕10％
4　にぶい黄色土(2.5Ｙ6/3) 極細砂粒、粘性若干、酸化植物痕３％
5　灰オリーブ色土(5Ｙ6/2) 極細砂粒、粘性若干、酸化植物痕５％
6　灰色色土(5Ｙ7/2) シルト質の粘土層、粘性あり、酸化植物痕５％
7　にぶい黄褐色砂層(10ＹＲ4/3) 径1㎜～3㎜大の砂粒、小礫径15㎜～35㎜大70％、礫やや左斜め上前方下
8　黒褐色砂層(10ＹＲ3/4) 径1㎜～2㎜大の砂粒、小礫径7㎜～30㎜大80％、礫右斜め上後方下
9　にぶい黄褐色砂層(10ＹＲ5/3) 径1㎜～2㎜大の砂粒、小礫径10㎜～30㎜大70％、礫右斜め上やや後方傾斜
10　混砂小礫層、径5㎜～20㎜大の小礫、径1㎜～2㎜大の細砂10％、礫右斜め上後方下
11　にぶい黄色砂層(2.5ＹＲ6/4) 径0.5㎜～1㎜大の極細砂、径10㎜～20㎜大の小礫50％層上部に集中、礫右斜め上後方傾斜
12　褐色砂層(10ＹＲ4/4) 径1㎜～2㎜大の砂粒、小礫径10㎜～30㎜大60％、礫右斜め上
13　暗灰黄砂層(2.5ＹＲ5/2) 径1㎜～2㎜大の砂粒、層下部に小礫径5㎜～20㎜大集中15％、礫右斜め上前方下
14　黄褐色砂層(2.5Ｙ5/4) 径1㎜～2㎜の砂粒、小礫径5㎜～30㎜大２％層下部に集中、礫左斜め上前方傾斜
15　灰黄褐色砂層(10ＹＲ5/2) 径1㎜～2㎜大の砂粒、小礫径5㎜～15㎜大５％、礫左斜め上後方下
16　黄褐色砂層(2.5ＹＲ5/3) 径0.5㎜～1㎜大の細砂粒、小礫径5㎜～40㎜大80％、礫左斜め上後方下
17　混砂礫層、径0.5㎜～2㎜大の細砂混入小礫径5㎜大～2.5㎜大多量、50㎜～70㎜大３％、礫左斜め上後方下
18　混砂礫層、径0.5㎜の極細砂混入
19　混砂礫層、小礫径5㎜～30㎜大多量、40㎜～80㎜大の礫20％、礫左斜め上前方下
20　混砂礫層、径0.5㎜大の極細砂混入、礫径40㎜～100㎜大50％、小礫径5㎜～30㎜大50％、礫左右の傾斜なし、前傾
※19・20層間より湧水

とされているのが10遺跡(33%)もある。このような当該地域の遺跡の特徴は、横手盆地における一般的傾向を示していると言ってもよい。

旧石器時代の遺跡は横手市内に4箇所確認され、いずれも横手川周辺標高100m前後の台地上にある。

縄文時代の遺跡は、前期の鳥子山遺跡があり、中期～晩期にかけて中杉沢A遺跡や子吉山遺跡など比較的規模の大きい集落がみられるようになる。後期後半～晩期に入ると、台地上だけでなく、沖積低地にも集落が拡がる。大戸川右岸の低位段丘上に立地するオホン清水A遺跡(13「第5図中の遺跡番号」以下同じ)では200基以上の土壙墓とそれらを取り囲むように20軒近くの竪穴住居跡が検出されている。

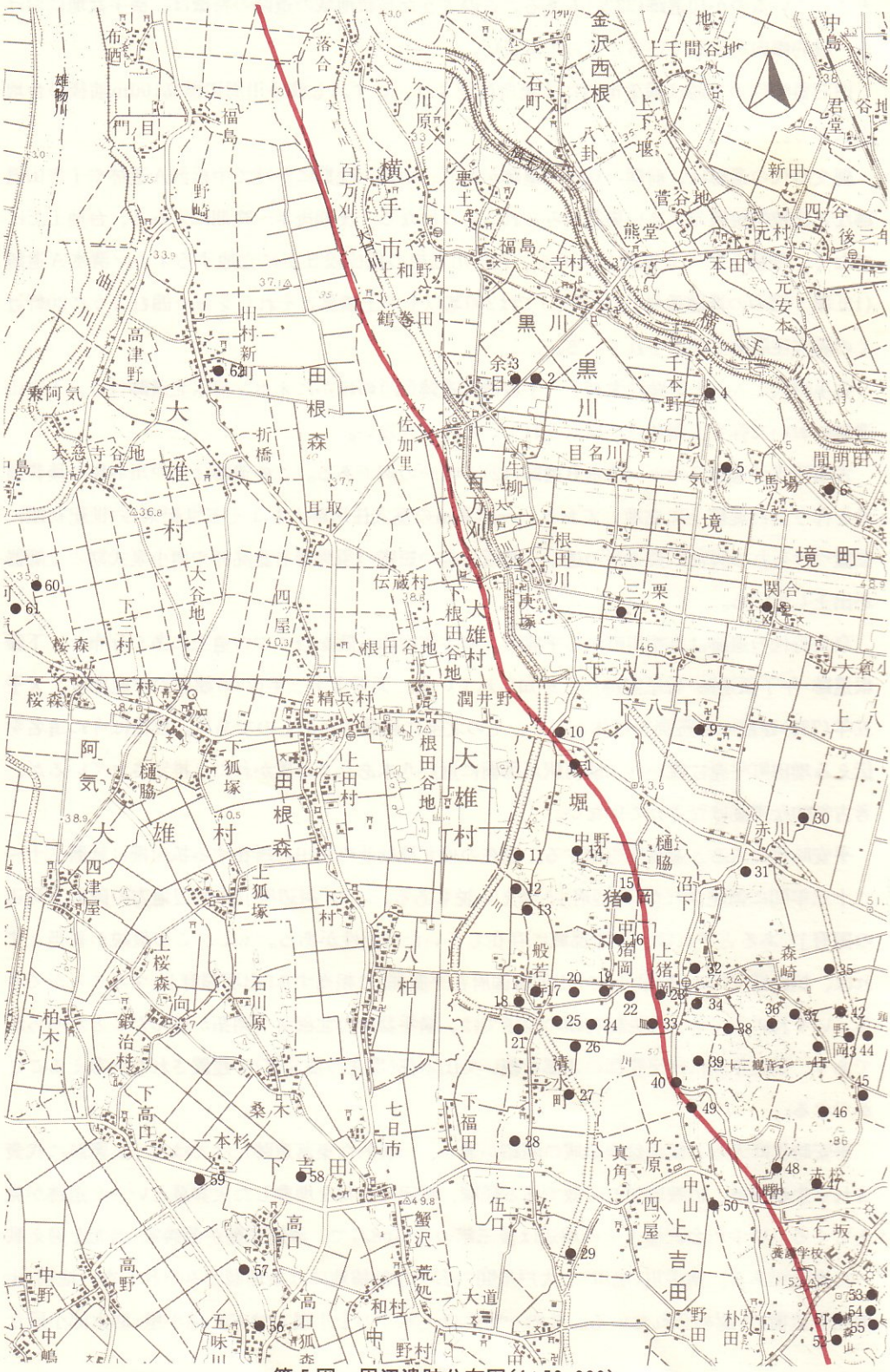
弥生時代に入ると遺跡は激減し、手取清水遺跡(1)のほかにオホン清水北遺跡(11)、子吉山遺跡において弥生土器数点が採取されているにすぎない。

古墳時代の遺跡はオホン清水B遺跡(12)が唯一の例である。この遺跡は大戸川右岸の後背湿地を伴う自然堤防上に立地しており、一辺8mの竪穴住居跡とおよそ五世紀末･六世紀初頭に位置づけられる脚部に長方形の透し3箇所をもつ短脚の須恵器有蓋高杯や南小泉式期の土師器が出土している。

奈良時代の遺跡は雄物川町から平鹿町、横手市中山丘陵をむすぶ古道上に多く分布し、下藤根遺跡･年子狐遺跡･竹原窯跡などが知られている。天平宝字三年(759)建郡の平鹿郡は、天平五年(733)建郡の雄勝郡を母体として、その北部に建郡されたものである。郡衙は今に遺名を伝える増田町平鹿に置かれ、助河駅が郡衙に近い八木あたりに置かれたと推定されているが、考古学的な実証はなされていない。

平安時代に入ると遺跡は急増する。現在の仙北郡仙北町払田に所在する払田柵は延暦二十～二十三年間に創建された「河辺府」と考える説もある。この「河辺府」を「河辺地方の国府」「河辺の国府」であるとすれば、平鹿郡域に存在していた可能性がある。もし、この仮説が妥当とすれば、払田柵は『和名類聚抄』の『出羽国国府在平鹿郡』に相当する「出羽国府」とすることができる。いずれにしても、九世紀初頭の段階では、横手盆地の北部まで開拓が進んだことが明らかであり、弘仁年間には平鹿郡の北部を割いて山本郡(現在の仙北郡)が建置されたと考えることができる。

平安時代に入ると横手盆地全域の開拓が進み、一般的な集落遺跡だけではなく、窯跡に代表される生産遺跡、仏教思想の表徴である経塚、特定の人物を埋葬した火葬墓といった遺跡が見えてくる。横手市金沢柵とその周辺は後三年の役(1083)で、清原家衡が源義家･義光を迎え戦った場所である。横手川(旭川)と大戸川間の広大な沖積地には条理制とみられる古い地割(土地開発遺構)が認められている。この一帯には上八丁の上小屋をはじめ福小屋･助太郎小屋な



第５図　周辺遺跡分布図(1：50,000)

第1表　周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代（時期）	参考文献	番号	遺跡名	時代（時期）	参考文献
1	手取清水	縄文(晩期)・弥生・平安	1・2	32	猪岡館	中世	17
2	黒川館跡	中世～近世	3・4	33	長瀞A	平安	
3	館西	平安		34	長瀞B	縄文	
4	西野館跡	中世～近世	5	35	赤坂字高口	縄文・平安	
5	八気	平安		36	城野岡館	中世	18
6	上間明田	縄文		37	城野岡塚群	不明	
7	三ッ栗柵木	不明	6・7	38	猪岡	縄文・平安	
8	関合	縄文		39	岩野沢A	縄文	
9	古館跡	中世	8	40	岩野沢B	縄文(後期～晩期)・平安	19
10	塚堀字塚腰塚	不明		41	城野岡	平安	
11	オホン清水北	縄文(後～晩期)・弥生・平安	9	42	城野岡前A	縄文	
12	オホン清水B	縄文(後～晩期)・古墳・平安	10	43	城野岡B	縄文	
13	オホン清水A	縄文(後期～晩期)・平安	11・12・13	44	赤坂字堤下	縄文・平安	
14	猪岡字萱原	縄文(後期～晩期)		45	橋本	縄文(後期～晩期)	
15	鷹匠道下	縄文・平安		46	城野岡窯跡	平安	
16	中堰西	縄文・平安		47	沢口	平安	20
17	薬師前	縄文		48	明通	平安	21
18	般若寺	平安	14・15	49	竹原	奈良・平安	22・23
19	中猪岡A	縄文・平安		50	福島	平安	24
20	中猪岡B	平安		51	西ヶ沢前森	平安	25
21	宮下	平安		52	西ヶ沢	平安	26
22	川口A	平安		53	西ヶ沢山Ⅰ	平安	
23	川口B	中世～近世		54	西ヶ沢山Ⅱ	平安	
24	猪岡字八幡	縄文(晩期)・平安		55	西ヶ沢山Ⅲ	平安	
25	清水町新田字堤下	縄文(後期～晩期)・平安		56	五味川	平安	27
26	大堰端	縄文(後期～晩期)・平安		57	越部会	平安	
27	宮東	縄文・平安		58	高口東	平安	28
28	宮表	中世～近世		59	一本杉	平安	
29	新城下	縄文		60	江原嶋1	縄文	
30	赤川館	中世	16	61	江原嶋2	縄文	29
31	野際	縄文・平安		62	監物館	中世	30・31

ど、いわゆる48小屋といわれる小屋のついた地名が残っており、満徳長者･地副長者･明永長者などの長者伝説とともに、ト部一族や清原一族が平安中期頃にこの泥炭地帯を開発したときの名残だ(註４)という由緒を伴っている。

十世紀後半から十二世紀における平鹿郡内にはいくつかの経塚群が発見されている。横手市金沢字寺沢の閑居長根経塚群からは珠洲系陶器の四耳壺と、蓋として用いられた和鏡(廬雁鏡)が出土している。この他横手市金沢周辺には積石塚や十三塚などがある。雄物川町沼館字千刈田より、永延三年(989)紀年銘をもつ瑞花双鳳八稜鏡が出土した記録がある。八稜鏡の一稜には一弁ずつの蓮弁がかたどられ、鏡面の中央には大日如来を置き、周囲に八仏を配した胎蔵界曼荼羅である。鏡の縁部には「永延三年八月三日幸以奉始八葉九尊菩薩願主　仗伴守光女旦主伴希子願也」と刻まれていた。雄物川町左岸の丘陵には雄物川町北野経塚、大沢経塚があり、経甕、経筒、経巻が発見されている。大森町観音寺経塚では青銅製の経筒に「久安五年(1149)己巳五月日僧良与」と刻まれている。このように平安時代後期には仏教文化が深く浸透していた様子をうかがうことができる。

鎌倉初期、尾張国出身の御家人松葉助宗は平鹿郡地頭に補任され、その次男惟泰の代から当郡名を苗字として出羽国御家人平賀(平鹿)氏を名乗(註５)ったという。惟泰の弟油河四郎泰実･吉田五郎経宗もそれぞれ郡内の油河郷･吉田郷を苗字の地にしたとみられる。延元元年(1336)南朝方の鎮守府将軍北畠顕家は当地にとどまる平賀四郎左衛門を当地方の「北出羽使節」に任命している。建武五年(1338)頃、惟泰系統の平賀家宗家一族が塚守(塚堀)郷･三樟(三栗)郷の横手市西域に属する郷や八柏郷(大雄村)を伝領し、現在の平鹿町や大雄村･雄物川町方面に庶子を分出しているので、横手市が出羽国御家人藤原姓平賀氏惣領家の主たる基盤であったと考えられる。

鎌倉中期頃に郡地頭職(郡惣領職)は北条一門の手に移り、鎌倉幕末の北条金沢忠時を最後とした。そのため鎌倉幕府が滅亡し、建武新政が始まると、平鹿郡は元弘没収地の扱いを受けることになるが、平賀一族は郷村地頭として勢力をとどめる。戦国期における平鹿郡の松葉系平鹿氏は雄勝郡の小野寺氏や山本郡の戸沢氏の勢力に押されその家臣になる。

慶長七年(1602)から秋田藩領となる。横手市に城代(所領)を配置し、初期には増田･浅舞にも藩士を配置している。横手･浅舞周辺は横手木綿の産地として有名であった。塚堀村は正保四年(1647)『出羽国一国絵図』によれば塚堀新田村167石とみえるし、享保十五年(1730)の岡見知愛編『享保郡邑記』における「塚堀村81軒－支郷２」の地にあたる。

註1　『角川日本地名大辞典5秋田県』　角川書店　1980(昭和55年)

註2　秋田県農政部　『横手』　雄平仙中核都市建設計画地域土地分類基本調査　1977(昭和52年)

註3　横手市教育委員会　『秋田県横手市遺跡詳細分布調査報告書』　横手市文化財調査報告11　1986(昭和61年3月)

秋田県教育委員会　『秋田県遺跡地図(県南版)』　1987(昭和62年12月)

註4　註3文献

註5　註1文献

第1表周辺遺跡一覧表中の『参考文献』に記載した番号である。

1　佐川良視　「弥生式文化遺跡－手取清水の発掘－」『横手郷土史資料』第33号　1960(昭和35年)

2　横手市教育委員会　『手取清水遺跡発掘調査報告書』　1974(昭和49年)

3　沼館愛三　『出羽諸城の研究』　伊吉書院　1980(昭和55年)

4　秋田県教育委員会　『秋田県の中世城館』　秋田県文化財調査報告書第86集　1981(昭和56年)

5　秋田県教育委員会　『秋田県の中世城館』　秋田県文化財調査報告書第86集　1981(昭和56年)

6　秋田県教育委員会　『金沢柵跡発掘調査概報』　秋田県文化財調査報告書第12集　1967(昭和42年3月)

7　秋田県教育委員会　『金沢柵跡発掘調査概報』　1974(昭和49年)

8　秋田県教育委員会　『秋田県の中世城館』　秋田県文化財調査報告書第86集　1981(昭和56年)

9　横手市教育委員会　『秋田県横手市オホン清水－第3次遺跡発掘調査報告書－』　横手市文化財調査報告10　1984(昭和59年)

10　横手市教育委員会　『秋田県横手市オホン清水－第3次遺跡発掘調査報告書－』　横手市文化財報告報告10　1984(昭和59年)

11　杉山寿栄男　『日本原始繊維工芸史(原始編)』　雄山閣　1967(昭和42年)

12　奈良修介･豊島昂　『秋田県の考古学』　吉川弘文館　1967(昭和42年)

13　横手市教育委員会　『秋田県横手市オホン清水－第3次遺跡発掘調査報告書－』　横手市文化財調査報告10　1984(昭和59年)

14　杉山寿栄男　『日本原始繊維工芸史(原始編)』　雄山閣　1967(昭和42年)

15　大和久震平･奈良修介　『秋田県史･考古編』　1960(昭和35年)

16　秋田県教育委員会　『秋田県の中世城館』　秋田県文化財調査報告書第86集　1981(昭和56年)

17　秋田県教育委員会　『秋田県の中世城館』　秋田県文化財調査報告書第86集　1981(昭和56年)

18　秋田県教育委員会　『秋田県の中世城館』　秋田県文化財調査報告書第86集　1981(昭和56年)

19　秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第93集　1982(昭和57年3月)

20　冨樫泰時　「秋田県横手市発見の彫刻器」『若木考古』63･64　国学院大学考古学研究会　1962(昭和

37年)

21　平鹿町　『平鹿町史』　1984(昭和59年)

22　秋田県教育委員会　『秋田県遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第103集　1983(昭和58年３月)

平鹿町　『平鹿町史』　1984(昭和59年)

23　秋田県教育委員会『秋田県遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第103集　1983(昭和58年)

24　平鹿町『平鹿町史』　1984（昭和59年)

25　平鹿町『平鹿町史』　1984(昭和59年)

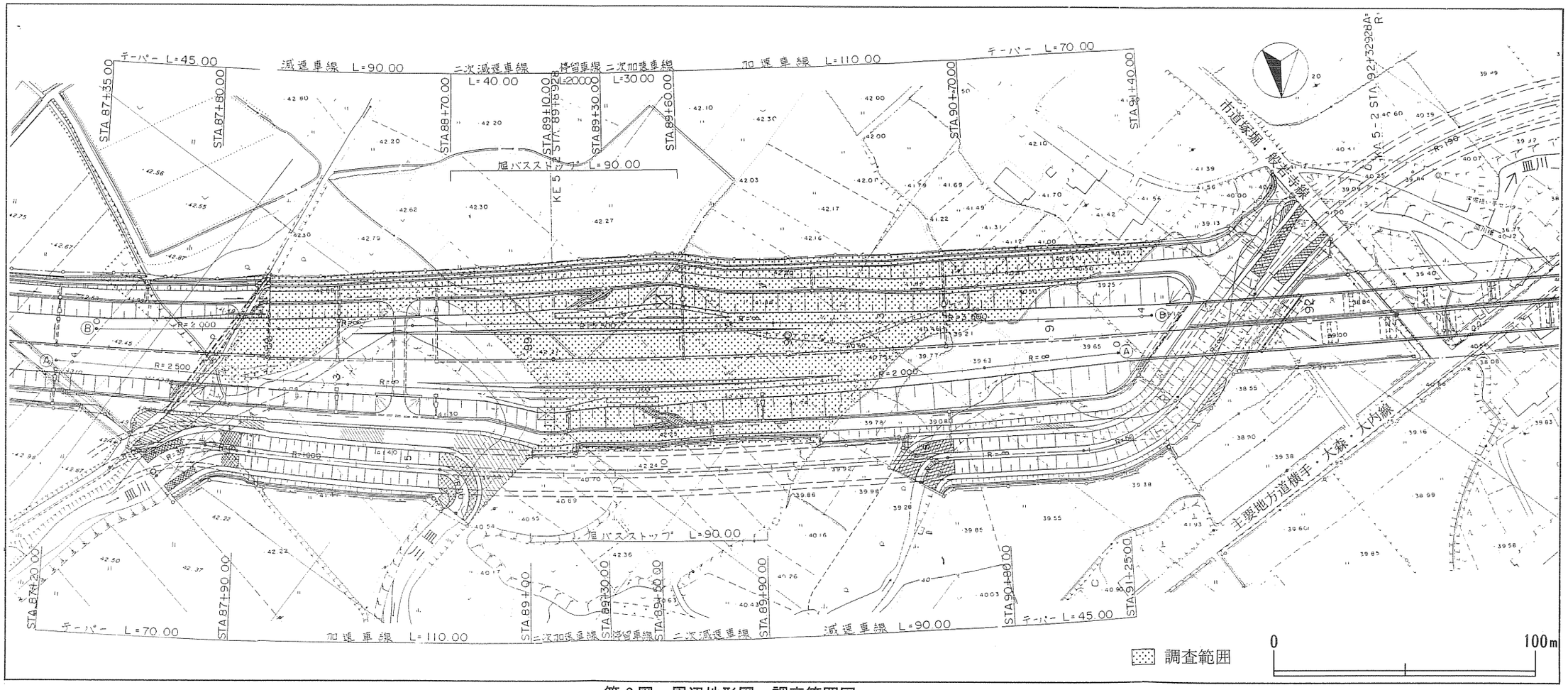
26　平鹿町『平鹿町史』　1984(昭和59年)

27　平鹿町『平鹿町史』　1984(昭和59年)

28　豊島昂『現地調査』　報告書未刊行　1968(昭和43年)

29　秋田県教育委員会　『秋田県の中世城館』　秋田県文化財調査報告書第86集　1981(昭和56年)

30　菅江真澄　『雪の出羽路』　1824(文政７年)



第６図　周辺地形図・調査範囲図

第３章　　発掘調査の概要

第１節　遺跡の概観

前述のように、手取清水遺跡は、市の西端にあたる横手市清水町新田に所在する。遺跡は、西を北流する大戸川とその支流皿川の合流地点より皿川を約300ｍ遡った、標高40.3～42.9ｍの河岸段丘上に位置する。蛇行する皿川によって形成された河岸段丘は３段丘面からなり、多くの遺構は最も高い標高42.2～42.9ｍの段丘面に構築されていた。他の低い段丘面は旧河川（ＳＬ323～326）で、遺構はきわめて少なかったが、多量の土器･石器、木製品などが出土した。現況は水田を主とし、一部に畑地･原野が含まれる。

本遺跡は昭和35年10月に発掘調査が実施されており、今回(註１)の調査は２回目の調査にあたる。昭和35年の発掘地点は、報告書中の「第１図･第２図」によれば、溝の検出状況や皿川･水路･畦畔の位置などから、今回調査したＣ区の東側、つまりＤ区との境寄り（付図３の矢印部分）と思われる。検出遺構は溝状遺構２条で、出土遺物は弥生時代の土器を主体として、縄文時代晩期の土器･石器、土師器、須恵器が出土している。

遺跡の基本層位はＤ区の東西のほぼ中央ＭＡラインと西端のＭＲラインの土層断面（第７図）の観察では以下のとおりである。

第１層　黒褐色土（10ＹＲ３／１）。〔表土〕　層厚12～15㎝である。

第２層　黒褐色土（10ＹＲ２／２）。粘性･しまりがある。層厚10～20㎝である。時代の異る遺物が混在して出土する。

第３層　黒褐色土（7.5ＹＲ２／２）。〔地山漸移層〕　粘性･しまりがあり、径２～10㎝の円礫７％ほど混入している。層厚は４～１５㎝であるが、第７図のとおりＬＲラインでは、第３層が削平されてすでになかった。したがって第２層はすでに動かされた土の可能性がある。

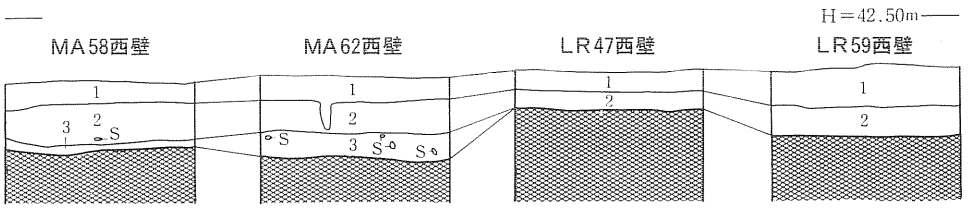
Ｄ区の東側では第２層がほとんどなく、表土を剥いだ段階で遺構プランを確認できた。ＬＲラインでは前述のように第３層がなく、ＭＡラインでは第１層から第３層まであり、地山までの最深は40㎝前後と東側に比較してかなり深くなる。さらにＭＡラインから西のＤ区西端部では表土から地山までの深度がＭＡラインよりもさらに増す。

本調査区は最も高い段丘面に立地するが、この周辺一帯は昭和38年に重機を使って耕地整理が行われている。今回の調査の結果、原地形は東から西に緩傾斜している事が判明した。ここにある黒ボク土は東から西に重機によって押されたものと考えられる。Ｃ区の東端部は昭和35年の調査報告書の土層断面観察によれば、表土から黄色粘土層（地山）まで深さは約70㎝もあ

り、遺物包含層である第３層の黒色土層が層厚50cmあり、上半部から遺物が多く出土している。遺物は弥生時代の土器を主体とし、縄文時代の土器、古代の土師器・須恵器と、時期の異る遺物が同一層位に混入し、その出土状態から遺物の再堆積の可能性が強いと指摘されている。このことから昭和38年の耕地整理以前にも土が動かされていたと考えられる。Ｃ区は今回の調査前の現況ではＤ区よりも１段低い水田となっており、昭和35年当時よりも２層の黒色土はさほど厚くはなく、北に行くほど薄く、その上に盛土されていた。このことから、この周囲も耕地整理により削平されたものと思われる。Ｂ区においてはＡ区寄りの北西側で、表土下に礫を多く含んだ土が厚さ30～40cmほど盛土され、その下にわずかに遺物包含層が残っていた。この地点も耕地整理時に、低くなっている北東よりの旧河川（ＳＬ323・326）に重機によって黒色土が動かされたようである。Ｆ区は表土の下が第２層で黒褐色土の遺物包含層となっており、地山は黄橙色シルトで、地山面より10cmほど上で古代～中世の遺物が同一レベルで出土した。

ＳＬ323～326の旧河川からは多量の木製品とともに、縄文・弥生土器、古代の土師器・須恵器などが出土した。Ａ区北西部のＳＬ324の土層断面（ＮＨ71グリッドＳＰＢ～ＳＰＣ）によれば、表土から砂礫層まで深さ約110cmほどあり、大きくは１～３層に分かれる。堆積物の記載は第５章の自然科学分析や付図１に詳しいのでそれらにゆずるが、第１層は表土、第２層は黒色～黒褐色の泥炭～泥炭質粘土質シルトで、２－ｃ層の上部には火山灰（２－ｂ層）が薄く帯状に堆積する。第３層は主として砂礫及び砂層である。第２－ｂ～２－ｄ層からは古代土器・墨書土器とともに多くの木製品が出土する平安時代の遺物包含層である。２－ａ層からは遺物の出土がきわめて少ないが、大観通宝（初鋳年1107年－北宗－）が出土していることから、大きくは古代～中世の間の堆積層と考えられる。第３層の砂礫層中からは縄文・弥生時代の摩滅した土器の破片や石器などが多く出土しており、遺跡周辺から流れ込んで混入した遺物である。

以上のように本地点は層が比較的厚く、時代毎の層序がしっかりしていた。しかしＡ区の北西端や中央部では層厚があまりなく、縄文～弥生時代、古代、中世の遺物が混在して出土し、層位的なまとまりがなく、泥炭層から出土した木製品は供伴する土器などから時代的な関係を把握できなかった。Ｂ・Ｃ区ＳＬ323の52ライン土層断面（ＳＰＫ～ＳＰＬ－付図２－）は、13層に分層され、４、５、７～12層は黒色～黒褐色の泥炭～泥炭質粘土質シルトで植物遺体を含んで木製品が多く出土し、第８・12層にはその傾向が顕著である。第１・２・４・６・13層は砂利や礫の混入層で、縄文・弥生土器などが出土し、中央部では部分的に層位が逆転しているところもある。Ａ区の北西端や中央部よりは平均した厚さはあるものの、遺物出土状況はほぼＢ・Ｃ区の場合と類似する。また、左右両岸には地山の盛土や削平の痕跡もみられた。



1　黒褐色(10YR 3/1)土　粘性ややあり　しまり強　耕作土
2　黒褐色(10YR 2/2)土　粘性あり　しまりあり
3　黒褐色(7.5YR 2/2)土　粘性あり　しまり良　径2～10cmの円礫7%混入

第7図　遺跡基本土層

第2節　調査の方法

発掘調査はグリッド法を採用した。東北横断自動車道秋田線路線内には、20m毎に中心杭が打設されており、その中心杭1箇所を選定し、これをグリッドの起点MA50とした。MA50から磁北を求めて南北基線とし、それと直交するラインを東西基線とし、4m×4mのグリッドを設定し、数箇所の杭をレベル原点とした。起点とした中心杭はSTA89＋60で、磁北は座標北(第X座標系の北)から7°19′2″西偏している。グリッド杭には、東西方向にKA→KT、LA→LT、MA→MTというふうにアルファベットを、南北方向には49·50·51‥‥というふうに南から北に向かって昇順となる連続する2桁の数字を用い、MA50というふうにこの両者の組み合わせを記入し、4m×4mの方眼杭の南東隅をグリッドの名称とした。

今春のトレンチ調査の結果、遺物包含層は薄く、遺構確認面までは浅かったので、発掘調査は全て人力によった。遺物の取り上げは、遺構外出土のものは出土グリット·出土層位·出土年月日を記入し、遺構内出土のものは出土遺構名·出土層位·出土年月日を記入したラベルとともに取り上げた。また、これら遺物の出土状況は必要に応じて適宜図面作成や写真撮影を行った。遺構の確認はできるだけ掘り込み面において確認するよう努めたが、水田の圃場整備などによる攪乱が著しく、地山面で確認される遺構が多かった。

遺構の調査は、主に四分法を用いている。住居跡や竪穴状遺構などの、面積規模の大きな遺構は、そのプラン確認後、東西及び南北の二方向または長軸及び短軸の二方向に直交する埋土堆積状況観察用のベルトを残して調査を進た。また、規模の小さな土坑などの遺構は、長軸に沿ってベルトを残して二分割して調査した。調査の記録は、主に図面と写真によった。図面は、基本的には1/20の縮尺で作図することとしたが、遺物出土状況など、細部の表現が必要な遺構に関しては1/10で行った。また遺構図面は、遺物出土状況·重複関係などから数回にわたる図面作成も行っている。この他、平板測量によるA·F区の地形図や遺物出土地点平面図

の作成も行った。

写真撮影は、基本的には35㎜のモノクロとカラーリバーサルフィルムを使用した。この他、遺跡の古環境や遺構の性格・年代把握のため、試料を採取し自然科学的分析を委託した。

室内における整理は、遺構は現場で取った平面図・断面図より第２原図を作成し、これをトレースした。遺物は洗浄・注記の後に実測図・拓影図の作成、写真撮影を行った。

第３節　調査の経過

発掘調査は昭和62年４月17日から開始し、同年５月９日までトレンチ調査を実施した。調査対象地は、今回の調査区とその南側水田部分、及び北側の皿川寄りの１段低い段丘面を含む48,500㎡を対象としたが、結果的には13,000㎡が調査対象となることが判明した。この間、プレハブの設置や資材を一部搬入している。

昭和62年５月18日、県高速道路対策事務所と調査区内の水路切り回しについて現地で協議。19日、進入路・プレハブ内外の整備、トレンチ調査時の排土処理を開始。22日、本格的な調査に備え発掘資材、ベルコンの搬入。26日、グリッド杭打設をやっていないため、調査区南部（山林部分Ｆ区）より調査に入り、粗掘・抜根を開始。土師器・須恵器片が若干出土した。

６月２日、調査区北面端（Ａ区）の粗掘りを開始し、Ｆ区と２班に分かれて平行して調査を進めることにした。Ａ区のⅡ層下は礫層となっており、旧河川のようである。縄文・弥生、平安、中世の遺物が混在して出土した。Ｆ区は第２層を掘り下げて、溝状遺構、土坑を検出した。11日、Ａ区から木製品や墨書土器がまとまって出土した。15日、今日から業者委託したグリッド杭打設を開始（24日に終了）。Ａ区では摩滅した土器が混入している第３層（砂礫層）の掘り下げが進む。23日、ＳＬ323旧河川の東中央部（Ｄ区）の粗掘を南側より開始した。

７月６日、遺構精査、図面作成、全体写真撮影をし、Ｆ区の調査を終了した。Ａ区の砂礫層掘り下げもだいぶ進み、終了の見通しがついてきた。７日、Ｄ区の南側は表土の下で遺構のプランがつかめ、竪穴状遺構、土坑、土器埋設遺構や柱穴など多くの遺構がありそうである。この頃、Ａ区の土層観察用ベルト兼通路の掘下げをし、第２層上面で火山灰の下より須恵器・墨書土器や木製品の箸や板材が出土した。さらに、Ｂ区の北東側とＣ区の東側（昭和35年調査部分）の粗掘に新たに入った。Ｂ区は耕作土の下は砂利を多く含む盛土層で、遺物はきわめてすくない。22日、Ａ区の東端のＳＬ323を水中ポンプによる排水をしながら土層断面図作成及び写真撮影を行う。専門指導員　白石建雄氏が来跡され、遺跡内及び周辺の地形・地質について指導を仰いだ。27日、Ｅ区の粗堀に入る。この頃には遺構・遺物の集中するＤ区の第２層までの掘下げをほぼ終了し、全体的に遺構の精査を行う。29日、Ｃ区の粗掘を開始した。

８月１日、Ｂ・Ｃ・Ｅ区の第２層までの掘り下げを続行し、Ａ区は残していたベルトの掘り下げと土層断面図作成、Ｄ区は多くの複雑に重複している遺構精査、写真撮影、図面作成におわれる。６日、Ｅ区にて堀立柱建物跡、Ｂ区にて竪穴住居跡のプランを確認した。18日、昨日、午後からの集中豪雨で、Ａ～Ｅ区には20～70㎝の深さで水がたまったため、排水作業を行う。25日、Ｅ区の溝状遺構掘り下げを終了し、Ｂ区ではＳＥ067から大小２箇の曲物が出土、Ｄ区では掘立柱建物跡が予想以上に重複しており、精査に時間がかかっている。

９月１日、専門指導員　工楽善通氏来跡。遺構・遺物について種々ご教示を得た。Ｃ区では中央に入れたトレンチから墨書土器や転用硯が出土し、泥炭層のあることが確認され、Ａ区に続く旧河川（ＳＬ323）で、多くの自然遺物が出土することが予想された。全体の遺構数は未登録を含めて約150遺構となり、その多くがＤ区に集中する。５日、Ｄ区のＳＸ085より骨片が出土し、サンプリングを行った。12日、Ｄ区の第２層の掘り下げが進み、南側に残していた排土運搬用道路の掘り下げも開始。北東部のＳＸ084は「コ」字状で、埋土に焼土を伴うことが判明した。Ｅ区のＳＤ092は北端にて、Ｃ区を北流するＳＬ323に合流することが判明した。24日、Ｅ区は、調査後の全体写真撮影をもって終了した。

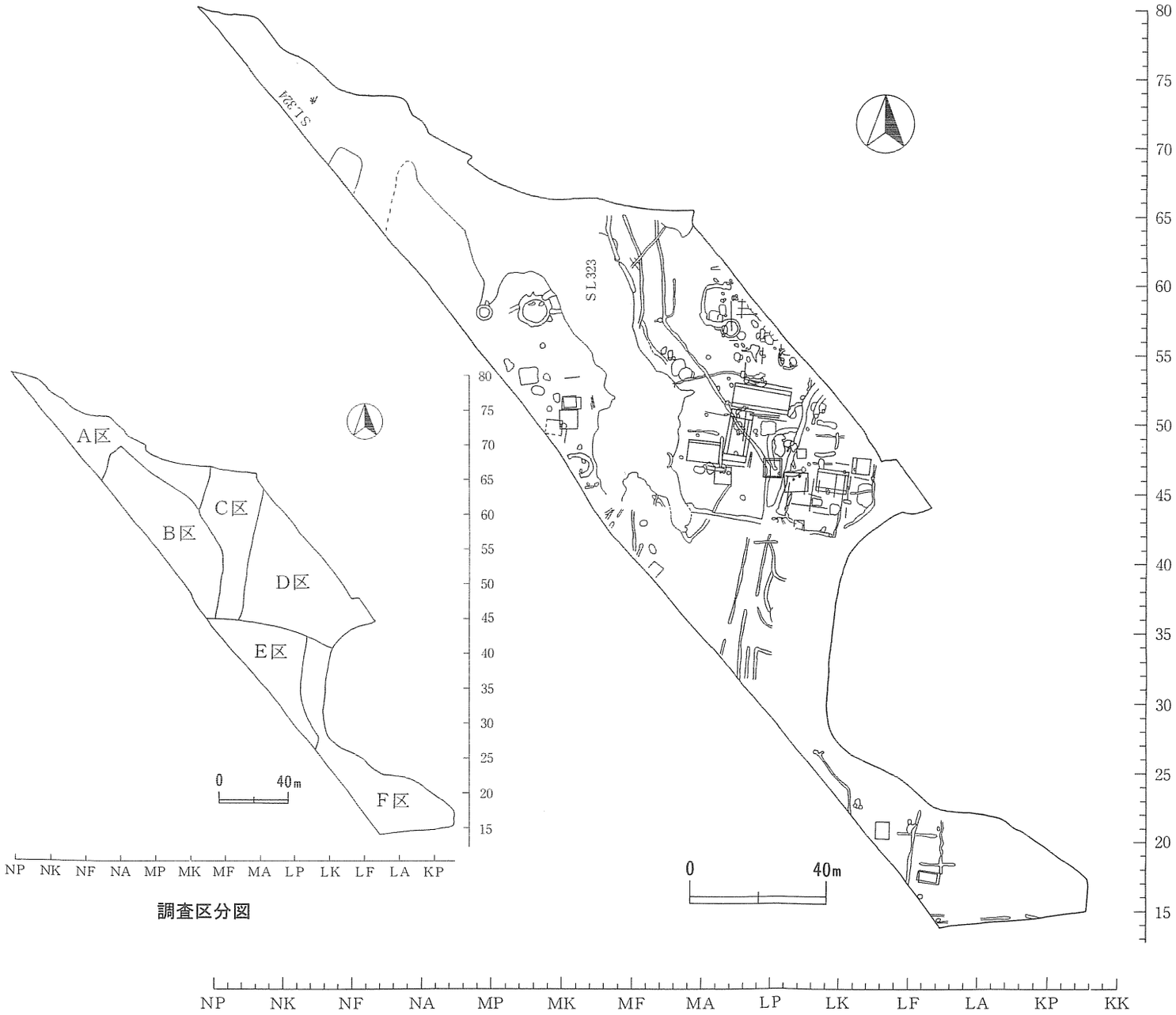
10月９日、Ａ区は土層断面図・等高線図作成、全体写真撮影をもって終了した。12日、Ｄ区全体の第１回目遺構写真測量を開始し、14日に終了した。この頃、Ｃ区のＳＬ324第６層を掘り下げ、木簡や木製品が多く出土し、その取り上げ作業におわれる。19日、Ｂ・Ｃ・Ｄ区の調査を併行して行っているが、Ｄ区は精査の主力が北西部に移っているが、遺物もさることながら、相変わらず遺構の重複が激しく、作業が遅れぎみである。Ｂ・Ｃ区はいずれも旧河川を掘り下げたが、Ｃ区に比較し、Ｂ区の出土遺物は極端に少ない。全体の遺構数は200を越えた。

11月５日、Ｄ区のラジコンヘリコプターによる２回目遺構写真測量を開始し、６日に終了した。専門指導員　須藤　隆氏来跡。遺構や縄文・弥生時代の遺物についてご教示を仰ぐ。13日、Ｃ区北部・Ｄ区東部調査後の全体写真撮影を行ない、Ｃ区の調査は北部のＳＬ323旧河川を残すのみとなった。14日、専門指導員　白石建雄氏来跡。Ｅ区の深掘土層断面を見ていただき、遺跡地周辺の地形・地質についてご指導を仰ぐ。19日、Ｄ区のＳＸ153など、脂肪酸・リン分析用土壌サンプルの採取を行った。24日、朝から風強く、雪がちらつき、午後から吹雪が激しくなり、15時で現場作業を中止。26日、Ｃ・Ｂ・Ｄ区とも掘り下げや遺構精査を継続中であるが、Ｃ区は土層断面用ベルトを残して、周囲の掘り下げがほぼ終了した。45ラインベルト（ＳＬ323）にて花粉分析用の土壌を採取した。30日、昨夜から約40㎝の降雪があり、朝から全員で駐車場・プレハブ周囲や現場までの除雪をした後、遺構精査に入る。

12月に入ってからも降雪があり、Ｂ・Ｃ・Ｄ区とも除雪をしてからの遺構精査である。７日、長きにわたったＤ区の遺構精査・実測も、図面チエックを残し終了した。遺構精査・レベル計測

や遺物取り上げはＢ区の中央部と旧河川、Ｃ区の旧河川を残すのみとなった。９日、Ｂ区中央部の遺構全体写真撮影後、平面図の作成をもってＢ区の調査を終了した。朝から撤去準備を開始し、午後、木製品や発掘器材を埋蔵文化財センターに運搬した。10日、空中写真撮影を実施、11日に道路公団と現地立ち会い後、引き渡しをした。12日、撤去を終え、８箇月にわたる遺跡の調査を全て終了した。

調査期間中を通じて、地元小･中学生や、郷土史家やそのグループ、地元文化財関係の人々の遺跡見学があり、この説明にあたった。また、報道関係諸機関の取材にも応対した。



調査区分図

第８図　遺構配置図・調査区分模式図

第４章　調査の記録

第１節　検出遺構

手取清水遺跡では、柱列跡36列、掘立柱建物跡19棟、竪穴住居跡１軒、竪穴状遺構６基、井戸跡10基、溝状遺構73条、旧河川４、土坑67基、配石遺構１基、土器埋設遺構４基、焼土遺構３基、その他の遺構62基の計286遺構を検出した。これらの遺構は出土遺物によれば、縄文時代･弥生時代･古代･中世･近世に属するものである。しかし、遺跡の大半が過去に耕地整理による削平･攪乱を受けているため、時代の異なる遺物が混在している状態であり、各遺構間の検出レベルにも差は認められない。したがって、時代を特定できる遺構は限られており、全ての遺構を時代別に分類することは難しい。よって、遺構の説明は遺構別に行う。以下、検出遺構について順次その概略を記す。

１．柱列跡（第９～16図）

ＳＡ068　（第９図）

Ｅ区のＬＯ38、ＬＰ38･39グリッドに位置する東西筋１間以上の掘立柱列である。現状での柱間距離は2.11ｍで、計画尺による７尺以上の柱列であろう。柱掘形は長径40cm前後の楕円形を呈し、確認面から25cmの深さまで掘り込まれている。埋土は暗褐色土が主体で、ＳＡ068－１にて径15cmの柱痕を確認した。出土遺物はない。

ＳＡ103　（第９図）

Ｄ区のＬＨ46･47、ＬＩ46･47、ＬＪ46･47グリッドに位置する東西筋２間以上の掘立柱列である。現状での柱間距離は総間4.9ｍ（東から2.44ｍ＋2.46ｍ）で、計画尺８尺等間の柱列と考えられる。柱掘形は長径29～37cmの楕円形を呈し、確認面から29～34cmの深さまで掘り込まれている。埋土は明黄褐色土ないしにぶい褐色土が主体で、径12cmの柱痕を確認した。出土遺物はない。

ＳＡ172　（第９図･64）

Ｄ区のＬＲ47、ＬＳ47グリッドに位置する東西筋２間の掘立柱列である。ＳＢ173の南側柱筋の延長にあたり、ＳＢ173に付随するものと考えられる。柱間距離は総間5.16ｍ（東から2.73ｍ＋2.45ｍ）で、計画尺17尺（東から８＋９尺）の柱列であろう。柱列がＳＢ173に接続するものであれば柱間は３間となり、総間7.48ｍ（東から2.73ｍ＋2.45ｍ＋2.33ｍ）で計画尺が25尺（東から８＋９＋８尺）の柱列となろう。柱掘形は長径20～34cmの楕円形を呈するものと20×28cmの

長方形を呈するものがあり、確認面から12～33cmの深さまで掘り込まれている。埋土は黒色土が主体で、ＳＡ172－３にて径14cmの柱痕を確認した。遺物は縄文～弥生土器片が出土している。

ＳＡ176　（第９図）

Ｄ区のＬＫ43、ＬＬ43･44、ＬＭ44、ＬＮ44グリッドに位置する東西筋５間の掘立柱列である。柱間は総間11.45ｍ（東から2.25ｍ＋2.36ｍ＋2.28ｍ＋2.3ｍ＋2.26ｍ）で、計画尺7.5尺等間の柱列であろう。柱掘形は長径26～38cmの楕円形を呈し、確認面から27～47cmの深さまで掘り込まれている。埋土は黒色土が主体で、ＳＡ176－１・２・５にて径14～18cmの柱痕を確認した。遺物はフレイクが出土している。

ＳＡ177　（第９図、図版３）

Ｄ区のＬＫ43、ＬＬ43、ＬＭ43グリッドに位置する東西筋３間の掘立柱列である。柱間は総間5.4ｍ（東から1.83ｍ＋1.82ｍ＋1.75ｍ）で、計画尺６尺等間の柱列であろう。柱掘形は１辺が25～34cmの方形を呈し、確認面から23～46cmの深さまで掘り込まれている。埋土は黒色土ないし黒褐色土が主体で、ＳＡ177－３・４にて径10～16cmの柱痕を確認した。出土遺物はない。

ＳＡ178　（第10図、図版30）

Ｄ区のＬＪ45･46グリッドに位置する南北筋２間の掘立柱列である。ＳＢ100棟通りの柱筋と柱穴位置が一致しており、関連が考えられるものである。柱間は総間4.91ｍ（北から2.49ｍ＋2.42ｍ）で、計画尺による８尺等間の柱列であろう。柱掘形は１辺が15～18cmの方形を呈し、確認面から10～20cmの深さまで掘り込まれている。埋土は黒色土が主体で、ＳＡ178－２にて径10cmの柱痕を確認した。出土遺物はない。

ＳＡ205　（第10図）

Ｄ区のＬＪ47、ＬＫ47グリッドに位置する東西筋２間の掘立柱列である。ＳＢ100の柱筋の延長に柱穴が位置しており、ＳＢ100に付随する可能性もある。柱間は総間4.49ｍ（東から2.21ｍ＋2.28ｍ）で、計画尺7.5尺等間の柱列であろう。柱掘形は長径30～40cmの楕円形を呈し、確認面から18～21cmの深さまで掘り込まれている。埋土は明黄褐色とにぶい黄褐色土が主体で、ＳＡ205－２・３にて径10～15cmの柱痕を確認した。遺物はフレイクが出土している。

ＳＡ206　（第10図）

Ｄ区のＬＬ45･46、ＬＭ46～46グリッドに位置する南北筋４間の掘立柱列である。柱間は総間9.92ｍ（北から2.36ｍ＋2.50ｍ＋2.37ｍ＋2.69ｍ）で、計画尺８尺等間の柱列であろう。柱掘形は長径24～35cmの楕円形を呈し、確認面から33～52cmの深さまで掘り込まれている。埋土は黒色土が主体で、ＳＡ206－３にて径15cmの柱痕を確認した。遺物は縄文～弥生土器片、土師器坏の底部破片が出土している。

ＳＡ207　（第10図）

Ｄ区のＬＭ45･46グリッドに位置する南北筋２間の掘立柱列である。柱間は総間5.05ｍ（北から2.59ｍ＋2.46ｍ）で、計画尺8.5尺等間の柱列であろう。柱掘形は径20～25㎝の円形を呈し、確認面から21～30㎝の深さまで掘り込まれている。埋土は黒色土が主体で、径13～15㎝の柱痕を確認した。遺物は縄文～弥生土器片が出土している。

ＳＡ208　（第10図）

Ｄ区のＬＮ44･45グリッドに位置する南北筋３間の掘立柱列である。ＳＤ151と重複しており、ＳＡ208－４柱掘形がＳＤ151を切っている。柱間は総間8.13ｍ（北から2.77ｍ＋2.55ｍ＋2.82ｍ）で、計画尺９尺等間の柱列であろう。柱掘形は径20～25㎝の円形を呈し、確認面から15～27㎝の深さまで掘り込まれている。埋土はにぶい黄褐色土が主体で、ＳＡ208－１・２にて径12～18㎝の柱痕を確認した。遺物は縄文～弥生土器片が出土している。

ＳＡ210　（第11図、図版30）

Ｄ区のＬＪ43～44グリッドに位置する南北筋２間の掘立柱列である。柱間は総間3.3ｍ（北から1.6ｍ＋1.7ｍ）で、計画尺5.5尺等間の柱列であろう。柱掘形は長径28～30㎝の楕円形ないし隅丸方形を呈し、確認面から26～30㎝の深さまで掘り込まれている。埋土はにぶい黄褐色土が主体で、径12～15㎝の柱痕を確認した。遺物は縄文～弥生土器片が出土している。

ＳＡ222　（第11図）

Ｄ区のＬＮ52、ＬＯ52･53、ＬＰ52･53、ＬＱ53グリッドに位置する東西筋７間の掘立柱列である。ＳＢ170柱筋にほぼ平行する位置にあり、何等かの関連を持つものかも知れない。柱間は総間17.05ｍ（東から2.3ｍ＋2.56ｍ＋2.55ｍ＋2.47ｍ＋2.37ｍ＋2.4ｍ＋2.44ｍ）で、計画尺８尺等間の柱列であろう。柱掘形は長径が32～48㎝の楕円形を呈し、確認面から18～50㎝の深さまで掘り込まれている。埋土は黒色土が主体で、ＳＡ222－１・２・４にて径14㎝前後の柱痕を確認した。遺物は縄文～弥生土器片、フレイクが出土している。

ＳＡ224　（第11図）

Ｄ区のＬＱ54、ＬＲ53･54グリッドに位置する南北筋２間の掘立柱列である。ＳＡ224はＳＫ138と重複しており、ＳＡ224－２はＳＫ138に切られている。柱間は総間4.83ｍ（北から2.44ｍ＋2.39ｍ）で、計画尺８尺等間の柱列であろう。柱掘形は１辺が30～45㎝の方形を呈し、確認面から34㎝の深さまで掘り込まれている。埋土は黒褐色土が主体で、径10～20㎝の柱痕を確認した。出土遺物はない。

ＳＡ227　（第11図）

Ｄ区のＬＱ54･55グリッドに位置する南北筋２間の掘立柱列である。ＳＫ137と重複しているが、新旧関係は不明である。柱間距離は総間4.87ｍ（北から2.32ｍ＋2.55ｍ）で、計画尺８尺等

間の柱列であろう。柱掘形は１辺が33～37cmの方形を呈するものと長径42～50cmの楕円形を呈するものがあり、確認面から36～46cmの深さまで掘り込まれている。埋土は黒色土が主体で、ＳＡ227－３にて径11cmの柱痕を確認した。遺物は縄文～弥生土器片が出土している。

ＳＡ240　（第12図）

Ｄ区のＬＲ56～58、ＬＳ56～58グリッドに位置する南北筋４間の掘立柱列である。柱間は総間8.35ｍ（北から2.2ｍ＋1.95ｍ＋2.0ｍ＋2.18ｍ）で、計画尺７尺等間の柱列であろう。柱掘形は１辺が50～60cmの方形を呈し、確認面から28～42cmの深さまで掘り込まれている。埋土は黒色～黒褐色土が主体で、ＳＡ240－２～４にて径20cmの柱痕を確認した。遺物は縄文～弥生土器片、フレイク、須恵器坏の細片、土師器坏の体部細片が出土している。

ＳＡ241　（第12図）

Ｄ区のＬＲ57～59グリッドに位置する南北筋３間以上の掘立柱列である。ＳＡ241－３はＳＡ242－２と重複しているが、新旧関係は不明である。柱間距離は総間6.4ｍ（北から2.16ｍ＋2.07ｍ＋2.17ｍ）で、計画尺７尺等間の柱列であろう。柱掘形は１辺が60～70cmの方形を呈し、確認面から24～38cmの深さまで掘り込まれている。埋土は黒色土ないし黒褐色が主体である。柱痕は確認できなかった。遺物は縄文～弥生土器片、フレイク、土師器甕の胴部破片、須恵器甕の胴部破片が出土している。

ＳＡ242　（第12図）

Ｄ区のＬＱ57･58、ＬＲ57･58グリッドに位置する東西筋２間以上の掘立柱列である。ＳＡ242－２はＳＡ241－３と重複しているが、新旧関係は不明である。現状での柱間は総間4.2ｍ（東から2.12ｍ＋2.1ｍ）で、計画尺７尺等間の柱列であろう。柱掘形は１辺が60～65cmの方形を呈し、確認面から26～35cmの深さまで掘り込まれている。埋土は黒褐色土が主体で、ＳＡ242－１にて径22cmの柱痕を確認した。遺物は縄文～弥生土器片、フレイク、須恵器蓋の口縁部破片、土師器甕の口縁部･胴部破片が出土している。

ＳＡ243　（第12図）

Ｄ区のＬＱ58、ＬＲ58グリッドに位置する東西筋１間以上の掘立柱列である。現状での柱間距離は2.30ｍで、計画尺８尺の柱列であろう。柱掘形は１辺が50～60cmの方形を呈し、確認面から32～34cmの深さまで掘り込まれている。埋土は黒色土が主体で、径18～24cmの柱痕を確認した。遺物は縄文～弥生土器片、土師器甕の胴部破片が出土している。

ＳＡ256　（第13図）

Ｄ区のＬＲ56、ＬＳ56グリッドに位置する東西筋１間の掘立柱列である。柱間は2.16ｍで、計画尺７尺の柱列であろう。柱掘形は長径70～75cmの楕円形を呈し、確認面から37～42cmの深さまで掘り込まれている。埋土は黒色土が主体である。柱痕は確認できなかった。遺物は縄文

～弥生土器片、フレイク、土師器坏･甕の細片が出土している。

ＳＡ257　（第13図）

Ｄ区のＬＱ58･59、ＬＲ58･59グリッドに位置する東西筋１間以上の掘立柱列である。現状での柱間は2.01ｍで、おそらくは計画尺７尺の柱列であろう。柱掘形は55×75㎝の長方形を呈し、確認面から20～26㎝の深さまで掘り込まれている。埋土は黒褐色土が主体である。柱痕は確認できなかった。遺物縄文～弥生土器片、フレイク、土師器鉢の胴部破片が出土している。

ＳＡ273　（第13図）

Ｄ区のＬＪ44･45グリッドに位置する南北筋２間の掘立柱列である。ＳＡ273はＳＫ024と重複しており、ＳＡ273－３はＳＫ024に切られている。柱間は総間5.08ｍ（北から2.45ｍ＋2.63ｍ）で、計画尺8.5尺等間の柱列であろう。柱掘形は径18～28㎝の円形ないし楕円形を呈し、確認面から21～26㎝の深さまで掘り込まれている。埋土は黒色土が主体である。柱痕は確認できなかった。出土遺物はない。

ＳＡ274　（第13図）

Ｄ区のＬＪ43～46、ＬＫ43グリッドに位置する南北筋５間の掘立柱列である。ＳＡ274はＳＤ029と重複しており、ＳＡ274－６がＳＤ029に切られている。柱間は総間12.29ｍ（北から2.3ｍ＋2.53ｍ＋2.28ｍ＋2.5ｍ＋2.69ｍ）で、計画尺８尺等間の柱列であろう。柱掘形は長径25～30㎝の楕円形を呈し、確認面から20～38㎝の深さまで掘り込まれている。埋土は黒褐色土が主体である。柱痕は確認できなかった。遺物は縄文～弥生土器片が出土している。

ＳＡ275　（第13図）

Ｄ区のＬＬ44、ＬＭ44･45グリッドに位置する東西筋２間の掘立柱列である。柱間は総間4.76ｍ（東から2.27ｍ＋2.49ｍ）で、計画尺８尺等間の柱列であろう。柱掘形は長径30～35㎝の楕円形を呈するものと１辺が22㎝の方形を呈するものがあり、確認面から39～48㎝の深さまで掘り込まれている。埋土は黒褐色土が主体である。柱痕は確認できなかった。出土遺物はない。

ＳＡ276　（第14図）

Ｄ区のＬＫ44～46グリッドに位置する南北筋３間の掘立柱列である。柱間は総間7.36ｍ（北から2.3ｍ＋2.76ｍ＋2.31ｍ）で、計画尺８尺等間の柱列であろう。柱掘形は長径25～30㎝の楕円形を呈し、確認面から33～44㎝の深さまで掘り込まれている。埋土は黒禮色土が主体である。柱痕は確認できなかった。遺物は珠洲系陶器甕の胴部破片が出土している。

ＳＡ277　（第14図）

Ｄ区のＬＬ45･46グリッドに位置する南北筋２間の掘立柱列である。柱間は総間3.63ｍ（北から1.91ｍ＋1.72ｍ）で、計画尺６尺等間の柱列であろう。柱掘形は長径30～34㎝の楕円形を呈し、確認面から32～36㎝の深さまで掘り込まれている。埋土は黒褐色土が主体である。柱痕は

確認できなかった。遺物はフレイクが出土している。

ＳＡ284　（第14図）

Ｂ区のＭＫ49･50グリッドに位置する南北筋３間の掘立柱列である。柱間は総間4.45ｍ（北から1.6ｍ＋1.49ｍ＋1.36ｍ）で、計画尺が５尺等間の柱列であろう。柱掘形は長径30～35cmの楕円形ないし隅丸方形を呈しており、確認面から17～34cmの深さまで掘り込まれている。埋土は黒色土が主体で、ＳＡ284－１・３にて径15cmの柱痕を確認した。出土遺物はない。

ＳＡ285　（第14図）

Ｂ区のＭＪ48･49グリッドに位置する南北筋２間以上の掘立柱列である。柱間は北から2.17ｍ＋2.26ｍで、現状での総間は4.42ｍである。おそらくは計画尺７尺等間の柱列であろう。柱掘形は30～35cmの円形を呈し、確認面から18～33cmの深さまで掘り込まれている。埋土は黒色土が主体である。柱痕は確認できなかった。出土遺物はない。

ＳＡ288　（第14図）

Ｂ区のＭＨ51･52、ＭＩ52グリッドに位置する南北筋２間の掘立柱列である。柱間は総間3.75ｍ（北から1.89ｍ＋1.86ｍ）で、計画尺が６尺等間の柱列であろう。柱掘形は１辺が20～25cmの方形を呈するものと径23cmの円形を呈するものがあり、確認面から22～28cmの深さまで掘り込まれている。埋土は黒褐色土が主体である。柱痕は確認できなかった。出土遺物はない。

ＳＡ289　（第15図）

Ｂ区のＭＩ53、ＭＪ53、ＭＫ53グリッドに位置する東西筋２間の掘立柱列である。柱間は総間4.32ｍ（東から2.28ｍ＋2.05ｍ）で、計画尺による７尺等間の柱列であろう。柱掘形は１辺が20～25cmの方形を呈し、確認面から13～26cmの深さまで掘り込まれている。埋土は黒色土が主体である。柱痕は確認できなかった。出土遺物はない。

ＳＡ297　（第15図）

Ｄ区のＬＱ47･48グリッドに位置する南北筋２間の掘立柱列である。ＳＡ298と平行しており、その位置もほぼ同位置にあることからＳＡ297･298は柱列を同一位置で造り替えたものと考えられる。ＳＡ297－１がＳＡ298－１に切られており、新旧関係はＳＡ297→ＳＡ298である。柱間は総間4.9ｍ（北から2.5ｍ＋2.4ｍ）で、計画尺８尺等間の柱列であろう。柱掘形は長径28～35cmの楕円形を呈し、確認面から20～27cmの深さまで掘り込まれている。埋土はにぶい黄褐色土が主体で、径10cmの柱痕を確認した。出土遺物はない。

ＳＡ298　（第15図）

Ｄ区のＬＱ47･48グリッドに位置する南北筋２間の掘立柱列である。ＳＡ297と平行しており、その位置もほぼ同位置にあることからＳＡ297･298は柱列を同一位置で造り替えたものと考えられる。ＳＡ297－１がＳＡ298－１に切られており、新旧関係はＳＡ297→ＳＡ298であ

る。柱間は総間4.81ｍ（北から2.51ｍ＋2.3ｍ）で、計画尺８尺等間の柱列であろう。柱掘形は長径が24～39㎝の楕円形を呈し、確認面から21～26㎝の深さまで掘り込まれている。埋土は黒褐色土が主体で、ＳＡ298－１・２にて径10～12㎝の柱痕を確認した。出土遺物はない。

ＳＡ299　（第15図）

Ｄ区のＬＱ50･51、ＬＲ48～51グリッドに位置する南北筋４間の掘立柱列である。ＳＤ168と重複しており、ＳＡ299－４柱掘形がＳＤ168を切っている。柱間は総間8.78ｍ（北から2.01ｍ＋2.24ｍ＋2.23ｍ＋2.31ｍ）で、計画尺7.5尺等間の柱列であろう。柱掘形は長径が25～40㎝の楕円形を呈し、確認面から20～35㎝の深さまで掘り込まれている。埋土は黒褐色土が主体で、ＳＡ299－１・４・５にて径11～15㎝の柱痕を確認した。遺物は縄文～弥生土器片が出土している。

ＳＡ300　（第15図）

Ｄ区のＬＯ50、ＬＰ50、ＬＱ50グリッドに位置する東西筋４間の掘立柱列である。ＳＡ301･302と平行しており、その位置もほぼ同位置にあることからＳＡ300～301は柱列を同一位置で造り替えたものと考えられる。ただし、相互の新旧関係は不明である。柱間は総間9.53ｍ（東から2.51ｍ＋2.38ｍ＋2.34ｍ＋2.31ｍ）で、計画尺８尺等間の柱列であろう。柱掘形は長径が20～30㎝の楕円形を呈し、確認面から20～30㎝の深さまで掘り込まれている。埋土は黒褐色土が主体で、ＳＡ300－１にて径10㎝の柱痕を確認した。遺物は縄文～弥生土器片、フレイクが出土している。

ＳＡ301　（第16図）

Ｄ区のＬＯ50、ＬＰ50、ＬＱ50グリッドに位置する東西筋４間の掘立柱列である。ＳＡ300･302と平行しており、その位置もほぼ同位置にあることからＳＡ300～301は柱列を同一位置で造り替えたものと考えられる。柱間は総間9.11ｍ（東から2.29ｍ＋2.36ｍ＋2.56ｍ＋1.89ｍ）で、計画尺はＳＡ300よりやや小さい30尺（東から7.5＋7.5＋９＋６尺）の柱列であろう。柱掘形は１辺が25㎝の方形を呈するものと径25㎝の円形を呈するものがあり、確認面から28～44㎝の深さまで掘り込まれている。埋土はにぶい黄褐色土が主体で、ＳＡ301－１にて径14㎝柱痕を確認した。遺物は縄文～弥生土器片、土師器坏の体部細片が出土している。

ＳＡ302　（第16図）

Ｄ区のＬＮ50、ＬＯ50、ＬＰ50、ＬＱ50グリッドに位置する東西筋４間の掘立柱列である。ＳＡ300･301と平行しており、その位置もほぼ同位置にあることからＳＡ300～301は柱列を同一位置で造り替えたものと考えられる。柱間は総間9.07ｍ（東から2.08ｍ＋2.38ｍ＋2.69ｍ＋1.92ｍ）で、ＳＡ301と同様の計画尺30尺（東から7.5＋7.5＋９＋６尺）の柱列と思われるが、柱間距離のばらつきが大きい。埋土は黒色土が主体である。柱痕は確認できなかった。出土遺物はない。

ＳＡ307　（第16図）

Ｄ区のＬＳ50、ＬＴ50･51、ＭＡ51グリッドに位置する東西筋３間の掘立柱列である。柱間は総間6.7ｍ（東から1.94ｍ＋2.58ｍ＋2.17ｍ）で、計画尺7.5尺等間の柱列であろう。柱掘形は長径38～60cmの楕円形を呈し、確認面から30～44cmの深さまで掘り込まれている。埋土は灰白色粘土が主体で、径10～19cmの柱痕を確認した。遺物は縄文～弥生土器片が出土している。

２．掘立柱建物跡（第17～28図）

ＳＢ019　（第17図、図版28）

Ｆ区のＬＣ16･17、ＬＤ16･17、ＬＥ17グリッドに位置する東西棟桁行３間×梁行１間の掘立柱建物跡である。ほぼ同位置でＳＢ020と重複しているが、相互の新旧関係は不明である。柱間は桁行総間5.38ｍ（東から1.84ｍ＋1.78ｍ＋1.76ｍ）、梁行2.97ｍである。計画尺は桁行６尺等間、梁行10尺と考えられる。柱掘形は長径25～38cmの楕円形を呈し、確認面から14～27cmの深さまで掘り込まれている。埋土は黒褐色土が主体である。柱痕は確認できなかった。出土遺物はない。ＳＢ020　（第17図、図版28）

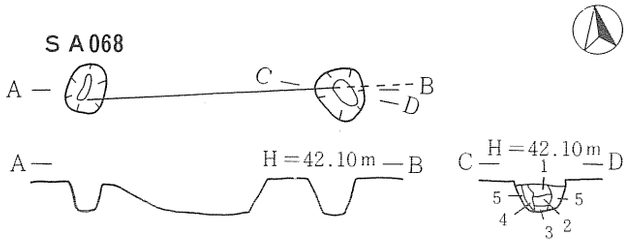
Ｆ区のＬＣ16･17、ＬＤ16･17、ＬＥ17グリッドに位置する東西棟桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡である。ほぼ同位置でＳＢ019と重複するが、新旧関係は不明である。柱間は桁行総間9.53ｍ（東から1.83ｍ＋2.24ｍ＋1.83ｍ）、梁行総間3.31ｍ（北から1.63ｍ＋1.67ｍ）である。計画尺は桁行20尺（東から６＋８＋６尺）、梁行5.5尺等間と考えられる。柱掘形は長径23～43cmの楕円形を呈するものを主体とし、確認面から28～38cmの深さまで掘り込まれている。埋土は黒色ないし黒褐色土が主体である。柱痕は確認できなかった。出土遺物はない。

ＳＢ022　（第18図、図版28）

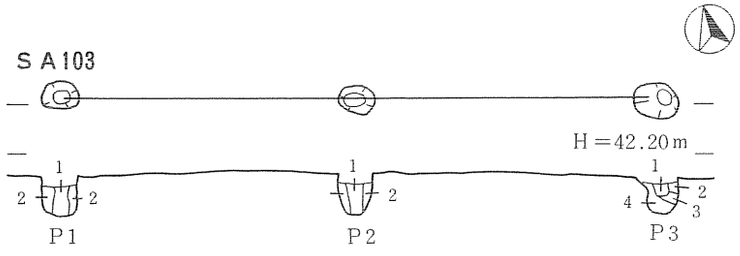
Ｆ区のＬＧ19～21、ＬＨ20･21グリッドに位置する南北棟桁行３間×梁行１間の掘立柱建物跡である。柱間は桁行総間5.05ｍ（北から1.72ｍ＋1.62ｍ＋1.71ｍ）、梁行4.64ｍである。計画尺は桁行16.5尺（5.5尺等間）、梁行15尺と考えられる。柱掘形は１辺が40～45cmの方形を呈するものと長径45～60cmの楕円形を呈するものがあり、確認面から25～35cmの深さまで掘り込まれている。埋土は黒褐色土が主体である。柱痕は確認されなかった。出土遺物はない。

ＳＢ069　（第18図）

Ｅ区のＭＣ39･ＭＤ39･40グリッドに位置する東西棟桁行３間以上×梁行２間以上の掘立柱建物跡である。現状での柱間は、桁行総間3.63ｍ（東から1.02ｍ＋1.67ｍ＋0.96ｍ）、梁行総間2.7ｍ（北から1.56ｍ＋1.13ｍ）である。おそらくは計画尺による桁行12.5尺以上（東から3.5＋5.5＋3.5尺）、梁行９尺以上（北から５＋４尺）のものであろう。柱掘形は径20～25cmの円形を呈しており、確認面から15～18cmの深さまで掘り込まれている。埋土は黒褐色土が主体で、ＳＢ069－



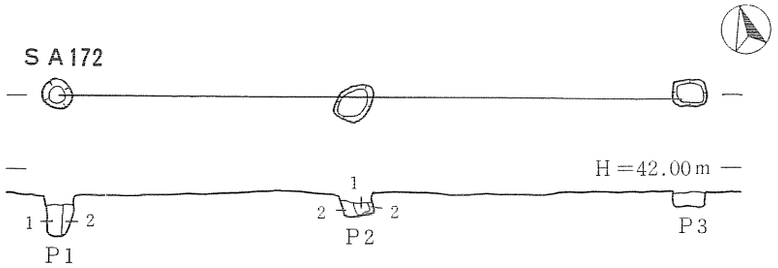
（ＳＰ　Ｃ～Ｄ）
1　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2/2)
2　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2/2)
3　褐色土(10Ｙ Ｒ4/4)
4　暗褐色土(10Ｙ Ｒ3/4)
5　にぶい黄褐色土(10Ｙ Ｒ5/4)



Ｐｉｔ１
1　黒褐色土(7.5Ｙ Ｒ3/1)
2　明黄褐色土(2.5Ｙ Ｒ7/6)

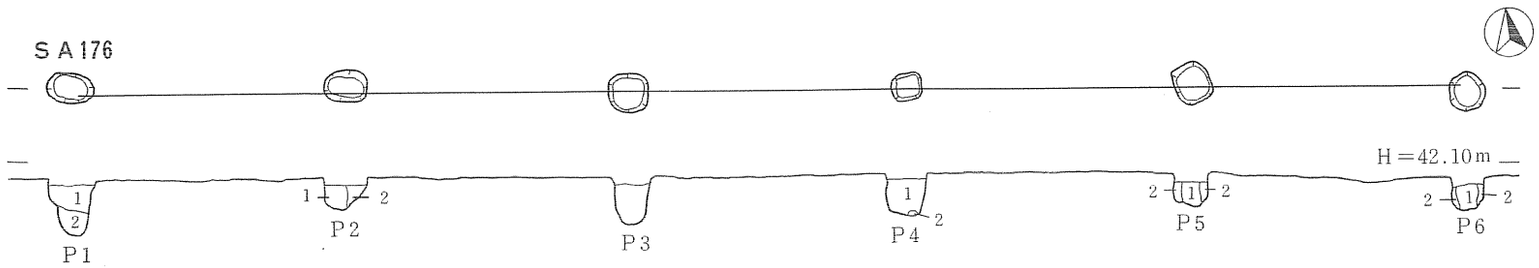
Ｐｉｔ２
1　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)
2　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)

Ｐｉｔ３
1　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)
2　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)
3　にぶい黄色土(2.5Ｙ Ｒ5/4)
4　にぶい黄色土(2.5Ｙ Ｒ6/4)



Ｐｉｔ１
1　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)
2　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)

Ｐｉｔ２
1　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)
2　明黄褐色土(10Ｙ Ｒ6/8)



Ｐｉｔ１
1　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)
2　黒褐色土(7.5Ｙ Ｒ3/1)

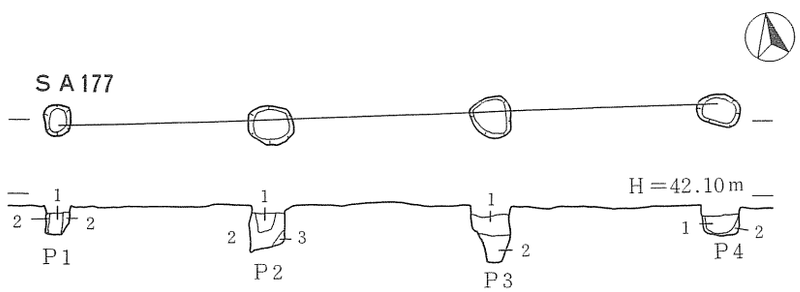
Ｐｉｔ２
1　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)
2　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)

Ｐｉｔ３
1　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)

Ｐｉｔ４
1　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)
2　黒褐色土(2.5Ｙ Ｒ5/1)

Ｐｉｔ５
1　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)
2　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)

Ｐｉｔ６
1　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)
2　明黄褐色土(2.5Ｙ Ｒ6/6)

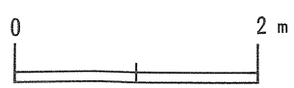


Ｐｉｔ１
1　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)
2　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2/2)

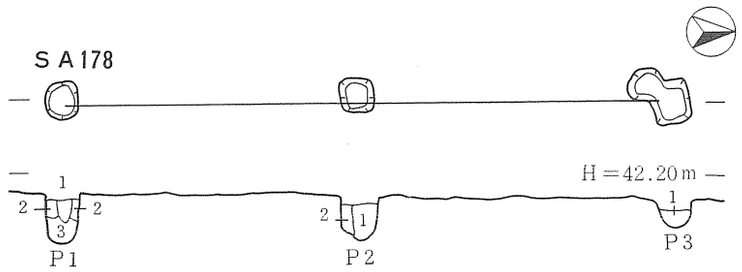
Ｐｉｔ２
1　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)
2　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)
3　にぶい黄褐色土(10Ｙ Ｒ5/4)

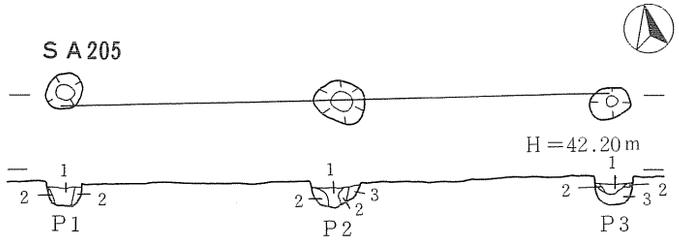
Ｐｉｔ３
1　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)
2　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)

Ｐｉｔ４
1　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)
2　にぶい黄褐色土(10Ｙ Ｒ5/4)



第９図　ＳＡ掘立柱列　（１）

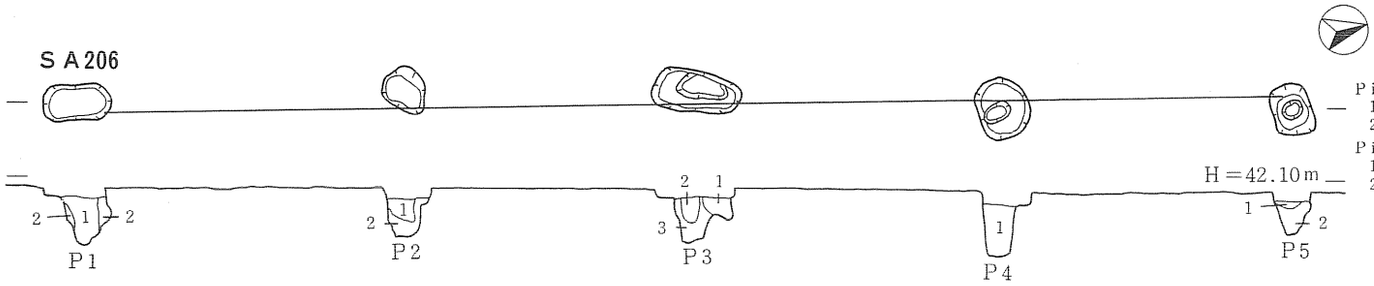




Pit1
1　黒色土(7.5YR2/1)
2　にぶい黄褐色土(10YR2/1)

Pit2
1　黒色土(7.5YR2/1)
2　にぶい黄褐色土(10YR2/1)
3　黒色土(7.5YR2/1)

Pit3
1　黒色土(7.5YR2/1)
2　明黄褐色土(2.5YR6/6)
3　明黄褐色土(2.5YR6/6)



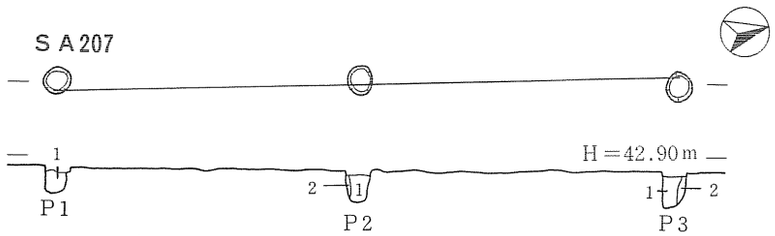
Pit1
1　黒色土(7.5YR2/1)
2　黒色土(7.5YR2/1)

Pit2
1　黒色土(7.5YR2/1)
2　黄褐色土(2.5YR5/3)

Pit3
1　黒色土(7.5YR2/1)
2　黒色土(7.5YR2/1)
3　浅黄色土(2.5YR7/4)

Pit4
1　黒色土(7.5YR4/1)

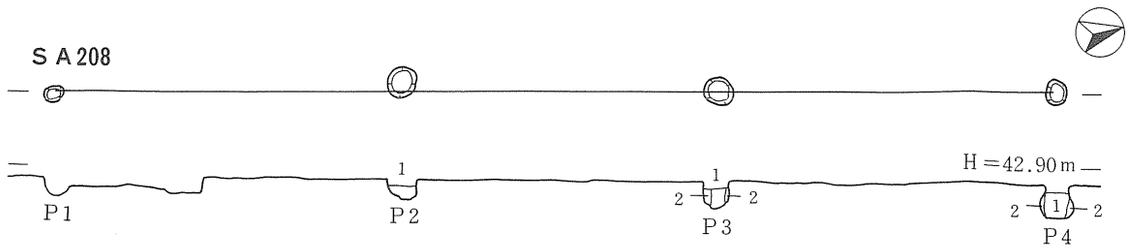
Pit5
1 明黄褐色土(2.5YR6/6)
2　黒色土(7.5YR2/1)



Pit1
1　黒色土(7.5YR2/1)

Pit2
1　黒色土(7.5YR2/1)
2　浅黄色土(2.5YR7/4)

Pit3
1　黒色土(7.5YR2/1)
2　黒色土(7.5YR2/1)



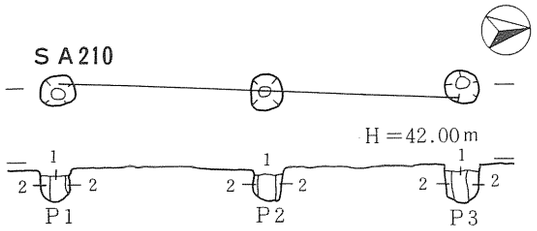
Pit2
1　黒色土(7.5YR2/1)

Pit3
1　黒色土(7.5YR2/1)
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)

Pit4
1　黒色土(7.5YR2/1)
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)

0　2m

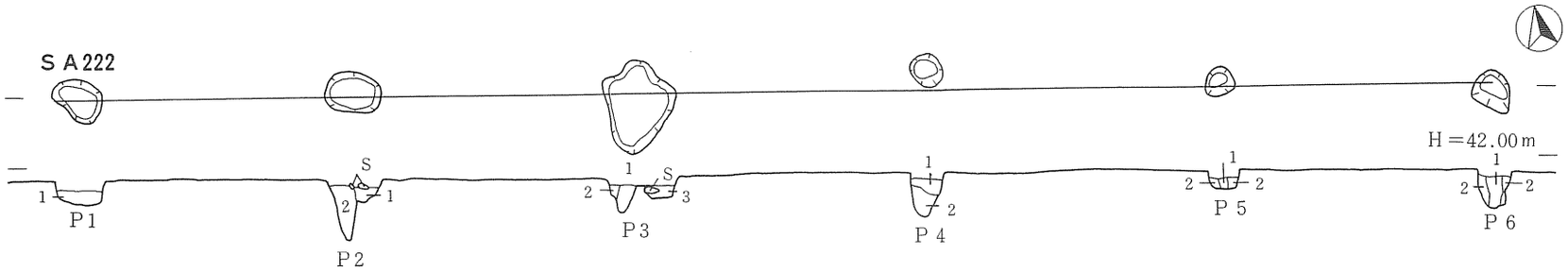
第10図　ＳＡ掘立柱列　（２）



Ｐｉｔ１
1　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)
2　にぶい黄褐色土(10Ｙ Ｒ4/3)

Ｐｉｔ２
1　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)
2　にぶい黄褐色土(10Ｙ Ｒ4/3)

Ｐｉｔ３
1　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)
2　にぶい黄褐色土(10Ｙ Ｒ4/3)



Ｐｉｔ１
1　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)
2　にぶい黄褐色土(10Ｙ Ｒ5/3)

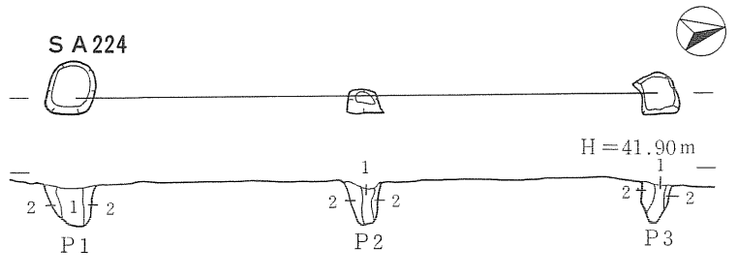
Ｐｉｔ２
1　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)
2　明黄褐色土(10Ｙ Ｒ6/6)

Ｐｉｔ３
1　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)
2　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)

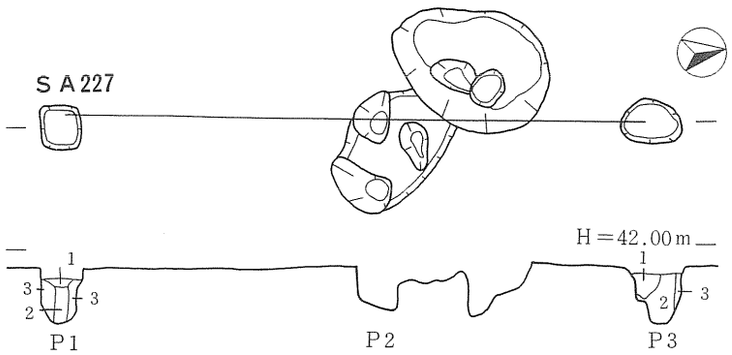
Ｐｉｔ４
1　黒褐色土(7.5Ｙ Ｒ3/1)
2　黒褐色土(7.5Ｙ Ｒ3/1)
3　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)

Ｐｉｔ５
1　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)
2　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)

Ｐｉｔ６
1　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)

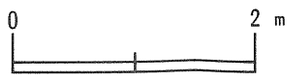


Ｐｉｔ1～3
1　黒色土(10Ｙ Ｒ2/1)
2　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/2)



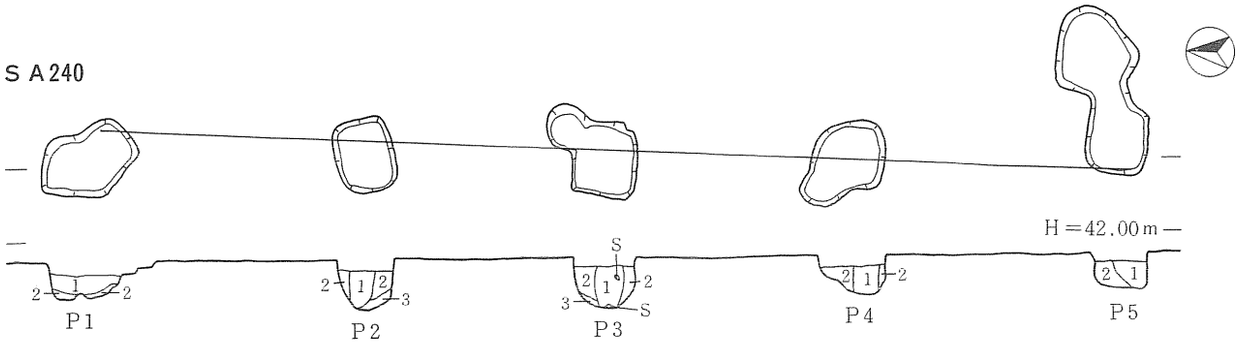
Ｐｉｔ１
1　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)
2　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)
3　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)

Ｐｉｔ３
1　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/1)
2　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)
3　明黄褐色土(10Ｙ Ｒ6/8)



第11図　ＳＡ掘立柱列　（３）

ＳＡ240



Ｐｉｔ１
1　黒色土(7.5ＹＲ2/1)
2　黒褐色土(7.5ＹＲ3/2)

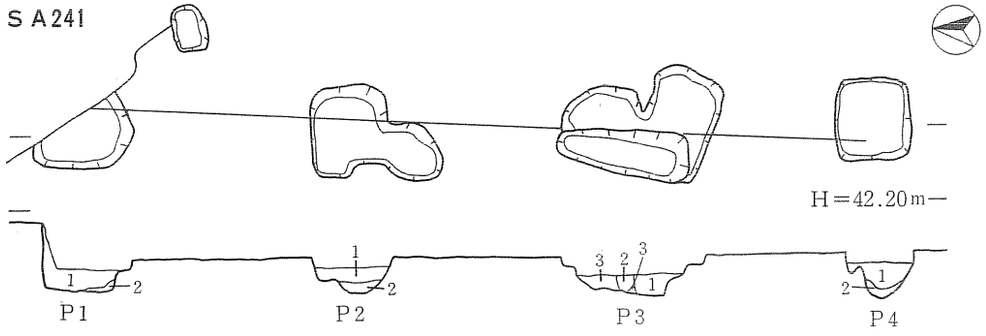
Ｐｉｔ２
1　黒褐色土(7.5ＹＲ3/1)
2　黒色土(7.5ＹＲ2/1)
3　明黄褐色土(10ＹＲ6/6)

Ｐｉｔ３
1　黒褐色土(7.5ＹＲ3/1)
2　黒色土(7.5ＹＲ2/1)
3　灰黄褐色土(10ＹＲ3/2)

Ｐｉｔ４
1　黒色土(7.5ＹＲ2/1)
2　黒色土(7.5ＹＲ2/1)

Ｐｉｔ５
1　黒褐色土(7.5ＹＲ3/1)
2　明黄褐色土(10ＹＲ6/6)

ＳＡ241



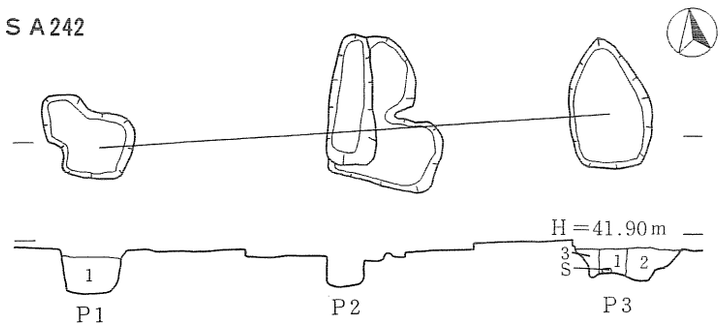
Ｐｉｔ１
1　黒褐色土(7.5ＹＲ3/2)
2　明黄褐色土(2.5ＹＲ6/8)

Ｐｉｔ２
1　黒褐色土(7.5ＹＲ3/2)
2　明黄褐色土(2.5ＹＲ7/6)

Ｐｉｔ３
1　黒色土(7.5ＹＲ2/1)
2　黒色土(7.5ＹＲ2/1)
3　灰黄褐色土(10ＹＲ4/2)

Ｐｉｔ４
1　黒褐色土(7.5ＹＲ2/2)
2　黒色土(7.5ＹＲ2/1)

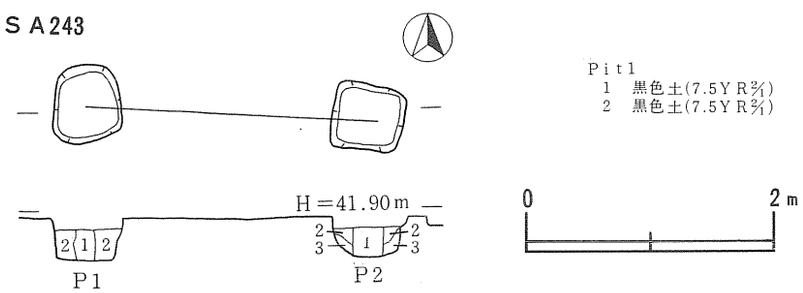
ＳＡ242



Ｐｉｔ１
1　黒褐色土(7.5ＹＲ3/2)

Ｐｉｔ２
1　黒褐色土(7.5ＹＲ3/2)
2　黒褐色土(7.5ＹＲ3/2)
3　黒色土(7.5ＹＲ2/1)

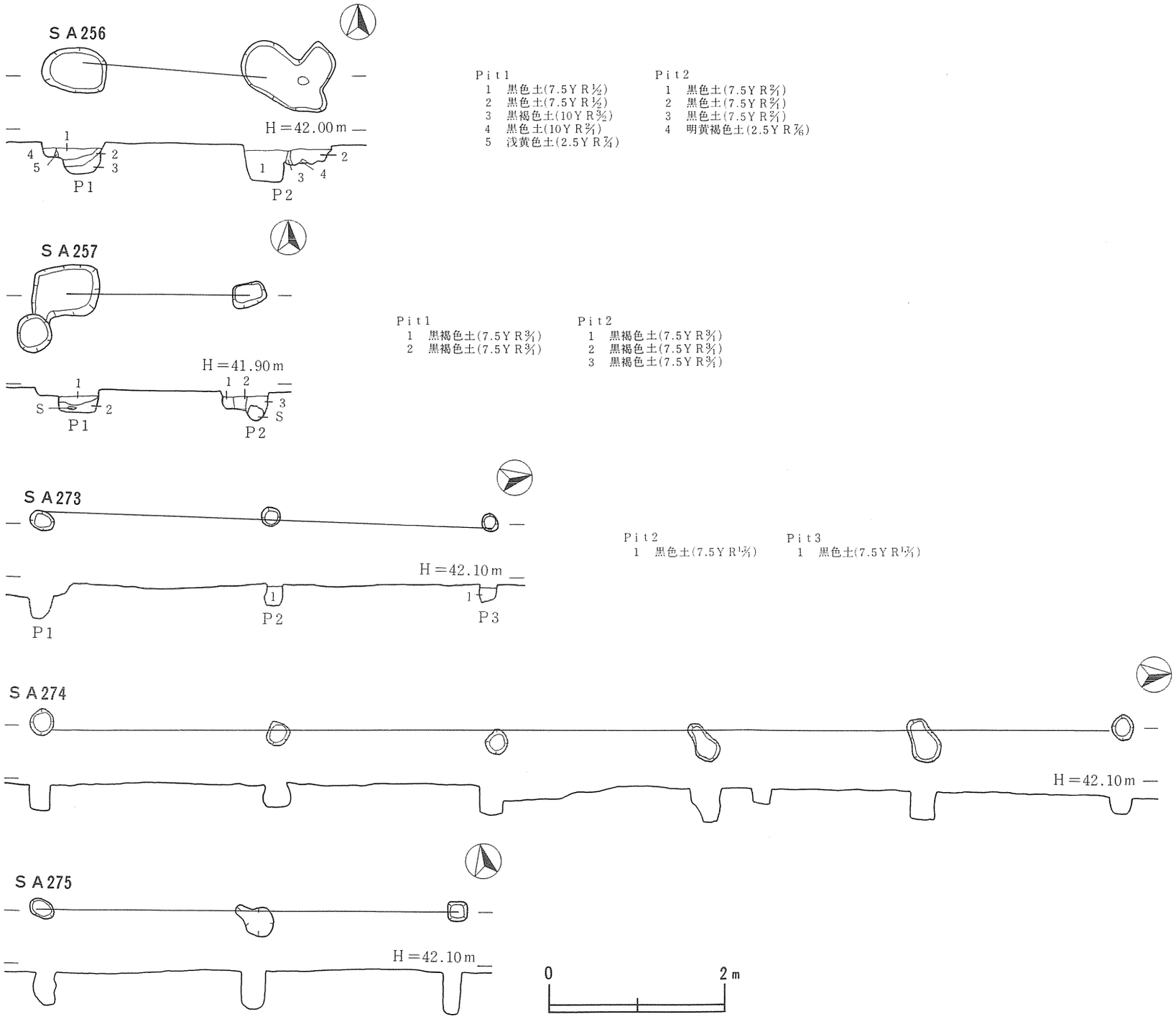
ＳＡ243



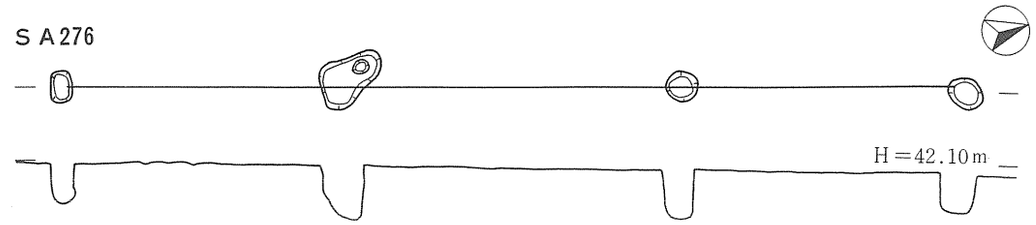
Ｐｉｔ１
1　黒色土(7.5ＹＲ2/1)
2　黒色土(7.5ＹＲ2/1)

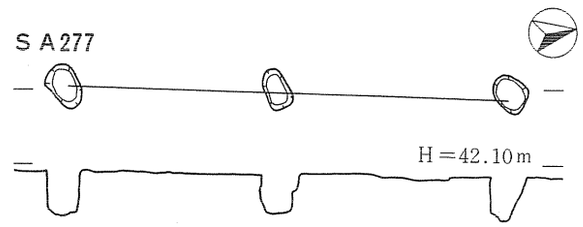
Ｐｉｔ２
1　黒色土(7.5ＹＲ2/1)
2　黒色土(7.5ＹＲ2/1)
3　黒色土(7.5ＹＲ2/1)

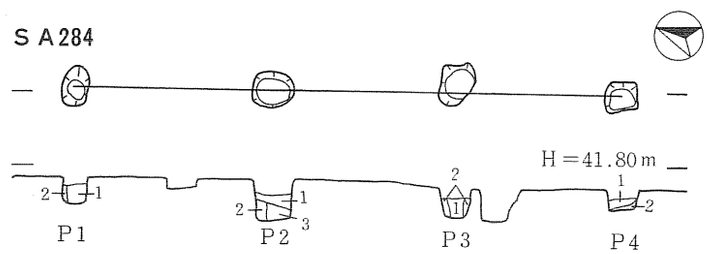
第12図　ＳＡ掘立柱列　（４）



第13図　ＳＡ掘立柱列　（５）





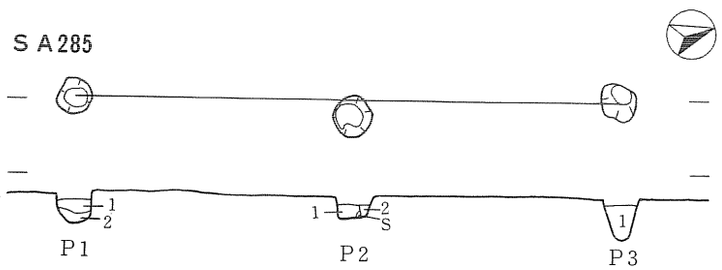


Pit1
1　黒色土(10YR2/1)
2　黒褐色土(10YR3/2)

Pit2
1　黒褐色土(10YR3/2)
2　黒色土(10YR2/1)
3　黒色土(10YR2/1)

Pit3
1　黒色土(10YR2/1)
2　黒色土(10YR2/1)

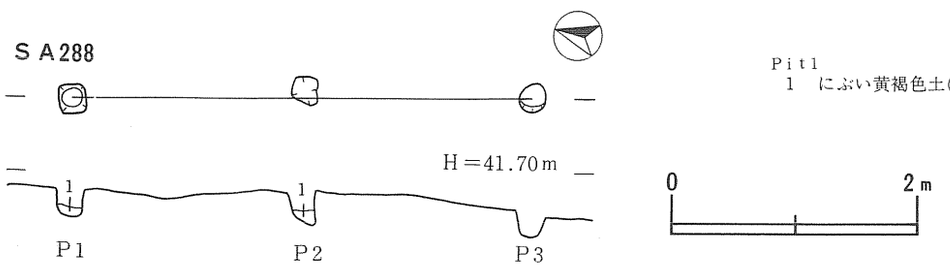
Pit4
1　黒色土(10YR2/1)
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)



Pit1
1　黒色土(10YR2/1)
2　黒褐色土(10YR3/2)

Pit2
1　黒色土(10YR2/1)
2　黒色土(10YR2/1)

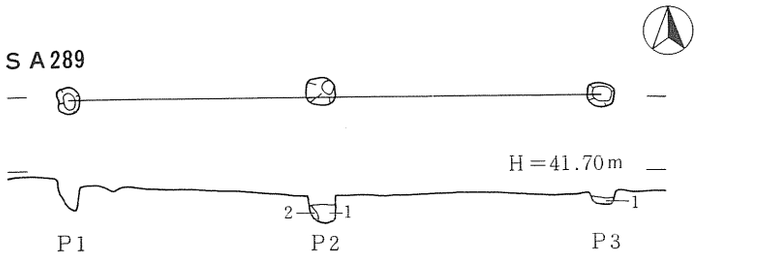
Pit3
1　黒色土(10YR2/1)



Pit1
1　にぶい黄褐色土(10YR6/3)

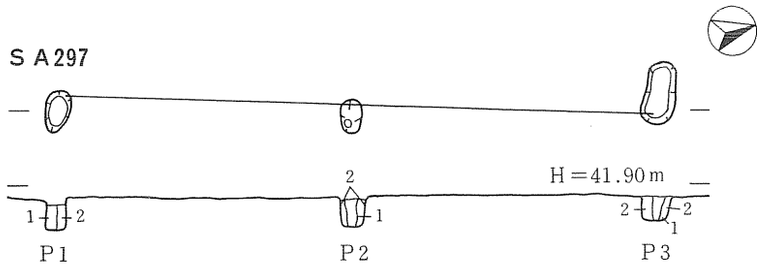
Pit2
1　黒褐色土(10YR3/2)

第14図　ＳＡ掘立柱列　（６）



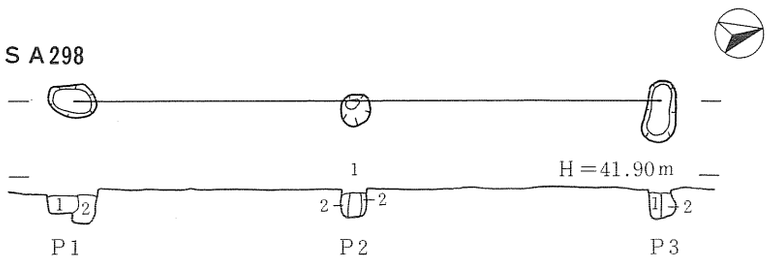
Ｐｉｔ2
1　黒色土(10Ｙ Ｒ2/1)
2　黒色土(10Ｙ Ｒ2/1)

Ｐｉｔ3
1　黒色土(10Ｙ Ｒ2/1)



Ｐｉｔ1
1　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2/2)
2　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2/2)

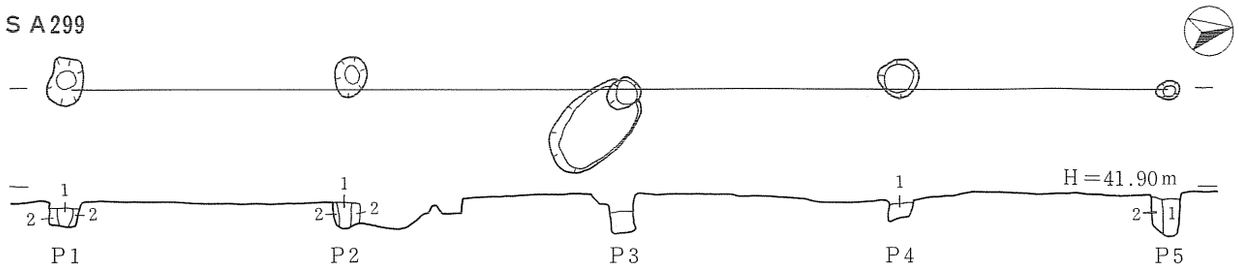
Ｐｉｔ2～3
1　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2/2)
2　にぶい黄褐色土(10Ｙ Ｒ5/6)



Ｐｉｔ1
1　黒色土(10Ｙ Ｒ2/1)
2　黒色土(10Ｙ Ｒ2/1)

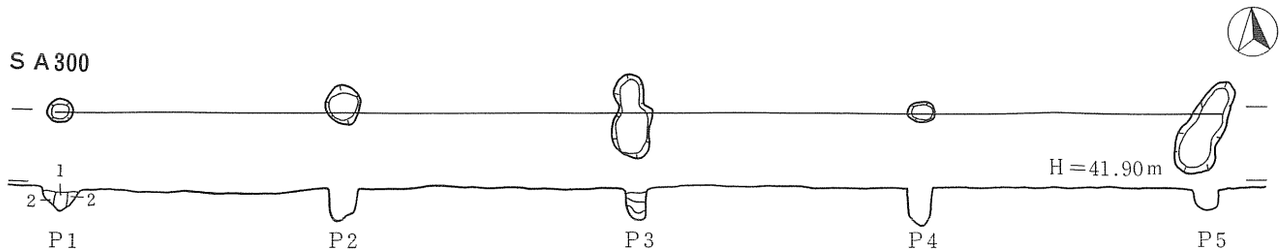
Ｐｉｔ2
1　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2/2)
2　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2/2)

Ｐｉｔ3
1　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2/2)
2　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2/3)

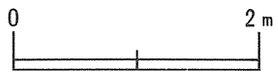


Ｐｉｔ1
1　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2/3)
2　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2/3)

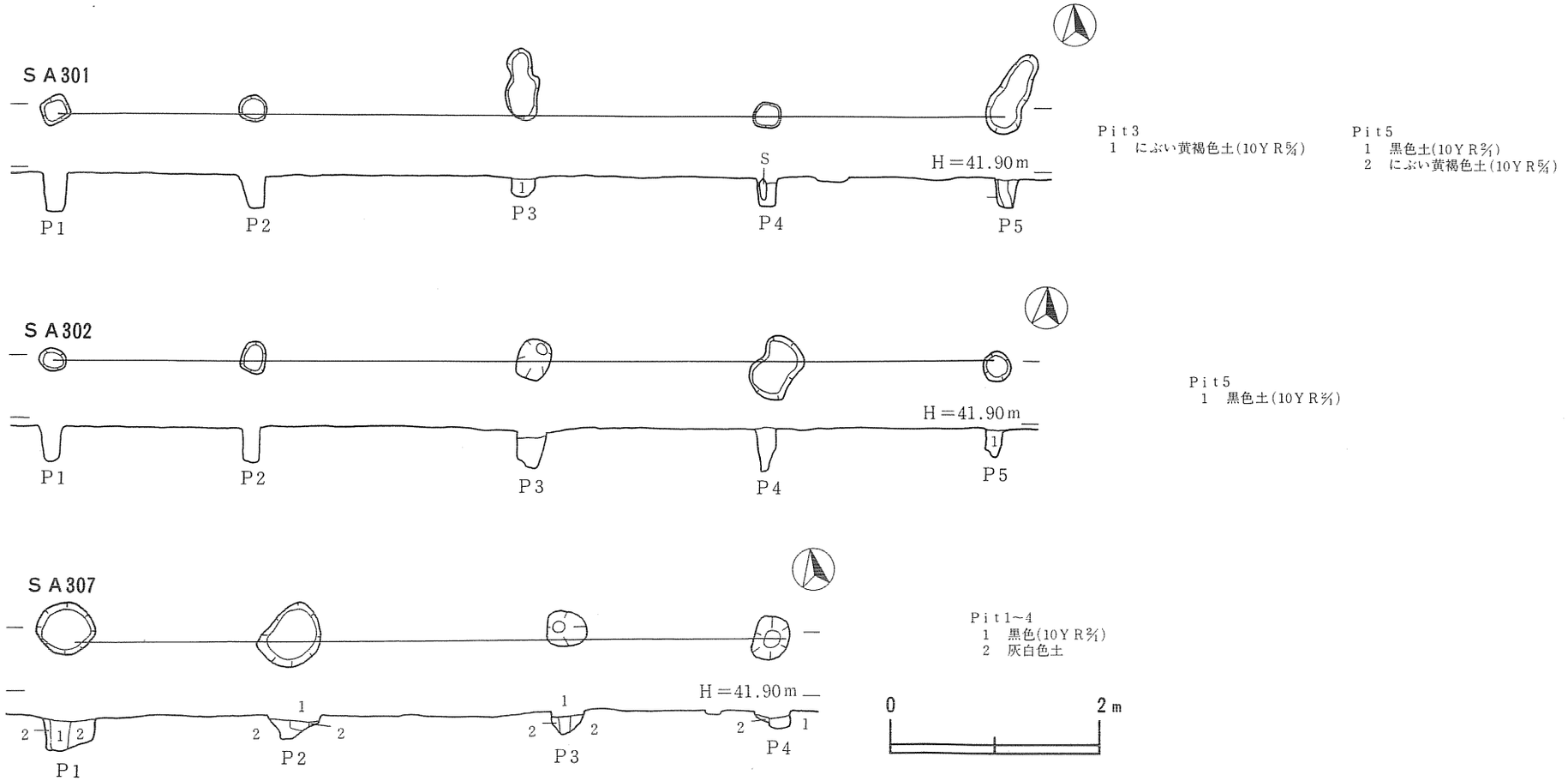
Ｐｉｔ4
1　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2/3)



Ｐｉｔ1
1　黒色土(10Ｙ Ｒ2/1)
2　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/2)



第15図　ＳＡ掘立柱列（７）



第16図　ＳＡ掘立柱列　（８）

１にて径12cmの柱痕を確認した。出土遺物はない。

ＳＢ100　（第19図、図版28･29）

Ｄ区のＬＪ44～46、ＬＫ45･46、ＬＬ45～47グリッドに位置する東西棟桁行４間×梁行４間（身舎２間、廂が南北に各１間）の掘立柱建物跡である。ＳＡ178･205はＳＢ100に平行する柱列で、柱穴がＳＢ100柱筋と一致することから、ＳＢ100に付随する施設の可能性が考えられる。柱間距離は桁行総間9.24ｍ（東から2.36ｍ＋2.22ｍ＋2.41ｍ＋2.28ｍ）、梁行総間6.81ｍ（北から１ｍ＋2.38ｍ＋2.24ｍ＋1.21cm）である。計画尺は桁行８尺等間、梁行24尺（北から４＋８＋８＋４尺）と考えられる。柱掘形は長径38～50cmの楕円形を呈するものを主体とし、確認面から22～54cmの深さまで掘り込まれている。埋土は黒色土が主体で、径14～22cmの柱痕を確認した。遺物は縄文～弥生土器片、フレイクが出土している。

ＳＢ101　（第20図）

Ｄ区のＬＨ46･47、ＬＩ46･47、ＬＪ46･47グリッドに位置する南北棟桁行２間×梁行２間（廂１間含む）の掘立柱建物跡である。柱間は桁行総間4.6ｍ（北から2.37ｍ＋2.24ｍ）、梁行総間4.99ｍ（東から4.06ｍ＋93cm）である。計画尺は桁行８尺等間、梁行17尺（身舎14尺＋廂３尺）と考えられる。柱掘形は長径25～40cmの楕円形を呈し、確認面から24～42cmの深さまで掘り込まれている。埋土は黒褐色土が主体である。ＳＢ101－５にて径12cmの柱痕を確認した。出土遺物はない。

ＳＢ165　（第20図）

Ｄ区のＬＭ42･43、ＬＮ42･43グリッドに位置する東西棟桁行２間×梁行１間以上の掘立柱建物跡である。柱間は桁行総間2.71ｍ（東から1.4ｍ＋1.31ｍ）、梁行は現状で東側2.06ｍ･西側1.8ｍである。計画尺が桁行4.5尺等間、梁行６～７尺のものであろう。柱掘形は１辺が35～40cmの方形を呈するものを主体とし、確認面から15～38cmの深さまで掘り込まれている。埋土は黒褐色土が主体である。ＳＢ165－１･３にて径15～20cmの柱痕を確認した。出土遺物はない。

ＳＢ170　（第21図、図版29）

Ｄ区のＬＮ50～52、ＬＯ50～52、ＬＰ51･52、ＬＱ51～53、ＬＲ51～53、ＬＳ51グリッドに位置する東西棟桁行７間×梁行４間（南北廂各１間含む）の掘立柱建物跡である。ＳＢ170－23･31はＳＤ199に切られている。柱間は桁行総間17.05ｍ（東から2.36ｍ＋2.48ｍ＋2.59ｍ＋2.45ｍ＋2.34ｍ＋2.47ｍ＋2.36ｍ）、梁行総間6.73ｍ（北から1.04ｍ＋2.23ｍ＋2.29ｍ＋1.17ｍ）である。計画尺は桁行８尺等間、梁行22尺（北から３＋８＋８＋３尺）と考えられる。柱掘形は長径35～60cmの楕円形を呈するものが主体であり、確認面から16～59cmの深さまで掘り込まれている。埋土は黒色土ないし黒褐色が主体で、径16～20cmの柱痕を確認した。遺物は縄文～弥生土器片、フレイク、須恵器坏の口縁部破片、土師器坏の底部破片･甕の胴部破片が出土している。

ＳＢ171　（第22図）

Ｄ区のＬＱ47～51、ＬＲ47～51、ＬＳ47～51グリッドに位置する南北棟桁行７間×梁行３間の掘立柱建物跡で、身舎が桁行５間×梁行１間の建物の４面に廂が付くものである。ＳＢ171－７･14はＳＤ168を、ＳＢ171－15はＳＫ235･ＳＤ168をそれぞれ切っており、ＳＤ122･244との新旧関係は不明である。柱間は身舎部分で桁行総間10.6ｍ（北から2.1ｍ＋2.08ｍ＋2.11ｍ＋2.15ｍ＋2.16ｍ）、梁行4.4ｍ、廂部分の桁行総間15.18ｍ（北から2.09ｍ＋2.17ｍ＋2.15ｍ＋2.08ｍ＋2.24ｍ＋2.07ｍ＋2.37ｍ）、梁行総間6.64ｍ（2.25ｍ＋2.21ｍ＋2.19ｍ）である。計画尺は身舎の桁行７尺等間、梁行15尺、廂の桁行７尺等間、梁行22尺（7.5＋７＋7.5尺）で、身舎から廂柱までは東西で3.5尺、南北で８尺と考えられる。身舎柱掘形は長径40～75cmの楕円形を呈するものが主体で、確認面から35～53cmの深さまで掘り込まれている。廂柱掘形は長径35～40cmの楕円形ないし同規模の円形を呈するもので、確認面から32～40cmの深さまで掘り込まれている。埋土は黒色土が主体で、径13～15cmの柱痕を確認した。遺物は縄文～弥生土器片、フレイク、土師器坏の底部破片、中世以降と思われる陶器の底部破片が出土している。

ＳＢ173　（第23･64図）

Ｄ区のＬＳ47･48、ＬＴ47～49、ＭＡ47～49、ＭＢ47～49グリッドに位置する東西棟桁行４間×梁行２間（廂１間を含む）の掘立柱建物跡である。南側柱筋の東部延長線上に位置するＳＡ172が付属する可能性が考えられる。ＳＢ173－12はＳＫ195を切っており、ＳＢ173－１・６とＳＤ122との新旧関係は不明である。柱間は桁行総間9.46ｍ（東から2.22ｍ＋2.45ｍ＋2.4ｍ＋2.4ｍ）、梁行6.37ｍ（北から93cm＋5.45ｍ）である。計画尺は桁行８尺等間、梁行21尺（廂３尺＋身舎18尺）と考えられる。柱掘形は長径40～60cmの楕円形を呈し、確認面から34～53cmの深さまで掘り込まれている。埋土は黒色ないし黒褐色土が主体で、ＳＢ173－８･10にて径16～18cmの柱痕を確認した。遺物は縄文～弥生土器片、フレイクが出土している。

ＳＢ174　（第24･34図、図版30）

Ｄ区のＬＭ45･46、ＬＮ45･46、ＬＯ45･46グリッドに位置する東西棟桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡である。ＳＢ174はＳＤ169･ＳＸ153と重複しており、ＳＢ174－３・５がＳＤ169に切られ、ＳＢ174－２・３がＳＸ153に切られている。またＳＸ153はＳＤ169に切られている。このことから新旧関係はＳＢ174→ＳＸ153→ＳＤ169である。柱間は桁行総間6.91ｍ（東から2.35ｍ＋2.07ｍ＋2.48ｍ）、梁行総間5.27ｍ（北から2.69ｍ＋2.6ｍ）である。計画尺は桁行23尺（東から８＋７＋８尺）、梁行９尺等間と考えられる。柱掘形は１辺が35～60cmの方形を呈するものと長径55～65cmの楕円形を呈するものがあり、確認面から40～42cmの深さまで掘り込まれている。埋土は黒色土が主体で、径15～19cmの柱痕を確認した。また柱の一部が残っているものや、柱部分が空洞となっているものもあった。遺物は縄文～弥生土器片、フレイクが出土している。

ＳＢ175　（第24図、図版5･7）

Ｄ区のＬＭ47･48、ＬＮ47･48グリッドに位置する東西棟桁行２間×梁行２間の掘立柱建物跡である。南北に走るＳＤ169と重複しており、ＳＢ175－３柱掘形がＳＤ169に切られている。柱間は桁行総間2.58ｍ（北から1.38ｍ＋1.21ｍ）、梁行総間2.75ｍ（東から1.38ｍ＋1.36ｍ）である。計画尺は桁行５尺等間、梁行５尺等間と考えられる。柱掘形は１辺が35～55㎝の方形を呈するものと長径50～73㎝の楕円形を呈するものがあり、確認面から10～30㎝の深さまで掘り込まれている。

埋土は黒褐色ないし浅黄色土が主体で、ＳＢ175－８にて径22㎝の柱痕を確認した。遺物は縄文～弥生土器片、フレイク、須恵器坏の口縁部破片･瓶の胴部破片が出土している。

ＳＢ190　（第25･64図）

Ｄ区のＬＲ45～47、ＬＳ45～47、ＬＴ45～47グリッドに位置する南北棟桁行２間×梁行１間の掘立柱建物跡である。ＳＫ195･ＳＤ121と重複しており、ＳＢ190－２がＳＫ195･ＳＤ121に切られている。またＳＫ195はＳＤ121Ｉ切られている。このことから新旧関係はＳＢ190→ＳＫ195→ＳＤ121である。柱間は桁行総間5.23ｍ（北から2.59ｍ＋2.64ｍ）、梁行4.95ｍである。計画尺は桁行９尺等間、梁行16尺と考えられる。柱掘形は１辺が42～72㎝の方形を呈するものと長径64～71㎝の楕円形を呈するものがあり、確認面から40～45㎝の深さまで掘り込まれている。埋土は黒色土ないしにぶい黄褐色土が主体である。径12～30㎝の柱痕を確認した。遺物は縄文～弥生土器片、フレイク、須恵器坏の口縁部細片が出土している。

ＳＢ220　（第26図）

Ｄ区のＬＯ46･47、ＬＰ46･47グリッドに位置する東西棟桁行３間×梁行３間の掘立柱建物跡である。ＳＢ220はＳＢ221とほぼ同位置での重複であり、ＳＢ220－４がＳＢ221－１に切られている。またＳＢ220はＳＤ168にも切られている。よって、新旧関係はＳＢ220→ＳＢ221→ＳＤ168である。柱間は桁行総間5.29ｍ（東から1.49ｍ＋3.81ｍ２間分）、梁行総間5.53ｍ（北から2.28ｍ＋1.5ｍ＋1.86ｍ）である。計画尺は桁行18尺（東から５＋８＋５尺）、梁行20尺（北から８＋５＋７尺）と考えられる。柱掘形は長径40～60㎝の楕円形を呈し、確認面から28～40㎝の深さまで掘り込まれている。埋土は黒褐色土が主体である。柱痕は確認できなかった。遺物は縄文～弥生土器片、フレイクが出土している。

ＳＢ221　（第26図）

Ｄ区のＬＯ46･47、ＬＰ46･47グリッドに位置する東西棟桁行２間×梁行２間の掘立柱建物跡である。ＳＢ221はＳＢ220とほぼ同位置での重複であり、ＳＢ221－１がＳＢ220－４を切っており、ＳＢ221－２はＳＤ168に切られている。またＳＢ221はＳＸ153にも切られている。よって、新旧関係はＳＢ220→ＳＢ221→ＳＸ153→ＳＤ168である。柱間は桁行総間5.１ｍ（東から

2.69ｍ＋2.38ｍ)、梁行総間5.08ｍ(北から2.44ｍ＋2.63ｍ)である。計画尺は桁行８尺等間、梁行８尺等間と考えられる。柱掘形は長径60～65cmの楕円形を呈するものと１辺が30～50cmを呈するものがあり、確認面から33～48cmの深さまで掘り込まれている。埋土は黒褐色土が主体で、径c16～20ｍの柱痕を確認した。遺物は縄文～弥生土器片、フレイクが出土している。

ＳＢ290　(第27図)

Ｂ区のＭＪ50、ＭＫ49･50、ＭＬ50グリッドに位置する東西棟桁行２間以上×梁行２間以上の掘立柱建物跡である。ＳＢ291･292･293、ＳＡ284･285と重複する位置にあるが、新旧関係については不明である。柱間は現状で桁行総間5.02ｍ(東から2.51ｍ＋2.5ｍ)、梁行総間4.78(北から2.23ｍ＋2.55ｍ)である。計画尺が桁行8.5尺等間、梁行８尺等間の掘立柱建物跡であろうか。柱掘形は径28～35cmの円形を呈し、確認面から21～37cmの深さまで掘り込まれている。埋土は黒褐色土が主体で、径10～18cmの柱痕を確認した。出土遺物はない。

ＳＢ291　(第28図)

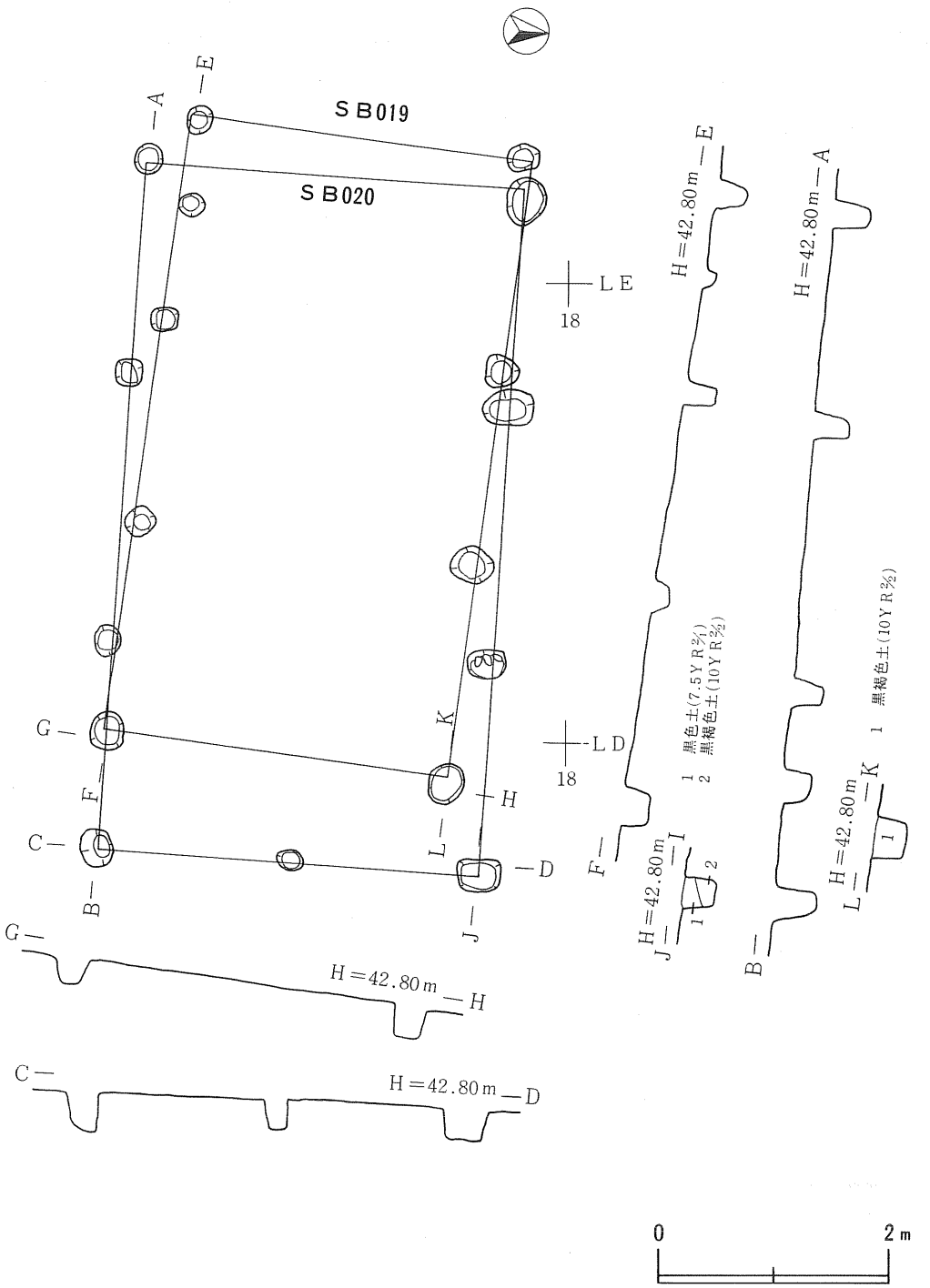
Ｂ区のＭＩ52、ＭＪ51･52、ＭＫ51･52グリッドに位置する東西棟桁行２間×梁行２間の掘立柱建物跡である。ＳＢ292とほぼ同一位置にあり、その新旧関係はＳＢ291－２・７とＳＢ292－３・９の切り合い関係から、ＳＢ291→ＳＢ292である。ＳＢ290･293、ＳＡ284･285とも重複する位置にあるが、新旧関係については不明である。柱間は桁行総間4.15ｍ(東から1.98ｍ＋2.17ｍ)、梁行総間3.8ｍ(北から２ｍ＋1.79ｍ)である。計画尺は桁行７尺等間、梁行６尺等間と考えられる。柱掘形は長径18～53cmの楕円形を呈するものを主体とし、確認面から18～39cmの深さまで掘り込まれている。埋土は黒褐色土が主体で、ＳＢ291－３にて径15cmの柱痕を確認した。遺物は縄文～弥生土器片が出土している。

ＳＢ292　(第28図)

Ｂ区のＭＩ51･52、ＭＪ51･52、ＭＫ51･52グリッドに位置する東西棟桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡である。ＳＢ291とほぼ同一位置にあり、その新旧関係はＳＢ291－２・７とＳＢ292－３・９の切り合い関係から、ＳＢ291→ＳＢ292である。ＳＢ290･293、ＳＡ284･285とも重複する位置にあるが、新旧関係については不明である。柱間は桁行総間5.32ｍ(東から1.92ｍ＋1.72ｍ＋1.69ｍ)、梁行総間3.49ｍ(北から1.8ｍ＋1.68ｍ)である。計画尺は桁行６尺等間、梁行６尺等間と考えられる。柱掘形は長径26～32cmの楕円形を呈し、確認面から27～44cmの深さまで掘り込まれている。埋土は黒色土が主体で、ＳＢ292－９･10にて径14cmの柱痕を確認した。出土遺物はない。

ＳＢ293　(第28図)

Ｂ区のＭＩ49～51、ＭＪ49～51、ＭＫ49～51グリッドに位置する南北棟桁行３間×梁行２間の掘立柱建物跡である。ＳＢ290･291･292、ＳＡ284･285と重複する位置にあるが、新旧関係に



第17図　ＳＢ掘立柱建物跡　（１）

ついては不明である。柱間は桁行総間5.49ｍ(北から1.69ｍ＋2.01ｍ＋1.82ｍ)、南梁行総間5.02ｍ(東から2.62ｍ＋2.4ｍ)、北梁行5.52ｍである。計画尺は桁行６尺等間、梁行９尺等間と考えられる。柱掘形は長径27～35cmの楕円形を呈し、確認面から25～28cmの深さまで掘り込まれている。埋土は黒褐色土が主体で、ＳＢ293－３・９にて径10～12cmの柱痕を確認した。遺物は縄文～弥生土器片が出土している。

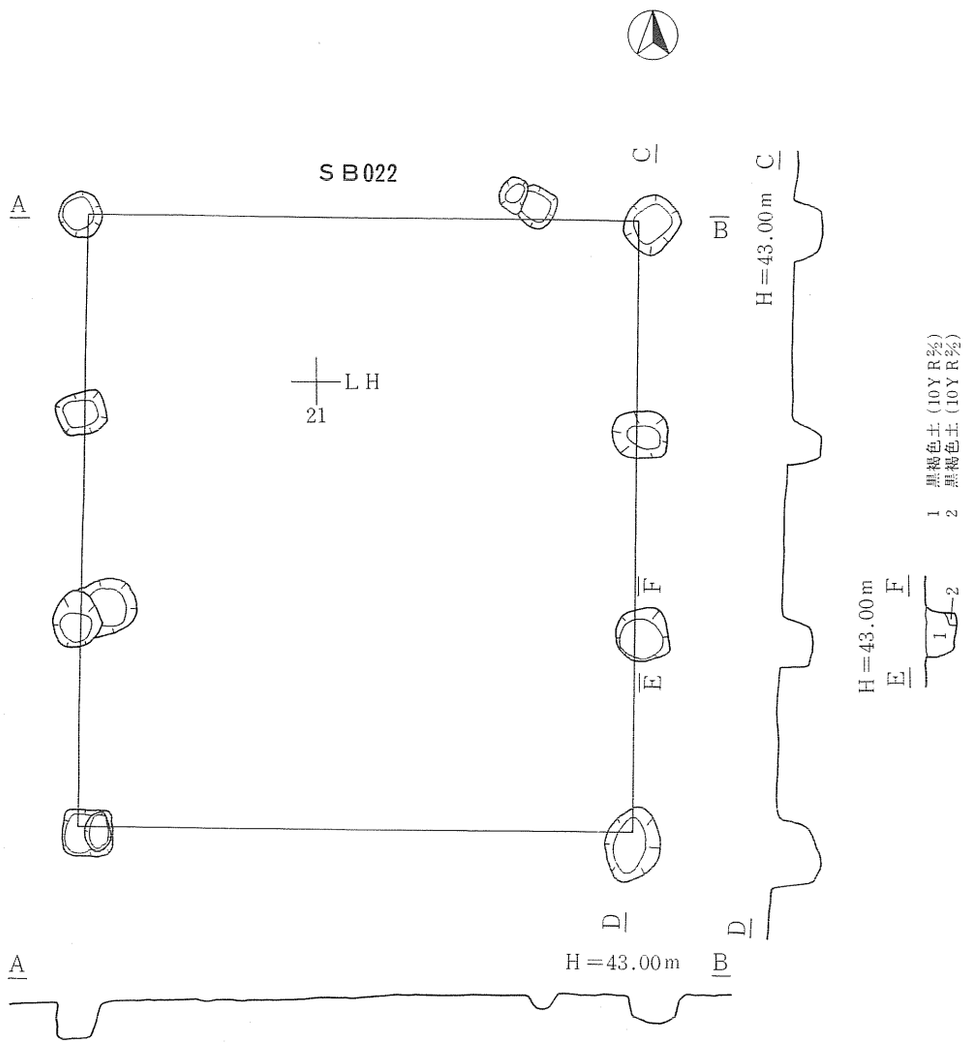
以上、掘立柱列と掘立柱建物跡について概略を説明したが、遺跡内のすべての柱列･建物跡を網羅することができたとは思えない。現に、Ｄ区ではピットが1,300個前後確認されているが、柱列や建物を想定できたのはその一部に過ぎない。またＤ区北東部には十分に検討できなかった柱穴のまとまっている部分があり、わずかに柱筋からＳＡ227･240～243･256を拾ったのみである。これらは建物の一部である可能性が高く、調査区外にかけてさらに数棟の建物が存在することも考えられる。また中世の建物配置･間取り等についても、検討が不十分な面が多々あろうと思われるので、建築関係の専門諸氏から、御指摘･御指導をいただければ幸いである。

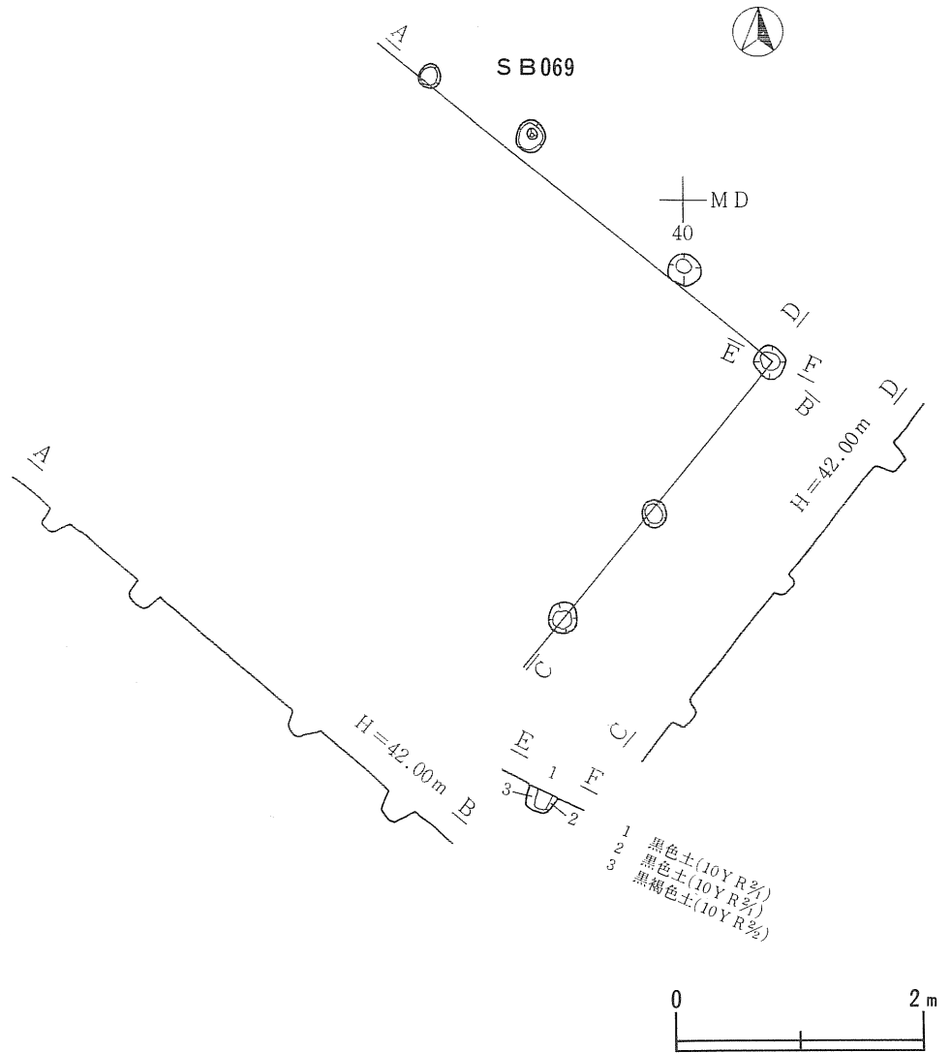
３．竪穴住居跡

ＳＩ060　(第29図、図版31))

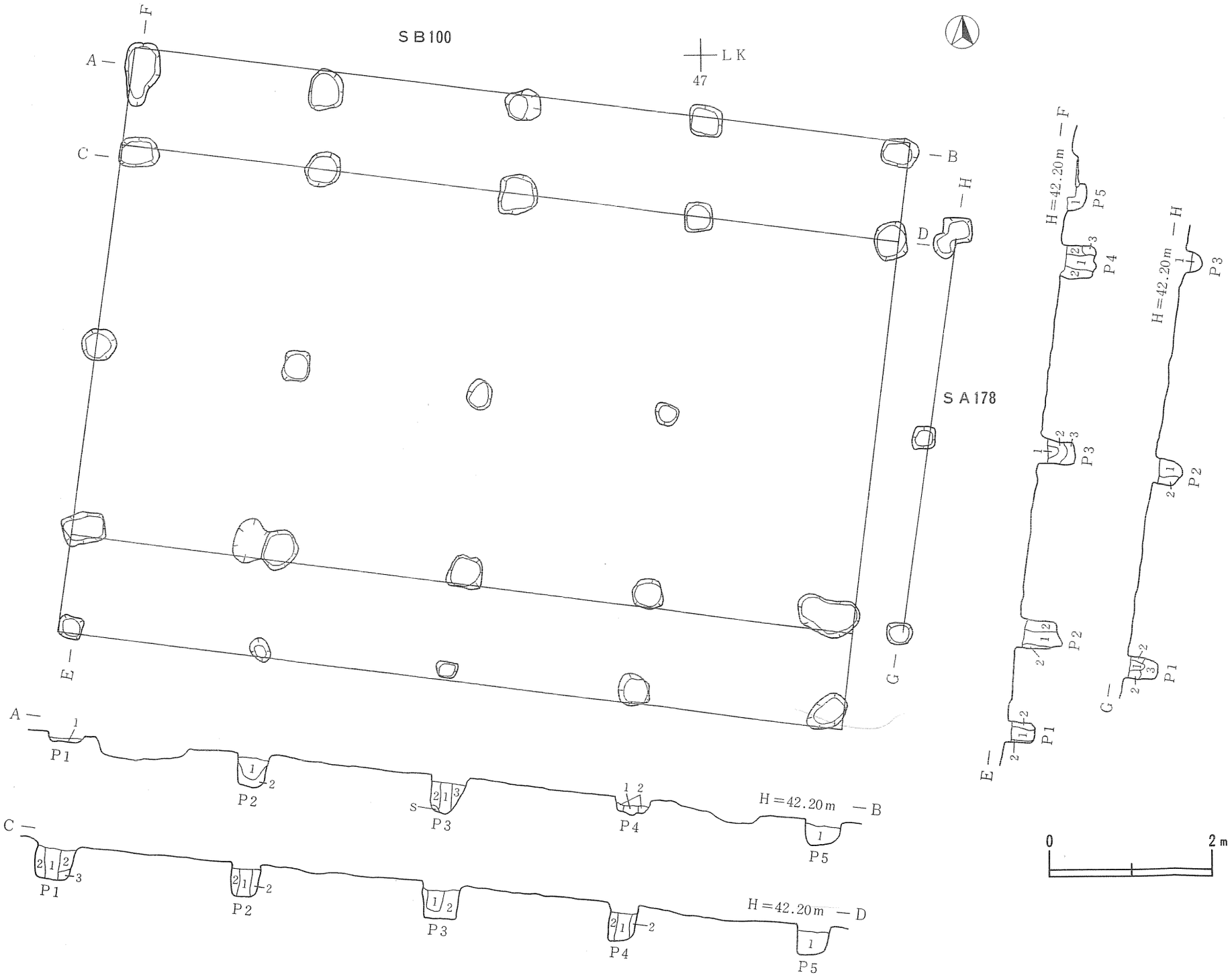
Ｂ区のMM53･54グリッドに位置し、ほぼ地山に近い面で検出された。平面形は方形で、規模は370cm×420cmで、径４cm～28cm、深さ４cm～13cmの壁柱穴をもち、西壁では部分的に途切れる。壁外に16本の柱穴(以下Ｐとする)が配される。Ｐ１～Ｐ７は主柱穴と思われ、径28cm～44cm、深さ６cm～50cmで、各コーナーと南壁を除く中間点にあり、それぞれの柱間は北壁外のＰ１・Ｐ２・Ｐ３間は、7.5尺等間で、総間が15尺で、南壁外のＰ６・Ｐ７間の総間と一致する。西壁外のＰ１・Ｐ４・Ｐ６間は柱筋は通らないが6.5尺等間で、総間は13尺である。東壁外のＰ３・Ｐ５・Ｐ７間は６尺等間で総間は12尺である。東壁外にはＰ５の外径14cm～26cm、深さ８cm～14cmの小さな柱穴(Ｐ12～Ｐ16)が配される。床面には南壁寄りに径156cm、深さ36cmの円形の土坑１があり、南東コーナーには径100cm、深さ16cmの円形の土坑２がある。南壁には円形の掘り込みをもつ径46cm、厚さ６cmの焼土１と、径34cm、厚さ２cmの焼土２が25cm離れて並んでおり、焼土中には炭化物が混入する。焼土はいずれも本住居跡に伴うものであろう。

遺物は箆状石器が出土しているが、周囲からは平安時代の遺物が多く出土しているし、住居跡の形態から平安時代に属すると考えられる。





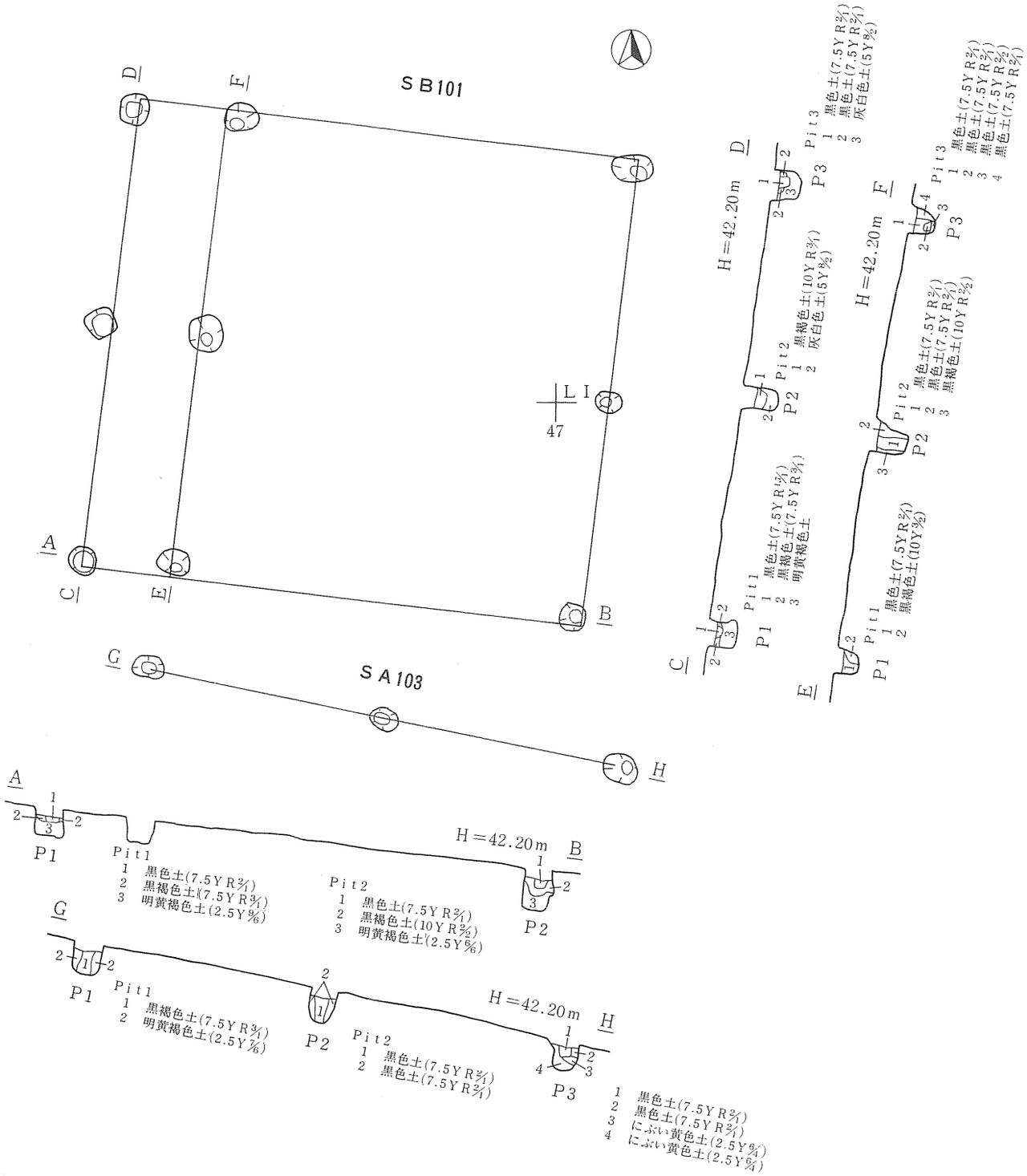
第18図　ＳＢ掘立柱建物跡　（２）

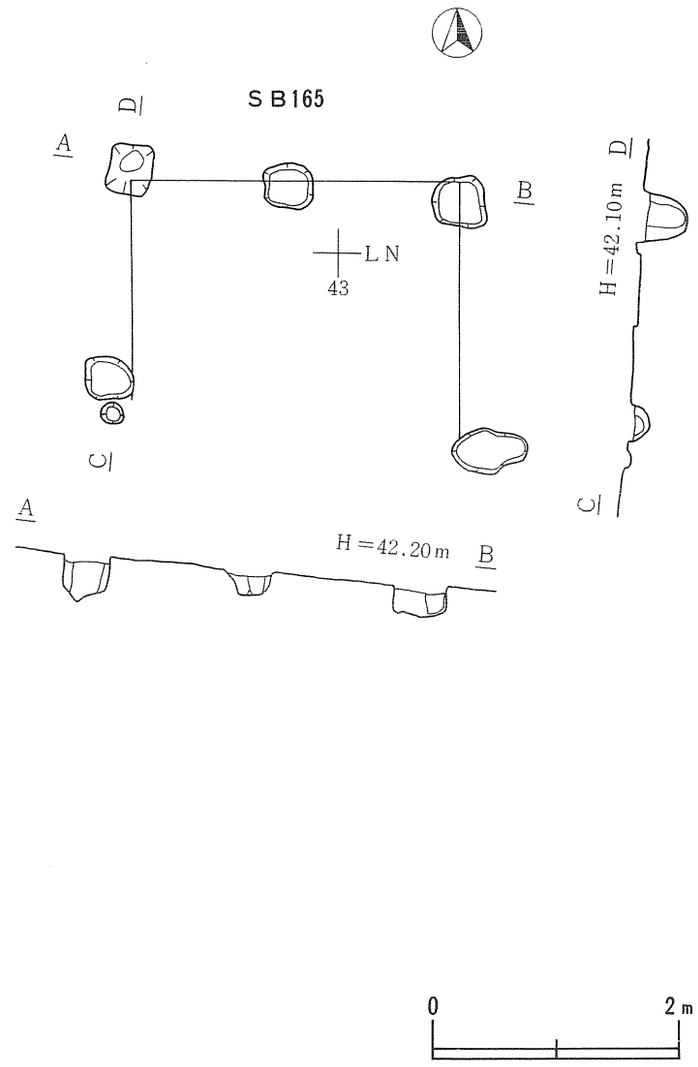


SB100
（SP　A～B）
Pit1
1　黒色土(7.5YR2/1)
Pit2
1　黒色土(7.5YR2/1)
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)
Pit3
1　黒色土(7.5YR2/1)
2　黒色土(7.5YR2/1)
3　黒色土(7.5YR2/1)
（SP　C～D）
Pit1
1　黒色土(7.5YR2/1)
2　黒色土(7.5YR2/1)
3　灰黄褐色土(10YR4/2)
Pit2
1　黒色土(7.5YR2/1)
2　にぶい黄褐色土(10YR5/3)
Pit3
1　黒色土(7.5YR2/1)
2　黒色・浅黄色土
Pit4
1　黒色土(7.5YR2/1)
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)
Pit5
1　黒色土(7.5YR1.7/1)
（SP　E～F）
Pit1
1　黒色土(7.5YR2/1)
2　にぶい黄褐色土(10YR5/3)
Pit2
1　黒色土(7.5YR2/1)
2　浅黄色土(2.5YR7/4)
Pit3
1　黒色土(7.5YR2/1)
2　黒色土(7.5YR2/1)
3　にぶい黄褐色土(10YR5/3)
Pit4
1　黒色土(7.5YR2/1)
2　黒色土(7.5YR2/1)
3　浅黄色土(2.5YR7/4)
Pit5
1　黒色土(7.5YR2/1)
2　黒色土(7.5YR2/1)

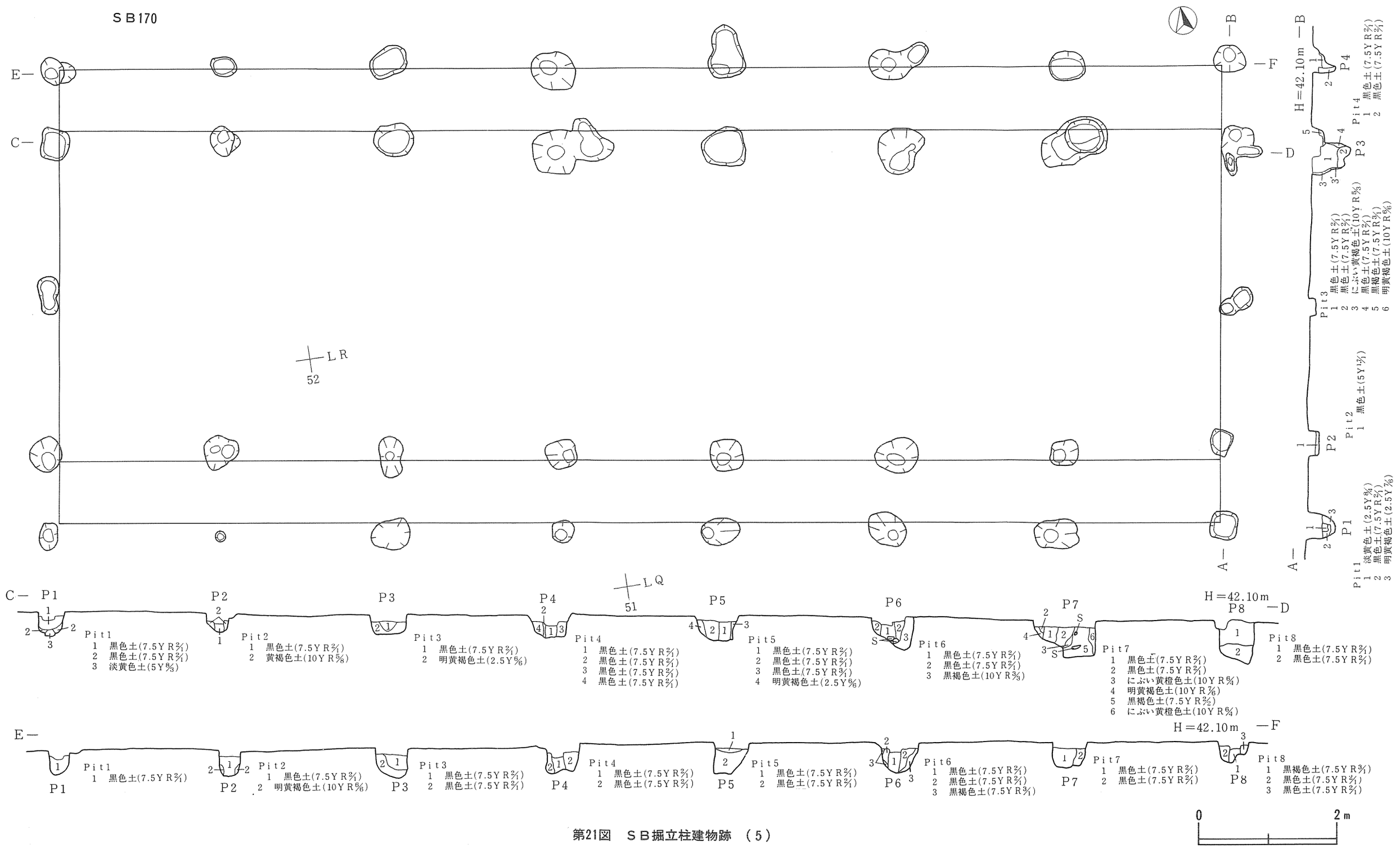
SA178（SP　G～H）
Pit1
1　黒色土(7.5YR2/1)
2　浅黄色土(2.5YR7/4)
3　黒色土(7.5YR1.7/1)
Pit2
1　黒色土(10YR2/1)
2　黒色土
Pit3
1　黒色土(10YR2/1)

第19図　ＳＢ掘立柱建物跡　（３）

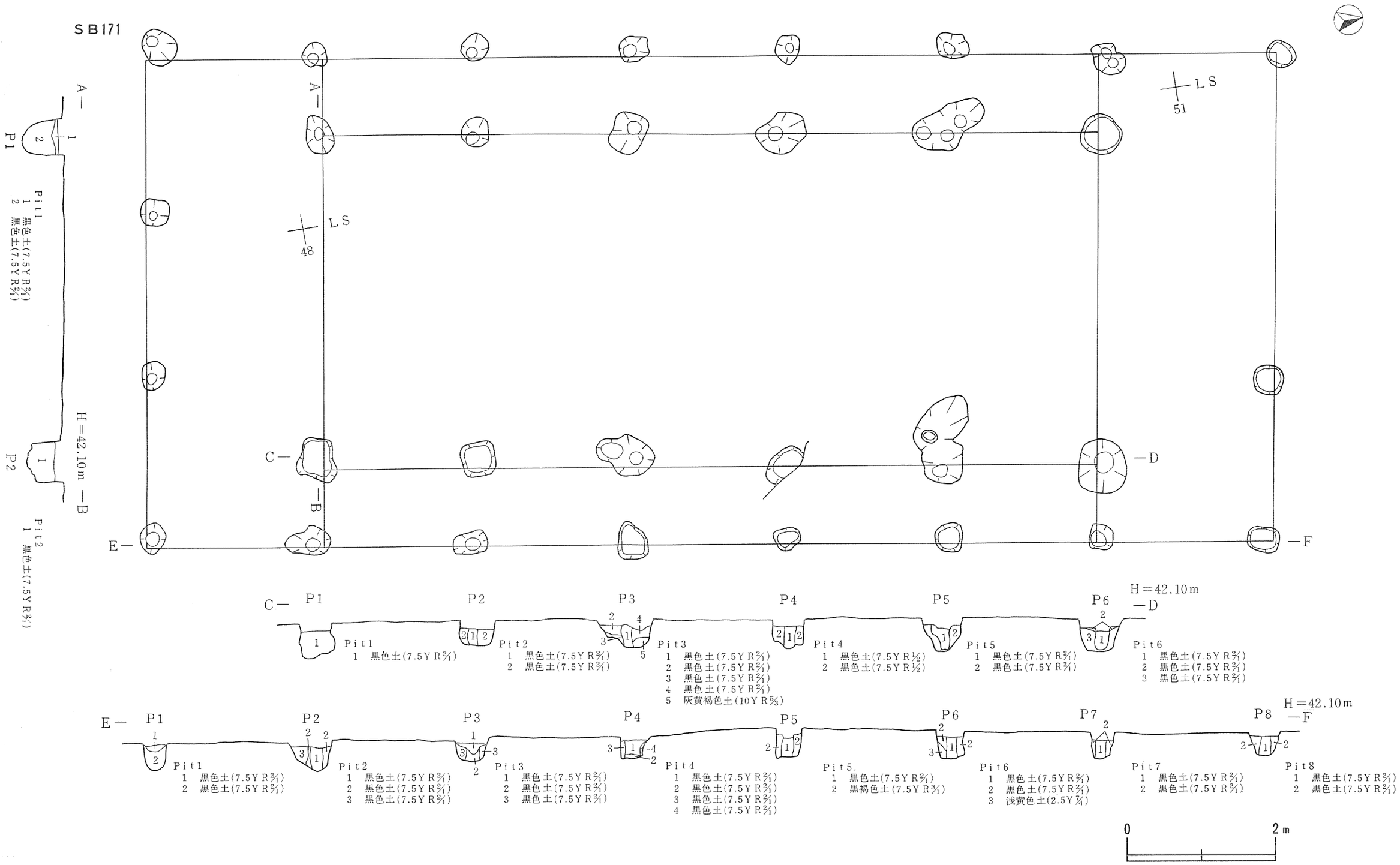




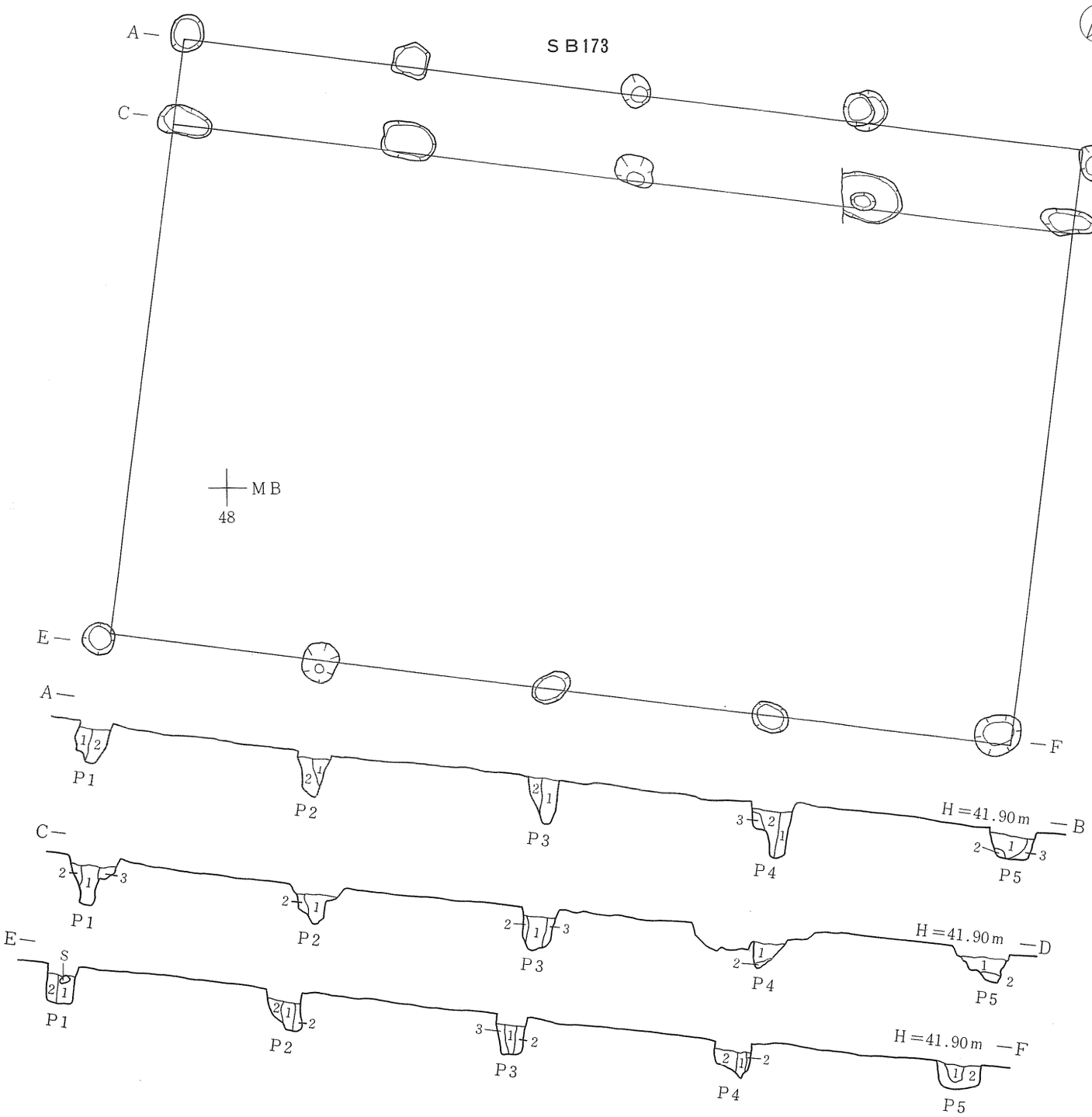
第20図　ＳＢ掘立柱建物跡　（４）



第21図　ＳＢ掘立柱建物跡　（５）



第22図　ＳＢ掘立柱建物跡　（６）

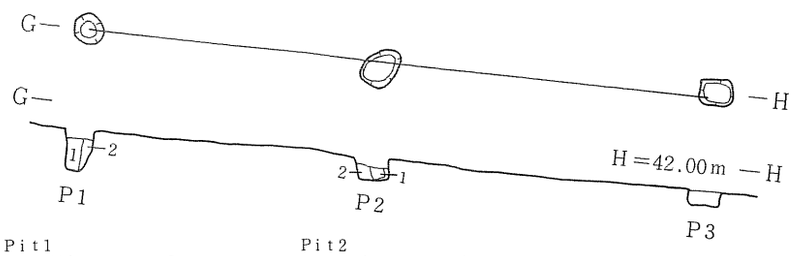


SB173
（SP　A～B）
Pit1
1　黒褐色土(7.5YR3/1)
2　黒褐色土(7.5YR3/1)
Pit2
1　黒褐色土(7.5YR3/1)
2　黒褐色土(7.5YR3/1)
Pit3
1　黒褐色土(7.5YR3/1)
2　黒褐色土(7.5YR3/1)
Pit4
1　黒褐色土(7.5YR3/1)
2　浅黄色土(2.5Y7/3)
3　黒褐色土(7.5YR3/1)
Pit5
1　黒褐色土(7.5YR3/1)
2　にぶい黄褐色土(10YR5/3)
3　黒褐色土(7.5YR3/1)

（SP　C～D）
Pit1
1　黒褐色土(7.5YR3/1)
2　淡黄色土(2.5Y8/3)
3　黒褐色土(7.5YR3/1)
Pit2
1　黒褐色土(7.5YR2/1)
2　黒褐色土(7.5YR3/1)
Pit3
1　黒褐色土(7.5YR3/1)
2　淡黄色土(2.5Y8/3)
3　黒色土(7.5YR2/1)
Pit4
1　黒色土(7.5YR2/1)
2　にぶい黄褐色土(10YR5/3)
Pit5
1　黒色土(7.5YR2/1)
2　黒色土(7.5YR2/1)

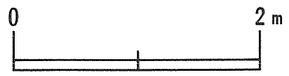
（SP　E～F）
Pit1
1　黒色土(7.5YR2/1)
2　灰白色土(5Y8/3)
Pit2
1　黒色土(7.5YR2/1)
2　黒色土(7.5YR3/1)
Pit3
1　黒色土(7.5YR2/1)
2　黒色土(7.5YR2/1)
3　灰白色土(5Y8/2)
Pit4
1　黒色土(10YR2/1)
2　黒褐色土(10YR3/2)
Pit5
1　黒色土(7.5YR2/1)
2　黒色土(7.5YR2/1)

SA172

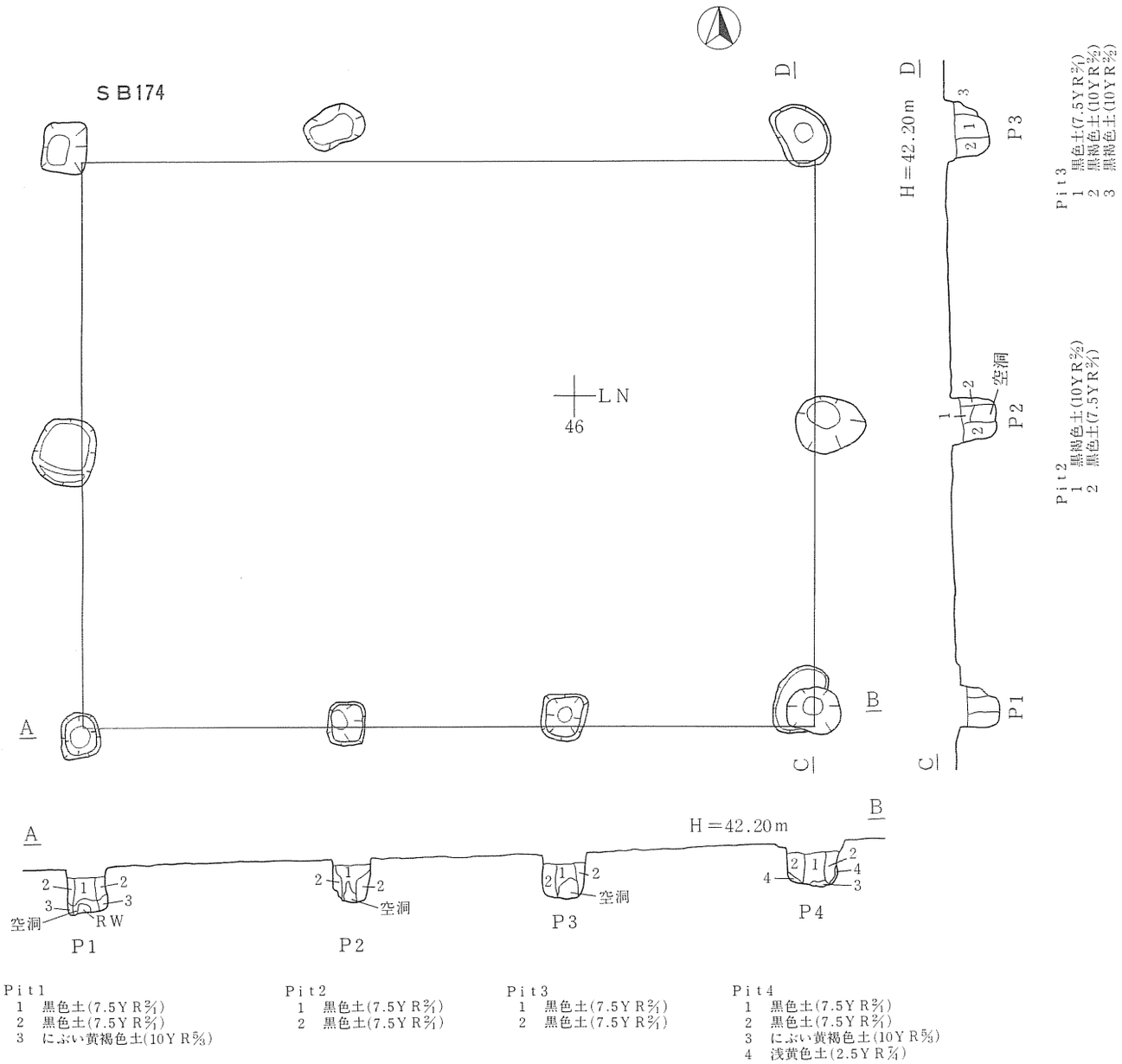


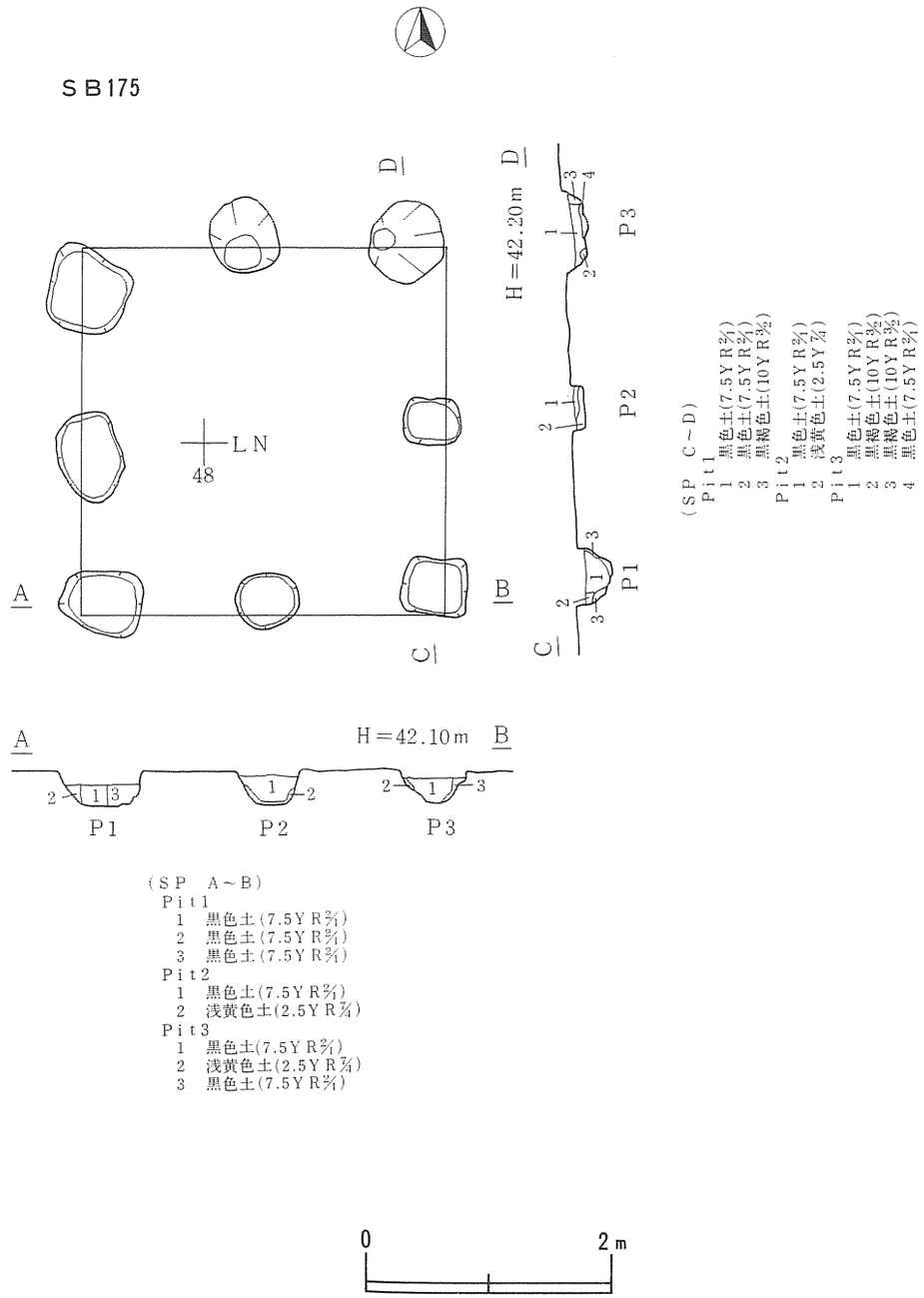
Pit1
1　黒色土(7.5YR2/1)
2　黒色土(7.5YR2/1)

Pit2
1　黒色土(7.5YR2/1)
2　浅黄褐色土(10YR2/1)

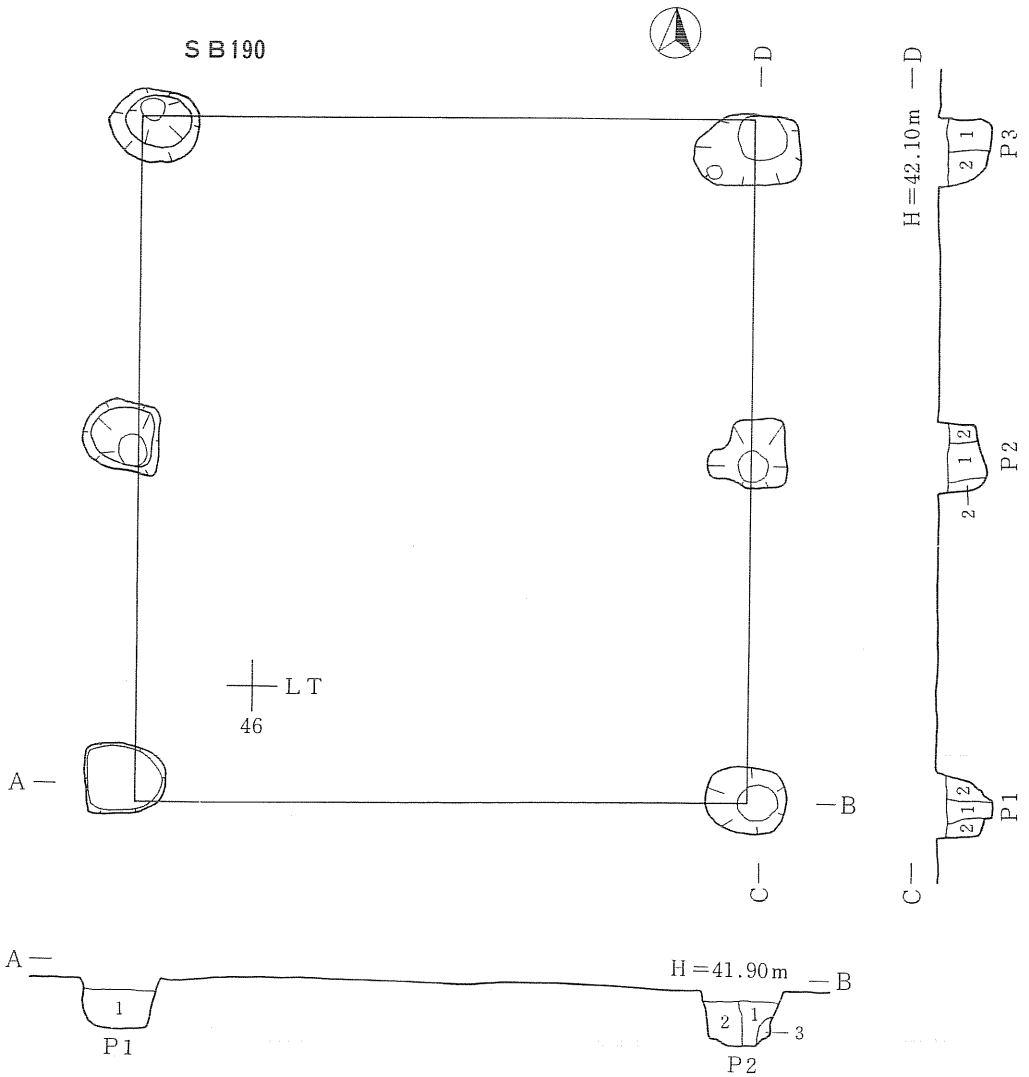


第23図　ＳＢ掘立柱建物跡　（７）





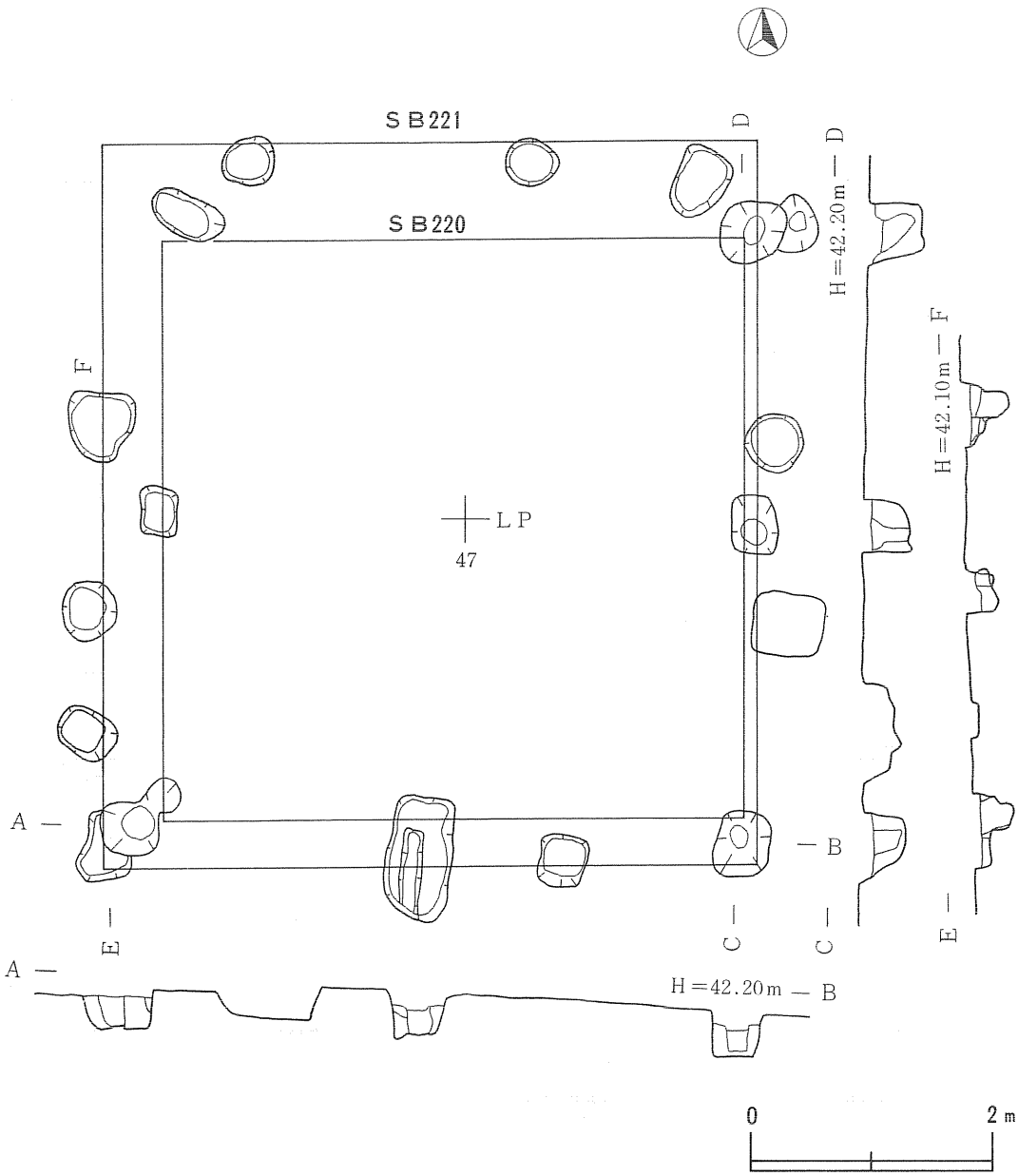
第24図　ＳＢ掘立柱建物跡　（８）



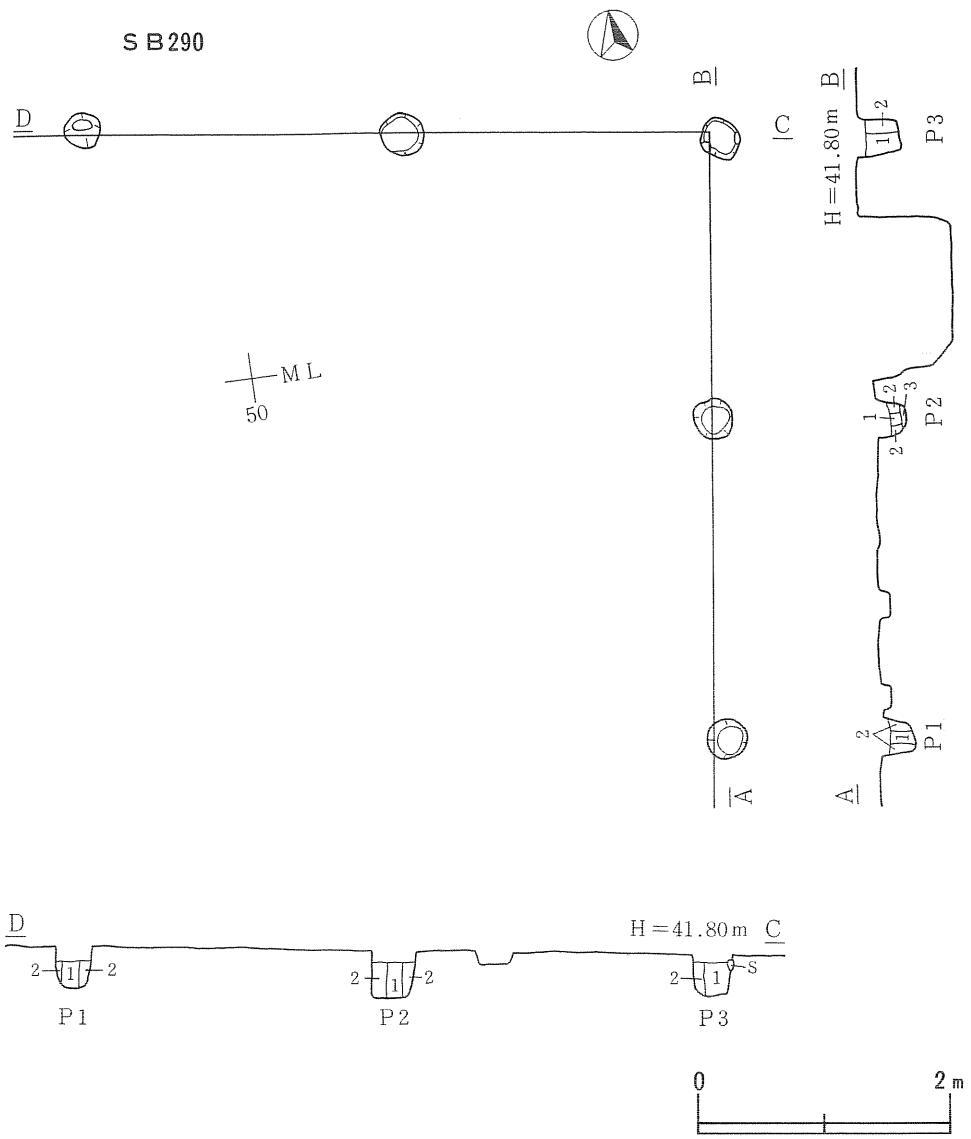
（ＳＰ　A～B）
Ｐｉｔ1
1　黒色土(7.5ＹＲ2/1)
Ｐｉｔ2
1　黒色土(7.5ＹＲ2/1)
2　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5/4)
3　灰白色土(2.5ＹＲ8/2)

（ＳＰ　C～D）
Ｐｉｔ1
1　黒色土(7.5ＹＲ2/1)
2　浅黄色土(2.5Ｙ7/4)
Ｐｉｔ2
1　黒色土(7.5ＹＲ2/1)
2　黒色土(7.5ＹＲ2/1)
Ｐｉｔ3
1　黒色土(7.5ＹＲ2/1)
2　黒色土(7.5ＹＲ2/1)

第25図　ＳＢ掘立柱建物跡　（９）



第26図　ＳＢ掘立柱建物跡　(10)



（ＳＰ　Ａ～Ｂ）
Ｐｉｔ１
1　黒色土(10ＹＲ2/1)
2　黒褐色土(10ＹＲ3/2)
Ｐｉｔ２
1　黒色土(10ＹＲ2/1)
2　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5/3)
3　黒褐色土(10ＹＲ3/2)
Ｐｉｔ３
1　黒色土(10ＹＲ2/1)
2　黒褐色土(10ＹＲ3/2)

（ＳＰ　Ｃ～Ｄ）
Ｐｉｔ１
1　黒色土(10ＹＲ2/1)
2　黒色土(10ＹＲ2/1)
Ｐｉｔ２
1　黒色土(10ＹＲ2/1)
Ｐｉｔ３
1　黒色土(10ＹＲ2/1)
2　黒褐色土(10ＹＲ3/2)

第27図　ＳＢ掘立柱建物跡　(11)

４．竪穴状遺構

ＳＫＩ026　（第30図、図版32･33）

Ｄ区のＬＬ44･ＬＭ44グリッドで検出した。平面形は242cm×310cm、底面は204cm×273cmの隅丸長方形を呈し、底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がり、壁高は36cmである。底面積は5.30㎡である。埋土は６層に分層し、いずれにも比較的多くの黄褐色土ブロック粒子が混入していることから人為的堆積と考えられる。

遺物は出土しなかった。

ＳＫＩ030　（第30図、図版33･34）

Ｄ区のＬＫ43･44グリッドで検出した。平面形は268cm×290cmの隅丸方形を呈し、底面はほぼ平坦で222cm×228cmを呈している。底面積は8.20㎡である。壁は大変緩やかに立ち上がり、壁高は32cmである。埋土は１層のみで、黒色土に明黄褐色土５％混入している。

遺物は縄文･弥生土器、フレイク、土師器･須恵器が少量出土した。

ＳＫＩ063　（第31図、図版34）

Ｂ区のＭＬ53グリッドで検出した。平面形は206cm×233cmの略隅丸長方形で、底面はほぼ平坦で198cm×205cmを呈している。底面積は3.00㎡である。壁は垂直もしくは緩やかに立ち上がり、壁高は25cmである。埋土は黒色土･黒褐色土を主体にし、堆積土の中位に地山(オリーブ褐色)砂質粘土が帯状に薄く堆積し、全体的に混入物が少ないので、自然堆積と思われる。

遺物は縄文･弥生土器、フレイクが僅少出土した。

ＳＫＩ111　（第31･34図、図版４･35･36）

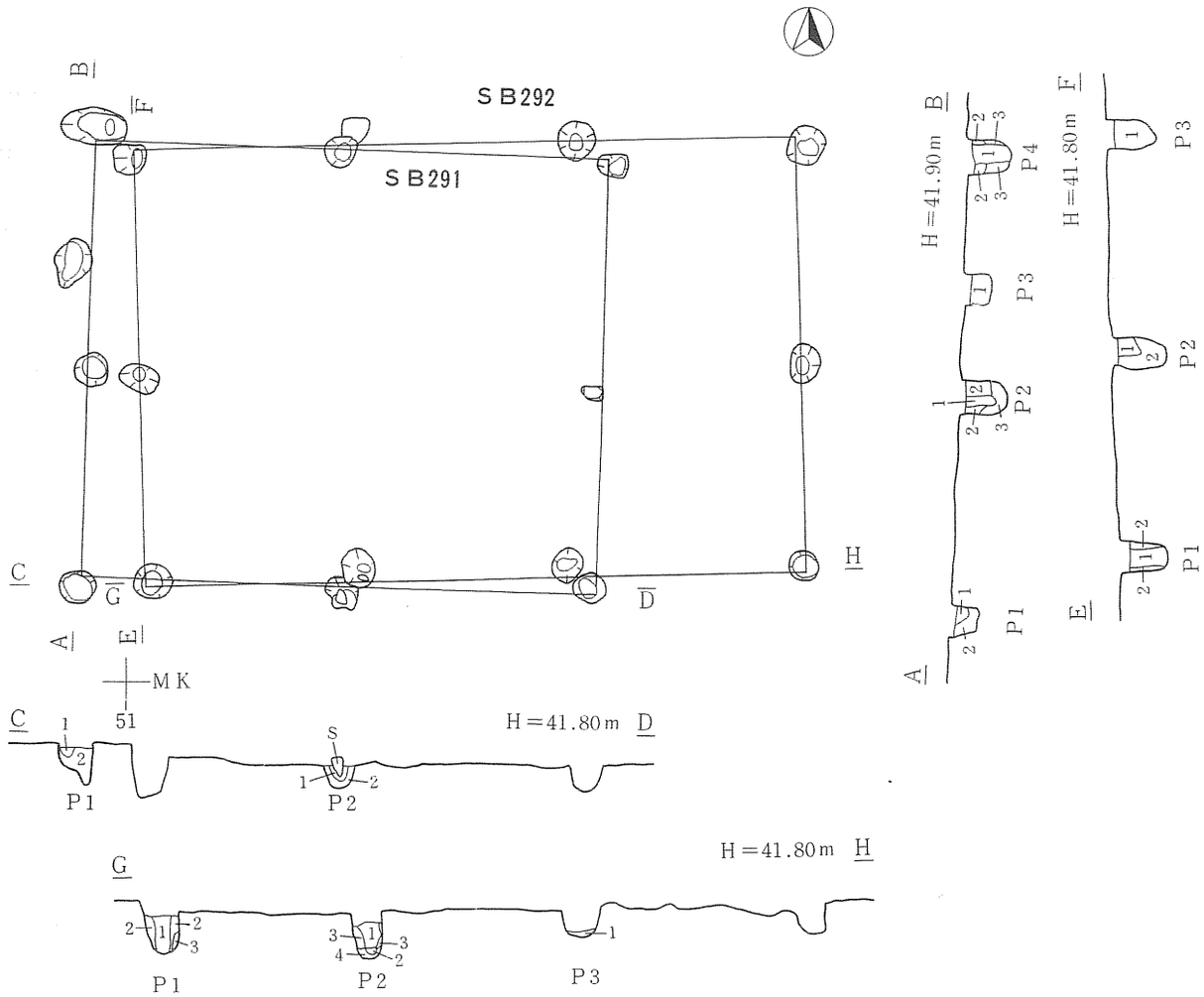
Ｄ区のＬＰ49･50グリッドで検出した。平面形は395cm×430cmの隅丸方形を呈し、底面も286cm×320cmの隅丸方形を呈している。底面の面積は9.30㎡である。壁は緩やかに立ち上がり、壁高は55cm～61cmである。北東隅･南東隅にて径25cm前後のピットを各１個を検出したが、いずれも２～９cmと浅く、柱穴とは考えがたい。埋土は８～12･15～20層が自然堆積で、他の層は地山ブロックを多量に含み人為的堆積と考えられる。

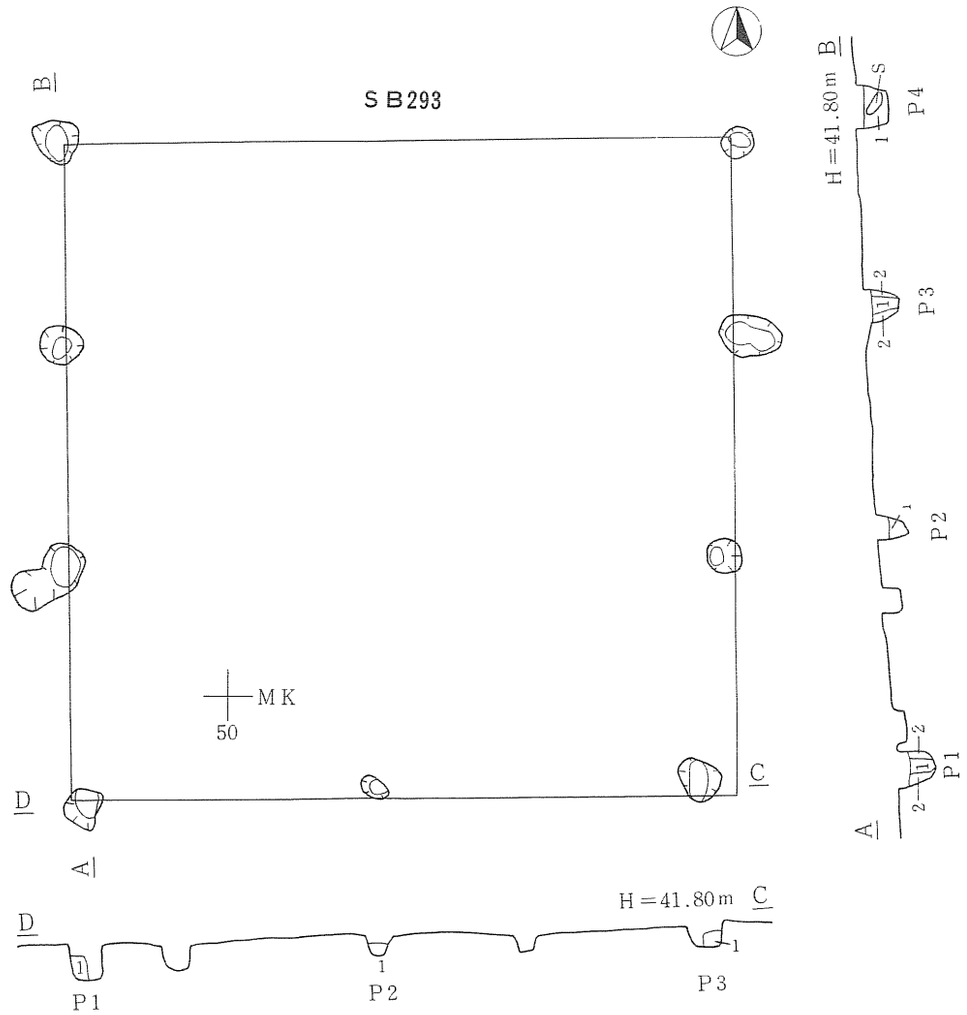
遺物はほぼ床面にて刀子１点(第31図ＲＭＩ)、石剣１点(ＲＱＩ)、青磁片２点(ＲＰＩ･２)が出土している。その他に埋土中から縄文･弥生土器、フレイク、土師器･須恵器が少量出土した。

ＳＫＩ112　（第32･34図、図版４･５･36）

Ｄ区のＬＯ47グリッドで検出した。平面形は271cm×296cmの隅丸方形で、底面はほぼ平坦で200cm×216cmを呈している。底面積は3.88㎡である。壁は北東側は垂直に、他は大変緩やかに立ち上がり、壁高は42cmである。埋土は黒色･黄褐色土を主体とし、全体的に明黄褐色土ブロックの混入層が多く、２･３･５･７層には多量に含まれることから人為的堆積と考えられる。

遺物は縄文･弥生土器、フレイクが少量、土師器･須恵器が僅少出土した。





SB291
（SP　A～B）
Pit1
1　にぶい黄褐色土(10YR5/3)
2　黒色土(10YR2/1)
Pit2
1　黒色土(10YR2/1)
2　黒褐色土(10YR2/2)
3　黒褐色土(10YR3/3)
Pit3
1　黒色土(10YR2/1)

Pit4
1　黒色土(10YR2/1)
2　黒褐色土(10YR2/2)
3　黄褐色土(10YR5/6)
（SP　C～D）
Pit1
1　にぶい黄褐色土(10YR5/3)
2　黒色土(10YR2/1)
Pit2
1　黒色土(10YR2/1)
2　にぶい黄褐色土(10YR5/3)

SB292
（SP　E～F）
Pit1
1　黒色土(10YR2/1)
2　灰白色土(10YR)
Pit2
1　黒褐色土(10YR2/1)
2 黒色土(10YR2/1)
Pit3
1　黒色土(10YR2/1)

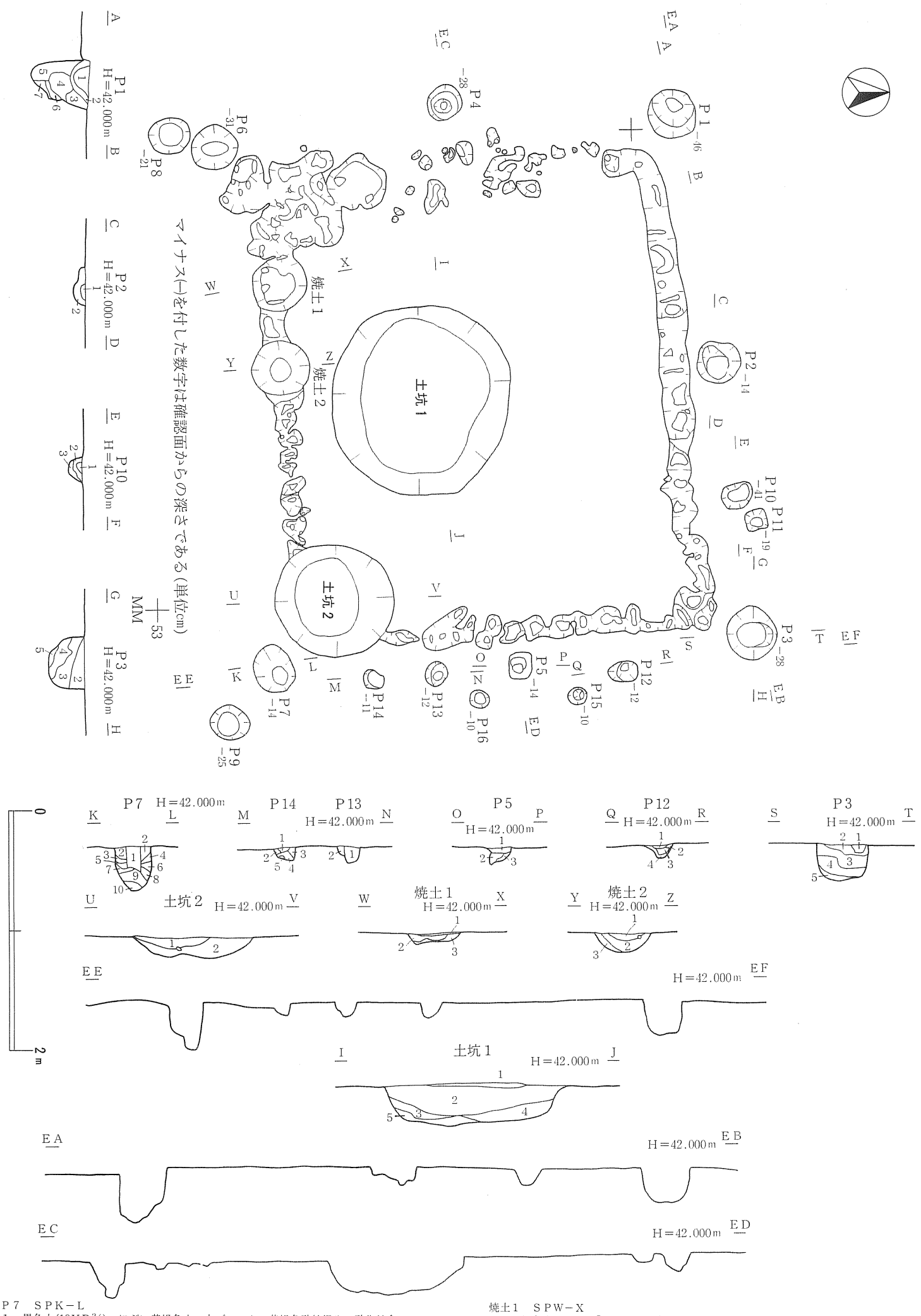
（SP　G～H）
Pit1
1　黒色土(10YR2/1)
2　灰白色土(10YR)
3　灰白色土
Pit2
1　黒色土(10YR2/1)
2　黒褐色土(10YR2/2)
3　黒色土(10YR2/1)
4　黒褐色土(10YR3/1)
Pit3
1　黒色土(10YR2/1)

（SP　A～B）
Pit1
1　黒色土(10YR2/1)
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)
Pit2
1　黒色土(10YR2/1)
Pit3
1　黒色土(10YR2/1)
2　黒褐色土(10YR2/3)
Pit4
1　黒色土(10YR2/1)

（SP　C～D）
Pit1
1　黒色土(10YR2/1)
Pit2
1　黒色土(10YR2/1)
Pit3
1　黒色土(10YR2/1)

0　2m

第28図　ＳＢ掘立柱建物跡　(12)



Ｐ７　ＳＰＫ−Ｌ
1　黒色土(10ＹＲ2/1)　にぶい黄褐色小〜大ブロック・黄褐色砂粒混入。酸化鉄含。
2　黒色土(7.5ＹＲ1/1)　黄褐色砂粒混入。灰褐色粘質土混入。
3　黒色土(7.5ＹＲ2/1)　黄褐色中ブロック混入。
4　黒色土(7.5ＹＲ2/1)　黄褐色砂粒混入。黄褐色小ブロック混入
5　黒色土(7.5ＹＲ1/1)　黄褐色小ブロック混入。
6　黒色土(7.5ＹＲ1/1)　黄褐色砂粒混入。酸化鉄混入。
7　黒色土(7.5ＹＲ1/1)　黄褐色ブロック混入。
8　黒色土(7.5ＹＲ2/1)　黄褐色砂粒混入。
9　黒色土(7.5ＹＲ2/1)　酸化鉄混入。
10　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　灰黄褐色砂質土・黄褐色砂質土の混合土。

Ｐ14　ＳＰＭ−Ｎ
1　黒色土(10ＹＲ2/1)　黄褐色砂粒混入。
2　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5/4)　黒褐色土混入。
3　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　黒色土混入。
4　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5/4)
5　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5/4)

Ｐ13　ＳＰＭ−Ｎ
1　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　にぶい黄褐色中〜大ブロック混入。黒色土混入。
2　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　黒色土混入。

Ｐ５　ＳＰＯ−Ｐ
1　黒色土(7.5ＹＲ2/1)　黄褐色砂粒混入。
2　黒色土(7.5ＹＲ2/1)　黄褐色中ブロック混入。
3　黒色土(7.5ＹＲ2/1)　混入なし。

Ｐ12　ＳＰＱ〜Ｒ
1　黒色土(7.5ＹＲ2/1)
2　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　明褐色土混入。黄褐色砂粒混入。
3　黒色土(7.5ＹＲ2/1)　明褐色土混入。黄褐色砂粒含。
4　黒褐色土(10ＹＲ3/1)　黄褐色砂粒含。

Ｐ３　ＳＰＳ−Ｔ
1　黒色土(7.5ＹＲ2/1)　黄褐色砂粒混入。
2　黒色土(7.5ＹＲ2/1)　黄褐色砂粒混入。
3　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　黄褐色小〜中ブロック混入。黒色土混入。
4　黒色土(7.5ＹＲ1/1)　黄褐色大ブロック混入。
5　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　黄褐色砂粒混入。

土坑２　ＳＰＵ−Ｖ
1　黒色土(7.5ＹＲ1/1)　黄褐色砂粒混入。
2　黒色土(7.5ＹＲ1/1)　黄褐色小〜中ブロック混入。

焼土１　ＳＰＷ−Ｘ
1　明褐色土(7.5ＹＲ5/8)　炭化材含。
2　黒色土(7.5ＹＲ2/1)　黒褐色土混入。黄褐色ブロック混入。
3　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　黄褐色中ブロック混入。

焼土２　ＳＰＹ−Ｚ
1　黒色土(7.5ＹＲ1/1)　大粒の明褐色土含。炭化材混入。
2　黒色土(7.5ＹＲ1/1)　にぶい褐色中ブロック混入。黄褐色砂粒混入。
3　黒色土(7.5ＹＲ1/1)　黄褐色砂粒混入。

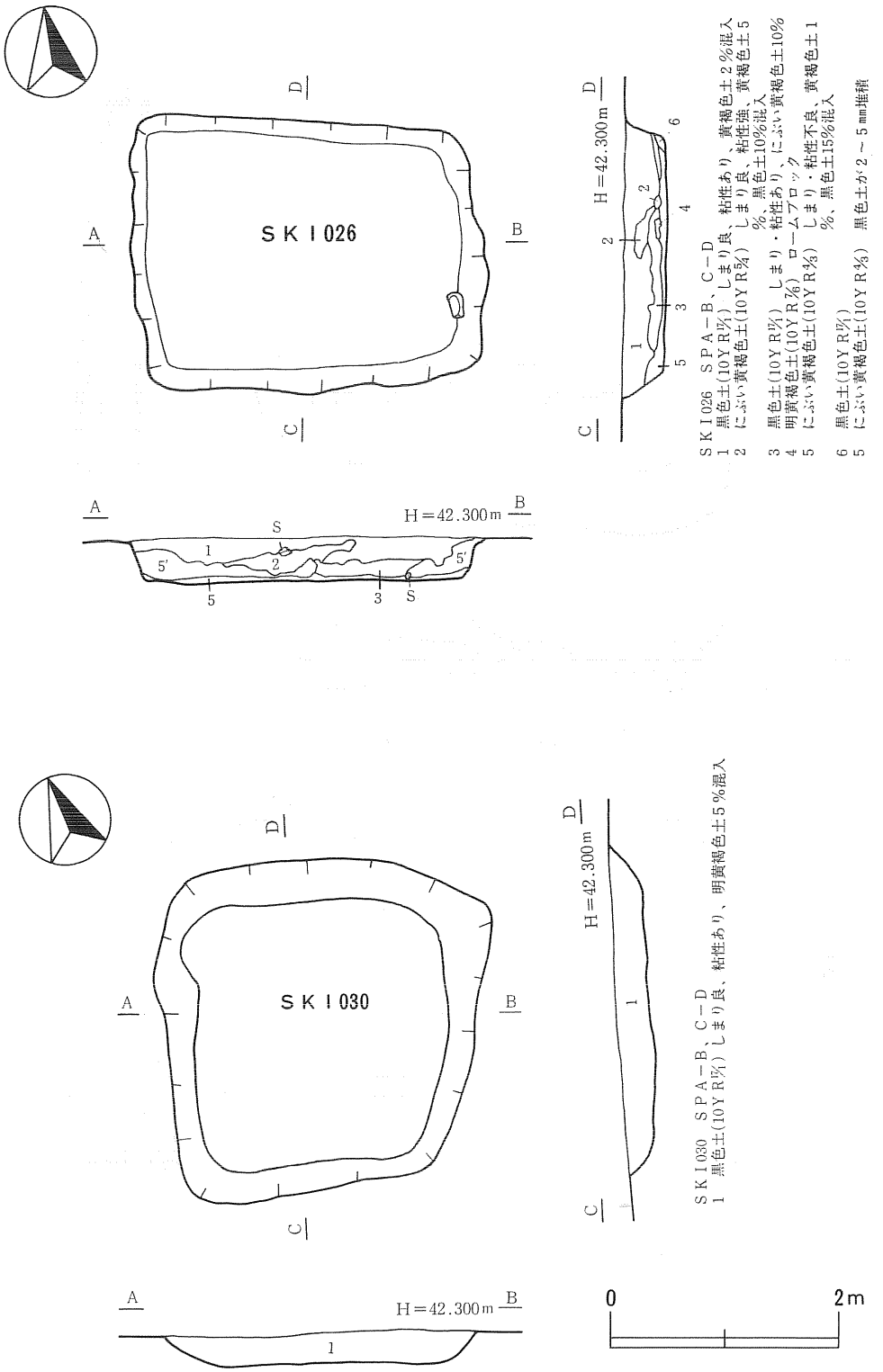
Ｐ１　ＳＰＡ−Ｂ
1　黒色土(7,5ＹＲ1/1)　明黄褐色ブロック・橙色ブロック・浅黄色ブロック混入。
2　黒色土(7.5ＹＲ1/1)　小粒の明黄褐色粒子混入。酸化鉄混入。
3　黒色土(7.5ＹＲ2/1)　中〜大粒の黄褐色土混入。
4　褐色土(7.5ＹＲ4/3)　極大の黒色土・明黄褐色中ブロック・橙色中ブロック混合土。明黄褐色大ブロック１塊。
5　黒色土(7.5ＹＲ2/1)　極大粒の黒色土混入。小粒の明黄褐色砂粒混入。
6　黒色土(7.5ＹＲ1/1)　黄褐色砂粒混入。
7　黒色土(7.5ＹＲ1/1)　灰黄色大ブロック混入。

Ｐ２　ＳＰＣ−Ｄ
1　黒褐色土(7.5ＹＲ3/2)　黄褐色砂粒混入。
2　黒色土(7.5ＹＲ2/1)　黄褐色大ブロック混入。

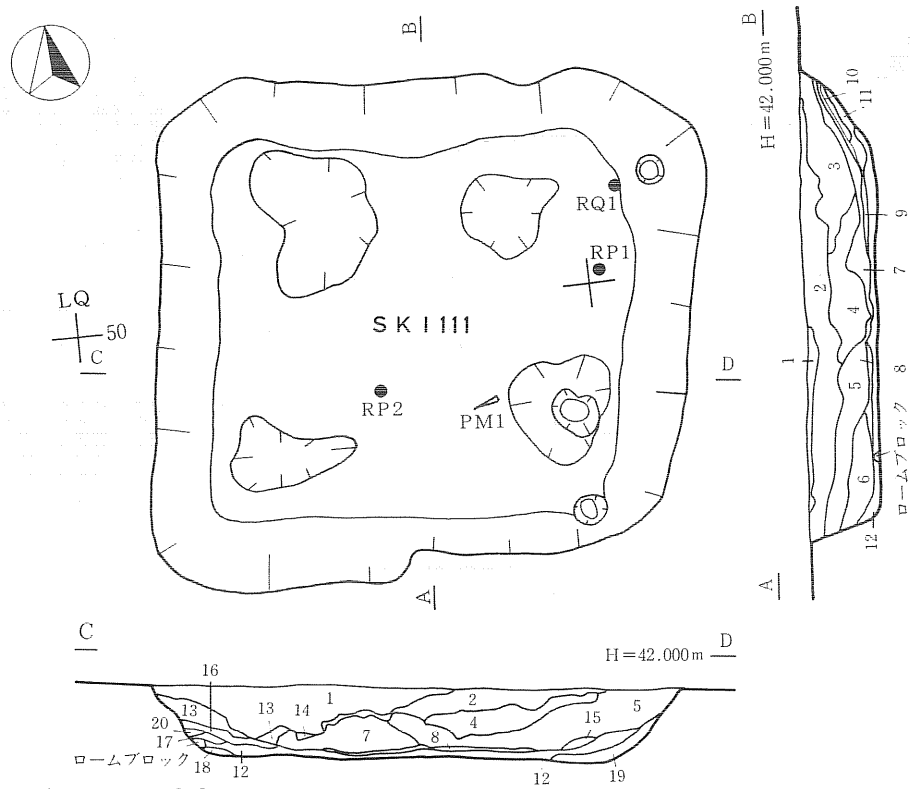
Ｐ10　ＳＰＥ−Ｆ
1　黒色土(7.5ＹＲ2/1)　酸化鉄混入。
2　黒色土(7.5ＹＲ1/1)　黄褐色砂粒混入。
3　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　黄褐色砂粒混入。明褐色土混入。

Ｐ３　ＳＰＧ−Ｈ
1　黒色土(10ＹＲ1/1)　炭化材含。にぶい黄褐色小ブロック混入。
2　黒色土(7.5ＹＲ2/1)　にぶい黄褐色中〜大ブロック混入。酸化鉄混入。小粒の赤色粒子混入。土器片出土。
3　黒色土(7.5ＹＲ2/1)　にぶい黄褐色中ブロック混入。赤色土・酸化鉄混入。
4　にぶい黄褐色土(10ＹＲ4/3)　黒色ブロック・にぶい黄褐色ブロック混入。粘質土。
5　にぶい黄褐色土(10ＹＲ4/3)　浅黄色粒子・浅黄色ブロック・黒色土混入。

土坑１　ＳＰＩ−Ｊ
1　黒色土(10ＹＲ1/1)　炭化材含。にぶい黄褐色ブロック混入。
2　黒色土(7.5ＹＲ2/1)　にぶい黄褐色ブロック・酸化鉄・赤色粒子混入。土器片出土。
3　黒色土(7.5ＹＲ2/1)　にぶい黄褐色ブロック・酸化鉄・赤色土混入。
4　にぶい黄褐色土(10ＹＲ4/3)　黒色ブロック・にぶい黄褐色ブロック混入。粘質土。
5　にぶい黄褐色土(10ＹＲ4/3)　浅黄色粒子・浅黄色ブロック・黒色土混入。粘質土。

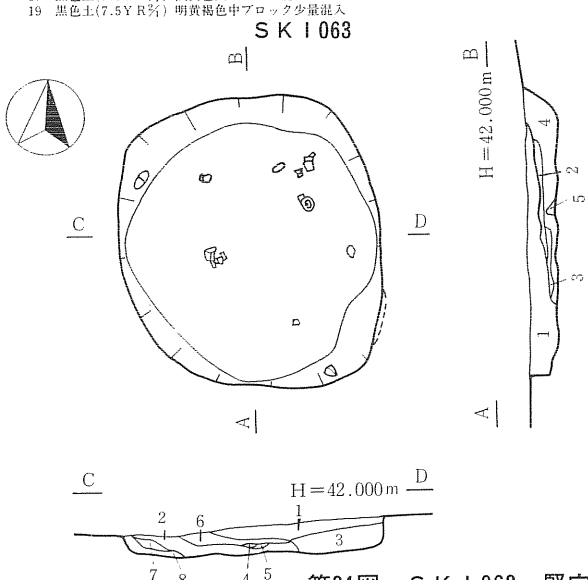


第30図　ＳＫＩ026・030竪穴状遺構



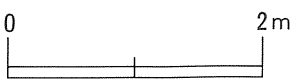
ＳＫＩ111　ＳＰＡ－Ｂ、Ｃ－Ｄ
1　黒褐色土(10ＹＲ3/1) 黒色小粒、明黄褐色小ブロック、炭化物各１％混入
2　黒色土(7.5ＹＲ3/1) 明黄褐色ブロック中～大
3　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5/4) ブロックに黒色土、浅黄色土混入
4　浅黄色土(7.5ＹＲ7/4) ブロック間に黒色土が入り込んでいる
5　黒色土(7.5ＹＲ3/1) 明黄褐色中～大ブロック多量・黄褐色中～大ブロック・炭化物１％混入
6　黒色土(7.5ＹＲ3/1) 明黄褐色小～中ブロック混入・炭化物極大粒混入
7　黒褐色土(10ＹＲ3/2) にぶい黄褐色大ブロック多量、黒色土大粒１％混入
8　黒色土(7.5ＹＲ3/1) にぶい黄褐色小ブロック１％混入
9　黒色土(7.5ＹＲ3/1) 明褐色小ブロック少量混入
10　黒色土(7.5ＹＲ3/1) 明黄色中ブロック数％混入
11　黒色土(7.5ＹＲ3/1) にぶい明黄褐色小ブロック少量混入
12　黒色土(7.5ＹＲ3/1) 浅黄色中ブロック少量、橙色小粒１％混入
13　黒色土(7.5ＹＲ3/1) にぶい黄橙色小～中粒、大ブロック、炭化物小粒混入
14　黒色土(7.5ＹＲ3/1) 明黄色中ブロック数％混入
15　黒色土(7.5ＹＲ3/1) 浅黄色中ブロック炭化物混入
16　黒色土(7.5ＹＲ3/1) 炭化物数％混入
17　黒色土(7.5ＹＲ3/1) 浅黄色大ブロック混入
18　黒色土(7.5ＹＲ3/1) 明黄褐色中ブロック多量混入
19　黒色土(7.5ＹＲ3/1) 明黄褐色中ブロック少量混入
20　黒色土(7.5ＹＲ3/1) 明黄褐色中ブロック多量混入

ＳＫＩ063

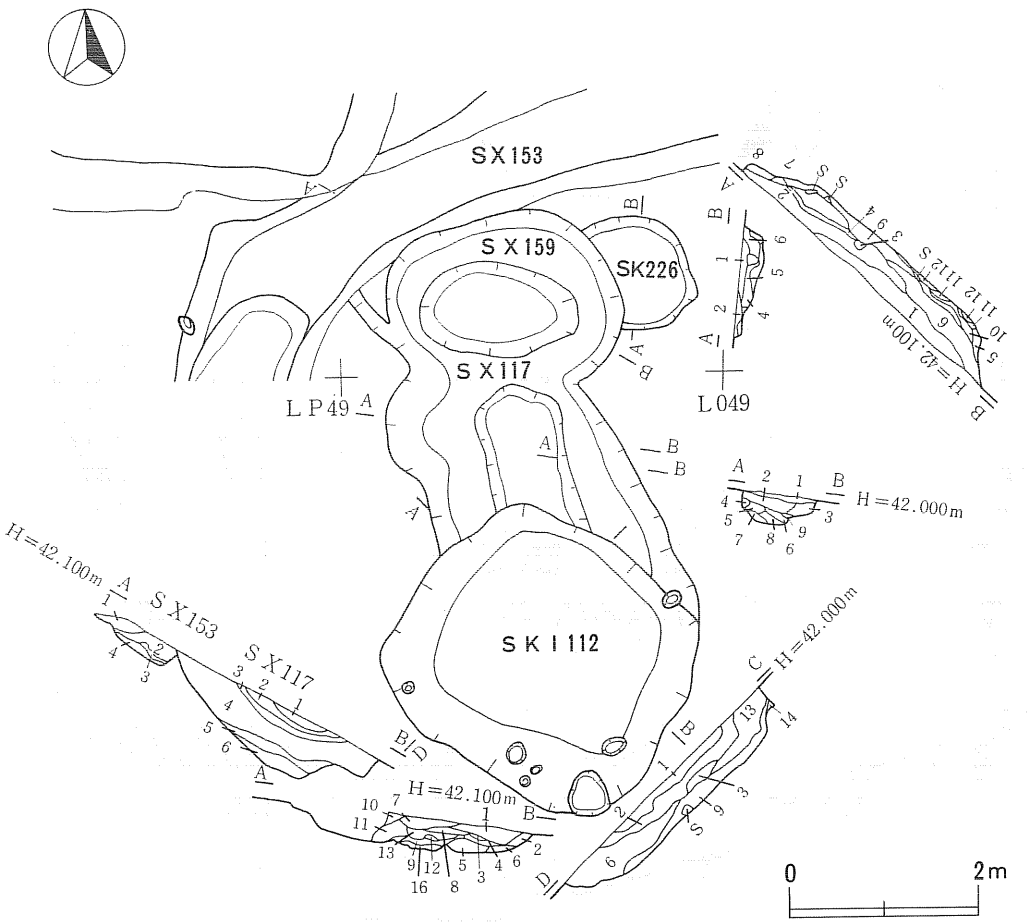


ＳＫＩ063　ＳＰＡ－Ｂ
1　黒色土(10ＹＲ3/1) 炭化物１％混入
2　オリーブ褐色土(2.5ＹＲ4/3) 砂質粘土(地山土)
3　黒色土(7.5ＹＲ3/1) 黄褐色砂質土混入
4　黒色土(7.5ＹＲ3/1) 酸化鉄混入
5　黒褐色土(10ＹＲ3/2) 粘質土

ＳＫＩ063　ＳＰＣ－Ｄ
1　黒色土(10ＹＲ3/1) 炭化物１％混入
2　オリーブ褐色土(2.5ＹＲ4/3) 砂質粘土(地山土)
3　黒色土(10ＹＲ3/1) 炭化物１％混入
4　黒色土(10ＹＲ3/1) 炭化物多量混入
5　黒色土(7.5ＹＲ3/1) 黄褐色砂質土混入
6　黒色土(7.5ＹＲ3/1) 酸化鉄混入
7　黒色土(10ＹＲ3/1) 明黄褐色大ブロック混入
8　黒褐色土(10ＹＲ3/2) 黒色中ブロック混入



第31図　ＳＫＩ063・竪穴状遺構



ＳＸ153　ＳＰＡ－Ｂ
1　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1) 炭化物数%混入
2　黒色土(10Ｙ Ｒ2/1) 粘性あり、しまりなし、地山小～極大粒20%
3　黒色土(10Ｙ Ｒ2/1) 粘性あり、しまり不良、地山小～大粒40%
4　にぶい黄褐色土(10Ｙ Ｒ5/4) 粘性あり、しまり強、黒色土40%

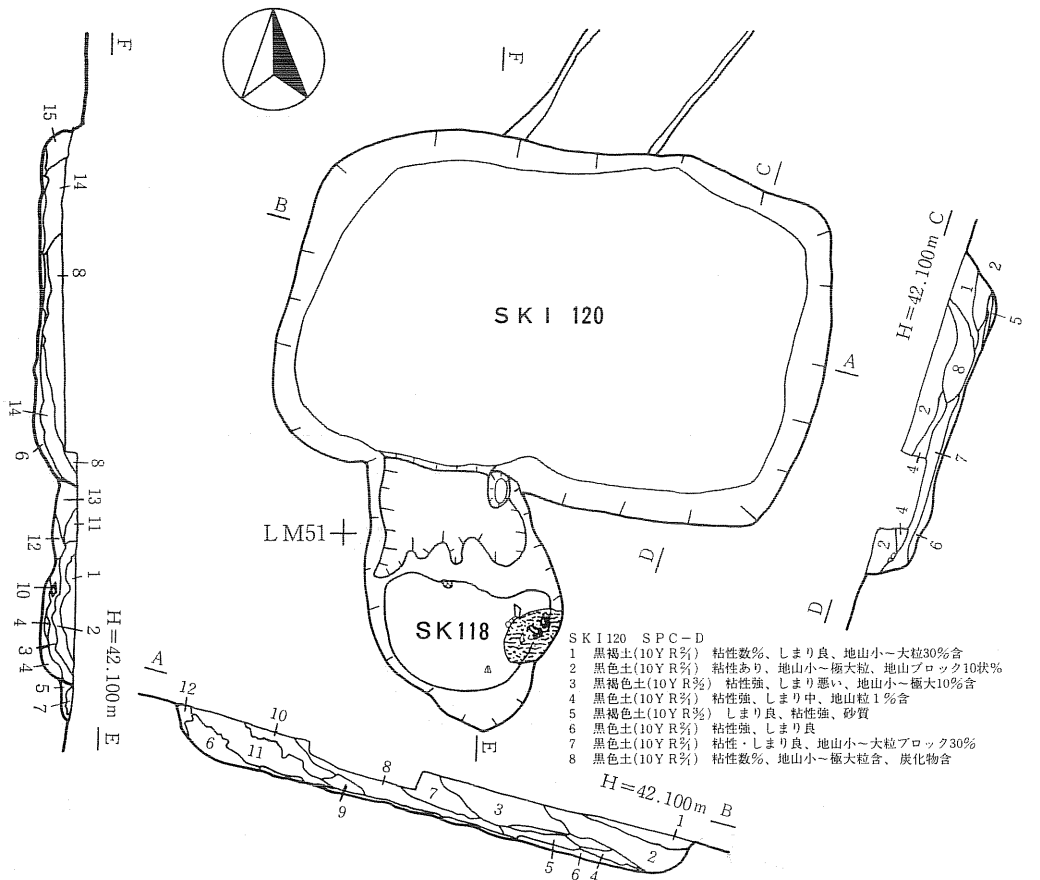
ＳＫ226　ＳＰＡ－Ｂ
1　黒色土(10Ｙ Ｒ2/1) 粘性・しまり良、地山小～中粒１%
2　黒色土(10Ｙ Ｒ2/1) 粘性・しまり良、地山小～大粒15%
3　にぶい黄褐色土(10Ｙ Ｒ5/4) 粘性若干、しまり良
4　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/2) 粘性・しまり良、黒色土20%
5　黒色土(10Ｙ Ｒ3/2) 粘性あり、しまり不良、攪乱土
6　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2/2) 粘性・しまり良、地山ブロック15%
7　にぶい黄褐色土(10Ｙ Ｒ5/4) 粘性若干、しまり中
8　にぶい黄褐色土(10Ｙ Ｒ5/4) 粘性若干、しまり中
9　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/2) 粘性若干、しまり不良

ＳＸ117　ＳＰＡ－Ｂ
1　黒色土(10Ｙ Ｒ2/1) 粘性・しまり良、地山小～中粒１%
2　黒色土(10Ｙ Ｒ2/1) 粘性・しまりあり、黒褐色土50%
3　黒色土(10Ｙ Ｒ2/1) 粘性・しまり良、酸化して赤褐色
4　黒色土(10Ｙ Ｒ2/1) 粘性あり、しまりあり、地山中粒30%
5　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/2) 粘性強、しまりなし、地山粒20%
6　にぶい黄褐色土(10Ｙ Ｒ5/3) 粘性あり、しまり良
7　黒色土(10Ｙ Ｒ2/1) 粘性あり、しまり良、地山大粒10%
8　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/2) 粘性・しまりあり、地山極大粒40%
9　黒色土(Ｎ1.5) 粘性あり、黒灰層、植物繊維多量
10　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/2) 粘性・しまり良、地山小～大粒50%
11　黒色土(10Ｙ Ｒ2/1) 粘性・しまり良、地山小～中粒１%
12　黒色土(10Ｙ Ｒ2/1) 粘性・しまり良、地山小～大粒40%
13　黒色土(10Ｙ Ｒ2/1) 粘性・しまり良、地山小～中粒１%
14　にぶい黄褐色土(10Ｙ Ｒ5/4) 粘性・しまり良
15　明褐色土(10Ｙ Ｒ5/6) 焼土ブロック、しまり良
16　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/2) 粘性・しまり良、地山小～中粒30%

ＳＫＩ112　ＳＰＣ－Ｄ
1　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1) 明黄褐色ブロック・炭化物微量混入
2　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1) 黄褐色中～大ブロック多量、炭化物含
3　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1) 明黄褐色ブロック多量混入
4　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1) 明黄褐色小粒微量混入
5　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1) 明黄褐色小ブロック微量混入
6　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1) 明黄褐色小粒多量混入、炭化物微量含
7　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1) 明黄褐色中ブロック多量混入
8　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/2) 明黄褐色ブロック多量・黒色土混入
9　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1) 明黄褐色小ブロック・炭化物微量混入
10　黒色土(7.5Ｙ Ｒ1/1) 明黄褐色大ブロック一塊混入、粘質土
11　明褐色土(7.5Ｙ Ｒ5/6) 酸化した砂質
12　黒色土(7.5Ｙ Ｒ1/1) 明黄褐色ブロック微量混入、粘質土
13　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1) 明黄褐色中ブロック・橙色土大粒混入
14　灰黄褐色土(10Ｙ Ｒ4/2) 明黄褐色ブロック混入、粘質土
15　にぶい黄褐色土(10Ｙ Ｒ5/3) 明黄褐色小～中ブロック混入

ＳＸ159　ＳＰＡ－Ｂ
1　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/2) 粘性あり、しまり良、地山中粒１%
2　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/2) 粘性あり、しまり良、地山中粒３%
3　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/2) しまり良、砂質、地山小～大粒40%
4　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/2) 粘性あり、地山小～大粒５%
5　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/2) 粘性あり、地山小～中粒７%
6　黒色土(10Ｙ Ｒ2/1) 粘性強、地山小粒１%

第32図　ＳＫＩ112竪穴状遺構、ＳＫ226土坑
ＳＸ117・159その他の遺構



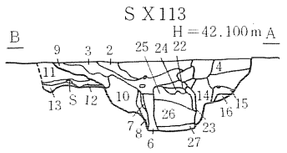
ＳＫＩ120　ＳＰＣ－Ｄ
1　黒褐土(10ＹＲ2/1)　粘性数%、しまり良、地山小～大粒30%含
2　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性あり、地山小～極大粒、地山ブロック10状%
3　黒褐色土(10ＹＲ3/3)　粘性強、しまり悪い、地山小～極大10%含
4　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性強、しまり中、地山粒１%含
5　黒褐色土(10ＹＲ3/3)　しまり良、粘性強、砂質
6　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性強、しまり良
7　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性・しまり良、地山小～大粒ブロック30%
8　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性数%、地山小～極大粒含、炭化物含

ＳＫＩ120　ＳＰＡ－Ｂ
1　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性数%、しまり良、地山小～極大粒５%混入、焼土粒数%含
2　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性あり、地山小～極大粒子、地山ブロック状10%含
3　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性あり、しまり中、地山小～大粒40%含、炭化物数%
4　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性強、しまり中、地山小粒１%含
5　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性あり、しまり良、地山小～大粒ブロック状30%含、炭化物数%
6　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性強、しまり良
7　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性なし、しまり良、地山中～大粒ブロック状50%、炭化物含
8　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性あり、しまり良、地山小～大粒、地山大ブロック10%含
9　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性強、しまり中、地山小粒１%含、炭化物含
10　黒色土(10ＹＲ2/1)と地山土(にぶい黄褐色土10ＹＲ5/4)の混合土　粘性なし、しまり良
11　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5/4)　黒色土10ＹＲ2/1がシミ状に10%混入
12　黒色土(10ＹＲ2/1)地山土の混合土　粘性なし、しまり良

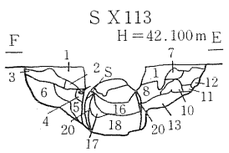
ＳＫＩ118、SK120　ＳＰＥ－Ｆ
1　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性・しまり良、地山小～大粒５%・炭化物・焼土粒混入
2　黒褐色土(10ＹＲ3/3)　粘性・しまり良、地山小～大粒30%
3　黒色土(10ＹＲ2/3)　粘性強、しまり良、地山小～大粒３%、焼土粒
4　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性強、地山極小～小粒・ブロック50%
5　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5/4)　粘性数%、しまり良、黒色土シミ状に混入
6　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性強、しまり良
7　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性数%、しまり良、地山小～大粒、炭化物、焼土粒含
8　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性あり、しまり良、地山小～大粒、地山ブロック10%含
9　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性強、しまり中、地山小粒１%含、炭化物含
10　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粘性強、しまり良、地山土、黒色土シミ状に混入
11　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性若干、しまり良、地山小～中粒10%
12　黒色土(10ＹＲ2/1)とにぶい黄褐土(10ＹＲ5/4)　混合土、粘性数%、しまり中
13　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性数%、しまり良、炭化物数%
14　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性数%、地山小～極大粒含、炭化物含
15　黒褐色土(10ＹＲ3/3)　黒色土混合、小～中大ブロック、にぶい黄褐色土、小ブロック混入

0　2m

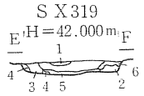
第33図　ＳＫＩ120竪穴状遺構、ＳＫ118土抗



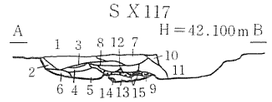
ＳＸ１１３　ＳＰＡ－Ｂ・Ｃ－Ｄ
1　黒色土　(7.5Ｙ Ｒ3/1)　明黄褐色中粒、炭化物
3　黒色土　(7.5Ｙ Ｒ3/1)　明黄褐色ブロック
5　黒褐色土　(10Ｙ Ｒ3/2)　明黄褐色ブロック
7　黒色土　(7.5Ｙ Ｒ1.7/1)　灰白色粒微量、粘質土
9　黒色土　(7.5Ｙ Ｒ1.7/1)　明黄褐色大ブロック
11　黒色土　(7.5Ｙ Ｒ3/1)　明黄褐色粒
13　明黄褐色　(10Ｙ Ｒ5/6)　極大ブロック
15　黒色土　(7.5 Ｙ Ｒ1.7/1)　明黄褐色大ブロック
17　明黄褐色　(2.5Ｙ Ｒ7/6)　ブロック、黒色土混入
19　灰黄褐色　(10Ｙ Ｒ5/2)　粘質土
21　浅黄色土　(2.5Ｙ 7/4) ブロック、混合土
23　黒褐色土　(10Ｙ Ｒ3/2)　黄褐色粘質ブロック
25　黒色土　(7.5Ｙ Ｒ1.7/1)　浅黄色小粒、炭化微粒
27　黒褐色土　(2.5Ｙ 3/1)　極大砂利含む砂質
2　黒色土　(7.5Ｙ Ｒ3/1)　明黄褐色小粒
4　黒褐色土　(7.5Ｙ Ｒ5/2)　明黄褐色極大ブロック
6　黒色土　(7.5Ｙ Ｒ1.7/1)　砂利多量
8　黒色土　(7.5Ｙ Ｒ1.7/1)　灰白色粒、明黄褐色粒
10　浅黄色　(2.5Ｙ 7/3)　ロームブロック
12　黒色土　(7.5Ｙ Ｒ1.7/1)　明黄褐色中粒、炭化物
14　灰黄褐色　(10Ｙ Ｒ5/2)　明黄褐色大ブロック
16　灰黄褐色　(10Ｙ Ｒ5/2)　明黄褐色極大ブロック
18　黒色土　(7.5Ｙ Ｒ3/1)　明黄褐色土
20　黒色土　(7.5Ｙ Ｒ3/1)　明黄褐色大ブロック
22　黒色土　(7.5Ｙ Ｒ3/1)　浅黄色ブロック若干混入
24　明黄褐色　(2.5Ｙ 6/6)　ブロック、浅黄色ブロック
26　黒色土　(7.5Ｙ Ｒ3/1)　浅黄色中粒
(11・12・13はＳＫ319のフク土)



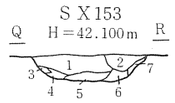
ＳＸ１１３　ＳＰＥ－Ｆ
1　黒色土　(7.5Ｙ Ｒ3/1)　明黄褐色粒、炭化物微量
2　黒色土　(7.5 Ｙ Ｒ3/1)　明黄褐色小～中粒多量
3　明黄褐色土　(2.5Ｙ 5/6)　小～中ロームブロック主体
4　明黄褐色土　(2.5Ｙ 5/6)　ロームブロック、黒色土
5　黒色土　(10Ｙ Ｒ3/1)　明黄褐色ブロック
6　明黄褐色土　(2.5Ｙ 5/6)　極大ロームブロック
7　にぶい黄橙色土　(10Ｙ Ｒ7/4)　ロームブロック
8　黒色土　(10Ｙ Ｒ3/1)　灰白色大ロームブロック
9　黒色土　(7.5 Ｙ Ｒ3/1)　明黄褐色ブロック、炭化物
10　浅黄色土　(2.5Ｙ 7/3)　ロームブロック
11　黒色土　(7.5Ｙ Ｒ3/1)　明黄褐色大ロームブロック
12　黒色土　(7.5Ｙ Ｒ1.7/1)　明黄褐色極大ロームブロック
13　黒色土　(7.5Ｙ Ｒ3/1)　明黄褐色大ロームブロック
14　黒色土　(7.5Ｙ Ｒ3/1)　炭化物微量
15　にぶい黄橙色土　(10Ｙ Ｒ7/4)　ロームブロック、黒色土
16　黒色土　(7.5Ｙ Ｒ3/1)　浅黄色ブロック、炭化物
17　灰褐色土　(7.5Ｙ Ｒ3/1)　ロームブロック
18　黒色土　(7.5Ｙ Ｒ3/1)　明黄褐色極大ブロック
19　黒色土　(7.5Ｙ Ｒ1.7/1)　炭化物微量
20　黒褐色土　(10Ｙ Ｒ3/1)　灰白色・明黄褐色微粒微量



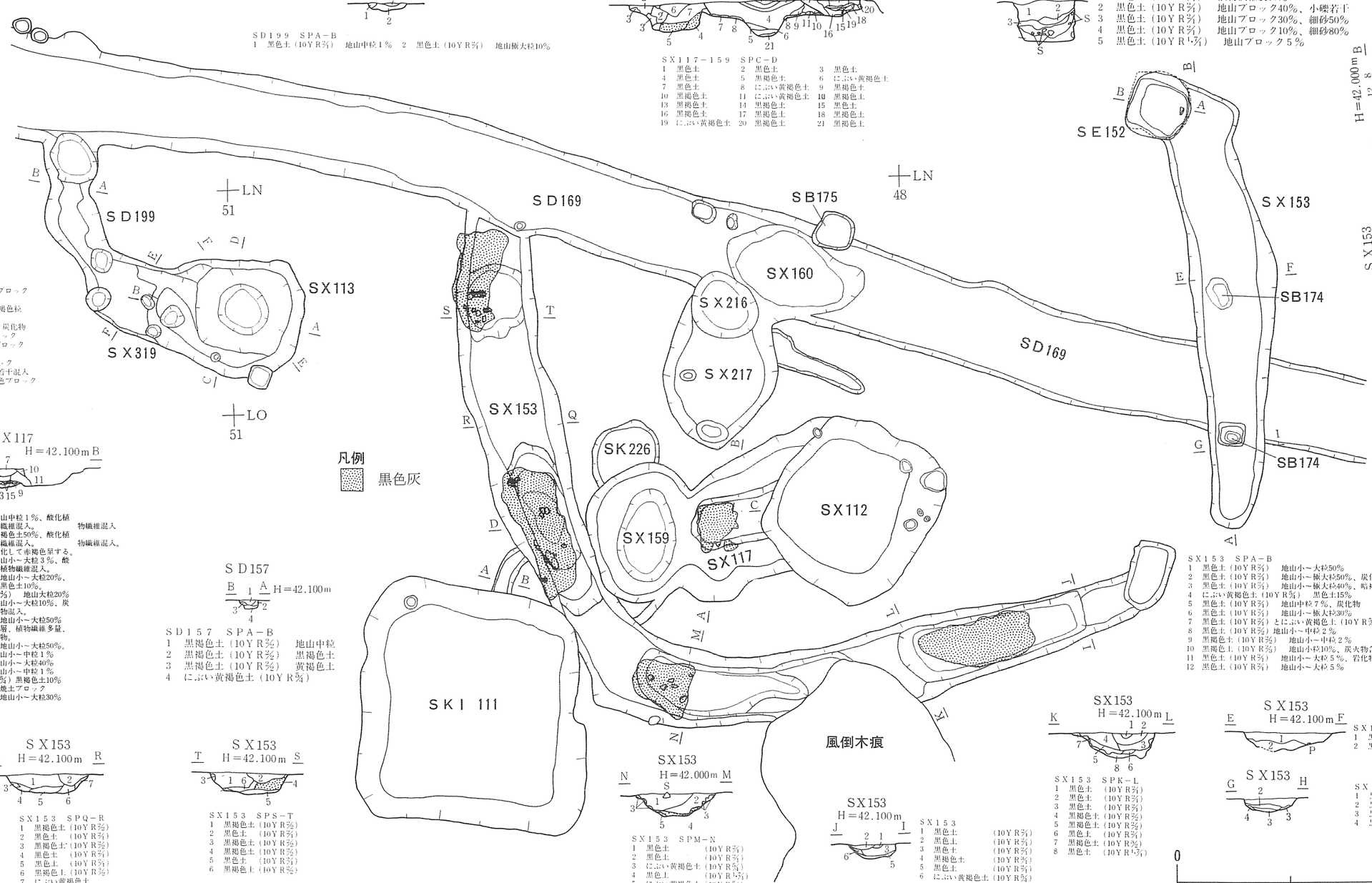
ＳＤ３１９　ＳＰＥ－Ｆ
1　黒色土　(10Ｙ Ｒ3/1)
2　黒色土　(10Ｙ Ｒ3/1)
3　黒色土　(10Ｙ Ｒ3/1)
4　にぶい黄褐色土　(10Ｙ Ｒ5/4)



ＳＸ１１７　ＳＰＡ－Ｂ
1　黒色土 (10Ｙ Ｒ3/1)　地山中粒１%、酸化植物繊維混入。
2　黒色土 (10Ｙ Ｒ3/1)　黒褐色土50%、酸化植物繊維混入。
3　黒色土 (10Ｙ Ｒ3/1)　酸化して赤褐色呈する。
4　黒色土 (10Ｙ Ｒ3/1)　地山小～大粒３%、酸化植物繊維混入。
5　黒褐色土 (10Ｙ Ｒ3/2)　地山小～大粒20%、黒色土10%。
6　にぶい黄褐色土 (10Ｙ Ｒ5/4)　地山大粒20%
7　黒色土 (10Ｙ Ｒ3/1)　地山小～大粒10%、炭化物混入。
8　黒褐色土 (10Ｙ Ｒ3/2)　地山小～大粒50%
9　黒色土 (Ｎ1.5/0)　黒灰層、植物繊維多量、炭化物。
10　黒褐色土 (10Ｙ Ｒ3/2)　地山小～大粒50%。
11　黒色土 (10Ｙ Ｒ3/1)　地山小～中粒１%
12　黒色土 (10Ｙ Ｒ3/1)　地山小～大粒40%
13　黒色土 (10Ｙ Ｒ3/1)　地山小～中粒１%
14　にぶい黄褐色土 (10Ｙ Ｒ5/4) 黒褐色土10%
15　明褐色土 (10Ｙ Ｒ5/6)　焼土ブロック
16　黒褐色土 (10Ｙ Ｒ3/2)　地山小～大粒30%



ＳＸ１５３　ＳＰＱ－Ｒ
1　黒褐色土 (10Ｙ Ｒ3/2)
2　黒色土　(10Ｙ Ｒ3/1)
3　黒褐色土 (10Ｙ Ｒ3/2)
4　黒褐色土 (10Ｙ Ｒ3/2)
5　黒色土　(10Ｙ Ｒ3/1)
6　黒褐色土 (10Ｙ Ｒ3/2)
7　にぶい黄褐色土　(10Ｙ Ｒ5/4)



第34図　ＳＫＩ111・112・竪穴状遺構、ＳＥ152・井戸跡、ＳＤ157・169・199・溝状遺構、
ＳＫ226土抗ＳＸ113・117・153・159・160・216・217・319その他の遺構、ＳＢ174掘立柱建物跡

ＳＫＩ120　（第33図、図版７･37）

Ｄ区のＬＬ51･ＬＭ51グリッドで検出した。ＳＤ119と重複し、本遺構が古い。平面形は275㎝×421㎝の隅丸長方形で、底面は平坦で240㎝×374㎝を呈している。底面積は8.49㎡である。壁は緩やかに立ち上がり、壁高は36㎝である。埋土は黒色土を主体にして、地山の粒子･ブロックがほとんどの層に混入し３･５･７･10･12層にはその傾向が著しく、10･12層は黒色土と地山土の混合土であり、土層の流れが西から東に傾いており、西方向から人為的に埋められたものであろう。

遺物は縄文･弥生土器、フレイク、土師器･須恵器が少量出土した。

５．井戸跡

ＳＥ014　（第35図、図版38）

Ｆ区のＬＦ15･16グリッドで検出した。平面形は略円形で、規模は開口部径134㎝×157㎝、底部径88㎝×100㎝、深さ111㎝である。断面形は袋状で、底面は凹凸がある。埋土は13層に分層した。黒ないし黒褐色土･赤黒色土を主体に、２･３･７層にはローム粒子･ブロックが、１～４層には小礫が混入し、最下層の13層は小礫が主体となる。

遺物は出土しなかった。

ＳＥ028　（第35図、図版39）

Ｄ区のＬＨ46グリッドで検出した。平面形は円形で、規模は開口部径80㎝×93㎝、底部径47㎝×50㎝、深さ92㎝である。断面形はほぼ円筒形で底面は平坦である。埋土は８層に分層した。黒褐色土･黄褐色土を主体とし、３･６層には２㎝～10㎝の礫が混入している。４層は空洞となっている。

遺物は縄文･弥生土器、フレイクが僅少出土した。

ＳＥ031　（第35図、図版40）

Ｄ区のＬＫ45･ＬＬ45グリッドで検出した。ＳＫ032と重複し、本遺構が新しい。規模は開口部径100㎝×127㎝、底部径48㎝×50㎝である。平面形は略楕円形で、断面形はフラスコ状で、底面はほぼ平坦である。埋土は６層に分層した。１層以外は礫を含み、特に２層は10㎝～20㎝の角礫が主体を占め、４層は３～５㎝の円礫が主体を占める砂礫層である。３･５･６層は湿り気があるが、良く締まる。３･４層は空洞があり、特に３層は２層直下の縦15㎝、横50㎝ほどの空洞で分断された格好になっており、下の３層は卵形の堆積状況を呈している。埋土中には礫の混入はほとんどなく、種子を含む。

遺物は縄文･弥生土器がやや、土師器･須恵器が僅少出土した。

ＳＥ067　（第35図、図版41･42）

Ｂ区のＭＫ50グリッドで検出した。規模は開口部径116cm×126cm、底部径70cm×74cm、深さ86cmである。壁はほぼ垂直に立ち上がっていたと思われるが、その後の崩壊によってやや開口部が外に開いている。平面形は円形で、断面形は円筒形を呈していたと考えられるが、崩壊によって現状では逆台形状を呈している。覆土は黒色土が大半を占め、地山土が小ブロックとなって混入している。砂利層を掘り込んでいる６～８層は水分を多く含み、壁および底面からは常に涌水している。

底面からやや浮いた状態の６・８層間にて、径25.1cm、高さ16.1cmの曲物(第185図34)と柄の取れた径12cm、高さ10cmの柄杓(第185図35)が出土した。他に遺物は縄文･弥生土器、フレイクが少量出土した。

ＳＥ086　(第36図、図版43)

Ｅ区のＭＥ42･43グリッドで検出した平面形が楕円形の井戸跡である。規模は開口部径150cm×170cm、底部径73cm×93cm、深さ73cmである。底面は平坦で壁は外に向かって緩やかに立ち上がる。

埋土は黒色土を主体にして、中央部は水平な堆積をしている。４～６・８層には砂質粘土ブロック･粒子が多く混入し、６・８層には特に多い。

出土遺物は縄文･弥生土器がわずかに出土した。

ＳＥ088　(第36図、図版44)

Ｄ区のＬＬ42グリッドで検出した。ＳＤ087と重複し、本遺構が古い。規模は開口部径89cm×93cm、底部径84cm×90cm、中端132cm×167cm、深さ83cmである。平面形はほぼ円形で、断面形は底面から緩く立ち上がり中ほどで外にふくらみ、その上はまっすぐに立ち上がる。底面はやや凹凸がある。埋土は13層に分層した。黒褐色土を主体として、全体的に地山ブロック･粒子が多く混入し、特に２・７・９･10層はその混合度が高いことから人為的堆積と考えられる。遺物はフレイクが僅少出土した。

ＳＥ116　(第37図、図版44･45･48)

Ｄ区のＬＮ54グリッドで検出した。中端で段がつく、２段構造となっている。規模は開口部径196cm×206cm、底部径112cm×117cm、中端130cm×138cm、深さ76cmで砂利層を掘り込んでいる。平面形は略円形で、断面形は外側に向かって緩く立ち上がる。埋土は14層に分層した。黒色土を主体とし、全体的に黄褐色ブロック･粒子を混入する。１・２層は水気を多く含まず良くしまるが、３～14層は水気を多く含み、３･11層以外はいずれも粘性がある。

遺物は縄文･弥生土器、フレイクが少量、土師器･須恵器が僅少出土した。

ＳＥ125　(第36図、図版45･４６)

Ｄ区のＬＲ44グリッドで検出した。規模は開口部103cm×117cm、底部径86cm×88cm、中幅

112cm×132cm、深さ98cmである。平面形は円形で、断面形は袋状で、底面は平坦である。埋土は10層に分層した。ほとんど黒色土が主体で、１・３～５層には植物繊維を含み、９層には礫が多量に混入する。この他、地山ブロッを多く含んでいるのでレンズ状の堆積をしているものの人為的堆積と考えられる。

遺物は縄文･弥生土器が少量、フレイクがやや、土師器･須恵器が僅少出土した。

ＳＥ152　（第34図、図版５･46）

Ｄ区のＬＭ46グリッドで検出した。ＳＸ153、ＳＢ173と重複し、いずれよりも新しい。規模は開口部径106cm×117cm、底部径74cm×80cm、深さ73cmである。平面形は隅丸方形で、断面形は円筒形で底面は平坦である。埋土は５層に分層した。黒色土が主体で、１・２・５層には植物繊維が混入し、特に５層には植物繊維と樹皮を多量に含む。４層には細砂や礫が多量に混入する。この他、１層以外には地山ブロックが多く含まれていることから、レンズ状の堆積をしているものの、人為的堆積と考えられる。

遺物は縄文･弥生土器、フレイクがやや、土師器･須恵器が僅少出土した。

ＳＥ215　（第36図、図版47）

Ｄ区のＬＭ49グリッドで検出した。規模は開口部径64cm×71cm、底部径45cm×50cm、深さ64cmである。平面形は円形で、断面形は円筒形で底面は平坦である。埋土は６層に分層した。黒色土が主体で、いずれにも地山粒子が混入し、３・４層ではその度合が高い。

遺物は縄文･弥生土器、フレイク、土師器･須恵器が少量出土した。

６．溝状遺構　（第42～47図、付図２～５）

ＳＤ001

Ｆ区のＬＣ14グリッドからＬＤ15グリッドにかけて東西に走っている。西端は調査区外に延びている。北部にＳＫ010、ＳＤ002がある。規模は総延長3.76ｍ、幅16cm～24cm、深さ22cm～26cmである。埋土は黒褐色土もしくは黒褐色と黄褐色土の混合土を主体としている。

遺物はフレイクが出土した。

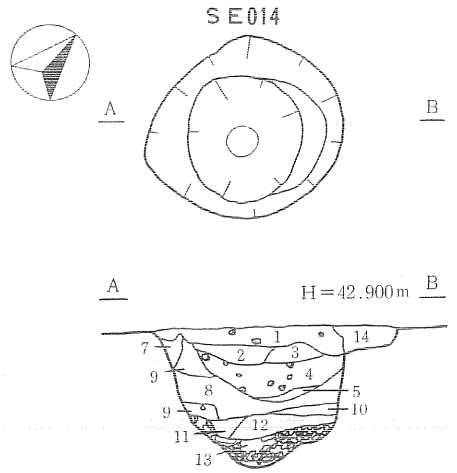
ＳＤ002

Ｆ区のＬＣ14グリッドでＳＤ001と並行して東西に延びている。西は調査区外に延び、東は攪乱されている。規模は総延長4.78ｍ、幅18cm～26cm、深さ２cm～８cmである。埋土は黒褐色土系の混合土もしくは黒色土と黒褐色土の混合土を主体としている。

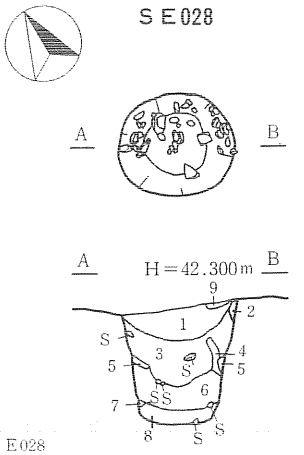
遺物は出土しなかった。

ＳＤ003

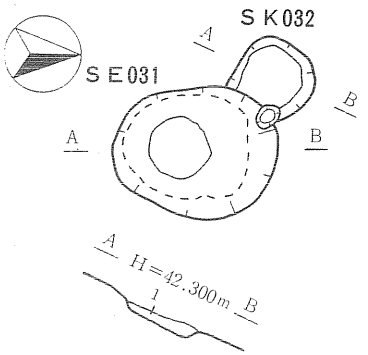
Ｆ区のＬＡ14グリッドに位置し、東西に延びている。規模は総延長8.40ｍ、幅12cm～28cm、



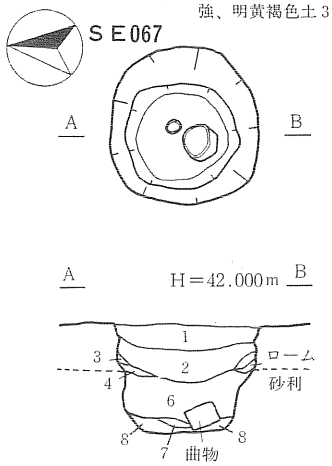
SE014
1　黒色土(7.5YR1/1)　礫を若干含
2　赤黒色土(10YR1/1)　ローム粒子少量含
3　黒色土(10YR2/1)　ローム粒子少量含
4　赤黒色土(25YR1/1)　礫を多量に含
5　黒褐色土(10YR2/1)　ローム粒子混入
6　明褐色土(10YR6/6)　黒色土50%混入
7　赤黒色土(10YR1/1)　ロームブロック含
8　黒色土(10YR1/1)
9　黒色土(7.5YR1/1)　明黄褐色土30%混入
10　黒色土(7.5YR2/2)
11　黒色土(5YR1/1)
12　黒色土(7.5YR1/1)
13　マトリックスは礫、黒色土混入
14　黒褐色土(10YR2/2)　根による攪乱

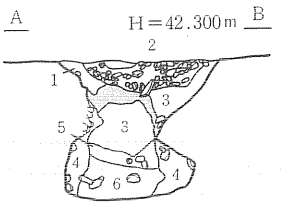


SE028
1　黒褐色土(10YR2/2)　しまりあり、ブロック30%黄褐色土３%混入
2　黄褐色土(10YR5/6)　粘性あり
3　黒色土(10YR1/1)　粘性強、極大粒少量含
4　空洞
5　明黄褐色土(10YR6/8)　粒径大、しまりあり、砂質
6　黒色土(10YR1/1)　粘性強、にぶい黄橙色土５%混入、極大粒多量に混入
7　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粒径小、砂質である
8　黒色土(10YR1/1)　粘性強、しまりあり、湿性強、明黄褐色土３%混入



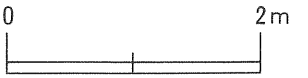
SK032
1　黒色土(10YR1/1)　しまりあり、にぶい黄橙色10%混入
底面部にブロック混入



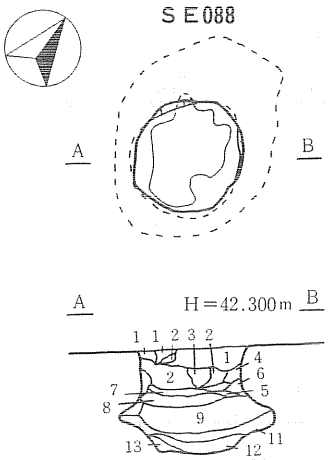


SE067
1　黒色土(10YR3/1)　直径１cm大のロームブロック含
2　黒色土(10YR1/1)　直径１cm大のロームブロック含、炭化物数%混入
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム
4　黒色土(10YR1/1)
5　灰黄色土(7.5YR6/2)　壁崩壊土、ローム
6　黒色土(10YR3/1)　直径２cm大の砂利数%、直径２cm大のロームブロック混入
7　明緑灰色(7.5GY7/1)　粘土で水分多量に含
8　黒色土(7.5YR1/1)　水分多量に含

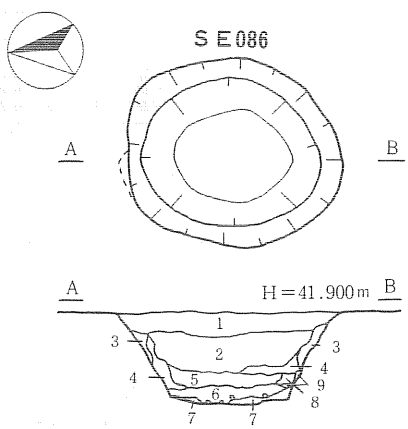
SE031
1　黒色土(10YR3/1)　しまりあり
2　砂利層径１cm～５cm円礫、長さ10cm～20cmの角礫がマトリックス
3　黒色土(10YR1/1)　粘性強、しまりあり、湿性強、泥炭質である種子小礫１%混入
上面に暗赤褐色土がうすく堆積する
4　砂利層、粒径極小、中粒の円礫、しまりなし、空洞あり
5　黒色土(10YR1/1)　粘性強、湿性強、ローム粒子２%、極大粒の礫含
6　黒色土(7.5YR1/1)　粘性強、湿性強、極大粒の礫を含



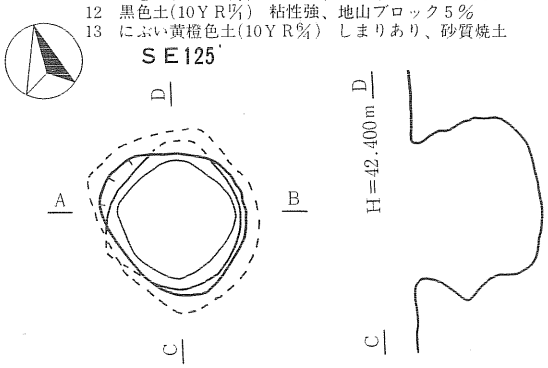
第35図　ＳＥ014・028・031・067井戸跡、ＳＫ032土坑

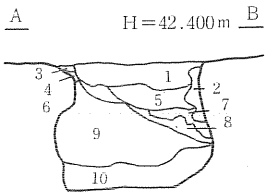


ＳＥ088　ＳＰＡ－Ｂ
1　黒色土(10Ｙ Ｒ2/1)　粘性・しまりあり、植物酸化痕30%
2　黒色土(10Ｙ Ｒ3/1)　粘性・しまりあり、地山ブロック30%
3　黒色土(10Ｙ Ｒ3/1)　粘性・しまりあり、地山ブロック状
4　黒色土(10Ｙ Ｒ3/1)　粘性中、植物痕20%、地山ブロック
5　黒色土(10Ｙ Ｒ3/1)　粘性強、地山中粒10%、地山ブロック
6　黒色土(10Ｙ Ｒ3/1)　粘性・しまりあり、地山小粒５%
7　黒色土(10Ｙ Ｒ3/1)　粘性強、地山ブロック80%、砂質
8　黒色土(10Ｙ Ｒ3/1)　粘性中、地山ブロック・粒子10%未満
9　黒色土(10Ｙ Ｒ3/1)　粘性強、地山ブロック・粒子50～20%
10　黒色土(10Ｙ Ｒ3/1)　粘性あり、地山中～大粒60%
11　黒色土(10Ｙ Ｒ3/1)　粘性強、地山中～極大粒20%
12　黒色土(10Ｙ Ｒ5/1)　粘性強、地山ブロック５%
13　にぶい黄橙色土(10Ｙ Ｒ6/4)　しまりあり、砂質焼土

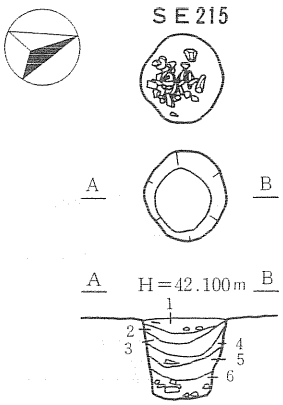


ＳＥ086　ＳＰＡ－Ｂ
1　黒色土(10Ｙ Ｒ1/2)　粘性・しまりあり、植物酸化痕
2　黒色土(10Ｙ Ｒ1/2)　粘性あり、炭化物中粒１%、植物酸化痕30%、砂質粘土粒５%
3　灰黄褐色土(10Ｙ Ｒ5/2)　粘性・しまりあり、砂質
4　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/2)　粘性・しまりあり、砂質粘土ブロック50%
5　黒色土(10Ｙ Ｒ1/2)　粘性中、砂質粘土ブロック60%、砂質粘土粒20%
6　黒色土(10Ｙ Ｒ5/1)　粘性あり、砂質粘土粒多量混入
7　砂層
8　黒色土(10Ｙ Ｒ3/1)　粘性・しまりあり、砂質粘土ブロック80%
9　砂層





ＳＥ125　ＳＰＡ－Ｂ
1　黒色土(10Ｙ Ｒ2/1)　粘性・しまり強、地山ブロック、酸化植物痕
2　明黄褐色土(10Ｙ Ｒ6/6)　粘性・しまり強
3　黒色土(10Ｙ Ｒ2/1)　粘性・しまり強、植物繊維含
4　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/2)　粘性・しまり強、植物繊維含、地山ブロック
5　黒色土(10Ｙ Ｒ2/1)　粘性・しまりあり
6　黒色土(10Ｙ Ｒ3/1)　粘性・しまりあり、地山ブロック40%
7　黒色土(10Ｙ Ｒ2/1)　粘性・しまりあり、地山ブロック80%
8　黒色土(10Ｙ Ｒ5/1)　粘性強、地山ブロック５%
9　黒色土(10Ｙ Ｒ2/1)　粘性強
10　黒色土(10Ｙ Ｒ2/1)　粘性強、地山ブロック20%

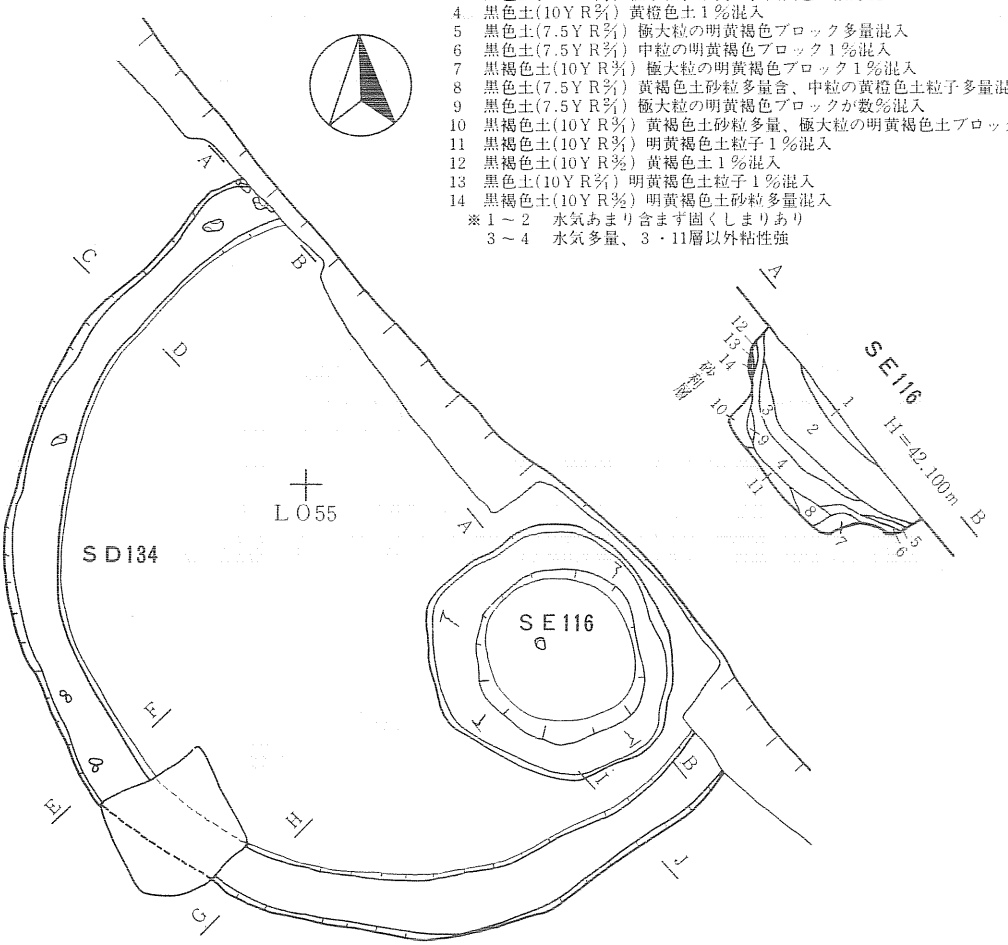


ＳＥ215　ＳＰＡ－Ｂ
1　黒色土(10Ｙ Ｒ2/1)　粘性・しまりあり　炭化物小粒２%、地山小～中粒10%
2　黒色土(10Ｙ Ｒ3/1)　粘性・しまりあり　地山小粒５%
3　黒色土(10Ｙ Ｒ3/1)　粘性・しまりあり　地山ブロック40%
4　黒色土(10Ｙ Ｒ3/1)　粘性・しまりあり　地山ブロック60%
5　黒色土(10Ｙ Ｒ3/1)　粘性・しまりあり　地山中粒５%
6　黒色土(10Ｙ Ｒ3/1)　粘性強・地山小粒２%

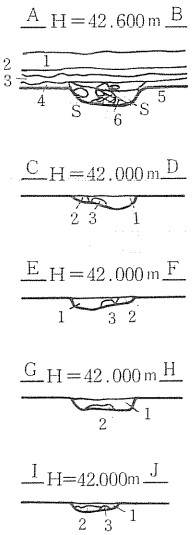
0　2m

第36図　ＳＥ086・088・125・215井戸跡

ＳＥ116　Ａ－Ｂ
1　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)　黄橙色粒子１％混入
2　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/2)　炭化物極大粒数％、黄橙色・黄褐色土少量混入
3　黒色土(10Ｙ Ｒ1/1)　粒子細、砂質土、浅黄色土数％混入
4　黒色土(10Ｙ Ｒ2/1)　黄橙色土１％混入
5　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)　極大粒の明黄褐色ブロック多量混入
6　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)　中粒の明黄褐色ブロック１％混入
7　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/1)　極大粒の明黄褐色ブロック１％混入
8　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)　黄褐色土砂粒多量含、中粒の黄橙色土粒子多量混入
9　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)　極大粒の明黄褐色ブロックが数％混入
10　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/1)　黄褐色土砂粒多量、極大粒の明黄褐色土ブロック多量
11　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/1)　明黄褐色土粒子１％混入
12　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/2)　黄褐色土１％混入
13　黒色土(10Ｙ Ｒ2/1)　明黄褐色土粒子１％混入
14　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/2)　明黄褐色土砂粒多量混入
※１～２　水気あまり含まず固くしまりあり
３～４　水気多量、３・11層以外粘性強



ＳＤ134



ＳＤ134　Ａ－Ｂ
1　黒褐色土(５Ｙ Ｒ3/1)　炭化物１％、小粒の石数％、草の根はびこる
2　黒褐色土(５Ｙ Ｒ3/1)　炭化物１％、明黄褐色土微粒１％混入
3　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)　炭化物１％、明黄褐色土微粒１％混入
4　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/2)　粒子細、粘性・しまりあり、炭化物中粒３％、地山小粒10％混入
5　黒褐色土(7.5Ｙ Ｒ3/2)　炭化物小粒数％、明黄褐色土ブロック多量、中粒ブロック数％
6　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/2)　明黄褐色土１％、土器極大粒混入、炭化物１％混入

ＳＤ134　Ｃ－Ｄ
1　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)　明黄褐色小～中粒が数％、炭化物中粒数％混入
2　にぶい黄橙色土（10Ｙ Ｒ6/4）ロームブロック・黒色土数％混入

ＳＤ134　Ｅ－Ｆ
1　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)　にぶい黄褐色土ブロック・明黄褐色土数％、炭化物小～大粒１％混入
2　灰黄褐色土(10Ｙ Ｒ4/2)　ロームブロック
3　にぶい黄褐色土(10Ｙ Ｒ6/4)　黒色土、明黄褐色土ブロック１％混入

ＳＤ134　Ｇ－Ｈ
1　黒色土(7.5Ｙ Ｒ)　にぶい黄橙色土小粒多量、大～極大粒数％、炭化物大粒多量
2　にぶい黄橙色土(10Ｙ Ｒ7/4)　ブロックと灰黄褐色(10Ｙ Ｒ4/2) ブロックの混合土

ＳＤ134　Ｉ－Ｊ
1　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)　にぶい黄橙色ブロック１％、炭化物小粒数％
2　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)　にぶい黄橙色ブロック数％
3　にぶい黄橙色土(10Ｙ Ｒ6/4)　ロームブロック

0　2m

第37図　ＳＥ116井戸跡、ＳＤ134溝状遺構

深さ６㎝～20㎝である。埋土は黒褐色を主体とし、２～５㎝大の礫を含む。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ004

Ｆ区のＫＱ14･15グリッドからＫＲ14･15グリッドにかけて東西に延びている。西は調査区外に延びている。規模は総延長2.26ｍ、幅13㎝～30㎝、深さ30㎝～50㎝である。埋土は黒褐色土を主体とし、黄褐色土シルトブロックを10％混入する。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ005

Ｆ区のＬＦ17グリッドからＬＥ22グリッドにかけて南北に延びている。ＳＤ008･ＳＸ016を切っており、南は調査区外に延びる。規模は総延長22.0ｍ、幅46㎝～90㎝、深さ２㎝～12㎝である。埋土は黒褐色土を主体とし、黄褐色土シルトブロックを少量混入する。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ006

Ｆ区のＬＣ･ＬＤ18グリッドからＬＣ･ＬＤ22グリッドにかけて南北に延びており、ＳＤ007に切られている。規模は総延長15.04ｍ、幅40㎝～50㎝、深さ４㎝～12㎝である。埋土は黒褐色土を主体とし、黄褐色シルトを少量混入する。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ007

Ｆ区のＬＣ18グリッドからＬＥ20グリッドにかけて東西に延びており、ＳＤ006を切っている。規模は総延長10.5ｍ、幅20.5㎝～40㎝、深さ８㎝～34㎝である。埋土は黒褐色土を主体とし、黄褐色シルトを混入する。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ008

Ｆ区のＬＤ20グリッドからＬＦ20グリッドにかけて延びている。ＳＸ016を切り、ＳＤ005によって切られている。規模は総延長11.5ｍ、幅30㎝～60㎝、深さ１㎝～12㎝である。埋土は黒褐色土の混合土もしくは黄褐色土シルトブロックを混入する。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ009

Ｆ区のＬＩ21グリッドから北へ9.8ｍ直進しそこで北西に曲がり、ＬＭ27グリッドまで延びている。規模は総延長23.0ｍ、幅30㎝～60㎝、深さ３㎝～14㎝で、礫層･シルト層を掘り込んで構築されている。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ027

Ｄ区のＬＪ42グリッドからＬＨ47グリッドまで北に延びて、調査区外にいたる。ＳＥ028、ＳＤ091、ＳＸ033と重複し、ＳＥ028、ＳＸ033より新しい。規模は総延長18.3ｍ、幅40cm～130cm、深さ８cm～12cmである。

遺物は石器やフレイク、土師器･須恵器が出土した。

ＳＤ029

Ｄ区のＬＫ42グリッドからＬＫ43グリッドにかけて延びている。ＳＡ274･ＳＫＩ030と重複しており、両遺構より新しい。規模は総延長8.4ｍ、幅25cm～45cmである。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ056　（第42･57図）

Ｄ区のＬＰ53グリッドからＬＱ53グリッドにかけて東西に延びている。北東端部はＳＡ222、ＳＢ170掘立柱建物跡の柱穴に一部壊され、北西はＳＫ138に切られている。南側に並行するＳＤ251がある。ＳＫ138から西に延びるＳＤ201と同一かもしれない。規模は総延長5.4ｍ、幅47cm～113cm、深さ９cm～18cmである。埋土には礫を多量に含んでいる。

遺物は縄文･弥生土器が、石器･フレイク、土師器･須恵器が出土した。

ＳＤ057　（第42図）

Ｄ区のＬＭ52グリッドからＬＭ53グリッドにかけて東西に延びている。規模は総延長3.9ｍ、幅45cm～90cm、深さ11cm～40cmである。埋土は黒･暗褐色土を主体とし、炭化物･ローム粒子20％混入する。

遺物は縄文･弥生土器、フレイク、土師器･須恵器が出土した。

ＳＤ070

Ｅ区のＬＲ36グリッドからＬＱ41グリッドにかけて延びている。規模は総延長22.8ｍ、幅50cm～70cm、深さ10cm～20cmである。埋土は砂質粘土粒を多量に混入する。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ071

Ｅ区のＬＰ38グリッドからＬＯ42グリッドにかけて南北に延びており、ＳＤ104によって切られている。規模は総延長9.1ｍ、幅30cm～80cm、深さ10cm～18cmである。埋土は黒色土を主体とし、砂質粘土ブロックを多量に混入する。

遺物はフレイクがわずかに出土した。

ＳＤ072

Ｅ区のＬＯ36グリッドからＬＰ39グリッドにかけてやや蛇行しながら南北に延びており、ＳＤ104につながる。規模は総延長11.8ｍ、幅60cm～80cm、深さ70cm～90cmである。埋土は黒色

土、にぶい黄橙色土を主体とし、砂質粘土ブロックを混入する。

遺物はフレイクがわずかに出土した。

ＳＤ073

Ｅ区のＬＯ35グリッドからＬＰ37グリッドにかけて延びている。規模は総延長8.0ｍ、幅20cm～30cm、深さ14cm～18cmである。埋土は黒色土･黒褐色土を主体としている。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ074

Ｅ区のＬＲ32グリッドからＬＲ36グリッドにかけて延びている。規模は総延長22.8ｍ、幅50cm～70cm、深さ30cm～50cmである。埋土は黒色土･にぶい黄橙色土を主体とし、砂質粘土ブロック･炭化物を混入する。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ075

Ｅ区のＬＱ31グリッドから北のＬＲ36グリッドにかけて延びている。規模は総延長10.7ｍ、幅62cm～84cmである。埋土は黒色土･にぶい黄橙色土を主体とし、粘土がブロック状に混入する。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ076

Ｄ区のＬＱ31グリッドから北のＬＱ33グリッドにかけて延びている。規模は総延長16.4ｍ、幅52cm～96cm、深さ14cm～33cmである。埋土は黒褐色･にぶい黄橙色砂質土を主体とし、粘土を多量に混入する。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ079　（第56図）

Ｃ区のＭＤ57グリッドからＭＣ60グリッドにかけて延びており、北西端でＳＤ168にぶつかる。規模は総延長12.1ｍ、幅10cm～16cm、深さ38cm～44cmである。埋土は黒色･黒褐色土を主体とし、炭化物粒子･地山ブロックが混入する。

遺物は縄文･弥生土器、フレイク、土師器･須恵器がわずかに出土した。

ＳＤ080

Ｄ区のＬＭ47グリッドからＬＬ47グリッドにかけて延びている。規模は総延長7.5ｍ、幅15cm～31cmである。遺物は出土しなかった。

ＳＤ087

Ｄ区のＬＬ41グリッドから北西のＬＬ42グリッドまで延び、そこから北東に折れＬＭ41グリッドの調査区外にいたる。ＳＥ088･ＳＤ089より新しい。規模は総延長6.4ｍ、幅25cm～30cm、

深さ７cm～11cmである。埋土は黒褐色土を主体としている。

遺物は縄文･弥生土器がわずかに出土した。

ＳＤ089　（第42図）

Ｄ区のＬＫ41グリッドからＬＮ42グリッドにかけて延びている。ＳＤ087、ＳＤ169に切られている。規模は総延長11.9ｍ、幅90cm～115cmである。埋土は黒褐色･灰黄褐色土を主体とし、炭化物･地山粒･地山の粒子を混入する。

遺物は縄文･弥生土器、フレイク、土師器･須恵器が出土した。

ＳＤ090

Ｅ区のＬＳ34グリッドに位置し、南北に延びている。規模は総延長2.8ｍ、幅52cm～62cm、深さ17cm～21cmである。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ091　（第42図）

Ｄ区のＬＨ45グリッドからＬＩ45グリッドにかけて延びており、ＳＸ033より新しい。規模は総延長6.7ｍ、幅35cm～50cmである。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ092　（第42図）

ＭＡ42グリッドを中心に、Ｅ区のＭＣ41グリッドからＤ区のＬＳ46グリッドにかけてＶ型に延び、ＳＬ323で止まる。

Ｄ区のＬＳ46グリッドから南西側Ｅ区ＭＡ42グリッドに延びて、ほぼ90°北西に折れＳＬ323の南端にいたる。規模は総延長23.2ｍ、幅76cm～124cm、深さ12cm～130cmである。埋土は黒色土系や灰白土を主体として、灰白色やロームのブロック、炭化物粒子が混入する

遺物は縄文･弥生土器、石器やフレイク、土師器･須恵器が少量出土した。

ＳＤ093

Ｅ区のＭＥ40グリッドからＭＥ39グリッドにかけて延びて、調査区外にいたる。

規模は総延長3.28ｍ、幅36cm～56cm、深さ82cm～86cmである。埋土は黒色土を主体として、地山ブロックが多く混入する。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ094

Ｅ区のＭＤ40グリッドからＭＥ43グリッドにかけて延びている。規模は総延長11.8ｍ、幅８cm～12cm、深さ80cm～90cmである。埋土の３層はにぶい黄褐色土に地山ブロックが多量に混入する。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ095

Ｅ区のＭＧ42グリッドからＭＧ43グリッドにかけて延びている。規模は総延長0.65ｍ、幅27㎝～33㎝である。埋土は黒色土を主体とし、地山粒子･地山ブロック･砂質粘土ブロックを多量に混入する。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ096

Ｅ区のＭＦ43グリッドからＭＧ43グリッドにかけて延びている。規模は総延長2.4ｍ、幅18㎝～32㎝、深さ19㎝～78㎝である。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ097

Ｅ区のＭＧ42グリッドでやや南西から北東にかけて延び、両端とも途中で切れている。規模は総延長1.22ｍ、幅17㎝～26㎝、深さ80㎝～91㎝である。

埋土は耕作土、黒色･黒褐色土を主体とし、地山ブロックが多く混入する。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ098

Ｅ区のＭＨ43グリッドに位置する。規模は総延長1.16ｍ、幅33㎝～68㎝、深さ73㎝～96㎝である。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ099　（第43図）

Ｄ区のＬＫ48グリッドからＬＫ49グリッドにかけて延び、ＳＸ084を切っている。規模は総延長4.8ｍ、幅55㎝～85㎝である。埋土は黒色･黒褐色･にぶい黄禮色土を主体とし、炭化物、地山粒･ローム粒子を混入する。

遺物は縄文･弥生土器、石器･フレイクが少量出土した。

ＳＤ104

Ｅ区のＬＯ38グリッドからＬＱ42グリッドにかけて延びている。ＬＱ42グリッドでＳＤ105を切りＳＤ108につながる。規模は総延長16.4ｍ、幅64㎝～108㎝、深さ10㎝～130㎝である。埋土は黒色土を主体とし、明黄褐色土を少量混入する。

遺物は縄文･弥生土器、石器･フレイクが少量出土した。

ＳＤ105

Ｅ区のＬＱ37グリッドからＬＰ42グリッドにかけて延びている。ＳＤ104に切られている。規模は総延長17.3ｍ、幅18㎝～68㎝、深さ６㎝～26㎝である。

遺物は弥生土器が出土した。

ＳＤ106

Ｃ区のＭＦ61グリッドからＭＤ64グリッドにかけて延びている。ＳＤ228・ＳＤ107と重複し、ＳＤ107より新しい。規模は総延長16.6ｍ、幅50cm～80cm、深さ10cm～144cmである。

遺物は縄文・弥生土器、石器・フレイク、土師器・須恵器がわずかに出土した。

ＳＤ107

Ｃ区のＭＥ57グリッドからＭＦ64グリッドにかけて延びている。ＳＤ106・ＳＤ228と重複する。規模は総延長31.2ｍ、幅50cm～100cm、深さ20cm～96cmである。

遺物は縄文・弥生土器が少量、フレイクが少量、土師器・須恵器がわずかに出土した。

ＳＤ108

Ｅ区のＬＰ42グリッドからＬＱ42グリッドにかけて延びている。規模は総延長6.1ｍ、幅24cm～152cmである。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ110　（第43図）

Ｄ区のＬＭ42グリッドから垂直に北から北西にかけて延びている。ＳＢ165・ＳＤ168と重複し、ＳＢ165より新しい。規模は総延長9.0ｍ、幅60cm～90cmである。埋土は黒色・黒褐色・にぶい黄褐色土を主体とし、炭化物・地山粒を混入する。

遺物は縄文・弥生土器、フレイク、土師器・須恵器が少量出土した。

ＳＤ119　（第43図）

Ｄ区のＬＮ50グリッドからＬＭ52グリッドにかけて延びている。ＳＫ118・ＳＫＩ120を切っている。規模は総延長9.0ｍ、幅60cm～100cm、深さ４cm～15cmである。

遺物は縄文・弥生土器が少量、フレイクが少量、土師器・須恵器が少量出土した。

ＳＤ121　（第64・81図、図版６）

Ｄ区のＬＳ46グリッドからＬＴ47グリッドにかけて延びている。ＳＸ184・195・196を切っている。規模は総延長6.7ｍ、幅60cm～110cm、深さ12cm～18cmである。埋土は黒色・黒褐色・にぶい黄褐色土を主体とし、炭化物若干、地山粒10～40％混入する。

遺物は縄文・弥生土器、フレイク、土師器・須恵器が少量出土した。

ＳＤ122　（第44・64・81図）

Ｄ区のＬＳ46グリッドに位置し、ＳＸ184に切られている。規模は総延長0.5ｍ、幅40cm～60cm、深さ６cm～14cmである。埋土は黒褐色土を主体とし、炭化物、地山ブロックを混入する。

遺物は弥生土器が出土した。

ＳＤ130　（第38図、図版６・38・48）

Ｄ区のＬＳ56・57グリッド、ＬＲ56・57グリッドに位置する。溝が環状に巡る遺構である。断

面形は「Ｕ」字形を呈する。ＳＫ132より古く、ＳＸ167･192より新しい。規模は外径5.5ｍ、内径4.5ｍ、幅43cm～56cm、深さ11cm～21cmである。埋土は黒色･黒褐色土を主体とし、地山粒５～10％、地山ブロック20～50％混入する。

遺物は縄文･弥生土器、石器･フレイク、土師器･須恵器が少量出土した。

ＳＤ134　（第37図、図版48）

Ｄ区のＬＮ54･55グリッドからＬＯ54･55グリッドに位置し、東側1/3強が調査区外であるが、溝が環状に巡る遺構と思われる。断面形は「Ｕ」字形を呈する。規模は外径 6.2ｍ、内径 5.3ｍ、幅40cm～50cm、深さ５cm～20cmである。埋土は黒色･黒褐色土、灰黄褐色･にぶい黄褐色土を主体とし、炭化物が混入する。

遺物は縄文･弥生土器、フレイク、土師器･須恵器が少量出土した。

ＳＤ150　（第44図）

Ｄ区のＬＯ42グリッドからＬＯ43グリッドにかけて延びている。規模は総延長1.8ｍ、幅25cm～30cm、深さ２cm～４cmである。埋土は黒褐色土を主体とし、地山粒10～30％混入する。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ151　（第44図）

Ｄ区のＬＯ43グリッドからＬＮ45グリッドにかけて延びている。規模は総延長5.8ｍ、幅40cm～90cm、深さ７cm～21cmである。褐色土系の埋土に黄褐色土･炭化物粒子がやや混入する。

遺物は珠洲系陶器が出土した。

ＳＤ157　（第34図）

Ｄ区のＬＯ49グリッドに位置する。規模は総延長1.0ｍ、幅30cm～40cm、深さ14cm～21cmである。

遺物は弥生土器、フレイクがわずかに出土した。

ＳＤ163

Ｃ区のＭＥ59グリッドからＭＦ64グリッドにかけて延びている。規模は総延長9.4ｍ、幅80cm～92cm、深さ60cm～88cmである。

遺物は縄文･弥生土器が多く、フレイク、土師器･須恵器が少量出土した。

ＳＤ166

Ｃ区のＭＤ60グリッドに位置する。規模は横3.6ｍ、縦3.0ｍ、幅10cm～30cm、深さ12cm～68cmである。埋土は黒褐色土を主体とし、地山ブロック、白色の地山土、炭化粒１％を混入する。遺物は石器がわずかに出土した。

ＳＤ168　（第44･45･56図、図版５）

Ｄ区のＬＰ43グリッドからほぼ垂直に北へ延び途中で折れ、さらに北西にかけて延びてい

る。規模は総延長52ｍ、幅45cm～140cm、深さ24cm～43cmである。埋土は黒色･黒褐色･暗褐色土を主体とし、炭化物中粒･ローム粒子･地山粒を混入する。

遺物は縄文･弥生土器、石器･フレイクが多く、土師器･須恵器がわずかに出土した。

ＳＤ169　（第34･44･45図、図版５・７）

Ｄ区のＬＰ43･ＬＯ43グリッドからＬＬ53グリッドにかけて延びている。ＳＸ153･160･216より新しい。規模は総延長40ｍ、幅140cm～200cm、深さ３cm～37cmである。褐色土系や黄褐色系の埋土を主体とし、炭化物･鉄分･ローム粒子を混入する。

遺物は縄文･弥生土器、石器･フレイク、土師器･須恵器が少量、中世陶器がごくわずか出土した。

ＳＤ191　（第45･46図）

Ｄ区のＬＴ61グリッドからＬＳ61グリッドにかけて延びている。規模は総延長2.6ｍ、幅50cm～60cmである。埋土は黒色土とにぶい黄褐色土を主体とし、地山粒を混入する。

遺物は縄文･弥生土器、フレイク、土師器･須恵器が少量出土した。

ＳＤ197　（第46図）

Ｄ区のＭＣ47グリッドからＭＣ48グリッドにかけて弧状に延びている。規模は総延長5.3ｍ、幅25cm～35cm、深さ18cm～20cmである。埋土は黒色土と黒褐色土を主体とし、地山粒が多く、炭化物がごく少量混入する。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ199　（第34･46図）

Ｄ区のＬＯ51グリッドに位置し、東西に延びている。ＳＤ169･ＳＸ319と重複し、ＳＸ319より古い。規模は総延長2.3ｍ、幅70cm～100cm、深さ９cm～26cmである。埋土は黒色土とにぶい黄褐色土を主体とし、黒色地山ブロック･地山粒が多く、黒色土がわずかに混入する。

遺物は縄文･弥生土器、フレイク、土師器･須恵器がわずかに出土した。

ＳＤ201　（第46図）

Ｄ区のＭＣ53グリッドからＬＲ53グリッドにかけて延び、ＳＸ138にぶつかりＳＤ201とＳＤ056との接点は不明である。ＳＤ168を切っている。ＳＤ056と同一かもしれないがＳＤ056のように礫は多量に含んでいない。ＳＸ138の接点で計測した規模は、総延長19.9ｍ、幅40cm～90cmである。埋土は黒色･黒褐色･褐色土を主体とし、炭化物１％、地山粒10～90％、焼土１％混入する。

遺物は縄文･弥生土器、フレイク、土師器･須恵器が少量出土した。

ＳＤ203　（第46図）

Ｄ区のＭＢ49グリッドからＬＳ49グリッドにかけて延びている。規模は総延長9.4ｍ、幅

40cm～70cm、深さ７cm～19cmである。埋土は黒色土と黒褐色土を主体とし、炭化物や地山粒子を混入する。

遺物は縄文･弥生土器、フレイクが少量出土した。

ＳＤ204　（第66図）

Ｄ区のＬＯ48グリッドに位置し、南東にかけて延びている。ＳＸ216･217に切られている。規模は総延長2.1ｍ、幅25cm～60cm、深さ25cm～28cmである。埋土は黒色土とにぶい黄褐色土を主体とし、地山土･黒色土がシミ状にやや混入する。

遺物は縄文･弥生土器、フレイク、土師器･須恵器がごくわずか出土した。

ＳＤ228

Ｃ区のＭＥ61グリッドからＭＦ61グリッドにかけて延びている。規模は総延長4.7ｍ、幅10cm～90cm、深さ20cm～100cmである。

遺物は弥生土器が出土した。

ＳＤ231

Ｃ区のＭＣ54グリッドから６ｍほど北西に延びて折れ、北へと延びている。規模は総延長14.3cm、幅28cm～66cm、深さ10cm～106cmである。

遺物は縄文･弥生土器、フレイク、土師器･須恵器、伊万里染付がわずかに出土した。

ＳＤ244

Ｄ区のＬＱ51グリッドからＬＰ51グリッドにかけて延びている。ＳＫ245･ＳＸ238と重複し、両遺構よりも新しい。規模は総延長3.97ｍ、幅55cm～66cm、深さ28cm～33cmである。

遺物は縄文･弥生土器、フレイク、土師器･須恵器がわずかに出土した。

ＳＤ246　（第47図）

Ｄ区のＬＰ47グリッドに位置する。規模は総延長2.7ｍ、幅45cm～60cm、深さ７cm～11cmである。

遺物は縄文･弥生土器が僅少、フレイクがわずかに出土した。

ＳＤ251　（第47図）

Ｄ区のＬＰ53グリッドからＬＱ53グリッドにかけて延びている。規模は総延長5.4ｍ、幅55cm～110cm、深さ７cm～９cmである。埋土は黒色土･にぶい黄褐色土を主体に、円礫･炭化物が多量に、地山･黒色灰がやや混入する。

遺物は縄文･弥生土器、石器･フレイク、土師器･須恵器がわずかに出土した。

ＳＤ260　（第47･57図）

Ｄ区のＬＳ50グリッドに位置し、東西に延びている。規模は総延長1.9ｍ、幅30cm～50cm、深さ11cm～23cmである。埋土は黒色土とにぶい黄褐色土を主体とし、地山５～30％、植

物繊維30％、炭化物５％、白色粘土ブロック15％を混入する。

遺物は縄文･弥生土器、フレイク、クルミがわずかに出土した。

ＳＤ269　（第68図）

Ｄ区のＬＰ57グリッドからＬＱ58グリッドにかけて延びている。規模は総延長6.2ｍ、幅18㎝～62㎝、深さ８㎝～47㎝である。埋土は黒褐色土･にぶい黄褐色土に地山･焼土･炭化物の粒子が混入する。

遺物は縄文･弥生土器、フレイク、中世陶器がわずかに出土した。

ＳＤ272

Ｃ区のＭＥ44グリッドに位置し、北東に延びている。ＳＤ296と重複し、ＳＤ296より新しい。規模は総延長2.8ｍ、幅38㎝～40㎝、深さ８㎝～９㎝である。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ279　（第39図、図版49）

Ｂ区のＭＩ45･46グリッド、ＭＪ45･46グリッドに位置し、東側1/3が調査区外であるが、溝がほぼ環状に巡る遺構と思われる。断面形が「Ｕ」字形を呈しており、規模は上面幅が最大122㎝、深さ16㎝～33㎝、外径7.95ｍ、内径6.05ｍの環状となっているものである。埋土は黒色土と黒褐色土を主体とし、炭化物･地山粒10～60％、小礫若干混入する。

遺物は縄文･弥生土器、フレイク、中世陶器がわずかに出土した。

ＳＤ281　（第40図、図版50･51）

Ｂ区のＭＯ57･58グリッドからＭＭ57･58グリッドにかけて延びている。溝が環状に巡る遺構である。ＳＸ312より新しく、ＳＸ313･315･321より古い。断面形が「Ｕ」字形を呈しており、規模は上面幅最大約156㎝、深さ16～26㎝の溝が、外径9.6ｍ、内径6.9ｍの環状となっているものである。埋土は黒色土を主体とし、炭化物･地山の粒子･ブロックがわずかに混入する。

遺物は弥生土器･フレイク･土師器･須恵器片が少量出土した。また南西部覆土中から大小の礫が約20個、集中して検出された。

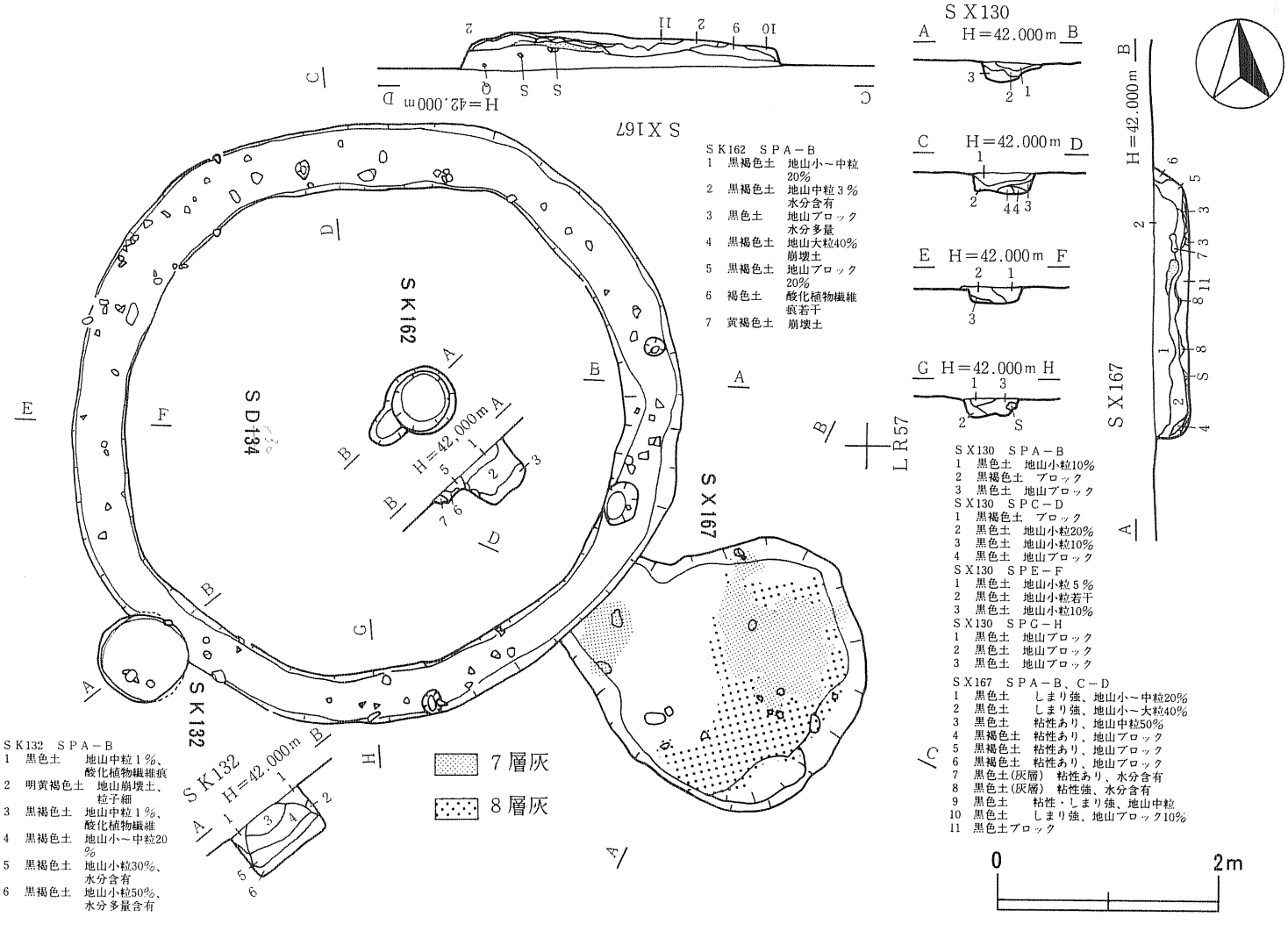
ＳＤ282　（第41図、図版50･51）

Ｂ区のＭＰ57･58、ＭＲ57･58グリッドに位置する。溝が環状に巡る遺構で、底面は礫層である。中心を南北にトレンチが入っている。断面形が「Ｕ」字形を呈しており、規模は上面幅84㎝、深さ７㎝～26㎝の溝が外径4.3ｍ、内径3.0ｍの環状となっているものである。埋土は黒色土と黒褐色土を主体とし、地山ブロック40％、地山粒子５％混入する。

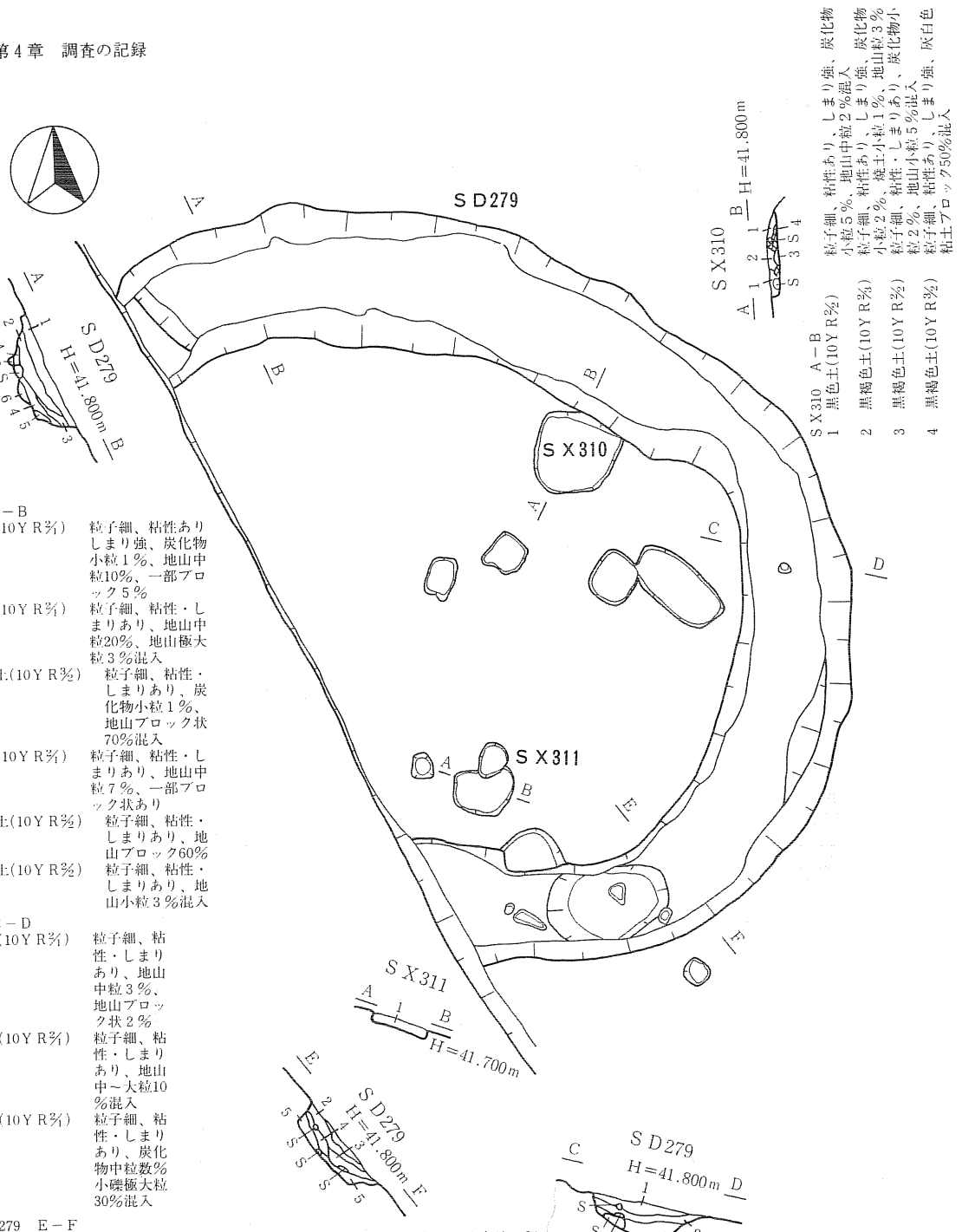
遺物は縄文･弥生土器、石器がわずかに出土した。

ＳＤ296

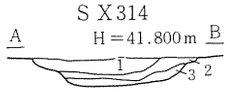
Ｃ区のＭＤ44グリッドに位置する。ＳＤ272より古い。規模は総延長3.4ｍ、幅28㎝～80㎝で



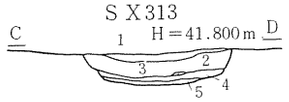
第38図　SD130溝状遺構、SK132・162土坑、SX167その他の遺構



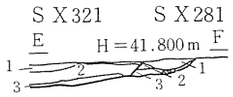
第39図　ＳＤ279溝状遺構、ＳＸ310・311その他の遺構



ＳＸ３１４　Ａ－Ｂ
1　黒色土（10ＹＲ3/1）　地山小粒３％、小礫中粒２％混入。
2　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　地山中粒５％、
3　黒色土（10ＹＲ3/1）　地山中粒10％、一部ブロック状、小礫極大粒20％混入。
※１～３　粒子細、粘性・しまりあり。

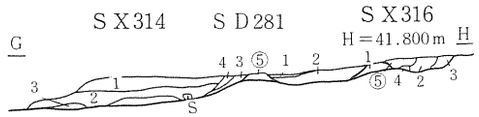


ＳＸ３１３　Ｃ－Ｄ
1　黒色土（10ＹＲ3/1）　炭化物中粒１％、地山中粒５％混入。
2　黒色土（10ＹＲ3/1）　地山小粒３％、一部ブロック状あり。
3　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　地山中粒、一部ブロック状あり、炭化物中粒１％混入。
4　黒色土（10ＹＲ3/1）　地山中粒２％混入。
5　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　地山小粒３％、一部ブロック状あり。
※１～５　粒子細、粘性・しまりあり。



ＳＤ２８１　Ｅ－Ｆ
1　黒色土（10ＹＲ3/1）　炭化物小粒１％、地山小粒３％混入。
2　黒色土（10ＹＲ3/1）　地山小粒２％
3　黒色土（10ＹＲ3/1）　地山中粒10％一部ブロック状あり、小礫数％混入。

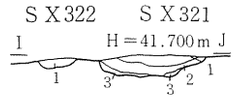
ＳＸ３２１　Ｅ－Ｆ
1　黒色土（10ＹＲ3/1）　炭化物中粒１％、地山小粒５％混入。
2　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　地山中粒10％、一部ブロック状。
3　黒色土（10ＹＲ3/1）　地山ブロック状40％混入。
※１～３　粒子細、粘性・しまりあり。



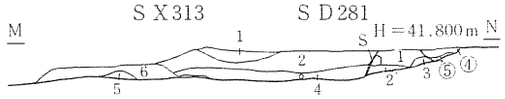
ＳＸ２８１　Ｇ－Ｈ
1　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　地山小粒20％混入
2　黒色土（10ＹＲ3/1）　炭化物小粒２％、地山小粒３％、小礫あり。
※１～２　粒子細、粘性・しまりあり。

ＳＸ３１４　Ｇ－Ｈ
1　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　地山小粒３％混入
※１～３・ＳＰＡ－Ｂと同じ。

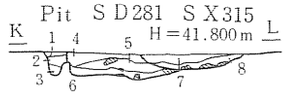
ＳＸ３１６　Ｇ－Ｈ
1　黒色土（10ＹＲ3/1）　炭化物小粒１％、地山小粒10％。
2　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　地山中粒20％混入。
3　黒色土（10ＹＲ3/1）　地山中粒５％混入。
4　黒色土（10ＹＲ3/1）　地山小粒３％混入。
※１～４　粒子細、粘性・しまりあり。



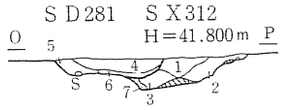
ＳＸ３２２　Ｉ－Ｊ
1　黒色土（10ＹＲ3/1）　粒子細、粘性・しまりあり、地山小粒20％、地山ブロック状５％。



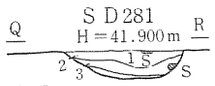
ＳＤ２８１
1　黒色土（10ＹＲ3/1）　炭化物中粒１％、地山粒５％混入。
2　黒色土（10ＹＲ3/1）　地山小粒３％、一部ブロック状あり。
3　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　地山中粒10％、一部ブロック状あり炭化物中粒１％混入。
④　黒色土（10ＹＲ3/1）　地山小粒２％混入。
⑤　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　地山小粒３％、一部ブロック状あり。
※ＳＸ３１３はＳＰＣ～ＳＰＯを参照。



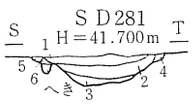
Ｐｉｔ・ＳＤ２８１・ＳＸ３１５　Ｋ－Ｌ
1　黒色土（10ＹＲ3/1）　炭化物小粒１％、地山小粒２％混入。
2　黒色土（10ＹＲ3/1）　粒子細、粘性あり、地山中粒５％混入。
3　黒色土（10ＹＲ3/1）　地山中粒３％混入。
4　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　炭化物中粒１％、地山小粒２％混入。
5　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　地山中粒40％、一部ブロック状あり。
6　黒色土（10ＹＲ3/1）　炭化物小粒２％、地山小粒５％混入。
7　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　地山中粒10％、炭化物小粒１％、地山ブロック状あり。
8　黒色土（10ＹＲ3/1）　地山中粒15％、一部ブロック状あり。
※　１・３～８　粒子細、粘性・しまりあり。



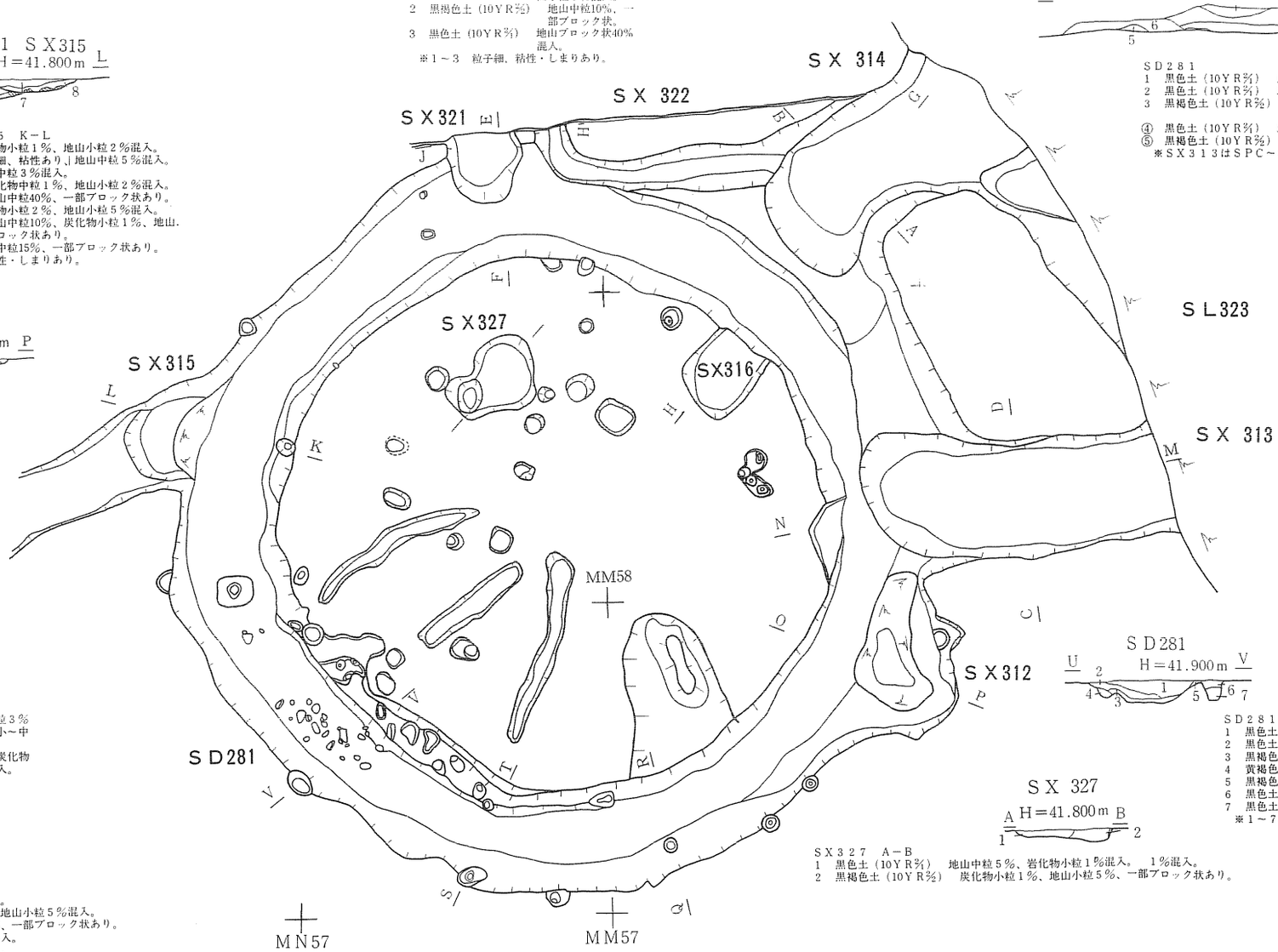
ＳＤ２８１・ＳＸ３１２　Ｏ－Ｐ
1　黒色土（10ＹＲ3/1）　炭化物小粒地山小粒２％
2　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　地山中粒20％、小礫極大粒１％
3　黒色土（10ＹＲ3/1）　地山中粒30％
4　黒色土（10ＹＲ3/1）　地山小粒５％
5　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　地山小粒20％、一部ブロックあり。
6　黒色土（10ＹＲ3/1）　地山ブロック状５％、炭化物小粒１％。
7　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　地山中粒50％混入。
※１～７　粒子細、粘性・しまりあり。



ＳＤ２８１　Ｑ－Ｒ
1　黒色土（10ＹＲ3/1）　炭化物中粒１％、地山粒３％
2　黒色土（10ＹＲ3/1）　炭火物中粒２％、地山小～中粒７％混入。
3　黒色土（10ＹＲ3/1）　地山粒小～大粒20％、炭化物小粒数％、小礫数％混入。
※１～３　粒子細、粘性・しまりあり。



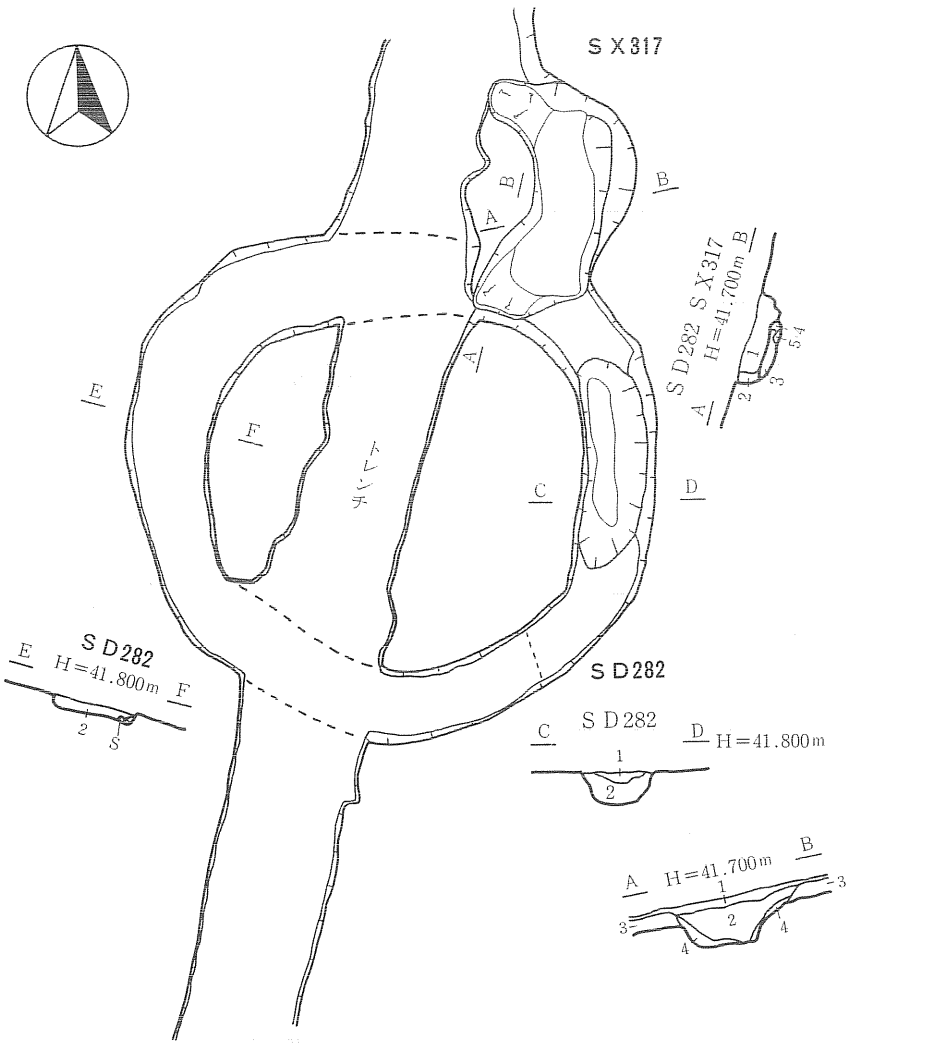
ＳＤ２８１　Ｓ－Ｔ
1　黒色土（10ＹＲ3/1）　地山小粒３％混入。
2　黒色土（10ＹＲ3/1）　炭化物中粒２％、地山小粒５％混入。
3　黒色土（10ＹＲ3/1）　地山小～中粒20％、一部ブロック状あり。
4　里褐色土（10ＹＲ3/2）　地山中粒50％混入。
5　黒色土（10ＹＲ3/1）　地山中粒30％混入。
6　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　地山ブロック状あり。
※１～６　粒子細、粘性・しまりあり。



ＳＤ２８１　Ｕ－Ｖ
1　黒色土（10ＹＲ3/1）　炭化物小粒１％、地山小粒５％混入。
2　黒色土（10ＹＲ3/1）　地山中粒５％、一部ブロック状あり。
3　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　地山小粒20％、ブロック状10％混入。
4　黄褐色土（10ＹＲ5/6）　砂質
5　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　地山中粒７％混入。
6　黒色土（10ＹＲ3/1）　地山中粒７％混入。
7　黒色土（10ＹＲ3/1）　地山ブロック状５％混入。
※１～７粒子細、粘性・しまりあり

ＳＸ３２７　Ａ－Ｂ
1　黒色土（10ＹＲ3/1）　地山中粒５％、岩化物小粒１％混入。　１％混入。
2　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　炭化物小粒１％、地山小粒５％、一部ブロック状あり。

第40図　ＳＤ281溝状遺構、ＳＸ312～316・321・322・327その他の遺構



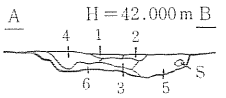
ＳＤ282　ＳＰＣ－Ｄ
1　黒褐色土(10ＹＲ3/1)　粘性・しまり有
2　黒色(10ＹＲ2/1)　粘性・しまり有、地山粒子５％混入

ＳＤ317　ＳＤＡ－Ｂ
1　黒褐色土(10ＹＲ2/2)　粘性・しまり有、ベトベトした土
2　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性・しまり有、地山大～大粒20％混入
3　黒褐色(10ＹＲ3/2)　粘性・しまり有、地山大粒40％混入
4　暗褐色土(10ＹＲ3/3)　粘性・しまり有、地山中粒20％、黒色土20％混入

0　2m

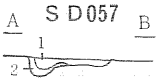
第41図　ＳＤ282溝状遺構、ＳＸ317その他の遺構

ＳＤ056



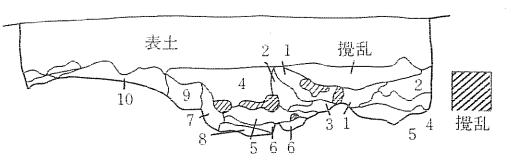
ＳＤ５６　ＳＰＡ－Ｂ
1　黒褐色土（10ＹＲ3/3）　粘性なし、しまり中、炭化物混入、地山小～大粒５％、砂質土30%混入
2　黒色土（10ＹＲ2/1）　粘性あり、しまり良、地山小粒１％
3　黒色土（10ＹＲ2/1）　粘性なし、しまりなし、地山小～大粒30%、砂質土30%混入
4　黒色土（10ＹＲ2/1）　粘性あり、しまりなし、炭化物混入、地山小～大粒７％
5　黒色土（10ＹＲ2/1）　粘性あり、しまり良、炭化物混入、地山ブロック径20mm５％
6　にぶい黄褐色土（10ＹＲ5/3）粘性あり、しまり良、黒色土がシミ状に10%

ＳＤ057



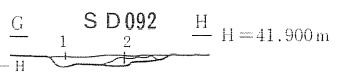
ＳＤ５７　ＳＰＡ－Ｂ
1　黒褐色土（7.5ＹＲ3/1）　粘性中、しまり強、炭化物小粒混入
2　暗褐色土（10ＹＲ3/4）　粘性中、しまり中、ローム粒子20%

ＳＤ089



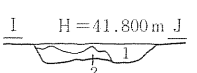
ＳＤ８９　ＳＰＥ－Ｆ
1　黒色土（10ＹＲ2/1）　粒子細、粘性・しまりあり、地山ブロック５％
2　黒色土（10ＹＲ2/1）　粒子細、粘性弱、しまりあり、炭化物小粒１％、地山ブロック10%
3　黒色土（10ＹＲ2/1）　粒子細、粘性・しまり強、炭化物中粒１％、地山中粒30%
4　黒色土（10ＹＲ2/1）　粒子細・粘性あり、しまり強、炭化物小粒１％、地山小粒10%
5　黒色土（10ＹＲ2/1）　粒子細、粘性あり、しまりなし、地山中粒15%
6　黒色土（10ＹＲ2/1）　粒子細、粘性強、しまりなし、地山ブロック50%
7　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　粘性・しまりあり、粒子細、地山中粒一部ブロック50%
8　灰黄褐色土（10ＹＲ4/2）　粒子細、粘性強、しまりなし、地山中粒10%
9　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　粒子細、粘性・しまりあり、地山ブロック80%
10　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　粒子細、粘性・しまりあり、地山粒90%（撹乱か？）

ＳＤ092



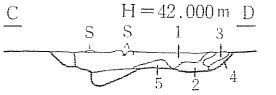
ＳＤ９２　ＳＰＧ－Ｈ
1　黒褐色土（10ＹＲ3/3）　粒子細、粘性あり、しまり強、炭化物中粒２％、地山中性10%
2　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）　粒子細、粘性あり、しまり強

ＳＤ092



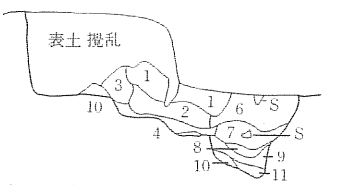
ＳＤ９２　ＳＰＩ－Ｊ
1　黒褐色土（10ＹＲ3/3）　粒子細、粘性あり、しまり強、炭化物中粒２％、地山中粒10%
2　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）　粒子細、粘性あり、しまり強

ＳＤ056



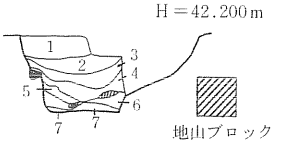
ＳＤ５６　ＳＰＣ－Ｄ
1　黒色土（10ＹＲ2/1）　粘性あり、しまり良、炭化物混入、地山小～極大粒一部ブロック状で15%
2　黒褐色土（10ＹＲ3/3）　粘性あり、しまり不良、地山小～大粒一部ブロック状で40%
3　黒褐色土（10ＹＲ3/3）　粘性あり、しまりなし、地山小～大粒７％
4　にぶい黄褐色土（10ＹＲ5/4）　粘性あり、しまり良、黒色土がシミ状に20%混入
5　にぶい黄褐色土（10ＹＲ5/4）　粘性あり、しまり中、黒褐色土がシミ状に30%混入

ＳＤ089



ＳＤ８９　ＳＰＣ－Ｄ
1　黒色土（10ＹＲ2/1）　粒子細、粘性・しまりあり、地山ブロック１％
2　黒色土（10ＹＲ2/1）　粒子細、粘性あり、しまりなし、炭化物小粒１％、地山小粒10%
3　黒色土（10ＹＲ2/1）　粒子細、粘性あり、しまりなし、炭化物小粒１％、地山極大粒10%
4　黒色土（10ＹＲ2/1）　粒子細、粘性あり、しまりなし、炭化物小粒１％、地山ブロック10%
5　黒色土（10ＹＲ2/1）　粒子細、粘性若干、しまりなし、地山中粒５％
6　黒色土（10ＹＲ2/1）　粒子細、粘性あり、しまりなし、地山小～中粒40%
7　黒色土（10ＹＲ2/1）　粒子細、粘性中、しまりなし、地山小～中粒30%
8　黒色土（10ＹＲ2/1）　粘性細、粘性強、しまりなし、地山ブロック径10mm20%
9　国色土（10ＹＲ2/1）　粒子細、粘性強、しまりなし、地山ブロック50%
10　黒色土（10ＹＲ2/1）　粒子細、粘性強、しまりあり、地山ブロック80%
11　黒色土（10ＹＲ2/1）　粒子細、粘性あり、しまりなし、地山中粒10%

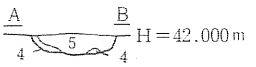
ＳＤ089



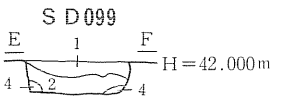
ＳＤ８９　ＳＰＩ－Ｊ
1　黒色土（10ＹＲ2/1）　粒子細、粘性・しまりあり、炭化物小粒１％、地山小粒10%
2　黒色土（10ＹＲ2/1）　粒子細、粘性・しまりあり、地山ブロック中粒20%
3　黒色土（10ＹＲ2/1）　粒子細、粘性強、しまりなし、地山小～大粒10%
4　黒色土（10ＹＲ2/1）　粒子細、粘性強、しまりなし、地山小～中粒７％
5　黒色土（10ＹＲ2/1）　粒子細、粘性強、しまりなし、地山中～極大20%
6　黒色土（10ＹＲ2/1）　粒子細、粘性強、しまりなし、地山大粒10%
7　砂層（10ＹＲ4/1）　しまりあり、水分含む、極小粒

0　1m

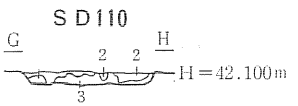
第42図　Ｄ区溝状遺構（ＳＤ）土層断面図－１－



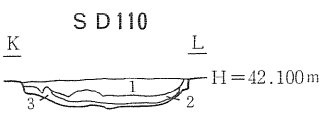
SD99　SPA-B
4　黒褐色土(10YR3/3)　粘性あり、しまり良
5　黒褐色土(10YR3/2)　粘性あり、しまり良、ローム粒子ブロック５％混入



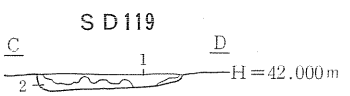
SD99　SPE-F
1　黒色土(10YR2/1)　粘性あり、しまり良
2　黒色土(10YR2/1)　粘性あり、しまり良、酸化30%混入炭化物数%混入
4　黒褐色土(10YR3/3)　粘性あり、しまり良



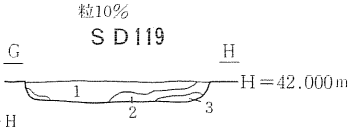
SD110　SPG-H
1　黒褐色土(10YR3/2)　粘性弱、しまり強、地山粒20%
2　黒褐色土(10YR2/2)　粘性弱、しまり強、地山粒10%
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性弱、しまり強、暗褐色土１％



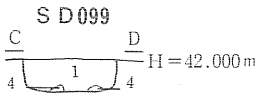
SD110　SPK-L
1　黒色土(10YR2/1)　粘性弱、しまり強、炭化物中粒数%含む、地山粒１％
2　黒褐色土(10YR2/2)　粘性弱、しまり強、３cm大の石含む地山粒10%
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性弱、しまり強



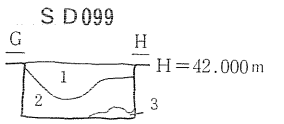
SD119　SPC-D
1　黒色土(10YR2/1)　粘性若干、しまり良、炭化物７％、地山小粒２％
2　黒褐色土(10YR2/2)　粘性あり、しまりなし、地山小～大粒10%



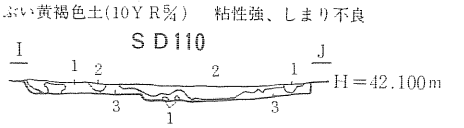
SD119　SPG-H
1　黒色土(10YR2/1)　粘性若干、しまり良、炭化物７％、地山小粒２％
2　黒色土(10YR2/1)　粘性若干、しまり良、地山小～極大粒30%
3　にぶい黄褐色土(10YR5/1)　粘性なし、しまり良、黒色土にじむように混入



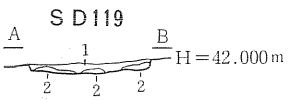
SD99　SPC-D
1　黒色土(10YR2/1)　粘性あり、しまり良
4　黒褐色土(10YR3/3)　粘性あり、しまり良



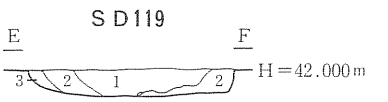
SD99　SPG-H
1　黒色土(10YR2/1)　粘性あり、しまり良
2　黒色土(10YR2/1)　粘性あり、しまり良、酸化30%混入炭化物数%混入
3　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性強、しまり不良



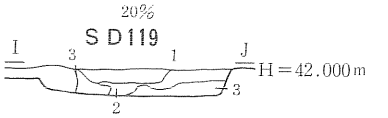
SD110　SPI-J
1　黒褐色土(10YR3/2)　粘性弱、しまり強、地山粒１％
2　黒褐色土(10YR3/3)　粘性弱、しまり強、炭化物中粒含む地山粒10%
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性弱、しまり強



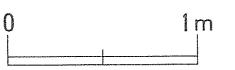
SD119　SPA-B
1　黒色土(10YR2/1)　粘性若干、しまり良、炭化物３％、地山小～中粒20%、地山ブロック状混入
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性あり、しまり良、黒色土10%にじむように混入



SD119　SPE-F
1　黒色土(10YR2/1)　粘性若干、しまり良、炭化物７％、地山小粒２％
2　黒色土(10YR2/1)　粘性あり、しまり良、地山小粒10%
3　黒褐色土(10YR3/2)　粘性若干、しまり良、地山小～中粒20%

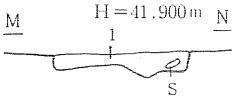


SD119　SPI-J
1　黒色土(10YR2/1)　粘性若干、しまり良、炭化物７％、地山小粒２％
2　黒色土(10YR2/1)　粘性・しまりあり、地山小～大粒10%
3　黒色土(10YR2/1)　粘性若干、しまり良、地山小～極大粒30%



第43図　D区溝状遺構(ＳＤ)土層断面図－２－

ＳＤ122

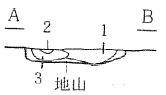


ＳＤ122　ＳＰＭ-Ｎ
1　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/3)　粒子細、粘性あり、しまり強、炭化物小～大粒２%、地山ブロック70%

ＳＤ150

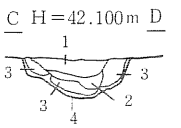
ＳＤ150　ＳＰＡ-Ｂ
1　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/2)　粘性あり、しまり中、地山粒10%
2　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/2)　粘性あり、しまり中、地山粒30%
3　地山

ＳＤ151



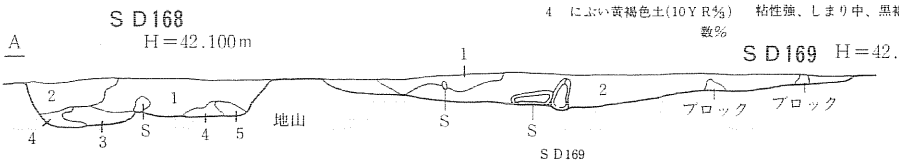
ＳＤ151　ＳＰＡ-Ｂ
1　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/2)　粘性あり、しまり強、炭化物小粒・灰黄褐色土５%混入
2　灰黄褐色土(10Ｙ Ｒ4/2)　粘性弱、しまり強、炭化物小粒１%混入
3　暗褐色土(10Ｙ Ｒ3/4)　粘性あり、しまり強、にぶい黄褐色土30%混入

ＳＤ151



ＳＤ151　ＳＰＣ-Ｄ
1　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/2)　粘性あり、しまり強、地山粒１%
2　暗褐色土(10Ｙ Ｒ3/3)　粘性あり、しまり強、にぶい黄褐色土20%
3　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2/3)　粘性弱、しまり強、炭化物小粒、地山粒数%
4　にぶい黄褐色土(10Ｙ Ｒ5/3)　粘性強、しまり中、黒褐色土数%

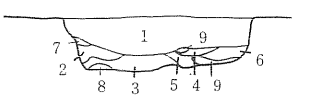
ＳＤ168



ＳＤ168　ＳＰＡ－Ｂ
1　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/2)　粘性中、しまり強、ローム小～中粒子５%、明黄褐色土中粒子・炭化物中粒数%含
2　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/2)　粘性中、しまり強、炭化物中粒数%、ローム粒子３%
4　褐色土(10Ｙ Ｒ4/4)　粘性中、しまり中、ローム粒子30%
5　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2/3)　粘性中、しまり強、ローム30%

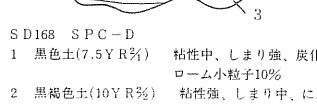
ＳＤ169
1　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/2)　粘性弱、しまり強、炭化物小粒１%赤みがかった褐色土10%、粘性が弱いためザラザラしている
2　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/2)　粘性弱、しまり強、炭化物中粒30%全体的に中ローム粒子含

ＳＤ168



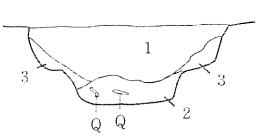
ＳＤ168　ＳＰＥ－Ｆ
1　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)　粘性弱、しまり強、ローム小～中粒子金搬　暗赤褐色粒子、長さ５cm、幅５mm状に４～５本入る
2　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/2)　粘性強、しまり中
3　暗褐色土(10Ｙ Ｒ3/3)　粘性強、しまり中、ローム粒子30%
4　暗褐色土(10Ｙ Ｒ3/4)　粘性・しまり中、黒褐色土中塊10%
5　にぶい黄褐色土(10Ｙ Ｒ5/2)　粘性強、しまり中、黒褐色土10%
6　黒色土(10Ｙ Ｒ2/1)　粘性・しまり中、暗褐色土20%
7　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2/1)　粘性中、しまり強、ローム粒子１%
8　にぶい黄褐色土(10Ｙ Ｒ5/4)　粘性強、しまり中、ローム粒子30%
9　明黄褐色土(10Ｙ Ｒ6/6)　粘性・しまり中、４層土部砂状、最下部粘性強

ＳＤ168



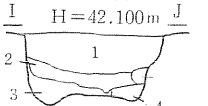
ＳＤ168　ＳＰＣ－Ｄ
1　黒色土(7.5Ｙ Ｒ2/1)　粘性中、しまり強、炭化物中粒30%ローム小粒子10%
2　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/2)　粘性強、しまり中、にぶい黄褐色土暗褐色土各約10%
3　暗褐色土(10Ｙ Ｒ3/4)　粘性強、しまり中、地山粒30%

ＳＤ168



ＳＤ168　ＳＰＧ－Ｈ
1　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/2)　粘性中、しまり強、ローム粒子数%、暗赤褐色土５%
2　黒褐色土(7.5Ｙ Ｒ3/2)　粘性強、しまり弱、ローム中粒子数%、暗赤褐色土１%、径５cm石２個
3　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/2)　粘性強、しまり中、明黄褐色ローム粒子25%、炭化物小粒１%

ＳＤ168

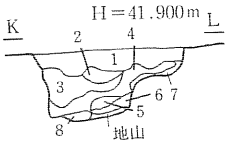


ＳＤ168　ＳＰＩ－Ｊ
1　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/2)　粘性弱、しまり強、ローム小粒子数%、褐色土粒子３%、炭化物数%
2　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3/2)　粘性中、しまり強、ローム中粒子数%、褐色土粒子数%
3　明黄褐色土(10Ｙ Ｒ6/6)　粘性弱、しまり強、地山面層に黒褐色土10%
4　黒褐色土(7.5Ｙ Ｒ3/2)　粘性・しまり中、ローム粒子なし、褐色土粒子数%

0　1m

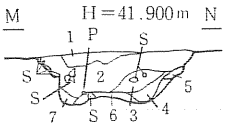
第44図　Ｄ区溝状遺構（ＳＤ）土層断面図－３－

SD168



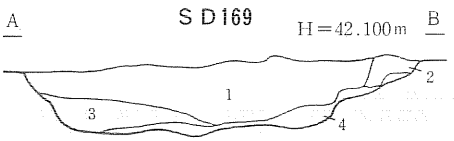
SD168　SPK－L
1　黒色土(7.5YR2/1)　粘性弱、しまり強、暗赤褐色土20%、明黄褐色土5%、細かい土器片が数片
2　黒褐色土(7.5YR2/2)　粘性中、しまり強、暗赤褐色土30%
3　黒褐色土(10YR2/2-3/2)　粘性中、しまり強、ローム中粒子数%、暗赤褐色土5%
4　黒褐色土(10YR3/2)　粘性中、しまり強、ローム粒子40%
5　黒色土(10YR2/1)　粘性強、しまり中、ローム粒子数%
6　暗褐色土(10YR3/3)　粘性・しまり中、ローム中粒子数%
7　地山
8　褐色土(7.5YR4/6)　粘性強、しまり中、地山粒10%

SD168



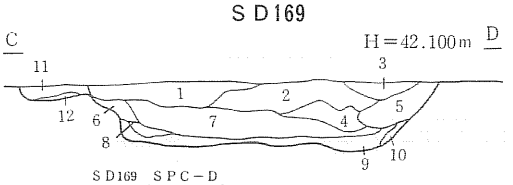
SD168　SPM－N
1　黒色土(7.5YR2/1)　粘性弱、しまり強、暗赤褐色土5%
2　黒褐色土(10YR2/2)　粘性中、しまり強、炭化物小粒数%、明褐色土粒子1%
3　黒褐色土(10YR3/3)　粘性弱、しまり強、灰黄色土15%
4　黒褐色土(7.5YR3/2)　粘性中、しまり強、暗赤褐色土5%
5　暗褐色土(10YR3/4)　粘性中、しまり強、炭化物1%
6　地山
7　暗褐色土(10YR3/3)　粘性中、しまり強、暗赤褐色土5%

SD169



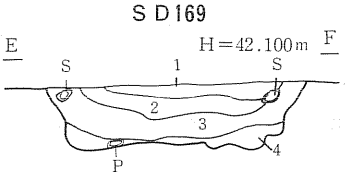
SD169　SPA－B
1　黒褐色土(10YR3/1)　粘性中、しまり強、炭化物中粒数%ローム粒子含む暗褐色土20%
2　黒褐色土(10YR3/2)　粘性中、しまり強、炭化物小粒数%ローム粒子含む暗褐色土30%
3　黒褐色土(10YR3/2)　粘性強、しまり中、炭化物1%、ローム粒子含む暗褐色土
4　黒褐色土(10YR3/3)　粘性中、しまり強、ローム粒子5%

SD169



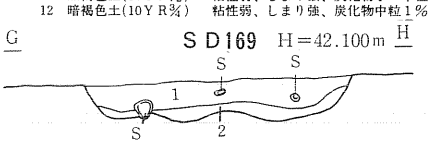
SD169　SPC－D
1　黒褐色土(10YR2/2)　粘性弱、しまり強、炭化物小粒・鉄分混合粒子数%、黄褐色土10%
2　明黄褐色土(10YR6/6)　粘性弱、しまり強、炭化物中粒混入
3　黒褐色土(10YR2/3)　粘性弱、しまり強、ローム粒子・暗褐色土1%
4　黒色土(10YR2/1)　粘性中、しまり強、炭化物・鉄分混合粒子数%
5　黒褐色土(10YR3/3)　粘性・しまり中、ローム粒子10%
6　暗褐色土(10YR3/3)　粘性・しまり中、鉄分混合粒子数%
7　にぶい黄褐色土(10YR3/3)　粘性強、しまり中、黒褐色土約20%
8　黒褐色土(10YR3/2)　粘性強、しまりなし、赤褐色粒5mm混入
9　黒褐色土(10YR3/3)　粘性強、しまりなし、ローム粒子含炭化物中粒
10　暗褐色土(10YR3/3)　粘性・しまり中、明褐色土鉄分混合粒子10%
11　黒褐色土(10YR2/2)　粘性弱、しまり強、炭化物小～中粒30%
12　暗褐色土(10YR3/3)　粘性弱、しまり強、炭化物中粒1%

SD169



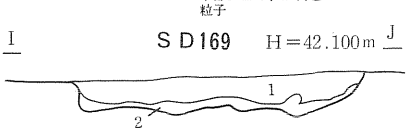
SD169　SPE－F
1　黒褐色土(10YR2/2)　粘性弱、しまり強
2　黒褐色土(10YR2/3)　粘性中、しまり強、にぶい黄褐色土5%
3　黒褐色土(10YR2/2)　粘性・しまり中、にぶい黄褐色土4割、炭化物小～中粒1%
4　黒褐色土(10YR3/1)　粘性強、しまり中、炭化物中粒数%、左下部土器片、黒褐色粒子

SD169



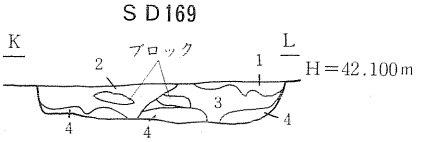
SD169　SPG－H
1　黒褐色土(10YR3/1)　粘性中、しまり強、炭化物中粒30%鉄分混合粒子数%、ローム粒子3%
2　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　粘性・しまり中、黒褐色土10%、ローム粒子5%、明褐色土中粒子数%

SD169



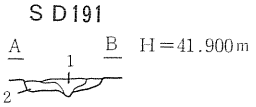
SD169　SPI－J
1　黒褐色土(10YR3/1)　粘性中、しまり強、炭化物小粒・ローム粒子・赤褐色土大粒混入
2　暗褐色土(10YR3/3)　粘性強、しまり中、にぶい黄褐色土10%

SD169



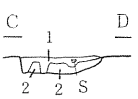
SD169　SPK－L
1　黒褐色土(10YR2/2)　粘性中、しまり強、ローム粒子1%
2　黒色土(10YR2/1)　粘性・しまり中、炭化物小粒、幅20cmロームブロック(粘性弱、しまり強)鉄分含む微粒子
3　黒褐色土(10YR3/1)　粘性弱、しまり強、ロームブロック鉄分混合粒子数%
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性・しまり中、炭化物含む黒褐色土10%

SD191

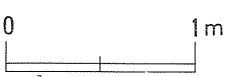


SD191　SPA－B
1　黒色土(10YR2/1)　粘性あり、しまり良、地山小～大粒10%、炭化物混入
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性あり、しまり良、黒色土シミ状に10%混入

SD191

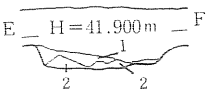


SD191　SPC－D
1　黒色土(10YR2/1)　粘性あり、しまり良、地山小～大粒10%、炭化物混入
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性あり、しまり良、黒色土シミ状に10%混入



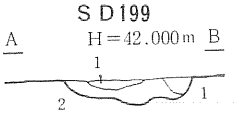
第45図　D区溝状遺構(SD)土層断面図－4－

ＳＤ191



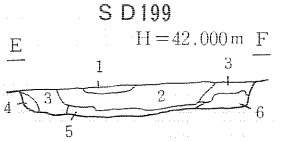
ＳＤ191　ＳＰＥ－Ｆ
1　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性あり、しまり良、地山小～大粒10%、炭化物混入
2　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5/4)　粘性あり、しまり良、黒色土シミ状に10%混入

ＳＤ199



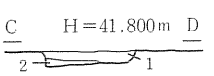
ＳＤ199　ＳＰＡ－Ｂ
1　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性あり、しまり良、地山中粒１%
2　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性あり、しまり良、地山小～極大粒10%・シミ状に40%

ＳＤ199



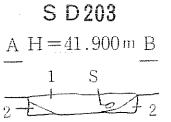
ＳＤ199　ＳＰＥ－Ｆ
1　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性あり、しまり良、地山小粒１%
2　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性あり、しまりなし、地山小～大粒30%、一部ブロック状
3　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性あり、しまり不良、地山中粒１%
4　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5/4)　粘性あり、しまり中、黒色土シミ状に20%
5　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性あり、しまり良、地山小～大粒７%、一部ブロック状
6　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5/4)　粘性・しまりあり、黒色土ブロック状に50%

ＳＤ201



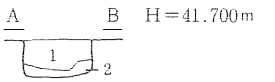
ＳＤ201　ＳＰＣ－Ｄ
1　黒褐色土(10ＹＲ3/3)　粒子細、粘性・しまりあり、炭化物小粒１%、地山中粒10%
2　褐色土(10ＹＲ4/6)　粒子細、粘性中、しまり強、酸化赤変

ＳＤ203



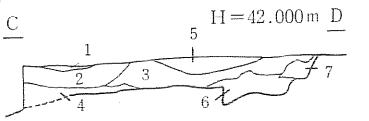
ＳＤ203　ＳＰＡ－Ｂ
1　黒褐色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまり強、地山小～大粒５%
2　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粒子細、粘性あり、しまり強

ＳＤ197



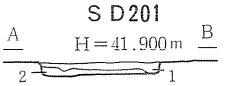
ＳＤ197　ＳＰＡ－Ｂ
1　黒褐色土(10ＹＲ3/1)　粒子細、粘性あり、しまり強、地山小粒30%、炭化物中粒２%
2　黒色土(10ＹＲ2/1)　粒子細、粘性・しまりあり、地山中粒20%、一部ブロック状

ＳＤ199



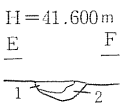
ＳＤ199　ＳＰＣ－Ｄ
1　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性あり、しまり良、地山小粒１%
2　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性あり、しまりなし、地山小～大粒30%、一部ブロック状
3　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性あり、しまり不良、地山中粒１%
4　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性あり、しまり良、地山小～大粒７%、一部ブロック状
5　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性あり、しまり良、地山小～中粒３%、一部ブロック状
6　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5/4)　粘性なし、しまり良、黒色土シミ状に10%
7　にぶい黄褐色土(10ＹＲ4/3)　粘性あり、しまり良、黒色土シミ状に15%

ＳＤ201



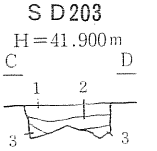
ＳＤ201　ＳＰＡ－Ｂ
1　黒褐色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性・しまりあり、炭化物小粒１%、地山小～中粒10%、焼土中粒１%
2　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5/4)　粒子細、粘性・しまりあり、地山ブロック90%

ＳＤ201

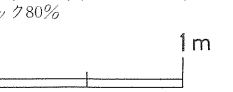


ＳＤ201　ＳＰＥ－Ｆ
1　黒褐色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまりなし、地山ブロック30%
2　黒褐色土(10ＹＲ2/3)　粒子細、粘性あり、しまりなし、炭化物小粒、地山小粒10%

ＳＤ203

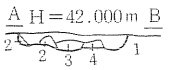


ＳＤ203　ＳＰＣ－Ｄ
1　黒色土(10ＹＲ2/1)　粒子細、粘性あり、しまり強、炭化物小粒１%、地山ブロック10%
2　黒褐色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性・しまりあり、地山中粒５%、一部ブロック状
3　黒褐色土(10ＹＲ3/1)　粒子細、粘性中、しまりあり、地山ブロック80%



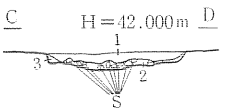
第46図　Ｄ区溝状遺構（ＳＤ）土層断面図－５－

ＳＤ246



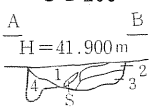
ＳＤ246　ＳＰＡ－Ｂ
1　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性あり、しまり良、地山小～大粒・極大ブロック状30%
2　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5/4)　粘性なし、しまり良、黒色土シミ状に７%
3　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性あり、しまり不良、地山小～大粒10%
4　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粘性あり、しまり良、黒色土20%

ＳＤ251



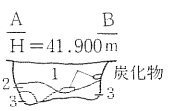
ＳＤ251　ＳＰＣ－Ｄ
1　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性あり、しまり良、地山小～大粒５%、炭化物30%
2　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性あり、しまり不良、径10～50mm大円礫80%
3　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5/4)　粘性あり、しまり良、黒色土シミ状に20%

ＳＤ260



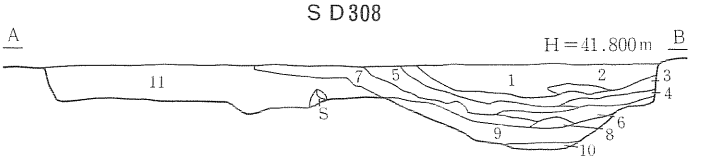
ＳＤ260　ＳＰＡ－Ｂ
1　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性あり、しまり良、地山小～極大粒７%、酸化した植物繊維30%
2　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性あり、しまり良、地山小～中粒10%、にぶい黄褐色土シミ状に20%
3　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5/4)　粘性なし、しまり良
4　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5/4)　粘性あり、しまりなし、黒色土シミ状に30%

ＳＤ260北側Pit



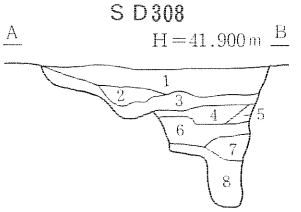
ＳＤ260北側Ｐｉｔ　ＳＰＡ－Ｂ
1　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性あり、しまり中、地山小～極大粒10%、炭化物大粒５%、酸化植物繊維30%
2　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性あり、しまり不良、地山中粒30%炭化物大～極大粒10%
3　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5/4)　粘性なし、しまり良、黒色土２%、白色粘土ブロック径５～30mm15%

ＳＤ308



ＳＤ308　ＳＰＡ－Ｂ
1　黒色土(7.5ＹＲ2/1)　しまりかたく良、明黄褐色小～中粒・炭化物数%、酸化鉄１%混入
2　黒色土(7.5ＹＲ1/1)　粒子細、しまりあり、明黄褐色小粒・炭化物数%混入
3　黒色土(7.5ＹＲ1/1)　粒子細、しまりあり、明黄褐色小粒・植物遺体数%
4　黒色土(7.5ＹＲ2/1)　やや粘質、しまりあり、灰白色小～中粒・酸化鉄数%
5　黒褐色土(7.5ＹＲ3/1)　粘質土、しまりあり、明黄褐色小粒１%、浅黄色小～中粒・ブロック(径１～２cm)・酸化鉄各数%
6　黒色土(7.5ＹＲ2/1)　しまりあり、明黄褐色小粒・浅黄色極小粒・酸化鉄・植物遺体各数%
7　黒色土(7.5ＹＲ2/1)　しまりあり、明黄褐色小粒・植物遺体・酸化鉄各数%、浅黄色ブロック(径１cm)１ケ
8　黒褐色土(7.5ＹＲ3/1)　粘質土、しまりあり、明黄褐色小粒・浅黄色小粒・植物遺体各数%
9　黒褐色土(7.5ＹＲ3/1)　粘質土、しまりあり、明黄褐色小～中粒・浅黄色粒各数%、植物遺体・酸化鉄各１%
10　黒褐色土(7.5ＹＲ3/1)　砂利１%混入する砂質土、明黄褐色ブロック(径１cm)１ケ
11　黒褐色土(7.5ＹＲ2/1)　しまりかたく良、明黄褐色中粒・炭化物各数%、酸化鉄１%

ＳＤ308



ＳＤ308
1　黒色土(7.5ＹＲ2/1)　しまりかたく良、浅黄色小～中粒・炭化繊維・酸化鉄数%
2　黒色土(7.5ＹＲ2/1)　しまりかたく良、浅黄色小粒・酸化鉄１%
3　黒褐色土(7.5ＹＲ3/1)　粘性あり、浅黄色小粒数%、ブロック・酸化鉄・炭化物各１%
4　黒褐色土(7.5ＹＲ3/1)　粘性あり、浅黄色ブロック、明緑灰色ブロックが主体をなす、酸化鉄・炭化物数%
5　黒褐色土(7.5ＹＲ3/1)　粘性・しまりあり、明緑灰色小粒・酸化鉄１%、ブロック２ケ
6　黒褐色土(7.5ＹＲ3/2)　しまりあり、明黄褐色微粒・炭化微粒・酸化鉄数%、植物遺体30%
7　黒色土(7.5ＹＲ1/1)　粘質土、明緑灰色ブロック(径２cm)２ケ、酸化鉄数%
8　黒色土(7.5ＹＲ1/1)　粘性・しまりあり、明緑灰色中粒・砂粒各１%、ブロック２ケ、植物遺体、酸化鉄数%

0　1m

第47図　Ｄ区溝状遺構(ＳＤ)土層断面図－６－

ある。

遺物は縄文･弥生土器がわずかに出土した。

ＳＤ303　（第70図）

Ｂ区のＭＨ44グリッドに位置し、南北に延びている。規模は総延長2.7ｍ、幅36cm～92cm、深さ72cm～108cmである。埋土は黒色土を主体とし、炭化物１％、地山粒５％混入する。遺物は縄文･弥生土器、石器がわずかに出土した。

ＳＤ305　（第70図）

Ｂ区のＭＩ45グリッドに位置し、東西に延びている。規模は総延長2.48ｍ、幅24cm～60cm、深さ24cm～32cmである。埋土は黒褐色土を主体とし、地山ブロック70％を混入する。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ308　（第47図）

Ｄ区のＬＱ･ＬＲ･ＬＳ･ＬＴ43グリッドからＭＢ･ＭＣ44グリッドにかけて北西～東に延びている。規模は総延長22.6ｍ、幅55cm～190cm、深さ11cm～74cmである。埋土は黒色土と黒褐色土を主体とし、炭化物･地山ブロック、砂がわずかに混入する。

遺物は縄文･弥生土器、石器･フレイクや、土師器･須恵器、中世陶器がわずかに出土した。

７．旧河川　（第48～50図、付図１～３、６図版９～14･22～24）

ＳＬ323

Ｅ区を源とし、Ａ･Ｂ･Ｃ区間を北流していたと想定される旧河川である。河岸には、本遺構名の由来となった『手取清水』の跡も含まれている。河幅は12～22ｍ、深さは60～80cmである。河底はほぼ平坦で、河岸は緩やかに立ち上がる。

埋土中からは縄文･弥生土器、土師器･須恵器、鳥形･斉串等の祭祀用具、文字資料(墨書土器･木簡･将棋の駒)、漆器･下駄･鋤などを含む木製品が多数、古銭が１点出土した。

ＳＬ324

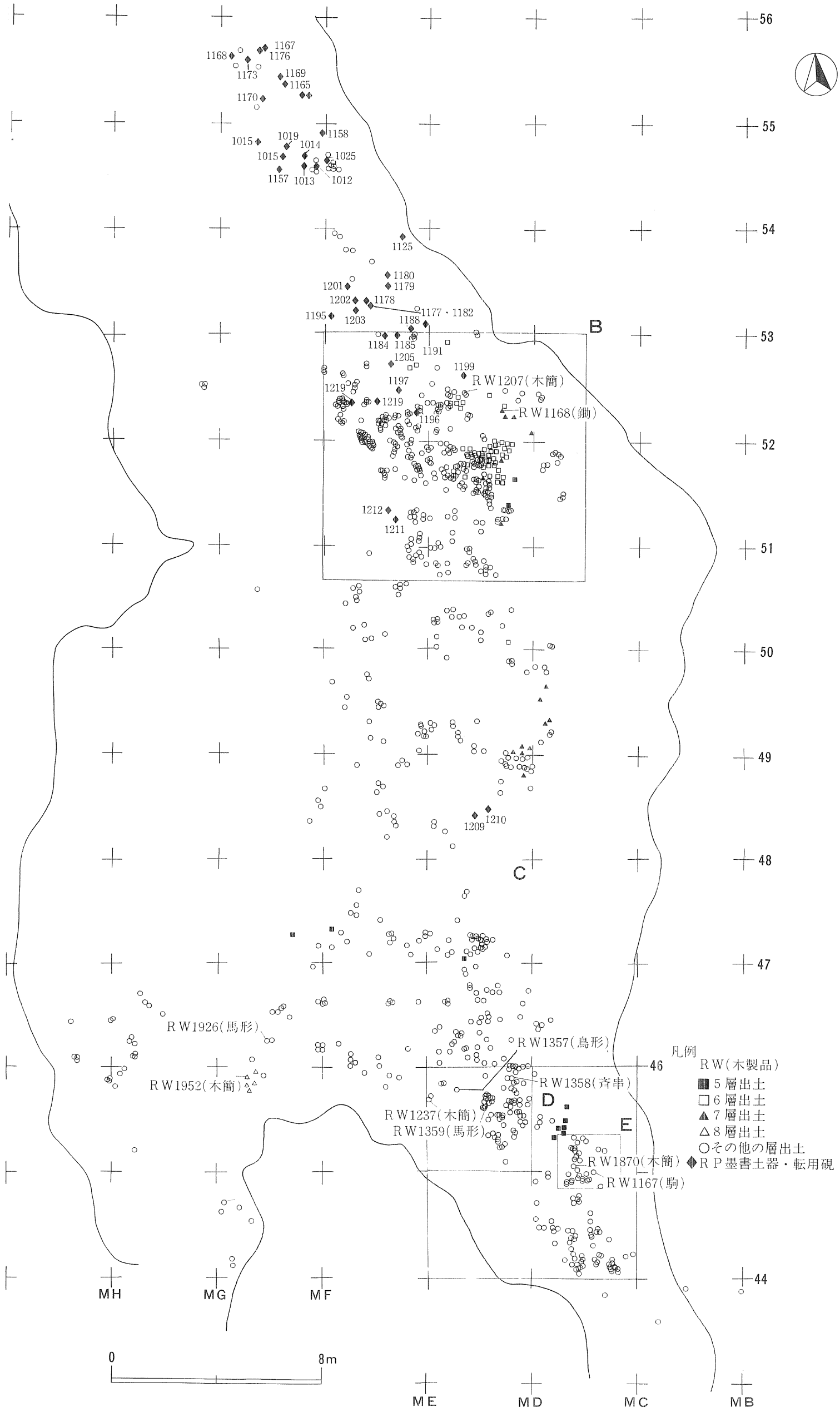
Ａ区北西端のＮＨ70グリッド～ＮＬ73グリッド付近に位置する。南西から流れ込んでＳＬ323の下流で合流している。地形や土層断面図などからはＳＬ323との境は明確にできなかったが、深さは約１ｍほどである。

埋土中からは縄文･弥生土器、土師器･須恵器･墨書土器、木製品、古銭が出土した。

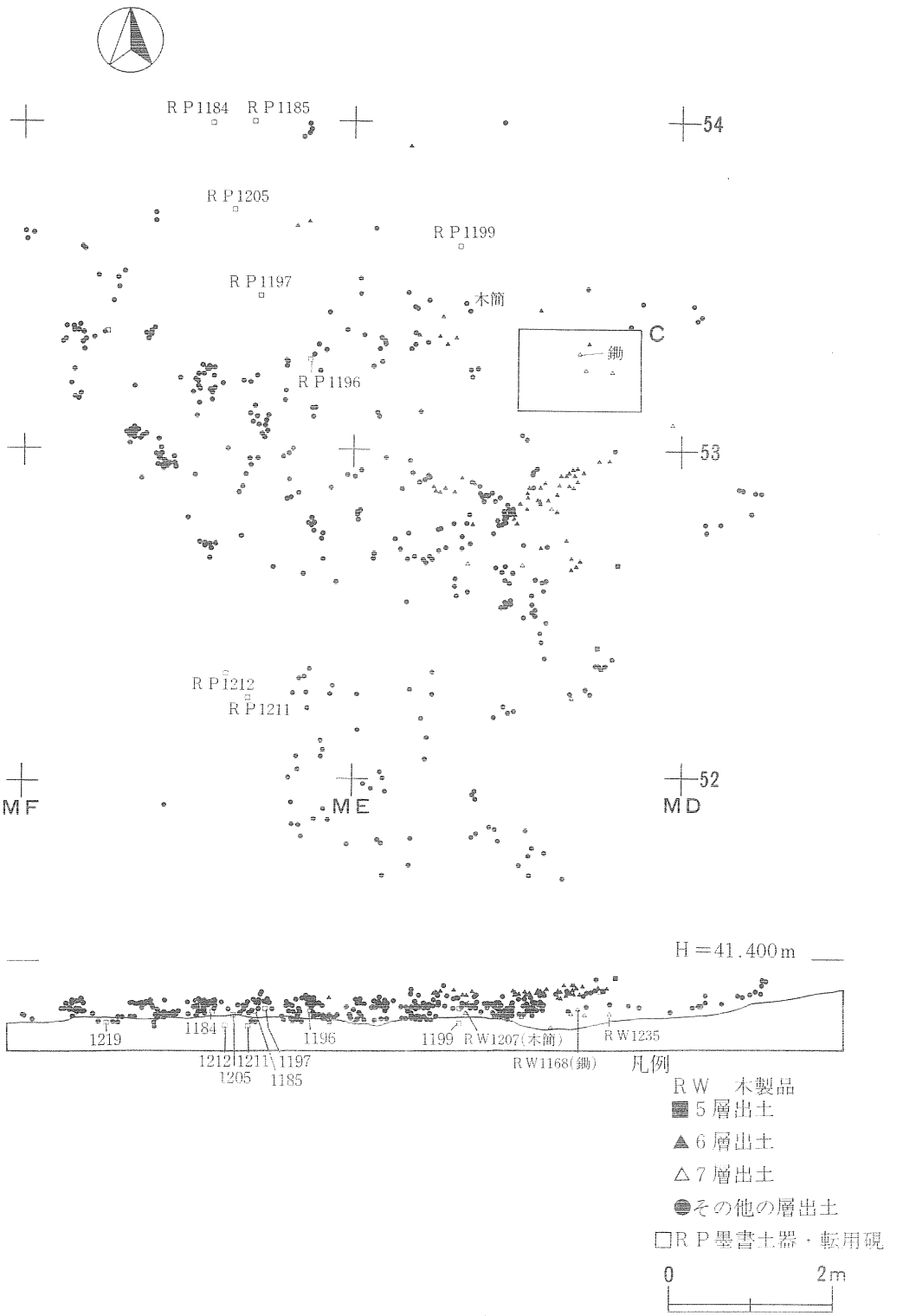
ＳＬ325

Ａ区の中央部西端のＮＤ65グリッド～ＮＦ67グリッドに位置する。南西から流れ込んで、ＳＬ323の下流で合流している。ＳＬ323との境は明確でない。

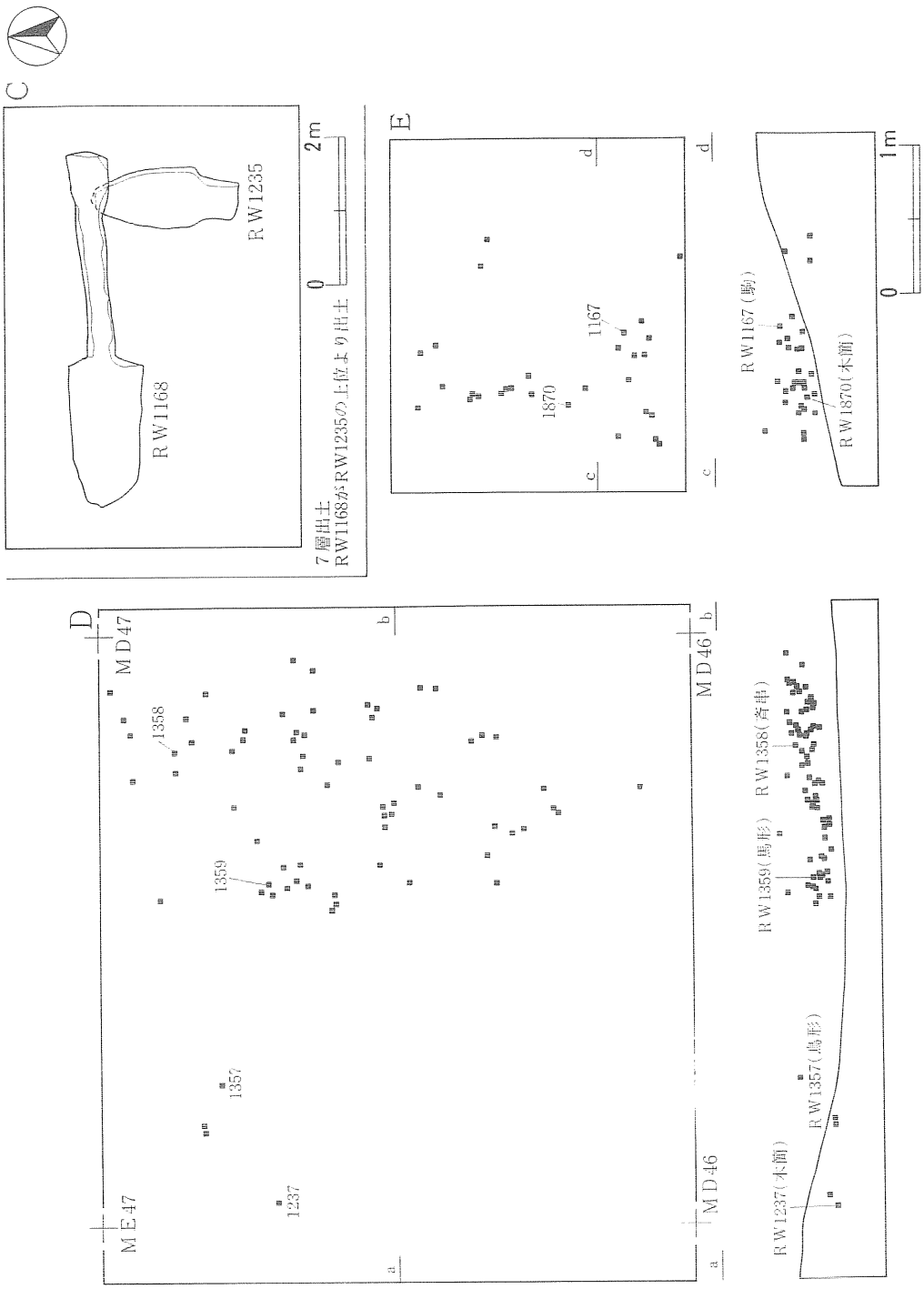
埋土中からは縄文･弥生土器、土師器･須恵器、木製品が出土した。



第48図　旧河川遺物出土状況図－2－
（SL323－C区）



第49図　旧河川遺物出土状況図－３－
（ＳＬ323-Ｃ区）〔Ｂ部分の拡大〕



第50図　旧河川遺物出土状況図-4-(ＳＬ323-Ｃ区-)〔Ｃ～Ｅ部分の拡大〕

ＳＬ326

Ｂ区中央部のやや西寄りで、ＳＤ282の北隣、ＭＳ58グリッド付近に位置する。南西から流れ込んでＳＬ323にほどなく合流する。規模はＭＳ58グリッド付近で河幅約４ｍであるが、その境は明確ではない。

埋土中からは縄文･弥生土器、土師器･須恵器がわずかに出土した。

８．土　坑

ＳＫ010　（第51図）

Ｆ区のＬＣ14グリッドで検出した。平面形は円形で、遺構の規模は坑口部径48cm×50cm、坑底部径39cm、深さ15cmである。底面は平坦で、壁は緩く立ち上がる。中央部東寄りに径７cm×８cmの落ち込みがあるが、共伴か攪乱かは不明である。

埋土は黒色土の単一層で地山粒子を少量混入する。南側は攪乱を受けている。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ011　（第51図）

Ｆ区のＬＣ20･21グリッドで検出した。平面形は円形で、遺構の規模は坑口部径82cm×85cm、坑底部径60cm×66cm、深さ15～20cmである。底面は小さな起伏があるが、全体的に平坦で、東から西にかけて緩く傾斜する。壁は西側で垂直に立ち上がり、東側では緩い。

埋土は２層に分層した。黒褐色土を主体に地山ブロックを少量混入する。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ012　（第52図）

Ｆ区のＬＥ･ＬＦ21グリッドで検出した。南側がＳＸ016と切り合っているため、全体の形態は不明であるが、平面形は楕円形を呈すると思われる。遺構の規模は坑口部114cm、坑底部84cm、深さ15～24cmである。底面は全体的に平坦であるが、北東部に最大深部があるため、その方向に緩く傾斜している。南西壁際の落ち込みは攪乱である。壁は南西側がほぼ垂直に立ち上がり、他は緩く立ち上がった後に一旦段をもちながら開口部に移行する。

埋土は２層に分層した。黒褐色土で地山ブロックを多く混入する。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ013　（第51図）

Ｆ区のＬＩ22グリッドで検出した。ＳＫ018より新しい。平面形は略円形で、遺構の規模は坑口部径80cm×85cm、坑底部径46cm×72cm、深さ20～25cmである。底面は中央に向かって緩く傾斜する。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

埋土は黒褐色土の単一層で、径２～７cmの礫を含むが、特に確認面のほぼ中央部に集中する。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ017　（第51図）

Ｆ区のＬＩ22グリッドで検出した。ＳＫ018より古い。平面形は円形で、遺構の規模は坑口部径48cm×50cm、坑底部径35cm×36cm、深さ12cmである。底面は平坦で、壁は緩く立ち上がる。　埋土は２層に分層した。１層は黒色土、２層は黒褐色土で、下層に径２～５cmの礫が少量混入する。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ018　（第51図）

Ｆ区のＬＩ22グリッドで検出した。ＳＫ017より新しく、ＳＫ013より古い。平面形は隅丸方形で、遺構の規模は坑口部141cm×214cm、坑底部127cm×179cm、深さ７cm～10cmである。底面は平坦で、壁はかなり緩く立ち上がる。

埋土は黒褐色土の単一層で、径２～３cmの礫を多く混入する。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ024　（第51図）

Ｄ区のＬＪ44グリッドで検出した。平面形は長楕円形で、遺構の規模は坑口部116cm×235cm、坑底部93cm×206cm、深さ10～17cmである。底面は南東部で緩く起伏しながら、そのまま壁に移行し、北西部は平坦で壁もほぼ垂直に立ち上がる。

埋土は黒褐色土の単一層で地山ブロックを混入する。中央北壁寄りの柱穴はＳＡ273であり、南壁寄りでも柱穴１基を検出したが、どちらも本遺構より古いものである。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ025　（第51図、図版52）

Ｄ区のＬＩ・ＬＪ46グリッドで検出した。平面形は略円形で、遺構の規模は坑口部径65cm×72cm、坑底部径37cm×44cm、深さ22cmである。底面は平坦で、壁は北東側ではほぼ垂直に立ち上がり、南東側ではやや緩く立ち上がる。

埋土は２層に分層した。黒褐色土が主体で、地山粒子及び焼土粒を少量混入する。

遺物は縄文･弥生土器がやや、フレイクが僅少出土した。

ＳＫ032　（第35図）

Ｄ区のＬＫ･ＬＬ45グリッドで検出した。ＳＥ031に切られているため全容は不明であるが、平面形は楕円形で、遺構の規模は坑口部62cm、坑底部46cm、深さ７cm～11cmである。底面は平坦で、壁の立ち上がりは緩い。

埋土は黒色土の単一層で下位ににぶい黄橙色土のブロックが混入している。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ036　（第53図）

Ｃ区のＭＣ･ＭＤ55グリッドで検出した。平面形は不整形で、遺構の規模は坑口部103㎝×164㎝、坑底部87㎝×148㎝、深さ17㎝である。底面は緩い起伏があるが、全体的には平坦である。また、５基のピット状の落ち込みがあるが、共伴か攪乱かは不明である。

埋土は９層に分層した。９層の灰白色粒子を除いて黒褐色土、黒色土を主体とし、炭化物、地山粒を微量混入する。６～９層は北東部寄りの埋土であるが、ブロック状を呈することから人為的堆積がうかがえる。１～５層は自然堆積であろう。

遺物は縄文･弥生土器が少量、フレイクがやや出土した。

ＳＫ037　（第53図）

Ｃ区のＭＣ54･55グリッドで検出した。本遺構の南西部に位置するＳＫ082を壊して構築されている。平面形は不整楕円形で、遺構の規模は坑口部132㎝×178㎝、坑底部122㎝×172㎝、深さ20㎝～29㎝である。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。北東部に不整形の落ち込みと浅いピット状の落ち込みがあるが、供伴か攪乱かは不明である。

埋土は７層に分層した。黒褐色土･黒色土を主体とし、炭化物･地山ブロックを混入する自然堆積を呈する。

遺物は縄文･弥生土器がやや、フレイクが少量、土師器･須恵器が少量出土した。

ＳＫ040　（第53図）

Ｄ区のＬＴ50･51で検出した。平面形は円形で、遺構の規模は坑口部径88㎝、坑底部径79㎝、深さ15㎝～23㎝である。底面は中央部に向かって緩く傾斜し、壁は南東側が垂直に立ち上がり、他は緩く立ち上がる。

埋土はすべて黒色土であるが、地山ブロックの混入量が下層ほど多くなることから、３層に分層した。また、小礫を少量混入する。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ043　（第54図）

Ｄ区のＬＲ55グリッドで検出した。平面形は不整形で、遺構の規模は坑口部88㎝×118㎝、坑底部65㎝×110㎝、深さ16㎝～19㎝である。底面はほぼ平坦であるが、南東部で円形に緩く凹むところがある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

埋土は６層に分層した。１･２層は炭化物を混入する黒色土、３～６層は地山ブロックを主体とする黒色土で自然堆積と思われる。

遺物は縄文･弥生土器が多く、フレイクがやや出土した。

ＳＫ059　（第55図、図版52）

Ｄ区のＭＢ47グリッドで検出した。フラスコ状土坑である。遺構の規模は坑口部90㎝×100

cm、頸部47×59cm、坑底部60cm×70cm、深さ60cmである。底面は中央部に向かって緩く傾斜し、礫層に達している。頸部の張り出しはそれほど顕著ではなく、特に南西部は崩壊が著しい。

埋土は３層に分層した。２層を除いて黒褐色土が主体で、１層は粘性･しまり･混入物からさらに２層に細分可能である。全体的に炭化物を微量混入するが、３層はその他に地山粒、小礫を混入し、土器片も含む。

遺物は縄文･弥生土器がやや、フレイクが僅少、土師器･須恵器が僅少出土した。

ＳＫ064　（第55図、図版53）

Ｂ区のＭＫ51･52グリッドで検出した。平面形は楕円形で、遺構の規模は坑口部152cm×182cm、坑底部90cm×132cm、深さ26cmである。底面は緩い起伏にとみ、そのまま壁に移行する。したがって壁はかなり緩い立ち上がりを呈する。

埋土は４層に分層した。４層の黒褐色土を除いて他は黒色土である。黒色土は混入物によりさらに１～３層に細分できる。１層は混入物がほとんどなく、２層は地山ブロックが多量、３層は地山ブロックが少量混入する。一見自然堆積を呈するが、混入物、遺物の出土状況から人為的堆積と思われる。１・４層は自然堆積であろう。

遺物は土師器片が３層上面および３層中にて一括出土している。縄文･弥生土器が少量、土師器･須恵器が僅少出土した。

ＳＫ066　（第55図、図版54）

Ｂ区のＭＫ･ＭＬ51グリッドで検出した。平面形は円形で、遺構の規模は坑口部径130cm×132cm、坑底部径136cm×140cm、深さ22cm×30cmである。底面は平坦で中央から壁に向かって緩く傾斜する。壁は開口部に向かってオーバーハングする。

埋土は７層に分層した。５～７層は壁の崩落土と考えられる。１～４層は黒色土であるが、混入物によりさらに細分できる。２・４層は地山粒の混入が多く、１・５～７層を除く２～４層は人為的堆積と思われる。

遺物は２・３層から５点の土器片を番号を付して取り上げた。

ＳＫ082　（第53図）

Ｃ区のＭＣ54グリッドで検出した。南部が水路により、北部がＳＫ037により切られているため全容は不明であるが、平面形は楕円形を呈すると思われる。遺構の規模は坑口部62cm×85cm、坑底部25cm×25cm、深さ19cm～23cmである。底面は北東部に段をもち、壁は緩く立ち上がると思われる。

埋土は５層に分層した。黒色土を主体とし、地山ブロックを若干混入する。９･13層はやや砂質を帯び径1.5cm～２cmの砂利を混入する。全体的に自然堆積を呈する。

遺物は縄文･弥生土器が少量、フレイクが少量、土師器･須恵器が僅少出土した。

ＳＫ083　（第53図）

Ｃ区のＭＣ54グリッドで検出した。ＳＫ037と切り合っているが新旧関係は不明である。平面形は楕円形を呈すると思われる。遺構の規模は坑口部110cm、坑底部95cm、深さ７cm×15cmである。底面はやや起伏があり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

埋土は不明である。

遺物は縄文･弥生土器が僅少、フレイクが少量、土師器･須恵器が僅少出土した。

ＳＫ085　（第55図、図版54）

Ｄ区のＬＬ51グリッドで検出した。ＳＫＩ120の南東隅部に位置し、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、遺構の規模は坑口部56cm×73cm、坑底部44cm×65cm、深さ13cm～16cmである。底面は緩い起伏があり、壁は北東部が垂直に立ち上がり、他は緩く立ち上がる。

埋土は２層に分層した。１層は黒色土で骨片、炭化物、焼土粒を混入し、特に炭化物が多い。２層は骨片を多量に混入する黒色土で、炭化物を若干混入する。本遺構は土坑墓と考えられるが、埋土の状況および壁･底面が焼けていないことから、他で火葬された後、本遺構に埋めたものと考えられる。

遺物は縄文･弥生土器がやや、フレイクがやや出土した。

ＳＫ115　（第56図）

Ｃ区のＭＤ57グリッドで検出した。ＳＤ079より新しい。平面形は楕円形を呈し、遺構の規模は坑口部75cm×93cm、坑底部47cm×80cm、深さ18cm～39cmである。底面は平坦であるが、中央やや北西寄りでピット状に落ち込む。壁は北西側で直線的に立ち上がり、南東側では一旦緩く立ち上がってから垂直に開口部へ向かう。

埋土は10層に分層した。内８～10層は本遺構より古いピットの埋土であるため、１～７層が本遺構の埋土である。黒褐色土･地山土を主体とし、下層ほど地山粒･地山ブロックの混入が多くなる。

遺物は１・２層より土器片が出土した。縄文･弥生土器がやや、フレイクが少量、土師器･須恵器が少量出土した。

ＳＫ118　（第33図、図版７）

Ｄ区のＬＬ50グリッドで検出した。西側が南北に走るＳＤ119により切られているが、平面形は不整楕円形を呈すると思われる。遺構の規模は坑口部115cm×150cm、坑底部80cm×125cm、深さ25cmである。底面は平坦で、壁は緩い起伏をもちながら開口部に向かって開き、断面形が逆台形を呈する。

埋土は５層に分層した。黒色土を主体とし、しまりがあり粘性が強い埋土である。確認面の１層中には炭化物･焼土粒を多く混入する。地山粒は全体的に混入し、焼土粒は３層にも若干

混入する。遺物は１・２層中から出土し、本遺構の東部に集中する。

遺物は縄文･弥生土器が少量、フレイクが少量出土した。

ＳＫ123　（第56図）

Ｄ区のＬＳ46グリッドで検出した。平面形は略円形で、東側は攪乱を受けている。遺構の規模は坑口部97㎝×122㎝、坑底部77㎝×83㎝、深さ11㎝～17㎝である。底面はやや起伏があり、中央部に向かって緩く傾斜する。壁は東西でほぼ垂直に立ち上がり、南北で緩く立ち上がる。

埋土は東側の攪乱も含めて５層に分層した。本遺構の埋土は３層までである。１・２層は黒色土で、地山粒･炭化物を少量混入し、３層は地山ブロックを多量に混入する。埋土の堆積状況から自然堆積を呈すると考えられる。

遺物は縄文･弥生土器がやや、フレイクが僅少、土師器･須恵器が僅少出土した。

ＳＫ124　（第56図、図版３･55）

Ｄ区のＬＲ47･48グリッドで検出した。平面形は略円形で、遺構の規模は坑口部径104㎝×110㎝、坑底部径87㎝×95㎝、深さ30㎝～39㎝である。底面は中央からやや南東寄りにかけて起伏がある。その周辺から壁際にかけては平坦である。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

埋土は10層に分層した。しかし、１～４層は地山ブロックを多量に混入する黒色土で、その断面観察から本遺構より新しい別遺構の可能性が高い。したがって本遺構の埋土は５～10層が相当する。全て黒色土であるが、混入物により細分できた。６･10層が地山ブロックを多量に混入し、他は炭化物を少量混入する。一部最下層となる９層にはベンガラが微量混入されていた。

遺物は土器片が７層に集中して出土している。縄文･弥生土器が少量、フレイクが少量、土師器･須恵器が僅少出土した。

ＳＫ128　（第58図）

Ｄ区のＬＳ58グリッドで検出した。平面形は円形で、遺構の規模は坑口部径90㎝、坑底部径65㎝、深さ15㎝である。底面は起伏があり、壁は緩く立ち上がる。南西壁･東壁直下にそれぞれ径25㎝、径10㎝、深さ11㎝のピット状の落ち込みを検出したが、本遺構に伴うものと考える。埋土は７層に分層した。黒色土･黒褐色土を主体とし、炭化物･地山粒を混入するが、１層は特に炭化物が多く、また１・５・７層は地山粒の混入が多い。

遺物は縄文･弥生土器が少量、フレイクが少量出土した。

ＳＫ132　（第38図、図版６･38･56･57）

Ｄ区のＬＳ56グリッドで検出した。平面形は円形で、遺構の規模は坑口部径80㎝、坑底部径75㎝、深さ46㎝である。底面は平坦で礫混りの砂層に達している。壁は垂直に立ち上がり、断面形が円筒状を呈する。

埋土は６層に分層した。黒褐色土を主体とし地山粒を混入するが、下層に地山粒を多く混入する。また、１・２層は粘性が弱いのに対し、３～６層は粘性が強く、水分を多く含む。底面から15cmの位置から確認面に向かってアーチ状にわずかに空洞部分がある。すなわち１・２層と３～５層間である。

遺物は下層から出土し、特に４層以下には５cm～10cm大の礫を含んでいる。縄文･弥生土器が僅少出土した。

ＳＫ136　（第56図）

Ｄ区のＬＰ55グリッドで検出した。ＳＫ137が古い。平面形は楕円形で、遺構の規模は、坑口部100cm×133cm、坑底部78cm×111cm、深さ20cm～28cmである。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。中央やや南東寄りに径25cm×33cmの略円形状の落ち込みがあり、深さ８cm～16cmを測る。北東側はこれより新しいと思われるピットによって壊されている。

埋土は９層に分層した。３・９層は黒色土で、２・４～８層は地山ブロックを混入する黒色土･黄褐色土である。形態および埋土の堆積状況から本遺構は掘立柱痕と考えられるが、これに伴う他の柱穴は不明である。調査時の遺構名を優先させＳＫと付しておく。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ137　（第56図）

Ｄ区のＬＰ54･55グリッドで検出した。ＳＫ136･ＳＡ227が新しい。平面形は楕円形を呈すると思われる。遺構の規模は坑口部79cm、坑底部59cm、深さ14cm～22cmである。底面は平坦で、壁は緩く立ち上がる。

埋土は４層に分層した。黒色土であるが、混入物によって細分ができ、２層は地山ブロックが少量、３層は地山粒が多量に混入する。

遺物は縄文･弥生土器が僅少、フレイクが僅少、石製品が僅少出土した。

ＳＫ138　（第57図、図版57･58）

Ｄ区のＬＲ53グリッドで検出した。平面形は略円形で、遺構の規模は坑口部径130cm×140cm、坑底部径95cm×105cm、深さ80cmである。底面はほぼ平坦で砂層に達している。壁はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は円筒形を呈する。

埋土は22層に分層した。黒色土を主体とし、黒色灰･炭化物･地山粒を混入する。３・５・６・８・９･10層は黒色灰層で、特に８・９層は層厚があり、焼土粒を少量混入する。黒色灰層以下は地山粒の混入が多く、全体的にしまりに欠ける。埋土の堆積状況から短時間に埋められたと考えられる。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ145　（第59図）

Ｄ区のＬＰ・ＬＱ56グリッドで検出した。平面形は楕円形で、遺構の規模は坑口部143cm×117cm、坑底部105cm×76cm、深さ37cmである。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。断面形はタライ状を呈する。

埋土は10層に分層した。黒褐色土を主体とし、炭化物･地山粒を混入するが、特に２・３・４・６・９層は地山粒の混入が多く、遺物は３層に含まれている。埋土の堆積状況から短時間に埋められたと考えられる。

遺物は縄文･弥生土器が少量、フレイクが少量、土師器が出土した。

ＳＫ146　（第56図）

Ｄ区のＬＰ55グリッドで検出した。平面形は楕円形で、遺構の規模は坑口部70cm×82cm、坑底部58cm、深さ22cmである。底面は平坦で、北東･北西側に径15～18cmのピットがある。しかし、本遺構に伴うかどうかは不明である。壁は南東側はほぼ垂直に立ち上がり、北西側は一担垂直に立ち上がった後、緩く開口部に向う。

埋土は７層に分層した。黒色土･黒褐色土を主体とし、２・４・６層には地山粒を多量に混入し、１～５層には炭化物が少量混入する。

遺物は縄文･弥生土器が僅少、フレイクが僅少出土した。

ＳＫ147　（第58図）

Ｄ区のＬＳ58グリッドで検出した。ＳＫ164が古い。平面形は不整形を呈し、遺構の規模は坑口部径63cm×120cm、坑底部径40cm×92cm、深さ14cmである。底面は起伏が著しく、壁はかなり緩く立ち上がる。

埋土は２層に分層される。黒色土を主体とし、炭化物、地山粒を少量混入する。２層は地山ブロックと黒色土の混合土である。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ148　（第60図）

Ｄ区のＬＳ59グリッドで検出した。平面形は略円形で、遺構の規模は坑口部径54cm、坑底部径49cm、深さ24cmである。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

埋土は３層に分層した。黒色土を主体とし、地山粒を少量混入し、１層はベンガラ粒を微量混入する。

遺物は縄文･弥生土器が少量、フレイクが少量出土した。

ＳＫ156　（第53図、巻首図版７、図版58･59）

Ｄ区のＭＡ49グリッドで検出したフラスコ状土坑である。遺構の規模は坑口部67cm×78cm、頸部58cm×66cm、坑底部58cm×66cm、深さ61cmである。最大幅は底面から14cm上にあり68cm×79cmを測る。底面は平坦で、砂層を10cmほど掘り込んでいる。

埋土は８層に分層した。３・５層は壁の崩落土、１・２・７層は黒褐色土、４・６・８層は黒色土である。７・８層は地山粒を混入するが、他は地山ブロックを多く混入する。埋土は上面（１・２層）がマウンド状に盛り上がる堆積を呈し、１層と確認面までの埋土との間に空洞が見られた。下層の７層からは杭状の木材が１点出土し、また最下層の８層からは種子が多く出土した。

遺物は縄文･弥生土器がやや、土師器･須恵器が僅少出土した。

ＳＫ162　（第38図、図版38）

Ｄ区のＬＲ･ＬＳ57グリッドで検出した。南西部でピット状の落ち込みと切り合うが、本遺構が新しい。平面形は円形で、遺構の規模は坑口部径60㎝、坑底部径42㎝、深さ43㎝である。底面はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がり、断面形は円筒形を呈する。

埋土はピットの埋土を含めて７層に分層した。本遺構は４層に細分され、黒褐色土を主体とし、水分が多く粘性が強い。地山粒は上層ほど多く混入される。ピットの埋土は褐色土を主体とし、炭化物を少量混入する。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ164　（第58図）

Ｄ区のＬＳ59グリッドで検出した。ＳＫ147が新しい。平面形は略円形を呈すると思われる。遺構の規模は坑口部径65㎝×72㎝、坑底部径40㎝、深さ22㎝である。底面は起伏が著しく、壁は緩く立ち上がる。

埋土は５層に分層した。黒色土を主体とし、炭化物･地山粒を少量混入する。最下層の４層には地山ブロックを多く混入する。

遺物は縄文･弥生土器が少量、フレイクが少量、土師器･須恵器が僅少出土した。

ＳＫ179　（第61図、図版78）

Ｄ区のＬＲ54･55で検出した。西側をＳＸ149により切られているため、全体の形態は不明であるが、楕円形を呈すると思われる。遺構の規模は現存部分で坑口部154㎝×69㎝、坑底部147㎝×65㎝、深さ17㎝である。底面は緩い起伏があり、特に南西部では若干凹む。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

埋土は８層に分層した。黒色土･暗褐色土を主体とし、炭化物･地山粒･地山ブロックを多く混入する。

遺物は縄文･弥生土器がやや、フレイクが少量出土した。

ＳＫ185　（第61図）

Ｄ区のＬＲ54グリッドで検出した。北東側をＳＸ146により切られているため、全体の形態は不明であるが、略円形を呈すると思われる。遺構の規模は現存部分で、坑口部径40㎝×56㎝、坑底部径は32㎝×46㎝、深さ19㎝である。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。

埋土は７層に分層した。黒色土を主体とし、炭化物･地山粒･地山ブロックを混入する。

遺物は縄文･弥生土器が少量、フレイクが僅少出土した。

ＳＫ186　（第60図）

Ｄ区のＬＲ･ＬＳ60グリッドで検出した。調査区の北東端に位置し、一部調査区外になっているため、その全容は不明であるが、東西に長軸をもつ楕円形を呈すると思われる。現存する遺構の規模は坑口部67cm×54cm、坑底部48cm×35cm、深さ23cmである。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がり、開口部付近でやや開く。

埋土は３層に分層した。礫を多く含む黒褐色土を主体とし、１層はしまりがなく炭化物を多量に混入する。２層以下は地山粒･地山ブロックを混入するが、層厚のある最下層は地山ブロックおよび５cm～15cm大の礫が多い。

遺物は縄文･弥生土器が少量、フレイクが少量出土した。

ＳＫ187　（第62図）

Ｄ区のＬＲ59グリッドで検出した。東側のＳＫ214の大部分と南西側のＳＫ213を切っている。平面形は方形で、遺構の規模は坑口部96cm×110cm、坑底部82cm×91cm、深さ15cm～27cmである。底面はかなり起伏があり、中央南寄りでは底面から13cm程盛り上がっている。壁は垂直に立ち上がる。

埋土は５層に分層した。１･３･５層が黒褐色土、４層が黒色土、２層がにぶい黄褐色土であり、各々地山粒がブロック状あるいはシモフリ状に混入することで細分した。埋土の堆積状況から人為的堆積が強いと思われる。

遺物は縄文･弥生土器が少量、フレイクがやや、土師器･須恵器が僅少出土した。

ＳＫ188　（第62図、図版59･60）

Ｄ区のＬＴ54･55グリッドで検出した。フラスコ状を呈し、径23cm～34cm、深さ13cm～35cmの４基のピットを伴う。本遺構とピット３･４は同一軸線上にあり、ピット２･３、ピット１･４は本遺構と同一主軸をとる。またピット１･２とピット３･４の軸線方向は４°ずれている。遺構の規模は坑口部径90cm×97cm、頸部径58cm×59cm、坑底部径52cm×60cm、深さ55cmである。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がった後、頸部から開口部にかけて緩く立ち上がる。

埋土は10層に分層した。９･10層は崩落土、３～６層は黒褐色土、７･８層が黒色土で地山粒を混入し、粘性が強く下層ほど水分がある。３層上面でマウンド状の盛り上がりを呈し、確認面までの１･２層との間に空洞がある。堆積状況から１･２層は自然堆積、３～８層は人為的堆積と考えられる。

遺物は縄文･弥生土器がやや、フレイクがやや、土師器･須恵器が僅少出土した。

ＳＫ189　（第58図）

Ｄ区のＬＳ・ＬＴ60グリッドで検出した。平面形は不整楕円形で、遺構の規模は坑口部110cm×80cm、坑底部90cm×45cm、深さ15cm～22cmである。底面は緩い起伏があり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

埋土は６層に分層した。黒色土を主体とする。南東側では炭化物・地山粒を混入し、北西側では地山粒のみ混入する。最下層のにぶい黄褐色土は黒褐色土粒を多量に混入する点で違いはないが、別遺構の埋土の可能性もある。

遺物は縄文・弥生土器が少量出土した。

ＳＫ193　（第63図、図版61）

Ｄ区のＬＳ51グリッドで検出した。フラスコ状を呈し、遺構の規模は坑口部径78cm×82cm、頸部径66cm、坑底部径75cm×87cm、深さ66cmである。底面は平坦である。

埋土は８層に分層した。１～４層は黒褐色土、５～８層は黒色土、１・２層に炭化物が少量混入する。地山粒および少礫は各層に混入され、３・４・６層には黒色灰を含む。一見自然堆積に見えるが、混入物等により人為的な堆積を呈すると考えられる。

遺物は縄文・弥生土器が少量、フレイクが少量、土師器・須恵器が僅少出土した。

ＳＫ194　（第58図）

Ｄ区のＬＴ・ＭＡ57・58グリッドで検出した。「コ」の字を呈するＳＸ133により大部分が切られているため全容は不明であるが、現存する底面形態から楕円形を呈すると考えられる。遺構の規模は坑口部は不明であるが、坑底部50cm×155cm、深さ28cmである。底面は平坦で、壁は開口部に向かって直線的に立ち上がり、断面形は摺鉢形を呈する。

埋土は４層に分層した。黒色土を主体とし、炭化物・地山粒・土器片を混入する。層厚のある上層はしまりはあるが、下層はしまりに欠ける。埋土の堆積状況から短時間に埋められたと考えられる。なお最下層の５層はにぶい黄褐色土で崩落土であろう。

遺物は縄文・弥生土器がやや、フレイクが僅少、土師器・須恵器が僅少出土した。

ＳＫ198　（第62図、図版62）

Ｄ区のＬＭ52グリッドで検出した。南東隅部はＳＤ169により切られている。平面形は隅丸方形で、遺構の規模は坑口部95cm×98cm、坑底部81cm×82cm、深さ11cm～15cmである。底面はやや起伏があり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。北壁中央直下および底面西側でピットを検出したが、埋土状況から本遺構より古いと判断した。

埋土は底面西側のピットを含めて５層に分層した。本遺構の埋土は１～３層までであるが、埋土の状況から１層が柱痕で２・３層は掘り方の埋土と考えられる。ピットの埋土は黒色土であるが、４層はしまりがあり地山粒を多く混入し、５層はしまりがなく地山粒の混入も４層に比べて少ない。

本遺構は掘立柱建物跡と考えられるが、これに伴う他の柱穴は不明である。調査時の遺構名を優先させてＳＫと付しておく。

遺物はフレイクが少量、土師器・須恵器が僅少出土した。

ＳＫ200　（第62図）

Ｄ区のＬＱ49グリッドで検出した。平面形は略円形で、遺構の規模は坑口部径108cm×118cm、坑底部径100cm、深さ26cm～32cmである。底面は緩い起伏があるものの全体的には平坦である。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

埋土は７層に分層した。３・６・７層は崩落土で、他は黒色土・黒褐色土であるが、いずれも地山粒および黒色土ブロックを混入し、１・５層には炭化物も少量混入する。

本遺構の南東部に近接してＳＱ237が位置する。確認面でのレベルがほぼ一致するが、本遺構との関連は不明である。

遺物は弥生土器片が主に１層から多く出土し、２層中では３点、５層では１点である。他に、フレイクが少量、土師器・須恵器が僅少出土した。

ＳＫ202　（第65図）

Ｄ区のＬＳ53グリッドで検出した。ＳＸ133より古い。平面形は楕円形で、遺構の規模は坑口部79cm×93cm、坑底部径42cm、深さ12cm～29cmである。底面は西寄りに位置し平坦である。西壁側はほぼ垂直に立ち上がるが、他はやや段をもつ形で緩く立ち上がる。特に東壁は底面が西に寄っているためかなり緩く立ち上がる。

埋土は４層に分層した。黒褐色土であるが、下層ほど地山粒・地山ブロックの混入が多い。

遺物は１層から縄文・弥生土器が少量、フレイクがやや、土師器・須恵器、礫が僅少出土した。

ＳＫ211　（第58図、図版62・63）

Ｄ区のＬＳ57グリッドで検出した。ＳＸ133より新しい。平面形は円形で、遺構の規模は坑口部径60cm、坑底部径52cm、深さ49cmである。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

埋土は７層に分層した。黒褐色土を主体とし、地山粒を少量混入するが、１・５層では地山ブロックおよび少礫を混入する。底面から20～30cmのところに空洞部分があり、その直下までの埋土は盛り上がった堆積を呈する。空洞以下の埋土はいずれも粘性が強く、また４・６層のみしまりがない。本遺構の空洞は、しまりがない下層の堆積土が沈下したためと思われる。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ212　土坑（第60図）

Ｄ区のＬＳ60グリッドで検出した。ＳＫ186により南東側を切られているが、平面形は略円形を呈すると思われる。遺構の規模は坑口部径38cm×44cm、坑底部径20cm、深さ10cmである。

底面は平坦で、壁は緩く立ち上がる。

埋土は２層に分層した。粘性はあるが、しまりに欠ける黒褐色土を主体とし、地山粒を多量に混入する。

遺物は縄文･弥生土器が僅少出土した。

ＳＫ213　（第60図）

Ｄ区のＬＲ59グリッドで検出した。ＳＫ187の南西隅部に位置し、ＳＫ187により切られているため全容は不明であるが、平面形は略円形を呈すると思われる。遺構の規模は坑口部径60㎝～70㎝、坑底部径50㎝～57㎝、深さ30㎝である。底面は緩い起伏があり、壁は垂直に立ち上がる。

埋土は２層に分層した。１層は黒色土で、地山粒･炭化物･土器片を混入し、２層は黒色土･地山ブロックを多量に混入するにぶい黄褐色土である。

遺物は縄文･弥生土器が少量、フレイクが僅少、土師器･須恵器が僅少出土した。

ＳＫ214　（第60図）

Ｄ区のＬＲ59グリッドで検出した。ＳＫ187の北東隅部に位置し、大部分がＳＫ187により切られているため、わずかに壁の一部を残すものである。したがって全容は不明である。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ219　（第63図）

Ｄ区のＬＳ51グリッドで検出した。フラスコ状を呈し、平面形は楕円形で、遺構の規模は坑口部51㎝×62㎝、頸部径50㎝、坑底部径34㎝、深さ50㎝、最大幅52㎝である。底面は緩い起伏があり全体的に中央に向かって緩傾斜する。

埋土は５層に分層した。１層は黒色土で、他は黒褐色土である。炭化物は１・２層に少量混入、１・２・４層は地山ブロックを多量に混入、３・５層は地山粒を混入する。２・５層には少礫を混入する。

遺物は縄文･弥生土器が少量、土師器･須恵器が僅少出土した。

ＳＫ225　（第65図）

Ｄ区のＬＴ48グリッドで検出した。平面形は楕円形で、遺構の規模は坑口部65㎝×122㎝、坑底部59㎝×108㎝、深さ21㎝～25㎝である。底面は北側から南側へ緩く傾斜しており、全体的には平坦である。北東壁寄りに径15㎝×18㎝、深さ10㎝のピットが１基あるが、本遺構より古いと考えられる。

埋土は５層に分層した。黒色土･黒褐色土を主体とする。５層は崩落土と思われ、地山粒･炭化物を少量混入する２～５層は自然的堆積と考えられるが、１層は層厚があり、しまりもかなり強いことから人為的に埋められた可能性がある。

遺物は縄文･弥生土器がやや、フレイク、土師器･須恵器が少量出土した。

ＳＫ226　（第32･34図）

Ｄ区のＬＯ49グリッドで検出した。ＳＸ159により南西部を切られているため全容は不明であるが、平面形は略円形を呈すると思われる。遺構の規模は坑口部径120cm、坑底部径100cm、深さ８cm～24cmである。底面は南から北に向かって起伏をもちながら傾斜している。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

埋土は９層に分層した。黒色土･黒褐色土を主体とし、地山粒･黒色土･黒褐色土粒および地山ブロックを混入し、堆積状況から短時間に埋められたと考えられる。

遺物は縄文･弥生土器、フレイク、土師器が僅少出土した。

ＳＫ235　（第63図）

Ｄ区のＬＲ49グリッドで検出した。ＳＸ328により南東部を切られているため全容は不明であるが、平面形は楕円形を呈すると思われる。遺構の規模は坑口部55cm×77cm、坑底部41cm×68cm、深さ26cm～38cmである。底面は平坦であるが、壁際は勾配をもつ。壁は北西から南西にかけてオーバーハングし、北東から南東にかけては、ほぼ垂直に立ち上がる。

埋土は13層に分層した。黒褐色土と黄褐色土を主体とするが、後者は崩落土である。地山粒、地山ブロック、灰白色粘土粒を混入する。

遺物は土師器が出土した。

ＳＫ236　（第65図）

Ｄ区のＬＲ49･50グリッドで検出した。南西隅のピットは本遺構より古い。平面形は円形で、遺構の規模は坑口部径69cm×75cm、坑底部径62cm×65cm、深さ58cmである。底面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がるが、南東部では一旦オーバーハングして開口部に移行する。

埋土は９層に分層した。黒色土、黒褐色土を主体とする。１･２･５･８･９層は地山ブロックを多量に混入し、２･４層のみ炭化物が少量混入する。また、南壁際には幅14cm、長さ30cmの礫がほぼ垂直に据えられた状態で検出された。確認面からは10cmほど頂部を露出している。埋土の堆積状況から短時間に埋められたと考えられる。

遺物は縄文･弥生土器が少量、フレイク、土師器･須恵器が僅少出土した。

ＳＫ245　（第66図）

Ｄ区のＬＲ51グリッドで検出した。ＳＤ244により南半分を切られているため、全容は不明であるが、平面形は円形を呈すると思われる。遺構の規模は坑口部径90cm、坑底部径67cm、深さ21cm～25cmである。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

埋土は４層に分層した。黒褐色土を主体とする。上層は炭化物を少量混入し、下層ほど地山粒の混入が多くなる。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ247　（第65図）

Ｄ区のＬＲ・ＬＳ52・53グリッドで検出した。平面形は略円形で、遺構の規模は坑口部径86cm×93cm、坑底部径78cm×84cm、深さ６cm～７cmである。底面は緩い起伏があり、そのまま壁に移行する。

埋土は２層に分層した。１層は黒色土で炭化物、地山粒を少量混入し、２層は黒褐色土で地山ブロックを多量に混入する。

遺物は縄文・弥生土器がやや、フレイクが僅少出土した。

ＳＫ249　（第65図）

Ｄ区のＬＳ・ＬＴ52グリッドで検出した。南西部分をＳＤ168によって切られているため全容は不明であるが、平面形は楕円形を呈すると思われる。遺構の規模は現存部分で坑口部53cm×97cm、坑底部47cm×86cm、深さ８cm～15cmである。底面は北西側で一部平坦面をもつが、大部分は起伏があり、中央部では径40cm×60cmの不整形に落ち込んでいる。壁は垂直に立ち上がる。

埋土は３層に分層した。１・３層が黒色土で地山ブロックの混入が多く、２層は黒褐色土で地山粒を混入する。

遺物は縄文・弥生土器が少量、フレイクが僅少出土した。

ＳＫ250　（第57図、図版65・66）

Ｄ区のＬＱ・ＬＲ53グリッドで検出した。フラスコ状を呈し、遺構の規模は坑口部径80cm×90cm、頸部径70cm、坑底部径58cm×80cm、深さ75cmである。底面は緩い起伏があり、部分的に砂層に達している。壁は底面から40cmまで緩くオーバーハングし、開口部に向かって開く。

埋土は18層に分層した。黒褐色土を主体とし、黒色灰・炭化物・焼土粒・地山粒を混入する。特に７層以下では黒色灰（９・11・13・15層）と黒色灰をシミ状に混入（10・16・18層）する層が多く、また最下層直上の17層は細砂を多量に混入し、全体的にしまりに欠ける。また、１～５層と６層の間にわずかに空洞部分がある。

遺物は縄文・弥生土器がやや、フレイクが少量、土師器・須恵器が僅少出土した。

ＳＫ252　（第63図、図版64・65）

Ｄ区のＬＰ53グリッドで検出した。平面形は円形を呈し、遺構の規模は坑口部径84cm、坑底部径52cm、深さ66cmである。断面形は、上部がやや開く逆台形を呈している。埋土は一括投棄されたと考えられる黒色灰を主体とし、壁が外に開き始める部分に空洞部分が認められる。自然堆積した最下層中よりコブシ大の礫１個を検出した。

埋土中に空洞部分が認められる遺構は、他にも８遺構ある。規模はそれぞれ異なるもののおおよそ円形プランを呈し、断面形は円筒形ないしビーカー状、もしくはフラスコ状を呈する。

本遺構の空洞部分は、埋土の大半を占める黒色灰の沈下による空洞化と考えられる。しかし、他の８遺構中７遺構は黒色灰を含んでおらず、空洞化の原因は他にあると考えられる。

遺物は縄文･弥生土器、フレイク、土師器･須恵器が少量出土した。

ＳＫ258　（第66図、図版67）

Ｄ区のＬＬ46グリッドで検出した。ＳＸ081の南西隅部と切り合っている。ＳＸ081の黒色灰は一部床直にみられるほど底レベルで検出しているが、本遺構の黒色灰確認面･確認面直下で検出したことから本遺構が古いと考えられる。平面形は、略円形を呈すると思われる。遺構の規模は坑口部62㎝、坑底部52㎝×58㎝、深さ17㎝～22㎝である。底面は全体的に平坦であるが、北東から南西方向に緩く傾斜している。壁は北東部分でほぼ垂直に立ち上がるが、他は緩く立ち上がる。

埋土は６層に分層した。１・２・３・５層は黒色土で、４・６層はにぶい黄褐色土である。２層には黒色灰が90％近く混入し、また１層にもシミ状に混入する。埋土の堆積状況から短時間の間に埋められたと考えられる。

遺物は縄文･弥生土器、フレイクが僅少出土した。

ＳＫ267　（第67図）

Ｃ区のＭＡ53グリッドで検出した。ＳＸ230により西側を切られているため全容は不明であるが、平面形は楕円形を呈すると思われる。遺構の規模は坑口部122㎝×65㎝、坑底部110㎝×55㎝、深さ26㎝である。底面はやや起伏をもち、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

埋土は５層に分層した。黒色土･黒褐色土を主体とし、地山粒･灰白色粘土粒を少量混入する。１・４・５層には炭化物が少量混入する。

遺物は縄文･弥生土器が少量、フレイク、土師器･須恵器が僅少出土した。

ＳＫ270　（第68図）

Ｄ区のＬＱ57･58グリッドで検出した。Ｄ区の北東端と並走するＳＤ269を切って構築され、一部が調査外にあたるため全容は不明であるが、平面形は不整円形を呈すると思われる。遺構の規模は坑口部径115㎝、坑底部径100㎝、深さ20㎝～34㎝である。底面は起伏が著しく、壁は開口部に向かって直線的に開きながら立ち上がる。本遺構の北西端･南東端に掘立柱建物跡があり、それより新しい。

埋土は３層に分層した。黒褐色土を主体とし、地山粒･炭化物･焼土粒･地山ブロックを混入する。遺物は各層に含まれ、埋土の堆積状況から短時間に埋められた可能性がある。

本遺構は、ＳＤ269のプラン内に位置する。ＳＤ269の大部分が調査区外にあるため、その全容は不明であるが、埋土の堆積状況を他の溝状遺構と比較した場合、いわゆるレンズ状堆積はみられず、むしろ「コ」の字を呈するＳＸ084･133･153に類似する。この観点からすれば本遺構

はＳＤ269構築時の一連の作業で形成された可能性がある。

遺物は縄文･弥生土器が少量、フレイク、土師器･須恵器が僅少出土した。

ＳＫ280　（第69図）

Ｂ区のＭＬ55･56グリッドに位置し、Ⅱ層黒色土上面で検出した。平面形は円形で、遺構の規模は坑口部径165㎝、坑底部径175㎝、深さ22～35㎝を測る。底面は緩い起伏があり、比較的良くしまっている。壁は開口部に向かって立ち上がるが、やや内傾を呈する。

埋土は６層に分層した。黒褐色土を主体とし、地山粒･地山ブロック･土器片･小礫を混入する。下層の３～５層は比較的地山粒の混入が少なく、層厚のある１層は地山粒の混入が多い。土器片･小礫は１～４層に含まれる。埋土の堆積状況から、短時間に埋められた可能性がある。坑口部辺から30㎝～50㎝離れた四隅に本遺構に伴うと考えられる径15㎝～20㎝、深さ７㎝～14㎝のピットを４基検出した。ピット間の距離は130㎝～175㎝を測り、ピットを結んだ４辺の軸線は４度～７度のズレがあり、全体的に西側に寄った配置を呈している。

遺物は縄文･弥生土器が少量、フレイク、土師器･須恵器が僅少出土した。

ＳＫ294　（第54図）

Ｄ区のＬＲ55グリッドで検出した。平面形は長楕円形で、遺構の規模は坑口部56㎝×109㎝、坑底部42㎝×101㎝、深さ12㎝～17㎝である。底面は平坦であるが、中央部で緩く凹む。壁はほぼ垂直に立ち上がる。南東隅部にあるピットは本遺構より古いピットである。

埋土は７層に分層した。４～６層は本遺構より古いピットの埋土と考えられる。したがって１～３・７層が本遺構の埋土で自然堆積を呈する。２層が黒色土で他は黒褐色土を呈し、地山ブロックおよび炭化物を混入する。

遺物は縄文･弥生土器が少量出土した。

ＳＫ304　（第70図）

Ｂ区のＭＩ45グリッドで検出した。袋状を呈し、遺構の規模は坑口部径55㎝×59㎝、坑底部径35㎝×40㎝、深さ39㎝、最大幅径70㎝である。底面は平坦で砂層に達している。壁は底面から緩く立ち上がった後、開口部に向かって内傾する。最大幅は確認面から底面のほぼ中間である。

埋土は２層に分層した。黒色土であるが、下層ほど地山粒の混入が多い。炭化物を少量混入し、５㎝～20㎝大の礫が中位から上位にかけて多量に混入する。埋土の堆積状況から短時間に埋められたと考えられる。

遺物は縄文･弥生土器が僅少出土した。

ＳＫ306　（第70図、図版67）

Ｂ区のＭＦ45グリッドで検出した。南側隅部にある掘立柱跡に切られている。平面形は北東

から南西に伸びる溝状を呈する。遺構の規模は上面幅34cm～61cm、上面長130cm、底面幅30cm～51cm、底面長120cm、深さ５cm～12cmである。底面は緩い起伏をもちながら、南西から北東に傾斜する。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

埋土は８層に分層した。黒褐色土を主体とし、炭化物、地山粒、地山ブロックを少量混入する。最下層には黒色灰の堆積がみられ、その上層には焼土ブロック･焼土粒を混入する。また本遺構の周辺には焼土粒が散布していた。

遺物は縄文･弥生土器が僅少出土した。

９．配石遺構

ＳＱ237　（第62図）

ＳＫ200の南隣に位置する。５cm～15cmの礫をほぼ長方形に近い形に配している、その規模は40cm×45cmで、直下および脇に掘り込みは確認できなかった。

10．土器埋設遺構

ＳＲ023　（第71図、図版68）

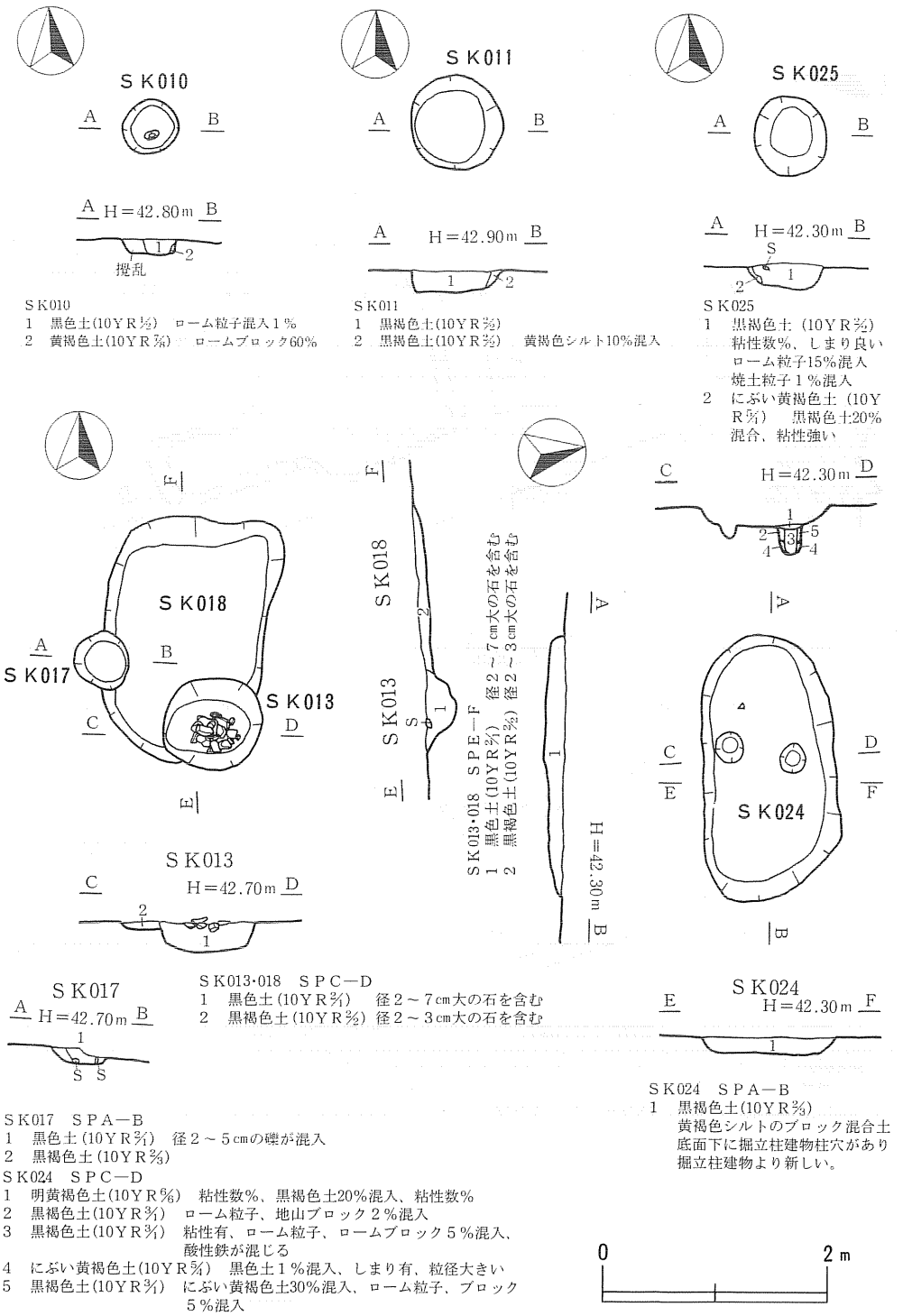
Ｄ区のＬＪ46グリッドに位置する。正立埋設で、土器の上半部は検出した段階で欠失していたが粗製の深鉢と思われる。土器の径は35cmであるが、掘形はそれよりもひと回り大きい長径49cmの円形プランで、断面形は東側が平坦な底面から直に立ち上がり、西側は外に向かって緩く立ち上がり、その深さは15cmである。土器は底面から１cm上にあり、東西は３cm～10cmの隙間があり、その間には黒色･黄褐色土と地山粒子や黒褐色の混合土が充填されている。内部の埋土は黒色土を主体とし、ローム･炭化物粒子が混入する。

ＳＲ034　（第71図）

Ｄ区のＬＮ40グリッドに位置する。正立埋設で、土器の上半部は検出した段階で欠失していたが粗製の深鉢形土器と思われる。土器の径は20cmであるが、掘形はそれよりもひと回り大きい径25cmの円形プランで、断面形はやや凹みのある底面から外に緩やかに立ち上がり、その深さは12cmである。土器は底面から２cm上にあり、南側ではほぼ壁に沿い、北側では１cm～３cmの隙間があり、その間には黒色土と黄褐色土ブロックの混合土が充填されている。

ＳＲ126　（第71図）

Ｄ区のＬＲ56グリッドに位置する。正立埋設で、土器の上半部は検出した段階で欠失していた。土器の径は20cm以上あったと思われるが、掘形はそれよりもふた回りほど大きい径31cm×35cmの楕円形で、断面形は平坦な底面から外に向かって大変緩やかに立ち上がり、深さは15である。土器は底面から４cm上にあり、両壁との間は６cm～12cmの隙間があり、その間には、黒



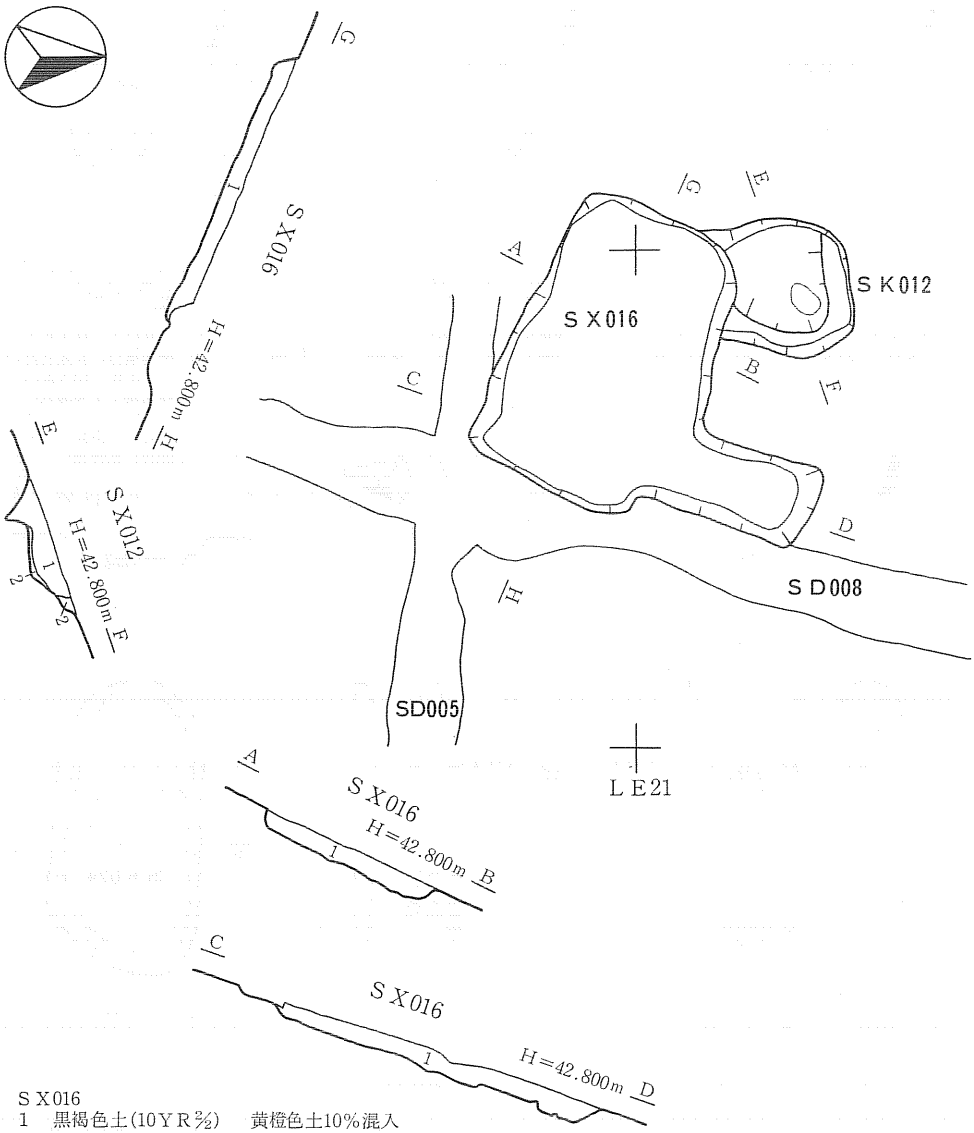
ＳＫ010
1　黒色土(10ＹＲ1/2)　ローム粒子混入１%
2　黄褐色土(10ＹＲ5/4)　ロームブロック60%

ＳＫ011
1　黒褐色土(10ＹＲ3/2)
2　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　黄褐色シルト10%混入

ＳＫ025
1　黒褐色土（10ＹＲ3/2）
粘性数%、しまり良い
ローム粒子15%混入
焼土粒子１%混入
2　にぶい黄褐色土（10ＹＲ5/3）　黒褐色土20%混合、粘性強い

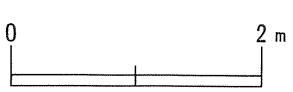
ＳＫ024　ＳＰＡ－Ｂ
1　黒褐色土(10ＹＲ3/3)
黄褐色シルトのブロック混合土
底面下に掘立柱建物柱穴があり
掘立柱建物より新しい。

第51図　ＳＫ010・011・013・017・018・024・025土抗

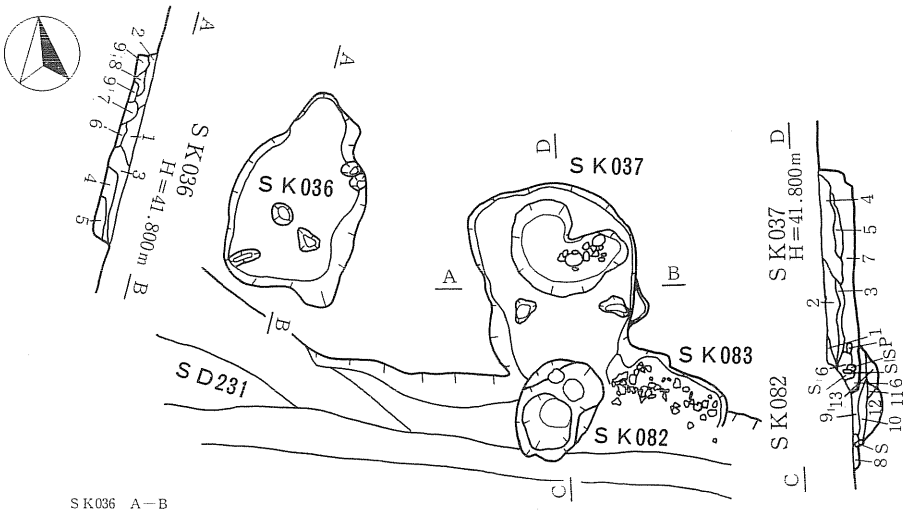


S X016
1　黒褐色土(10Y R 2/2)　　黄橙色土10%混入

S X012
1　黒褐色土(10Y R 2/2)
2　黒褐色土(10Y R 2/2)　　黄褐色シルト10%混入

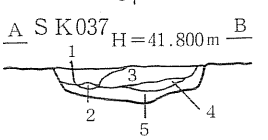


第52図　ＳＫ012土抗、ＳＸ016その他の遺構

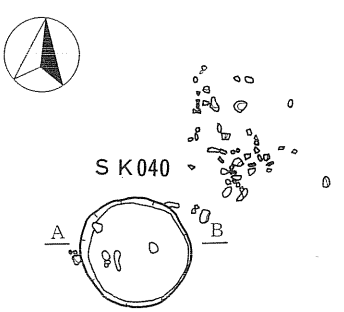


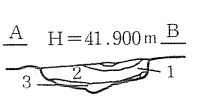
SK036　A－B
1　黒褐色土(10YR3/2)　炭化物・酸化鉄１％混入
2　黒褐色土(10YR2/2)　にぶい黄褐色土ブロック状に混入
3　黒色土(10YR3/1)　炭化物・酸化鉄１％混入
4　黒褐色土(10YR3/2)　炭化物・酸化物・にぶい黄橙色土混入
5　にぶい黄橙色土(10YR6/4)　炭化物・酸化鉄１％混入
6　黒色土(10YR3/1)
7　黒褐色土(10YR3/3)　炭化物・酸化鉄１％混入
8　黒褐色土(10YR3/2)　炭化物・酸化鉄１％、にぶい黄橙色土混入
9　灰白色土(10YR8/2)　酸化鉄１％混入

SK037　A－B
1　黒色土(10YR2/1)　炭化物・酸化鉄・にぶい黄橙色土１％混入
2　黒色土(10YR3/1)　にぶい黄橙色土１％混入
3　黒色土(10YR2/1)　酸化鉄含、炭化物１％混入
4　黒色土(7.5YR1/2)　炭化物・酸化鉄１％、にぶい黄橙色土ブロック状混入
5　灰黄褐色土(10YR4/2)　にぶい黄橙色土ブロック状に混入

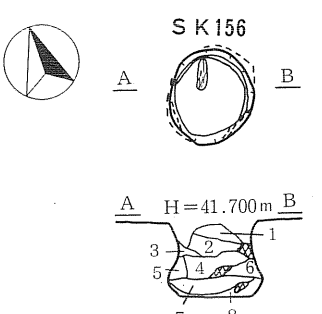


SK037　C－D
1　黒褐色土(10YR3/2)　酸性鉄混入
2　黒色土(10YR2/1)　炭化物・酸化鉄・にぶい黄橙色土を１％混入
3　黒褐色土(10YR3/2)　炭化物・にぶい黄橙色土を１％混入
4　黒褐色土(10YR2/2)　全体的に酸化鉄含、炭化物１％混入
5　黒色土(7.5YR2/1)　にぶい黄橙色土ブロック状に混入、小礫混入
6　黒色土(7.5YR2/1)
7　灰黄褐色土(10YR4/2)　にぶい黄橙色土ブロック状に混入
8　黒色土(7.5YR2/1)　しまり強、近代の水路
9　黒色土(7.5YR2/1)　浅黄色粒数%、砂利極大粒数%混入
10　黄色土(7.5YR2/1)　にぶい黄橙色砂質ブロック混入
11　黒褐色土(7.5YR3/1)　にぶい黄橙色ブロック中粒数%混入
12　黒色土(7.5YR2/1)　にぶい黄橙色ブロック極大粒混入
13　黒褐色土(7.5YR3/1)　にぶい黄橙色ブロック多量混入、砂質





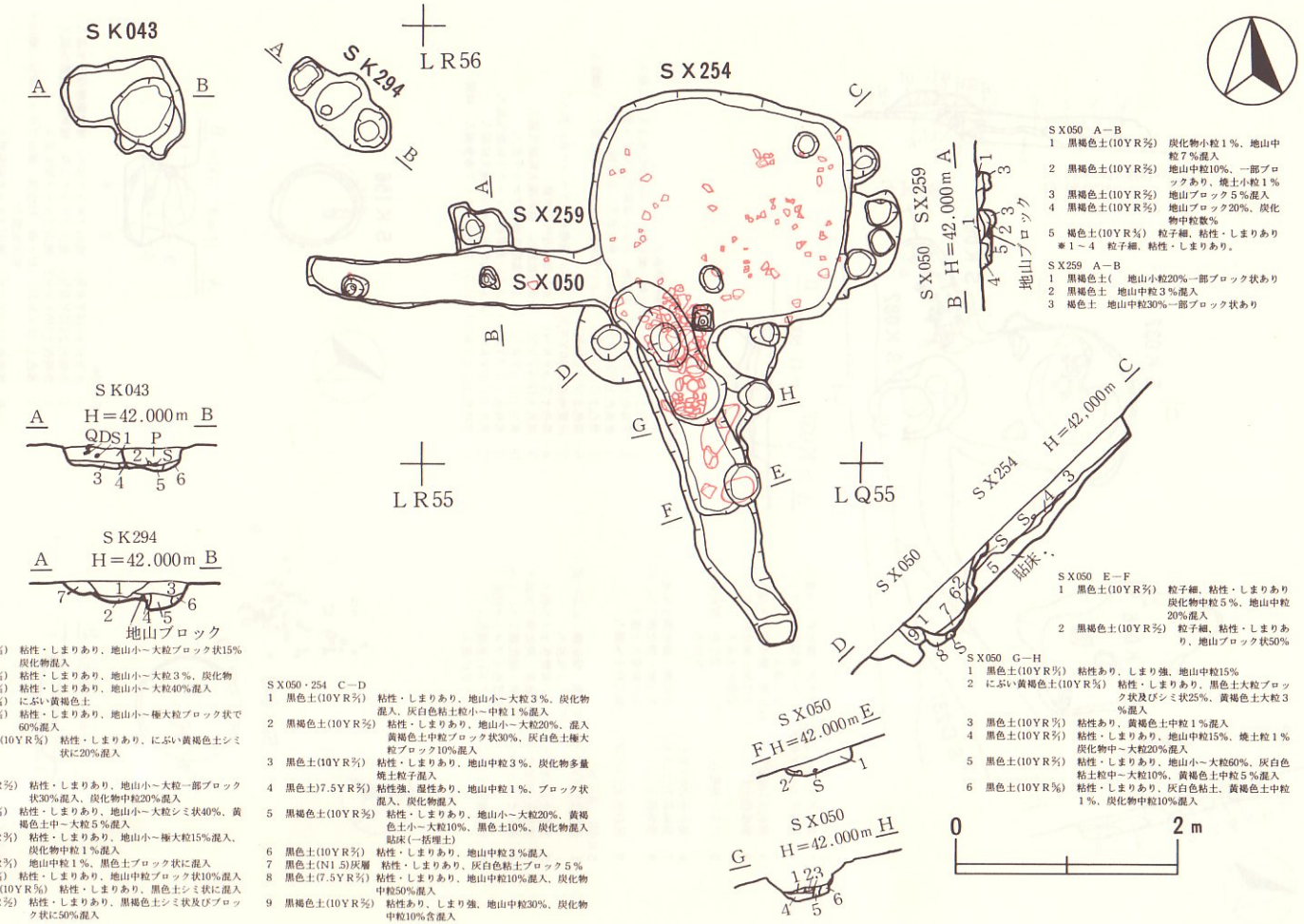
SK040
1　黒色土(10YR2/1)　植物繊維痕30%、地山ブロック10%
2　黒色土(10YR3/1)　地山ブロック20%、地山中粒30%　植物繊維痕50%混入
3　黒色土(10YR2/1)　地山ブロック５%、地山中粒50%



SK156
1　黒褐色土(10YR3/2)　地山ブロック10%、植物繊維痕５%混入
2　黒褐色土(10YR3/2)　地山ブロック３%、植物繊維痕数%混入
3　黒褐色土(10YR3/2)　地山ブロック50%混入
4　黒色土(10YR2/1)　粒子細、粘性強、地山ブロック20%、地山中粒20%混入
5　黒褐色土(10YR3/2)　地山ブロック40%混入
6　黒色土(10YR2/1)　粒子細、粘性強、地山中粒20%混入
7　黒褐色土(10YR3/2)　地山中粒20%混入
8　黒色土(10YR2/1)　粒子細、粘性強、地山中粒５%混入
※１～３・５・６　粒子細、粘性・しまりあり。

0　2m

第53図　ＳＫ036・037・040・082・083・156土抗



SX050　A－B
1　黒褐色土(10YR2/2)　炭化物小粒1％、地山中粒7％混入
2　黒褐色土(10YR2/2)　地山中粒10％、一部ブロックあり、焼土小粒1％
3　黒褐色土(10YR2/2)　地山ブロック5％混入
4　黒褐色土(10YR2/2)　地山ブロック20％、炭化物中粒散％
5　褐色土(10YR3/4)　粒子細、粘性・しまりあり
※1～4　粒子細、粘性・しまりあり。

SX259　A－B
1　黒褐色土(　地山小粒20％一部ブロック状あり
2　黒褐色土　地山中粒3％混入
3　褐色土　地山中粒30％一部ブロック状あり

SK043　A－B
1　黒色土(10YR2/1)　粘性・しまりあり、地山小～大粒ブロック状15％炭化物混入
2　黒色土(10YR2/1)　粘性・しまりあり、地山小～大粒3％、炭化物
3　黒色土(10YR2/1)　粘性・しまりあり、地山小～大粒40％混入
4　地山土(10YR5/6)　にぶい黄褐色土
5　黒色土(10YR2/1)　粘性・しまりあり、地山小～極大粒ブロック状で60％混入
6　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　粘性・しまりあり、にぶい黄褐色土シミ状に20％混入

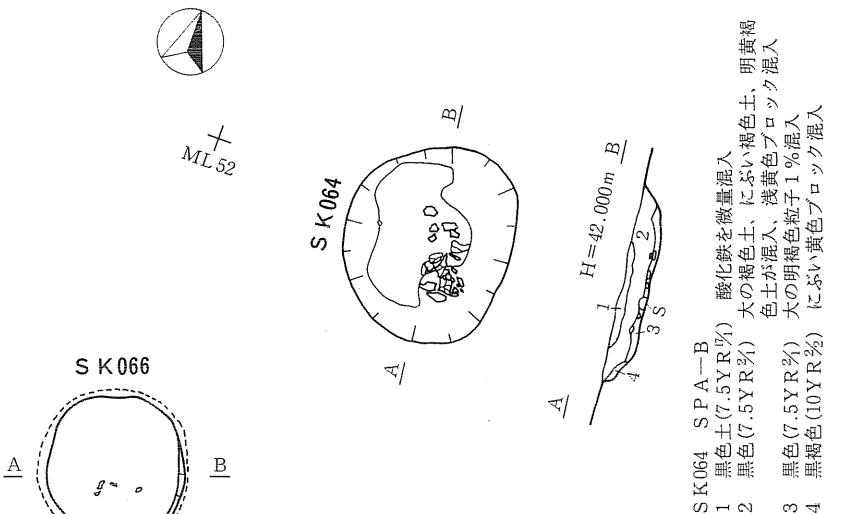
SK294
1　黒褐色土(10YR3/2)　粘性・しまりあり、地山小～大粒一部ブロック状30％混入、炭化物中粒20％混入
2　黒色土(10YR2/1)　粘性・しまりあり、地山小～大粒シミ状40％、黄褐色土中～大粒5％混入
3　黒褐色土(10YR3/1)　粘性・しまりあり、地山小～極大粒15％混入、炭化物中粒1％混入
4　黒褐色土(10YR3/1)　地山中粒1％、黒色土ブロック状に混入
5　黒色土(10YR2/1)　粘性・しまりあり、地山中粒ブロック状10％混入
6　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　粘性・しまりあり、黒色土シミ状に混入
7　黒褐色土(10YR3/2)　粘性・しまりあり、黒褐色土シミ状及びブロック状に50％混入

SX050・254　C－D
1　黒色土(10YR2/1)　粘性・しまりあり、地山小～大粒3％、炭化物混入、灰白色粘土粒小～中粒1％混入
2　黒褐色土(10YR3/2)　粘性・しまりあり、地山小～大粒20％、混入黄褐色土中粒ブロック状30％、灰白色土極大粒ブロック10％混入
3　黒色土(10YR2/1)　粘性・しまりあり、地山中粒3％、炭化物多量焼土粒子混入
4　黒色土(7.5YR2/1)　粘性強、湿性あり、地山中粒1％、ブロック状混入、炭化物混入
5　黒褐色土(10YR3/2)　粘性・しまりあり、地山小～大粒20％、黄褐色土小～大粒10％、黒色土10％、炭化物混入貼床(一括埋土)
6　黒色土(10YR2/1)　粘性・しまりあり、地山中粒3％混入
7　黒色土(N1.5)灰層　粘性・しまりあり、灰白色粘土ブロック5％
8　黒色土(7.5YR2/1)　粘性・しまりあり、地山中粒10％混入、炭化物中粒50％混入
9　黒褐色土(10YR3/2)　粘性あり、しまり強、地山中粒30％、炭化物中粒10％含混入

SX050　E－F
1　黒色土(10YR2/1)　粒子細、粘性・しまりあり炭化物中粒5％、地山中粒20％混入
2　黒褐色土(10YR3/2)　粒子細、粘性・しまりあり、地山ブロック状50％

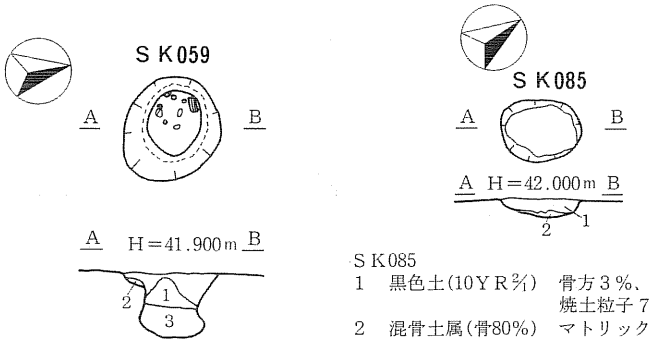
SX050　G－H
1　黒色土(10YR2/1)　粘性あり、しまり強、地山中粒15％
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性・しまりあり、黒色土大粒ブロック状及びシミ状25％、黄褐色土大粒3％混入
3　黒色土(10YR2/1)　粘性あり、黄褐色土中粒1％混入
4　黒色土(10YR2/1)　粘性・しまりあり、地山中粒15％、焼土粒1％炭化物中～大粒20％混入
5　黒色土(10YR2/1)　粘性・しまりあり、地山小～大粒60％、灰白色粘土粒中～大粒10％、黄褐色土中粒5％混入
6　黒色土(10YR2/1)　粘性・しまりあり、灰白色粘土、黄褐色土中粒1％、炭化物中粒10％混入

第54図　SK043・294土坑、SX050・254・259その他の遺構



ＳＫ064　ＳＰＡ—Ｂ
1　黒色土(7.5ＹＲ2/1)　酸化鉄を微量混入
2　黒色(7.5ＹＲ2/1)　大の褐色土、にぶい褐色土、明黄褐色土が混入、浅黄色ブロック混入
3　黒色(7.5ＹＲ2/1)　大の明褐色粒子１％混入
4　黒褐色(10ＹＲ2/2)　にぶい黄色ブロック混入

ＳＫ066　ＳＰＡ—Ｂ
1　黒色土(10ＹＲ1/1)　明黄褐色粒子と酸化鉄が１％混入
2　黒色土(10ＹＲ1/1)　明黄褐色ブロック混入
3　黒色土(10ＹＲ1/1)
4　黒色土(10ＹＲ1/1)　灰白色ブロック混入
5　黒色土(10ＹＲ2/1)　黄褐色土混入
6　灰白色(５Ｙ7/2)　地山土
7　黒色土(10ＹＲ2/1)　黄褐色土混入

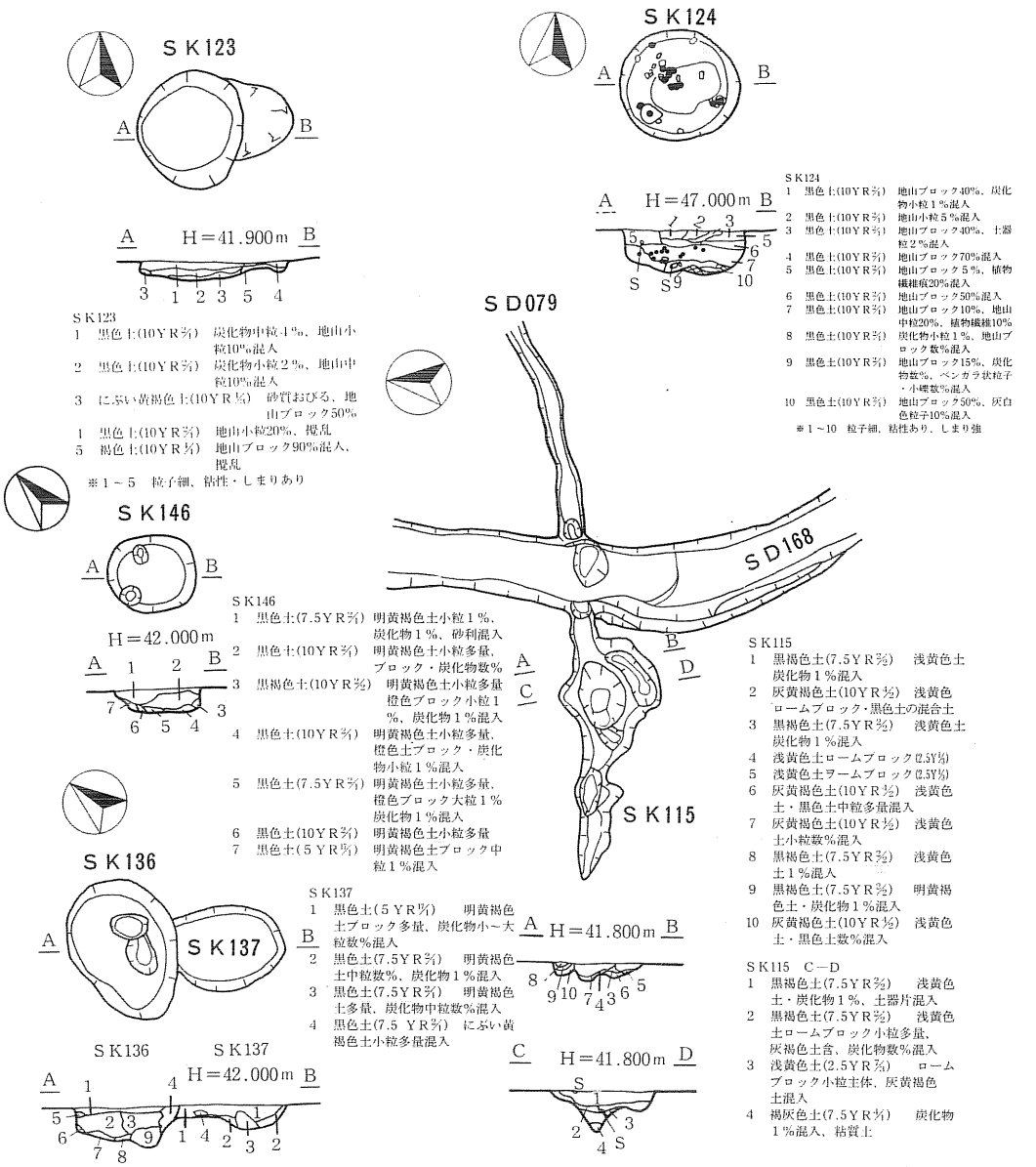


ＳＫ085
1　黒色土(10ＹＲ2/1)　骨方３％、炭化物20％、ローム粒子10％、焼土粒子７％
2　混骨土属(骨80％)　マトリック黒色土炭化物数％含

ＳＫ059
1　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粘性・しまりあり、炭化物小粒混入、暗赤褐色粒子混入、黒褐色土と混合し15％含まれている
2　暗褐色土(10ＹＲ3/3)　粘性・しまりあり、暗赤褐色粒子１％含む
3　黒褐色土(10ＹＲ3/1)　粘性・しまりあり、炭化物・酸化鉄分、１％混入、ローム粒子５％混入、石、砂利を少量含む

0　2m

第55図　ＳＫ059・064・066・085土抗



ＳＫ123
1　黒色土(10ＹＲ2/1)　炭化物中粒4％、地山小粒10％混入
2　黒色土(10ＹＲ2/1)　炭化物小粒2％、地山中粒10％混入
3　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5/3)　砂質おびる、地山ブロック50％
1　黒色土(10ＹＲ2/1)　地山小粒20％、撹乱
5　褐色土(10ＹＲ4/4)　地山ブロック90％混入、撹乱
※１～５　粒子細、粘性・しまりあり

ＳＫ124
1　黒色土(10ＹＲ2/1)　地山ブロック40％、炭化物小粒１％混入
2　黒色土(10ＹＲ2/1)　地山小粒５％混入
3　黒色土(10ＹＲ2/1)　地山ブロック40％、土器粒２％混入
4　黒色土(10ＹＲ2/1)　地山ブロック70％混入
5　黒色土(10ＹＲ2/1)　地山ブロック５％、植物繊維痕20％混入
6　黒色土(10ＹＲ2/1)　地山ブロック50％混入
7　黒色土(10ＹＲ2/1)　地山ブロック10％、地山中粒20％、植物繊維10％
8　黒色土(10ＹＲ2/1)　炭化物小粒１％、地山ブロック数％混入
9　黒色土(10ＹＲ2/1)　地山ブロック15％、炭化物数％、ベンガラ状粒子・小礫数％混入
10　黒色土(10ＹＲ2/1)　地山ブロック50％、灰白色粒子10％混入
※１～10　粒子細、粘性あり、しまり強

ＳＫ146
1　黒色土(7.5ＹＲ2/1)　明黄褐色土小粒１％、炭化物１％、砂利混入
2　黒色土(10ＹＲ2/1)　明黄褐色土小粒多量、ブロック・炭化物数％
3　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　明黄褐色土小粒多量橙色ブロック小粒１％、炭化物１％混入
4　黒色土(10ＹＲ2/1)　明黄褐色土小粒多量、橙色土ブロック・炭化物小粒１％混入
5　黒色土(7.5ＹＲ2/1)　明黄褐色土小粒多量、橙色ブロック大粒１％炭化物１％混入
6　黒色土(10ＹＲ2/1)　明黄褐色土小粒多量
7　黒色土(5ＹＲ2/1)　明黄褐色土ブロック中粒１％混入

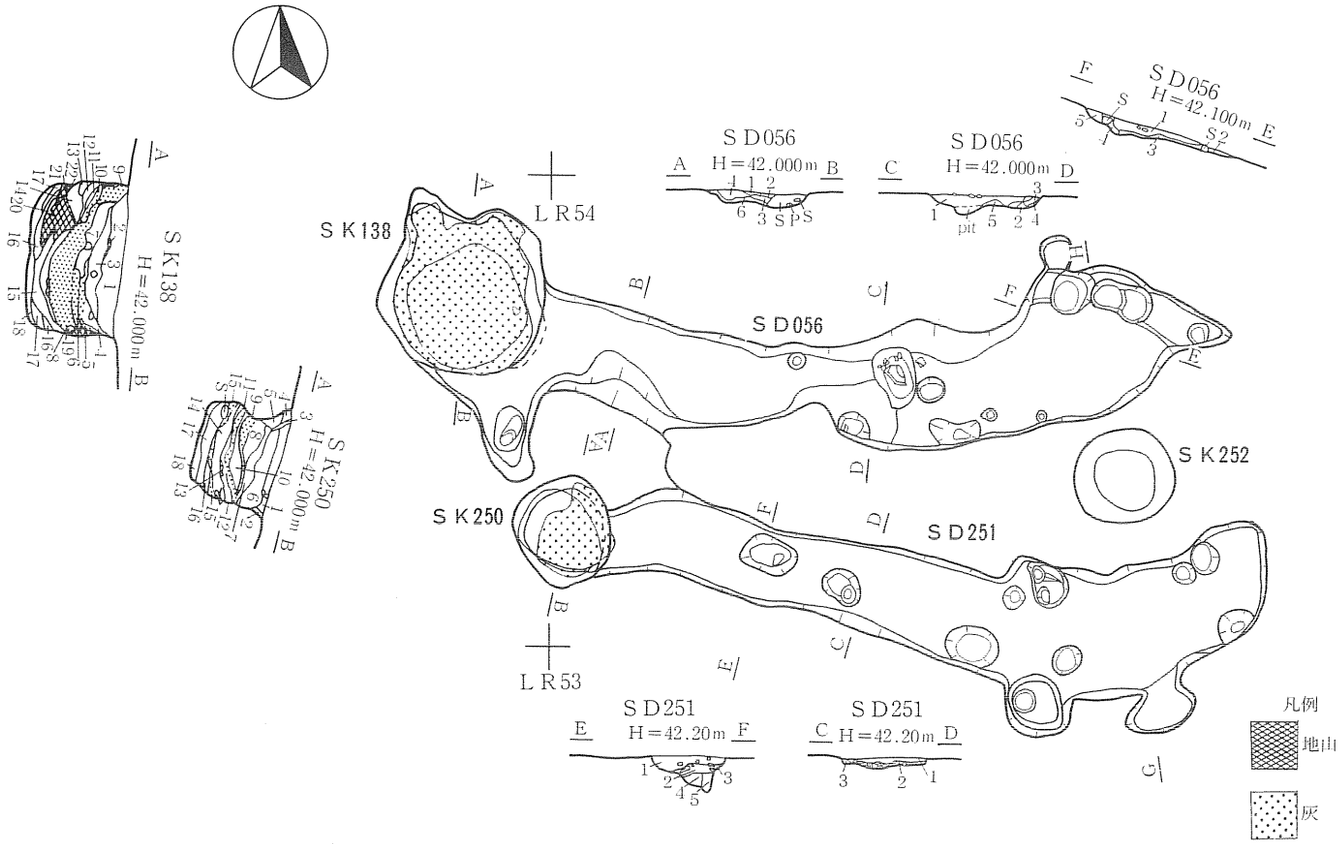
ＳＫ115
1　黒褐色土(7.5ＹＲ3/2)　浅黄色土炭化物１％混入
2　灰黄褐色土(10ＹＲ4/2)　浅黄色ロームブロック・黒色土の混合土
3　黒褐色土(7.5ＹＲ3/2)　浅黄色土炭化物１％混入
4　浅黄色土ロームブロック(2.5Ｙ4/3)
5　浅黄色土ヲームブロック(2.5Ｙ4/3)
6　灰黄褐色土(10ＹＲ4/2)　浅黄色土・黒色土中粒多量混入
7　灰黄褐色土(10ＹＲ4/2)　浅黄色土小粒数％混入
8　黒褐色土(7.5ＹＲ3/2)　浅黄色土１％混入
9　黒褐色土(7.5ＹＲ3/2)　明黄褐色土・炭化物１％混入
10　灰黄褐色土(10ＹＲ4/2)　浅黄色土・黒色土数％混入

ＳＫ137
1　黒色土(5ＹＲ2/1)　明黄褐色土ブロック多量、炭化物小～大粒数％混入
2　黒色土(7.5ＹＲ2/1)　明黄褐色土中粒数％、炭化物１％混入
3　黒色土(7.5ＹＲ2/1)　明黄褐色土多量、炭化物中粒数％混入
4　黒色土(7.5ＹＲ2/1)　にぶい黄褐色土小粒多量混入

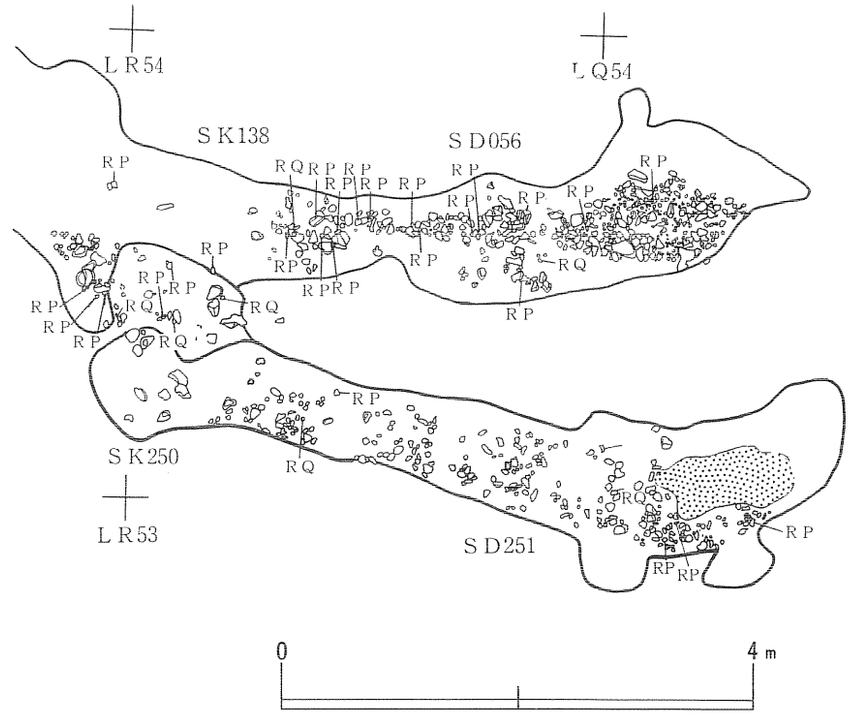
ＳＫ115　Ｃ－Ｄ
1　黒褐色土(7.5ＹＲ3/2)　浅黄色土・炭化物１％、土器片混入
2　黒褐色土(7.5ＹＲ3/2)　浅黄色土ロームブロック小粒多量、灰褐色土含、炭化物数％混入
3　浅黄色土(2.5ＹＲ7/3)　ロームブロック小粒主体、灰黄褐色土混入
4　褐灰色土(7.5ＹＲ4/1)　炭化物１％混入、粘質土

ＳＫ136
1　黒色土(7.5ＹＲ2/1)　明黄褐色土１％、赤色土、炭化物小粒混入
2　黒色土(7.5ＹＲ2/1)　明黄褐色土小粒１％、明黄褐色土ブロック大粒数％、炭化物大粒数％混入
3　黒色土(7.5ＹＲ2/1)　明黄褐色土、浅黄色土多量、明黄褐色土極大粒ブロック数％、炭化物数％
4　黒色土(5ＹＲ2/1)　明黄褐色土・浅黄色土小粒多量混入
5　灰黄褐色土(10ＹＲ4/2)　粘土質
6　明黄褐色土(2.5Ｙ6/6)　ロームブロック、浅黄色土ロームブロック、黒色土の混合土
7　黒色土(7.5ＹＲ2/1)　明黄褐色土小粒数％、極大粒ブロック混入
8　黒褐色土(7.5ＹＲ3/2)　明黄褐色土小粒ブロック・炭化物数％混入
9　黒色土(7.5ＹＲ2/1)　明黄褐色土小粒多量、浅黄色土・明黄褐色土中粒ブロック数％、炭化物１％

第56図　ＳＤ079・168溝状遺構、ＳＫ115・123・124・136・137・146土抗



礫出土状況図



ＳＫ138　Ａ－Ｂ
1　黒色土(10ＹＲ2/1)　粒子細、粘性あり、しまり強、炭化物中～大粒2%、地山粒中～大粒20%含
2　灰層(10ＹＲ5/1)　粒子細、粘性強、しまりなし、
3　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粒子細、粘性中、しまりあり、炭化物中粒20%、地山中粒40%、礫若干含
4　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粒子細、粘性中、しまりあり、地山粒中粒10%含
5　灰層(10ＹＲ5/1)　粘性強、しまりなし、水分多量、地山小粒２%含
6　灰層(10ＹＲ5/1)　粘性強、しまりなし、水分多量、地山中粒１%含
7　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粒子細、粘性中、しまりあり、灰シミ状一部ブロック状に40%、地山中小～中粒60%、焼土中粒３%含
8　灰層(10ＹＲ5/1)　粘性強、しまりなし、水分多量、地山粒５%含
9　灰層(10ＹＲ5/1)　粘性強、しまりなし、水分多量、地山中粒30%、焼土中粒２%混入
10　灰層(10ＹＲ5/1)　粘性強、しまりなし、水分多量、地山ブロック15%、焼土大粒１%混入
11　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粒子細、粘性中、しまりあり、地山中粒20%、植物繊維痕50%混入
12　黒色土(10ＹＲ2/1)　粒子細、粘性中、しまりあり、炭化物中粒１%、地山中粒５%、植物繊維痕40%含
13　黒色土(10ＹＲ2/1)　粒子細、粘性中、しまりあり、地山小粒２%、植物繊維50%混入
14　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粒子細、粘性強、しまりあり、地山ブロック70%混入
15　黒色土(10ＹＲ2/1)　粒子細、粘性強、地山中粒10%、植物繊維10%、最深部に小礫集中
16　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粒子細、粘性強、しまりなし、地山ブロック一部帯状にも80%混入
17　褐色土(10ＹＲ4/4)　粒子細、粘性強、しまりなし、黒褐色土帯状に含、地山ブロック90%混入
18　褐灰色土(10ＹＲ4/1)　粒子細、粘性強、しまりなし、地山中粒２%混入
19　黒褐色土(10ＹＲ3/4)　粒子細、粘性強、しまりあり、地山中粒２%混入
20　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粒子細、粘性強、しまりなし、地山ブロック50%、極細砂ブロック含
21　黄褐色土(10ＹＲ5/6)　極細砂、しまりなし、水分含
22　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5/4)　粒子細、粘性・しまりあり、若干砂質混入

ＳＤ056　Ｆ－Ｅ
1　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粘性、しまりあり、地山小～中粒５%、炭化物混入
2　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5/4)　粘性、しまりあり、黒褐色土10%、極大粒の円礫60%混入
3　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粘性、しまりなし、地山小～中粒３%、極大粒の円礫混入
4　黒褐色土(10ＹＲ3/4)　粘性、しまりあり、地山中粒10%混入
5　黒褐色土(10ＹＲ3/3)（粘性、しまり、地山粒小～極大粒20%、一部ブロック状に混入、黒褐色シミ状に５%混入

ＳＫ250　Ａ－Ｂ
1　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粒子細、粘性・しまりあり、炭化物小粒１%、地山小粒１%混入
2　黒色土(10ＹＲ2/1)　粒子細、粘性強、しまりなし、地山ブロック状10%混入
3　黒色土(10ＹＲ2/1)　粒子細、粘性・しまりあり、灰シミ状に含、地山中粒10%混入
4　黒褐色土(10ＹＲ3/3)　１と同じ
5　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粒子細、粘性・しまりあり、小礫10%、地山小粒５%混入
6　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粒子細、粘性・しまりあり、地山小～中粒６%、炭化物小粒１%
7　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粒子細、粘性・しまりあり、地山小粒２%、炭化物小粒若干
8　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粒子細、粘性若干、しまりあり、小礫９%、地山中粒10%混入
9　灰層(10ＹＲ5/1)　粒子細、粘性強、しまりなし、地山中粒15%、灰をシミ状に含
10　黒色土(10ＹＲ2/1)　粒子細、粘性強、しまりなし、地山中粒15%、灰をシミ状に含
11　灰層(10ＹＲ5/1)　粒子細、粘性強、しまりなし、地山中粒20%、水分多量に含
12　黄褐色土(10ＹＲ5/6)　粒子細、粘性・しまりあり、地山崩焼土
13　灰層(10ＹＲ5/1)　粒子細、粘性強、しまりなし、焼土中粒若干、地山小粒３%混入
14　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粒子細、粘性中、しまりあり、炭化物小粒１%、焼土小粒１%、地山中粒10%、水分含
15　灰層(10ＹＲ5/1)　粒子細、粘性強、しまりなし、地山小粒３%、水分多量含
16　にぶい黄褐色土(10ＹＲ4/3)　粒子細、粘性強、しまりなし、層下部にシミ含、水分多量
17　暗褐色土(10ＹＲ3/4)　粒子細、粘性・しまりあり、極細砂、水分多量に含
18　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粒子細、粘性中、しまりなし、水分多量含、灰をシミ状に含

ＳＤ056　Ｇ－Ｈ
1　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性・しまりあり、地山小粒１%、ブロック状５%、炭化物混入
2　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性・しまりあり、にぶい黄褐色土シミ状に40%混入
3　黒色土(10ＹＲ2/3)　黒色土シミ状に混入
4　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性・しまりあり、にぶい黄褐色土シミ状に15%混入
5　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性・しまりあり、炭化物混入
6　黒色土(10ＹＲ2/1)　極大の円礫90%混入
7　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粘性・しまりあり、地山小～極大粒シミ状に40%混入

ＳＤ251　Ｇ－Ｈ
1　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粘性・しまりあり、地山小～極大粒５%、黒灰20%；焼土混入
2　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粘性・しまりあり、地山小～大粒１%、焼土粒、黒灰混入
3　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5/4)　粘性・しまりあり、黒褐色土20%混入
4　灰層(N/5)　粘性なし、しまりあり、地山小～大粒２%、焼土中～大粒１%、炭化物中～大粒１%混入
5　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性あり、しまりなし、地山中粒１%、円礫極大粒8.%含
6　黒色土10ＹＲ2/1)　粘性・しまりあり、黒色土10%含、地山・焼土中粒２%.・１%含

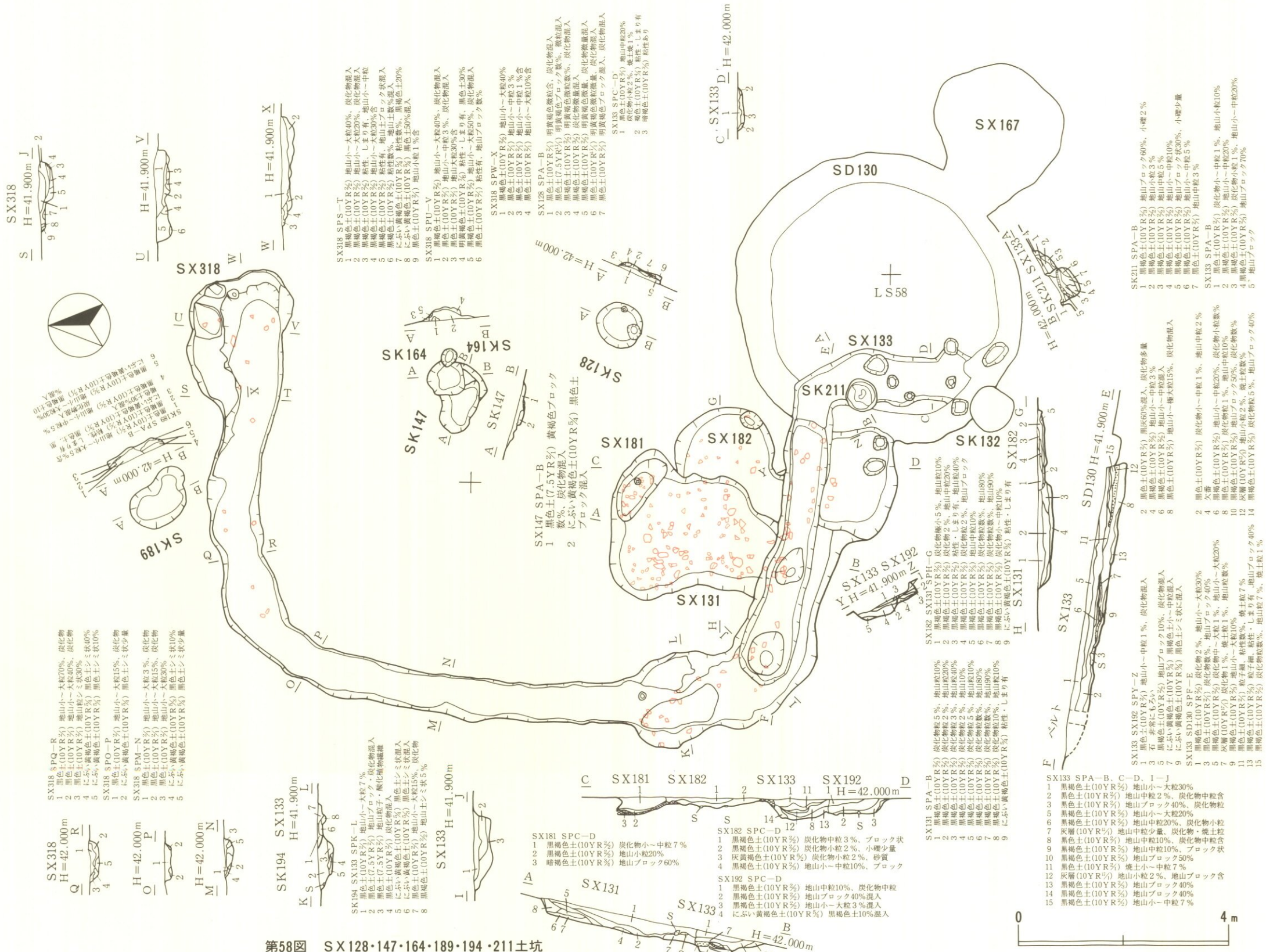
ＳＤ251　Ｃ－Ｄ
1　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性・しまりあり、地山小～大粒５%、炭化物多量混入
2　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性若干、しまりなし、円礫極大粒80%混入
3　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5/4)　粘性・しまりあり、黒色土シミ状に20%混入

ＳＤ251　Ｅ－Ｆ
1　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性・しまりあり、地山小～大粒３%、一部ブロック状に入る
2　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性あり、しまりなし、地山中粒50%、小円礫中粒70%混入
3　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性若干、しまりなし、地山中粒・ブロック状30%混入
4　黒褐色土(10ＹＲ2/1)　粘性強、しまりなし、地山中粒３%混入
5　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性強、しまりなき、地山小～中粒３%混入

ＳＤ056　Ａ－Ｂ
1　黒褐色土(10ＹＲ3/3)　粘性なし、しまりあり、地山小～大粒５%、炭化物・砂質混入
2　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性・しまりあり、地山小粒１%混入
3　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性・しまりなし、地山小～大粒30%、砂質多量に混入
4　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性あり、しまりなし、砂質小～大粒７%、炭化物混入
5　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性・しまりあり、地山ブロック極大粒５%、炭化物混入
6　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5/6)　粘性・しまりあり、黒色土シミ状に混入

ＳＤ056　Ｃ－Ｄ
1　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性・しまりあり、地山小～極大粒一部ブロック将で15%含
2　黒褐色土(10ＹＲ3/3)　粘性あり、しまりなし、地山小～極大粒一部ブロック状で40%
3　黒褐色土(10ＹＲ3/4)　粘性あり、しまりなし、地山小～大粒７%混入
4　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5/4)　粘性・しまりあり、黒色土シミ状に20%混入
5　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5/4)　粘性・しまりあり、黒褐色土シミ状に30%混入

第57図　ＳＫ138・250・253土抗、ＳＤ056・251溝状遺構

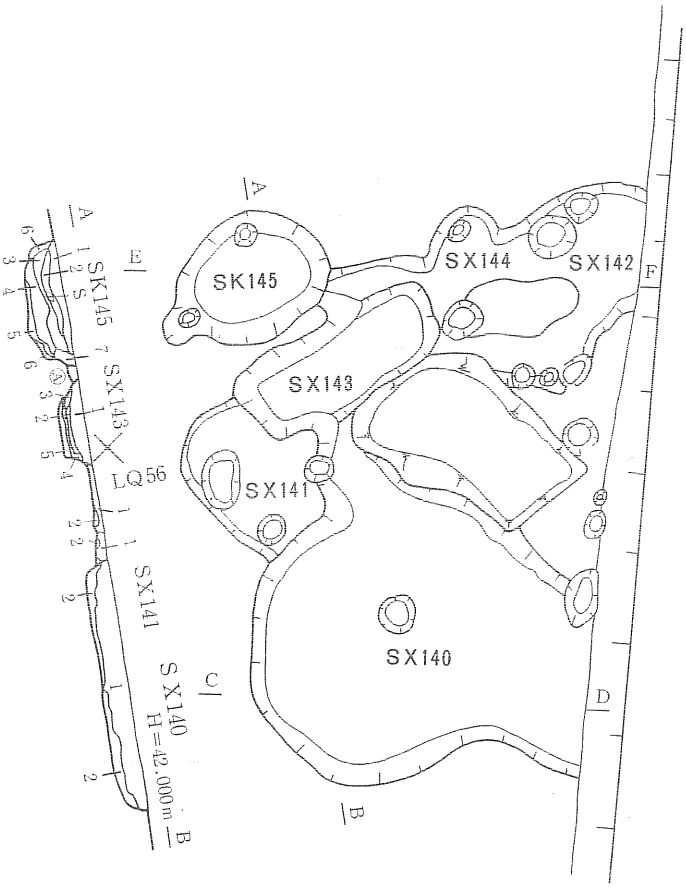


第58図　ＳＸ128・147・164・189・194・211土坑
ＳＸ131・133・181・182・192・318その他の遺構

SK145 SPA－B
1　黒褐色土(10YR⅔)　粒子細、粘性・しまり有、炭化物2％、地山粒5％
3　黒褐色土(10YR⅔)　粒子細、粘性・しまり有、炭化物3％、地山粒40％
5　黒褐色土(10YR⅔)　粒子細、粘性・しまり有、炭化物7％、地山粒20％
7　黒褐色土(10YR⅔)　粒子細、粘性・しまり有、地山ブロック25％
9　黒褐色土(10YR⅔)　粒子細、粘性・しまり有、地山粒40％、炭化物微％

SX143 SPA－B
1　黒褐色土(10YR⅔)　粒子細、粘性・しまり有、炭化物2％、地山粒5％
3　黒褐色土(10YR⅔)　粒子細、粘性・しまり有、地山ブロック20％
5　黒褐色土(10YR⅔)　粒子細、粘性・しまり有、地山ブロック80％

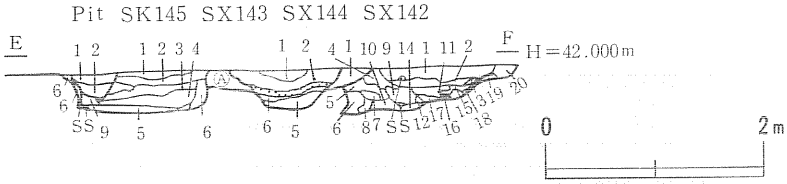
SX141 SPA－B
1　黒褐色土(10YR⅔)　粒子細、しまり有、炭化物1％、地山粒3％



2　黒褐色土(10YR⅔)　粒子細、粘性・しまり有、炭化物1％、地山粒60％
4　黒褐色土(10YR⅔)　粒子細、粘性・しまり有、炭化物10％、地山粒50％
6　黒褐色土(10YR⅔)　粒子細、粘性・しまり有、炭化物1％、地山粒40％
8　黒褐色土(10YR⅔)　粒子細、粘性・しまり有、地山粒7％、地山粒％
10　黒褐色土(10YR⅔)　粒子細、粘性・しまり有、地山粒1％

SX140 SPC－D
1　黒褐色土(10YR⅔)　粒子細、粘性・しまり有、炭化物2％、地山粒20％、小礫2％
2　暗褐色土(10YR⅓)　粒子細、粘性・しまり有、炭化物10％、地山粒2％、一部ブロック状あり
3　黒褐色土(10YR⅔)　粒子細、粘性・しまり有、地山粒60％
4　暗褐色土(10YR⅓)　粒子細、粘性・しまり有、地山ブロック90％

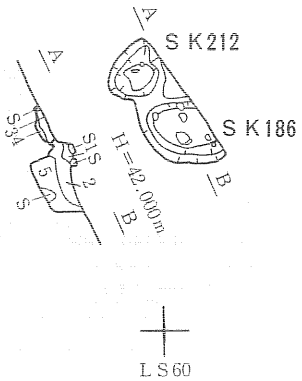
Pit　SK145　SX143　SX144　SX142

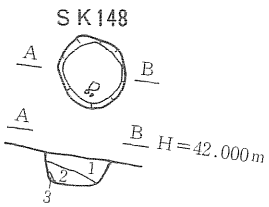


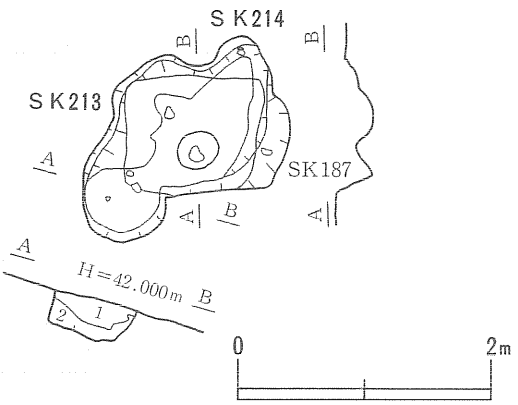
SX142 SPE－F
1　黒色土(10YR⅔)　粒子細、粘性・しまり有、炭化物1％、地山5％
2　黒褐色(10YR⅔)　粒子細、粘性・しまり有、炭化物1％、地山5％
4　黒褐色土(10YR⅔)　粒子細、粘性・しまり有、炭化物数％、地山粒20％
5　黒褐色土(10YR⅔)　粒子細、粘性・しまり有、地山ブロック30％
6　黒褐色土(10YR⅔)　粒子細、粘性・しまり有、地山70％、小礫数％
7　黒褐色土(10YR⅔)　粒子細、粘性・しまり有、地山粒5％
8　黒褐色土(10YR⅔)　粒子細、粘性・しまり有、地山80％
9　黒褐色土(10YR⅔)　粒子細、粘性・しまり有、地山粒5％
11　黒褐色土(10YR⅔)　粒子細、粘性・しまり有、炭化物1％、地山粒20％
12　にぶい黄褐色土(10YR⅔)　極細砂、粘性数％、しまり有
14　黒褐色土(10YR⅔)　粒子細、粘性中、しまり有、炭化物数％
16　黒色土(10YR⅔)　粒子細、粘性中、しまり有、地山粒3％
17　灰黄褐色土(10YR⅓)　粒子細、粘性・しまり有、地山ブロック数％
18　黒褐色土(10YR⅔)　粒子細、粘性・しまり有、地山粒10％
19　黒褐色土(10YR⅔)　粒子細、粘性・しまり有、地山粒20％、地山50％
20　黒褐色土(10YR⅔)　粒子細、粘性・しまり有、炭化物1％、地山10％
※3、10、13、15層：地山ブロック

Pit
1　黒褐色土(10YR⅔)　粒子細、粘性・しまり有、炭化物数％、地山粒10％
2　黒褐色土(10YR⅔)　粒子細、粘性・しまり有、炭化物1％、地山20％

第59図　SK145土坑、SX139～144その他の遺構





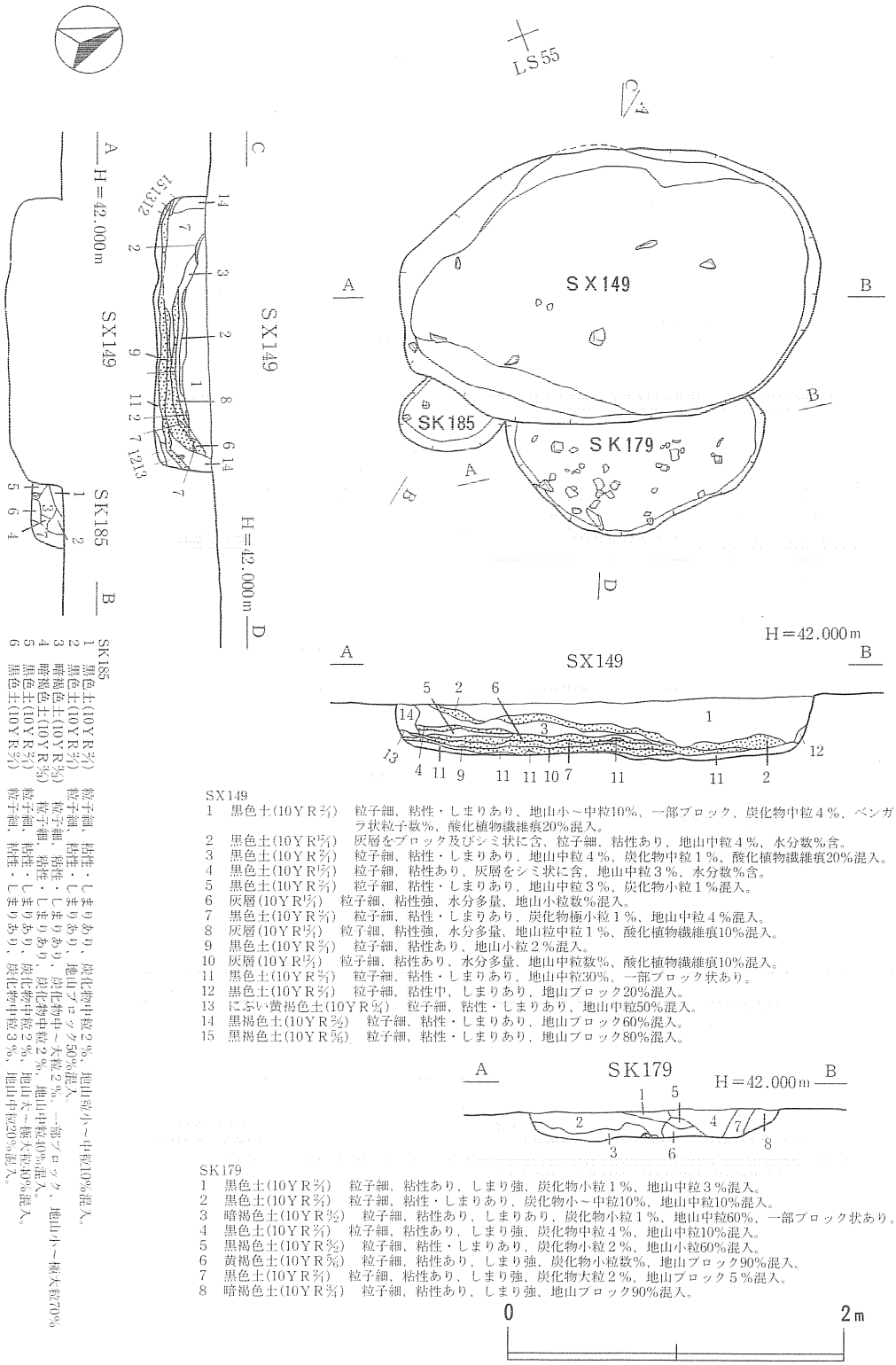


SK212、186　SPA－B
1　黒色土(10YR2/1)　粘性有、しまり悪い、炭化物混入
2　黒褐色土(10YR3/2)　粘性強、しまり良
3　黒褐色土(10YR3/2)　粘性強、しまり良、黒色土20%、にぶい黄褐色土40%
4　黒褐色土(10YR3/2)　粘性強、地山粒50%混入
5　黒褐色土(10YR3/2)　粘性強、黒色土50%、地山30%含
6　黒色土(10YR2/1)　撹乱土

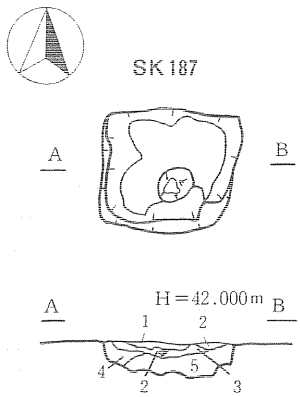
SK148　SPA－B
1　黒色(7.5YR2/1)　炭化物・赤色微粒・明黄褐色粒・１%混入
2　黒色(7.5YR2/1)　炭化物・赤色微粒１%混入
3　黒色(7.5YR2/1)　炭化物１%混入

SK213　SPA－B
1　黒色土(10YR2/1)　粘性有、しまり有、地山粒20%、炭化物含
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性有、黒色土シミ状に20%混入、黄褐色土20%混入

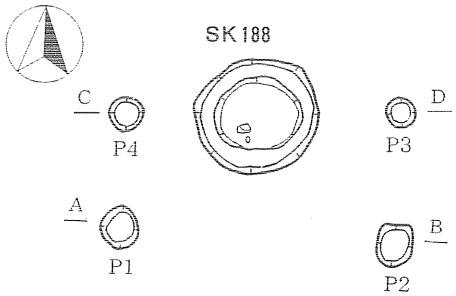
第60図　SK148・186・187・212・213・214土坑

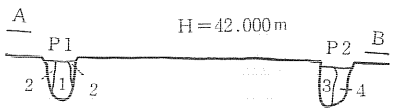


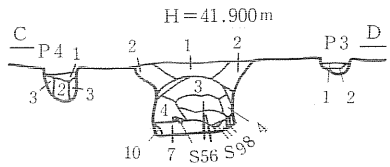
第61図　SK179・185土坑、SX149その他の遺構



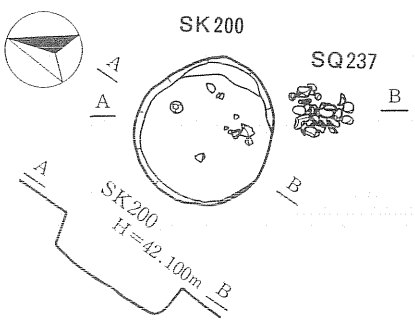
SK187
1　黒褐色土(10YR⅔)　粘性・しまり良、地山小～中粒10%
2　にぶい黄褐色土(10YR⅝)　黄褐色土・炭化物混入
3　黒褐色土(10YR⅔)　粘性・しまり良、炭化物混入
4　黒色土(10YR⅔)　粘性・しまり良、地山ブロック20%
5　黒褐色土(10YR⅔)　粘性・しまり良、地山ブロック40%
SK188　SPA－B　P1・P2
1　黒色土(7.5YR⅔)　灰白色ブロック・浅黄色粒少量混入
2　黒色土(7.5YR⅔)　灰白色ブロック・黄褐色ブロック混入
3　黒色土(7.5YR⅔)　灰白色ブロック・明黄褐色粒混入
4　黒色土(7.5YR⅔)　明黄褐色粒・浅黄色粒少量混入
SK188　SPC－D　P4・P3
1　黒色土(7.5YR⅔)　明黄褐色ブロック・炭化粒少量混入
2　明黄褐色土(10YR⅝)　黒色土混入
3　黒色土(7.5YR⅔)　灰白色・明黄褐色ブロック各混入
4　黒色土(7.5YR⅔)　灰白色・明黄褐色ブロック各混入
5　明黄褐色土(10YR⅝)　黒色土・灰白色ブロック各混入

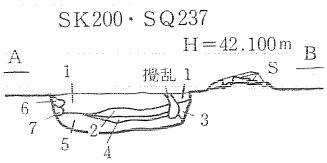




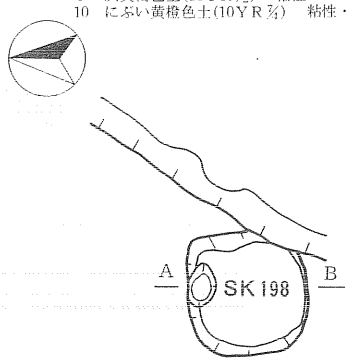


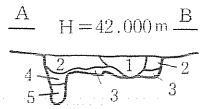
SK188　SPC－D
1　黒褐色土(10YR⅔)　粘性・しまり中、地山大粒20%
2　黒色土(10YR⅔)　粘性・しまり中、地山小～中粒30%
3　黒褐色土(10YR⅔)　粘性・しまりあり、地山中粒30%
4　黒褐色土(10YR⅔)　粘性・しまり中、地山中粒５%
5　黒褐色土(10YR⅔)　粘性・しまり中、地山中粒10%
6　黒褐色土(10YR⅔)　粘性強、地山小粒１%、水分含有
7　黒色土(10YR⅔)　粘性強、地山小粒５%、水分含有
8　黒色土(10YR⅔)　粘性強、水分含有
9　灰黄褐色土(10YR⅓)　粘性・しまりあり
10　にぶい黄橙色土(10YR⅞)　粘性・しまりあり



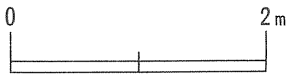


SK200・SQ237・SPA－B
1　黒色土(10YR⅔)　しまり良、地山小～大粒10%
2　黒褐色土(10YR⅔)　粘性・しまり良、地山小～大粒70%
3　にぶい黄褐色土(10YR⅝)　しまり良、黒色土５%
4　黒色土(10YR⅔)　粘性あり、地山土少量混入
5　黒褐色土(10YR⅔)　しまり良、地山土小～大粒30%
6　にぶい黄褐色土(10YR⅝)　粘性あり、黒色土40%
7　にぶい黄褐色土(10YR⅝)　粘性・しまりあり、黒色土含

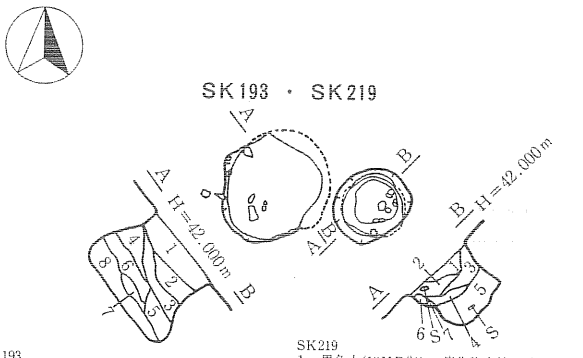




SK198
1　黒褐色土(10YR⅔)　粘性強、しまり中、黄褐色土含
2　黒色土(10YR⅔)　粘性・しまり中、地山小粒３%
3　にぶい黄褐色土(10YR⅝)　粘性・しまりあり
4　黒色土(10YR⅔)　粘性・しまり中、地山小粒10%
5　黒色土(10YR⅔)　粘性強、地山小～中粒５%

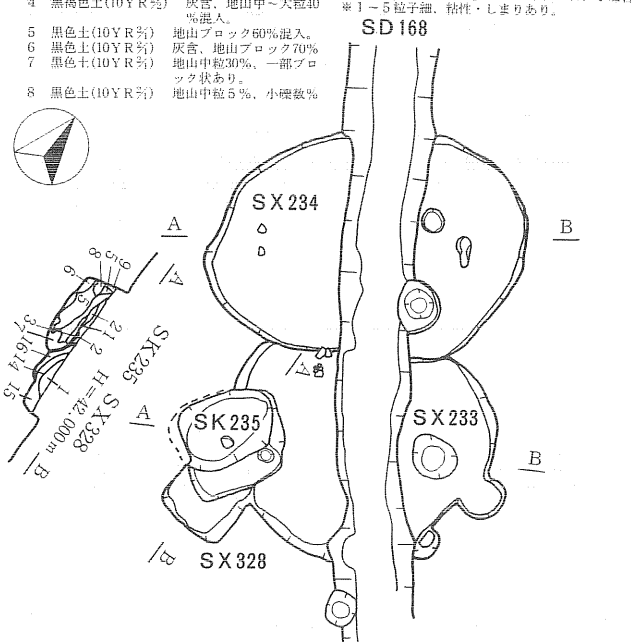


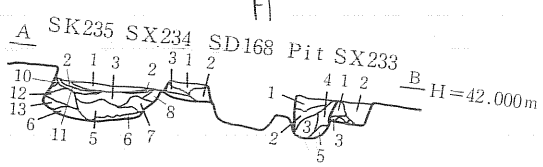
第62図　SK187・188・198・200土坑、SQ237配石遺構

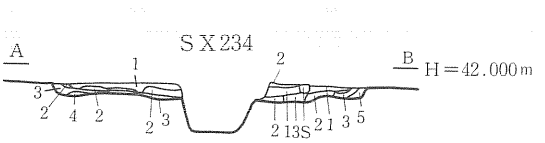


SK193
1　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　炭化物中粒２%、地山中粒30%、礫あり。
2　黒褐色土(10ＹＲ2/2)　炭化物中粒数%、地山中粒及ブロック状60%
3　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　灰含、地山ブロック80%、小礫数%混入。
4　黒褐色土(10ＹＲ2/2)　灰含、地山中～大粒40%混入。
5　黒色土(10ＹＲ2/1)　地山ブロック60%混入。
6　黒色土(10ＹＲ2/1)　灰含、地山ブロック70%
7　黒色土(10ＹＲ2/1)　地山中粒30%、一部ブロック状あり。
8　黒色土(10ＹＲ2/1)　地山中粒５%、小礫数%

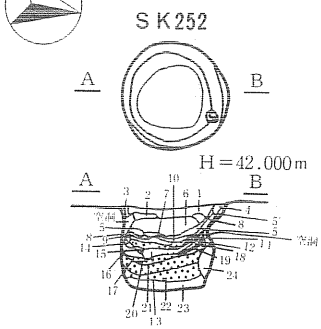
SK219
1　黒色土(10ＹＲ2/1)　炭化物小粒１%、地山ブロック70%混入。
2　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　炭化物小粒数%、地山ブロック80%、小礫数%
3　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　地山中～大粒20%混入。
4　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　地山ブロック50%混入。
5　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　地山中粒５%、小礫含
※１～５粒子細、粘性・しまりあり。







SX234
1　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粒子細、粘性・しまりあり、炭化物小粒３%、焼土中粒10%地山中～大粒50%混入。
2　暗褐色土(10ＹＲ3/4)　粒子細、粘性・しまりあり、炭化物中～大粒２%、焼土粒中粒２%、地山中粒50%混入。
3　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粒子細、粘性・しまりあり、地山小粒５%、炭化物小粒１%
4　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粒子細、粘性・しまりあり、地山ブロック50%混入。
5　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粒子細、粘性・しまりあり、地山中粒20%、一部ブロック。



SK252
1　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性強、地山小粒１%混入。
2　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性・湿性強、地山小粒１%。
3　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性・しまりあり、地山小～大粒及びブロック状で15%。
4　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性あり、黒灰シミ状に５%。
5　黒灰(N1.5)　焼土粒10%、黒色土がシミ状に５%酸化鉄数%混入。
5'　黒灰(N1.5)　粘性・しまりあり、に赤い黄褐色土ブロック状及びシミ状40%混入、灰白色粘土粒１%混入。
6　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性・しまりあり、地山小～大粒７%混入。
7　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性・しまりあり、に赤い黄褐色土ブロック状に10%、中粒。
8　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粘性あり、黒灰がシミ状に30%混入。
9　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性あり、黒灰シミ状に30%灰白粘土大粒10%、に赤い黄褐色土ブロック状及びシミ状に15%混入。
10　5'と同じ
11　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性あり、黒灰がシミ状に70%、灰白色粘土中粒１%混入
12　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性強、黒灰がシミ状に70%
13　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性・しまりなし、黒灰極太粒ブロック状及びシミ状に30%、灰白色粘土大粒１%混入
14　暗褐色土(10ＹＲ3/4)　粘性・しまりあり、地山小粒１%、黒灰シミ状に５%
15　黒灰(N1.5)　灰白色粘土中粒１%混入。
16　黒灰(N1.5)　粘性あり、地山小粒１%、灰白色粘土小粒１%、植物繊維多量含。
17　黒灰(N1.5)　粘性強、灰白色粘土60%、地山小粒10%混入。
18　黒灰(N1.5)　粘性・しまりあり、暗褐色土シミ状に３%混入。
19　暗褐色土(10ＹＲ3/4)　粘性あり、灰白色粘土小粒５%混入。
20　黒灰(N1.5)　しまりあり、灰白色粘土小粒３%含
21　黒灰(N1.5)　しまりあり、地山中粒３%混入。
22　黒灰(N1.5)　しまりあり、褐色土小～大粒３%、に赤い黄褐色土中粒１%混入。
23　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性・湿性・しまり強、黒色土シミ状30%混入。

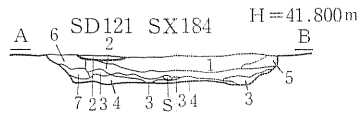
SK235・SX328
1　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粒子細、粘性・しまりあり、地山中粒30%、灰白色粘土２%。
2　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粒子細、粘性・しまりあり、地山中粒５%。
3　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粒子細、粘性・しまりあり、地山小粒３%。
4　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粒子細、粘性・しまりあり、地山ブロック90%
5　黒褐色土(10ＹＲ2/1)　粒子細、粘性・しまりあり、地山小粒５%、一部ブロック状あり。
6　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5/4)　粒子細、粘性・しまりあり、砂質含。
7　黄褐色土(10ＹＲ5/6)　粒子細、粘性・しまりあり、砂質、ブロック90%
8　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粒子細、粘性・しまりあり、地山ブロック状90%
9　黒色土(10ＹＲ2/1)　粒子細、粘性・しまりあり、炭化物小粒１%混入。
10　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5/4)　粒子細、粘性・しまりあり。
11　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粒子細、粘性・しまりあり、地山中粒10%混入。
12　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粒子細、粘性・しまりあり、地山ブロック30%。
13　黒色土(10ＹＲ2/1)　粒子細、粘性・しまりあり、地山中粒２%混入。
14　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粒子細、粘性・しまりあり、炭化物小粒１%、地山粒10%混入。
15　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粒子細、粘性・しまりあり、地山ブロック20%。
16　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粒子細、粘性・しまりあり、地山中粒７%混入。

SX233
1　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　炭化物小粒１%、地山小粒５%混入。
2　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　炭化物中粒数%、地山小粒15%混入。
3　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　炭化物中粒１%、地山大粒10%混入。
※１～３粒子細、粘性・しまりあり。

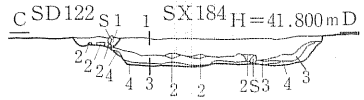
SX233隣接Pit
1　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　炭化物小粒１%、地山中粒30%、焼土中粒数%。
2　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　地山小粒25%、炭化物小粒数%混入。
3　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　地山中粒10%、炭化物中粒１%混入。
4　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　地山ブロック状70%混入。
5　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　地山ブロック状90%混入。
※１～５粒子細、粘性・しまりあり。

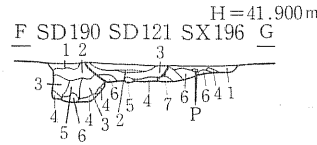
0　2m

第63図　SK193・219・235・252土坑、SX233・234・238・328その他の遺構



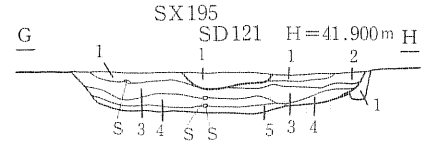
SX184 SPA－B
1　黒褐色土(10YR⅔)　炭化物小～中粒10%
2　黒色土(10YR⅔)　炭化物小粒3%
3　黒色土(10YR⅔)　地山粒ブロック50%
4　にぶい黄褐色土(10YR⅝)　ブロック状含
5　黒褐色土(10YR⅔)　炭化物中～大粒3%
6　黒褐色土(10YR⅔)　炭化物小粒2%
7　黒褐色土(10YR⅔)　地山ブロック80%



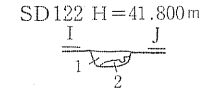


SD121 SPE－F
1　黒褐色土(10YR⅔)　炭化物・地山小粒含
2　黒色土(10YR⅔)　地山小粒3%
3　黒褐色土(10YR⅔)　炭化物小粒1%
4　黒褐色土(10YR⅔)　地山ブロック50%
5　黒色土(10YR⅔)　地山小粒5%
6　にぶい黄褐色土(10YR⅝)　ブロック状

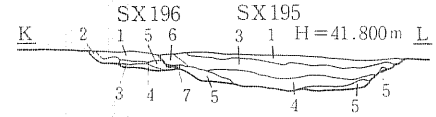
SB190 SPE－F
1　黒褐色土(10YR⅔)　炭化物小～中粒6%
2　黒褐色土(10YR⅔)　炭化物小～中粒10%
3　黒褐色土(10YR⅔)　炭化物小粒1%
4　灰黄褐色土(10YR⅝)　黒褐色土10%
5　黄褐色土(10YR⅔)　炭化物小粒若干
6　灰黄褐色土(10YR⅔)　炭化物中粒3%



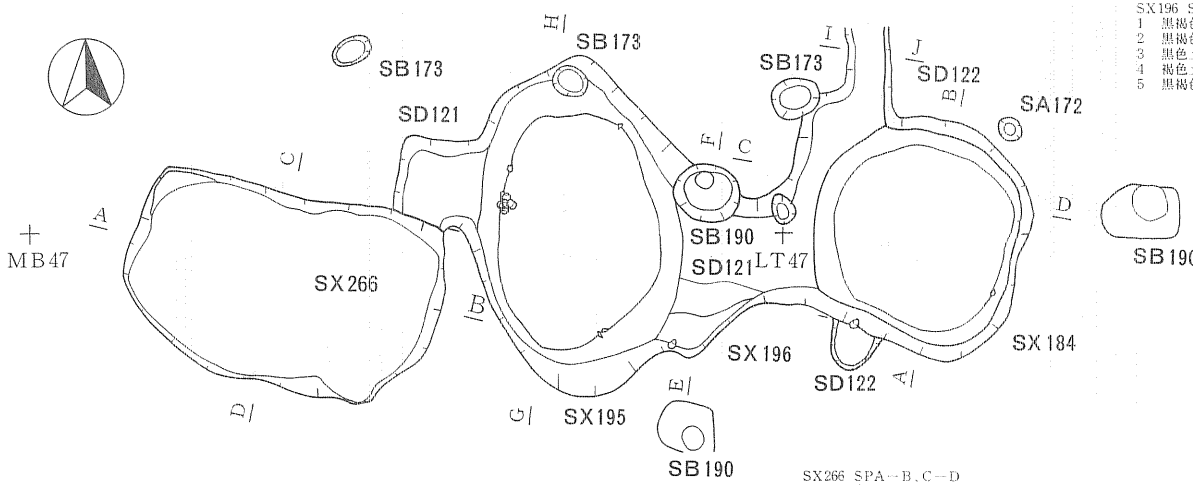
SX195 SPG－H
1　黒褐色土(10YR⅔)　炭化物小～大粒5%
2　黒色土(10YR⅔)　炭化物小粒若干
3　黒色土(10YR⅔)　炭化物・地山小粒10%
4　黒色土(10YR⅔)　炭化物小粒1%
5　灰黄褐色土(10YR⅝)　砂質含む
6　黒褐色土(10YR⅔)　地山大粒10%
7　黒褐色土(10YR⅔)　地山小粒2%

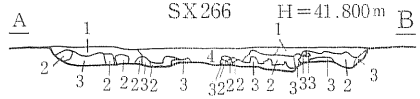


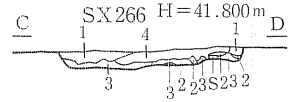
SD122 SPI－J
1　黒褐色土(10YR⅝)　炭化物・地山小粒10%
2　黒色土(10YR⅔)　地山小粒3%



SX196 SPK－L
1　黒褐色土(10YR⅔)　炭化物小粒1%
2　黒褐色土(10YR⅔)　地山ブロック60%
3　黒色土(10YR⅔)　地山中粒15%
4　褐色土(10YR⅝)　極細粒多量含有
5　黒褐色土(10YR⅔)　地山ブロック80%

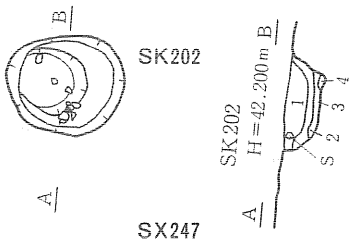


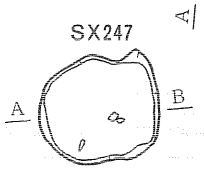


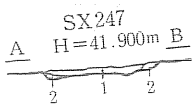


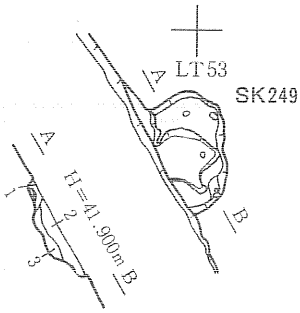
SX266 SPA－B，C－D
1　黒褐色土(10YR⅔)　炭化物小粒1%、地山中粒2%、酸化植物痕多量
2　灰黄褐色土(10YR⅔)　地山小～中粒20%、黒褐色粒10%、酸化植物痕含
3　にぶい黄橙色土(10YR⅝)　黒褐色中粒5%、酸化植物痕多量
4　黒褐色土(10YR⅔)　炭化物中粒1%、地山ブロック10%、酸化植物痕多量

第64図　SD121・122溝状遺構、SK195土坑
SX184・196・266その他の遺構、SA172柱列、SB173・190掘立柱建物跡





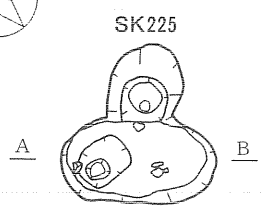


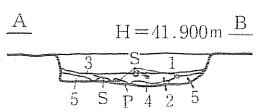


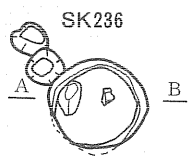
SK202
1　黒褐色土(10ＹＲ2/2)　炭化物中粒３％、地山小粒10％小礫２％混入。
2　黒褐色土(10ＹＲ2/3)　地山中粒10％一部ブロック、小礫数％混入。
3　黒褐色土(10ＹＲ3/3)　地山小～大粒40％混入。
4　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　地山ブロック80％混入。
※１～４粒子細、粘性・しまりあり。

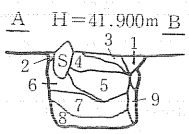
SK247
1　黒色土(10ＹＲ2/1)　粒子細、粘性・しまりあり、炭化物小数％、地山中粒15％混入。
2　黒褐色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性・しまりあり、地山ブロック50％混入。

SK249
1　黒褐色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性・しまりあり、地山ブロック状30％混入。
2　黒色土(10ＹＲ2/1)　粒子細、粘性・しまりあり、地山小粒５％、一部ブロック状あり。
3　黒褐色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性・しまり強、地山ブロック80％混入。



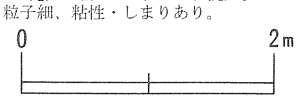




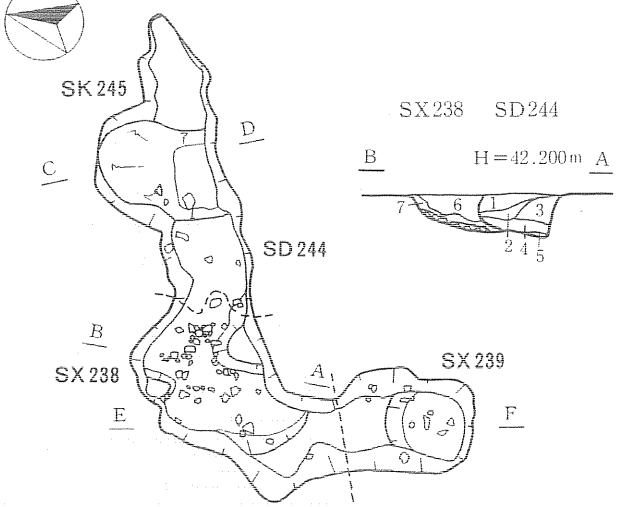


SK225
1　黒褐色土(10ＹＲ2/3)　粒子細、粘性あり、しまり強。
2　黒色土(10ＹＲ2/1)　粒子細、粘性・しまりあり、炭化物中粒５％、地山中粒20％一部ブロック状、小礫５％混入。
3　黒褐色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性・しまり強、地山小粒20％混入。
4　黒色土(10ＹＲ2/1)　粒子細、粘性強、しまりあり、地山小粒２％混入。
5　にぶい黄褐色土(10ＹＲ4/3)　粒子細、粘性・しまりあり、地山ブロック90％。

SK236
1　黒褐色土(10ＹＲ2/2)　地山ブロック20％混入。
2　地山ブロック
3　黒色土(10ＹＲ2/1)　地山中粒７％混入。
4　黒色土(10ＹＲ2/1)　炭化物中粒１％、地山中粒10％混入。
5　黒褐色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、地山ブロック状30％、小礫１％混入。
6　黒色土(10ＹＲ2/1)　地山中～大粒10％混入。
7　黒色土(10ＹＲ2/1)　地山中粒10％混入。
8　黒色土(10ＹＲ2/1)　地山ブロック60％混入。
9　黒褐色土(10ＹＲ2/2)　地山ブロック80％混入。
※１～４、６～９粒子細、粘性・しまりあり。

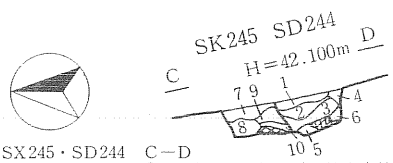


第65図　SK202・225・236・247・249土坑

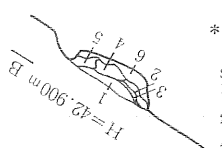


SX238・SD244　A－B
1　黒色土(10YR3/1)　炭化物小粒１％、地山小粒５％混入。
2　黒色土(10YR2/1)　炭化物小粒１％、地山小粒10％混入。
3　黒褐色土(10YR3/2)　地山中粒20％一部ブロック状あり。炭化物混入。
4　黒色土(10YR3/1)　地山小粒７％
5　黒色土(10YR2/1)　粒子細、粘性中、地山中粒10％混入。
6　黒褐色土(10YR3/2)　炭化物小粒２％、地山小粒３％。
7　黒褐色土(10YR3/2)　地山小粒20％一部ブロック状あり。
※１～４・６・７粒子細、粘性・しまりあり。

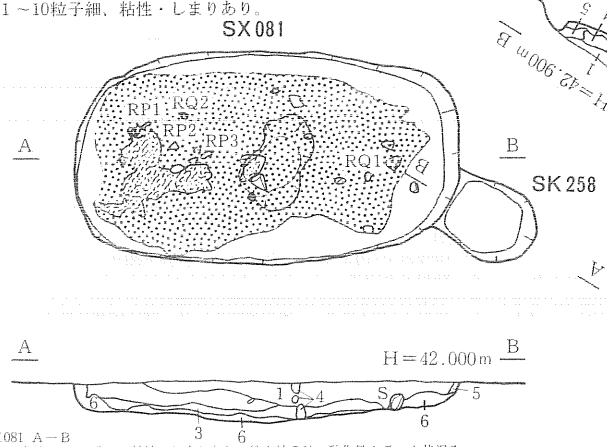
SX238・SD244・SX238・SX239　E－F
1　黒褐色土(10YR3/3)　炭化物小粒１％、地山中粒40％一部ブロック。
2　黒褐色土(10YR3/2)　地山中粒15％、炭化物小粒数％。
3　黒褐色土(10YR3/2)　炭化物小粒１％、地山中粒20％、一部ブロック状10％。
4　黒褐色土(10YR3/2)　地山ブロック状80％。
5　黒色土(10YR2/1)　地山中粒５％
6　黒褐色土(10YR3/2)　地山中粒10％、炭化物小粒数％。
7　黒色土(10YR2/1)　地山小粒３％
8　黒褐色土(10YR3/2)　地山ブロック状70％。
9　黒色土(10YR2/1)　地山ブロック状90％混入。
10　黒色土(10YR2/1)　地山小粒５％
11　黒色土(10YR2/1)　炭化物小粒１％、地山中粒５％混入。
12　黒色土(10YR2/1)　地山ブロック状30％混入。
＊１～12粒子細、粘性・しまりあり。



SX245・SD244　C－D
1　黒色土(10YR2/1)　炭化物小粒１％、地山中粒15％混入。
2　黒褐色土(10YR3/2)　炭化物小粒１％、地山粒30％混入。
3　黒褐色土(10YR3/3)　地山中粒50％混入。
4　黒褐色土(10YR3/2)　地山小粒30％混入。
5　黒褐色土(10YR3/2)　地山ブロック60％混入。
6　黒褐色土(10YR3/3)　地山小粒50％混入。
7　黒色土(10YR2/1)　炭化物小粒２％、地山小粒20％混入。
8　黒褐色土(10YR3/3)　地山ブロック状60％混入。
9　黒褐色土(10YR3/3)　地山小粒３％混入。
10　黒褐色土(10YR3/1)　地山中粒７％一部ブロック状あり。
※１～10粒子細、粘性・しまりあり。



SK258　A－B
1　黒色土(10YR3/1)　粘性・しまりあり、地山小～大粒10％、黒灰５％、炭化物
2　黒色土(10YR3/1)　粘性あり、黒灰90％、地山中粒１％
3　黒色土(10YR3/1)　粘性あり、地山小～中粒、一部ブロック状７％、炭化物
4　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性・しまりあり、黒色土15％、黒褐色土20％混入。
5　黒色土(10YR3/1)　粘性あり、しまり強、地山小～中粒５％、黒褐色土大粒ブロック状10％混入。
6　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　粘性・しまりあり、黒色土７％混入。

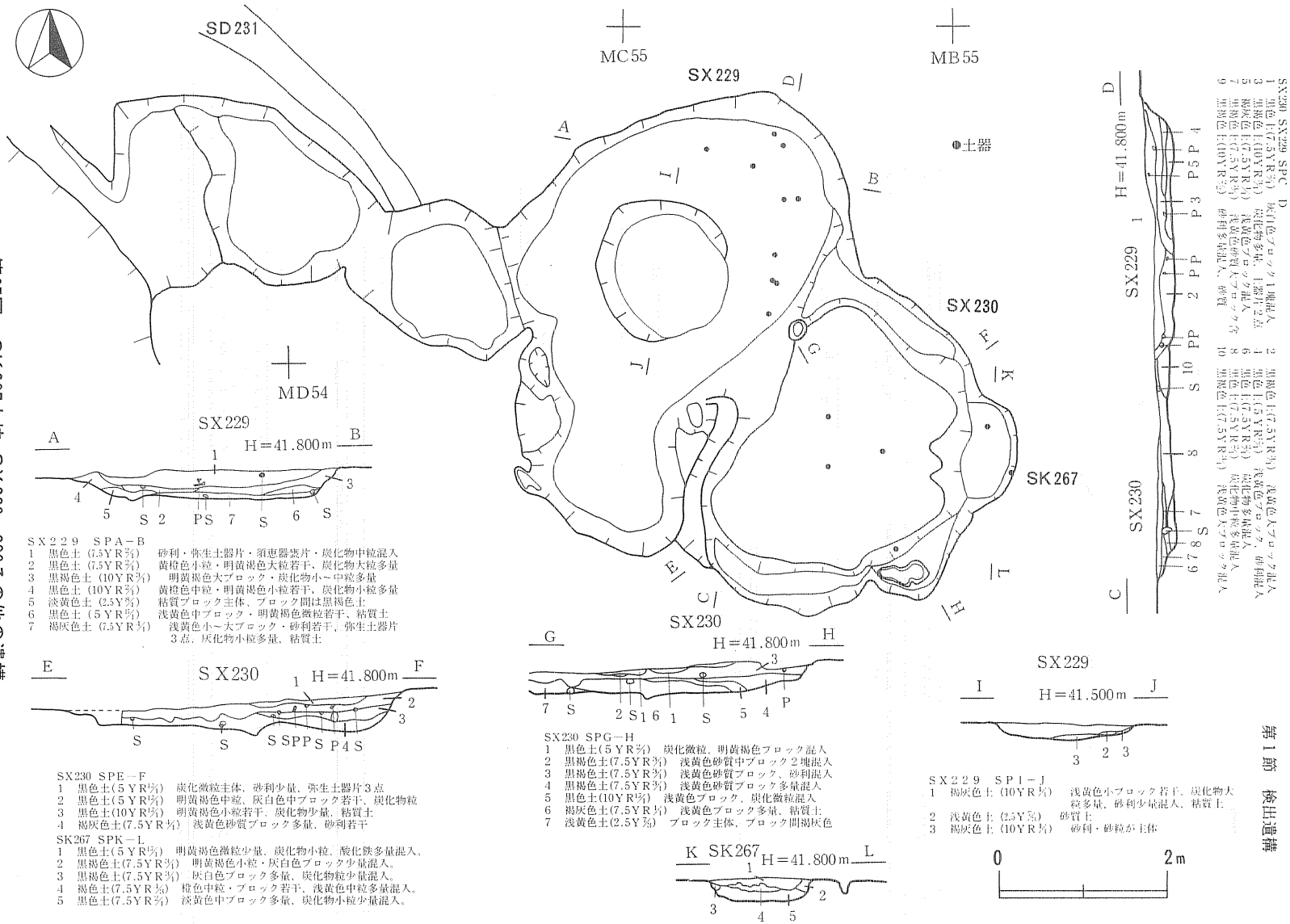


SX081　A－B
1　黒色土(10YR2/1)　粘性・しまりあり、地山粒５％、酸化鉄クラック状混入。
2　黒色土(10YR3/1)　焼土ブロック・焼土粒、地山ブロック20％、酸化鉄粒子多量に混入。
3　黒色土(N1.5)　粒子細、湿性強、灰層で床面直上の一面に広がりをもつ。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性強、根による攪乱。
5　黒色土(7.5YR1.7/1)　ローム粒子３％混入。
6　黒褐色土(10YR3/3)　粘性強、しまり良、酸化鉄クラック状に入る。

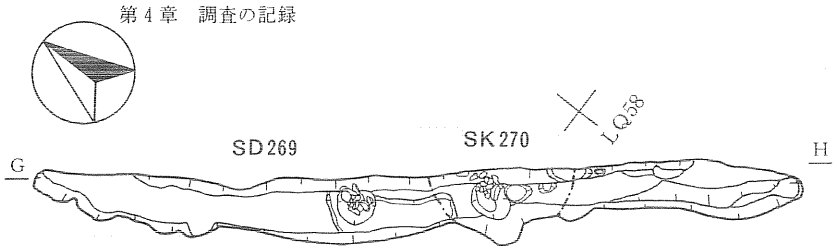
焼土
黒灰

0　2m

第66図　SD244溝状遺構、SK245・258土坑、SK081・238・239その他の遺構

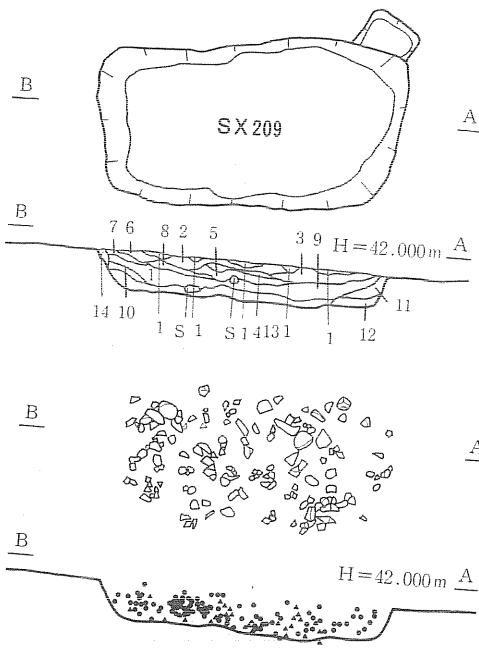


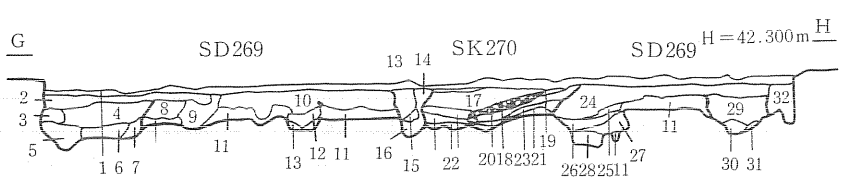
第67図　SK267土坑、SX229・230その他の遺構



SD209 SPA－B

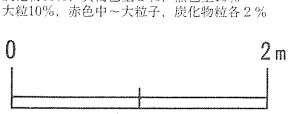
1　黒褐色土(10YR2/2)　粒子細、粘性・しまり有、地山小～中粒30%
2　暗褐色土(10YR3/4)　粒子細、粘性・しまり有、地山粒60%、炭化物粒３%
3　黒褐色土(10YR2/2)　粒子細、粘性・しまり有、炭化物粒５%、地山粒20%
4　黒褐色土(10YR2/3)　粒子細、粘性・しまり有、炭化物粒３%、地山粒７%
5　灰黄褐色土(10YR4/2)　炭化物小粒７%、地山小～大粒30%、灰黄褐色土ブロック
6　灰黄褐色土(10YR5/2)　粒子細、しまり強、炭化物小粒２%
7　灰黄褐色土(10YR4/2)　粒子細、粘性・しまり有、炭化物粒２%、地山粒20%
8　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粒子細、粘性・しまり有、炭化物粒20%、地山粒30%
9　灰黄褐色土(10YR4/2)　粒子細、粘性・しまり有、炭化物粒20%、地山粒30%
10　灰黄褐色土(10YR4/2)　粒子細、粘性・しまり有、炭化物粒２%、地山ブロック
11　黒褐色土(10YR3/2)　粒子細、粘性・しまり有、炭化物３%、地山粒６%
12　灰黄褐色土(10YR4/2)　粒子細、粘性・しまり有、炭化物粒５%、地山粒20%、小礫５%
13　褐灰色土(10YR4/1)　粒子細、粘性・しまり有、地山ブロック30%、小礫２%、炭化物粒
14　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粒子細、粘性・しまり有



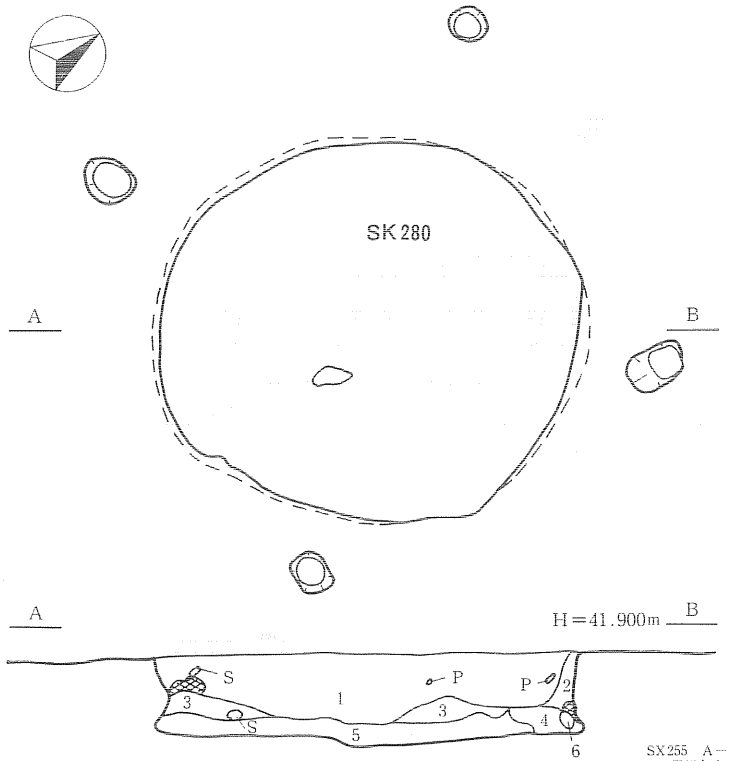


SD269 SK270 SPH－G

1　黒褐色土(10YR3/1)　粘性・しまり有、地山粒１%、炭化物粒５%含
2　黒褐色土(10YR3/2)　粘性・しまり有、地山粒・ブロック30%混入
3　黒褐色土(10YR2/2)　粘性・しまり有、地山粒・炭化物粒５%、赤色粒子１%
4　黒褐色土(10YR3/2)　粘性・しまり有、地山粒・炭化物７%、黒褐色土20%
5　黒色土(10YR2/1)　粘性強、地山小～中粒15%、灰白色土・黄褐色土１%
6　黒褐色土(10YR3/2)　粘性・しまり中、地山粒・炭化物７%、黒褐色土20%
7　黒色土(10YR2/1)　粘性薄%、地山粒・炭化物３%、地山ブロック30%
8　黒色土(7.5YR2/1)　粘性・しまり有、地山粒７%、炭化物２%、赤色粒子１%
9　黒褐色土(10YR3/2)　粘性薄%、地山粒20%、黄褐色中～大粒１%含
10　黒色土(10YR2/1)　粘性・しまり有、地山小～大粒50%、炭化物中～大粒15%
11　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　粘性・しまり有、黒色土シミ状に40%
12　黒褐色土(10YR3/2)　粘性・しまり有、地山小～極大粒５%、炭化物中粒５%
13　黒褐色土(10YR3/2)　粘性・しまり有、地山大粒30%、炭化物中粒５%
14　黒褐色土(10YR3/2)　粘性薄%、しまり有、地山小～大粒５%、炭化物粒３%
15　黒褐色土(10YR3/2)　粘性・しまり有、地山小～大粒２%
16　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性・しまり良、黒褐色土20%、黄褐色土10%
17　黒褐色土(10YR3/2)　粘性・しまり有、地山小～大粒５%、炭化物粒７%
18　黒褐色土(10YR3/2)　粘性・しまり有、地山大粒３%、焼土粒・炭化物粒50%
19　黒褐色土(10YR3/2)　粘性有、地山小～中粒、焼土粒５%、炭化物粒３%
20　黒色土(10YR2/1)　粘性・しまり有、地山小～中粒10%、炭化物中粒３%
21　黒褐色土(10YR3/2)　粘性有、地山粒10%、炭化物粒７%、焼土粒１%
22　黒色土(10YR2/1)　粘性・しまり有、地山小～大粒40%、炭化物中粒７%
23　黒褐色土(10YR3/2)　粘性・しまり有、地山粒30%、炭化物・焼土粒１%
24　黒色土(10YR2/1)　粘性・しまり有、地山粒７%、炭化物７%、焼土粒１%
25　黒褐色土(10YR3/1)　粘性・しまり有、地山小～中粒10%、炭化物粒１%
26　黒色土(10YR2/1)　粘性・しまり有、地山小～極大粒10%、炭化物大粒３%
27　黒褐色土(10YR3/2)　粘性・しまり有、地山小～大粒40%
28　黒色土(10YR2/1)　粘性・しまり有、地山小～大粒10%
29　黒褐色土(10YR3/2)　地山小～中粒15%、炭化物大粒７%、黄褐色土５%
30　黒褐色土(10YR3/2)　地山粒・炭化物10%、黄褐色土３%、黒色土10%
31　黄褐色土(10YR5/6)　しまり有、黒色土10%
32　黒褐色土(10YR3/2)　地山小～大粒10%、赤色中～大粒子、炭化物粒各２%
33　黒色土(10YR2/1)　粘性・しまり有

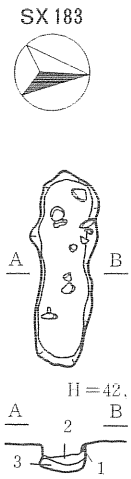


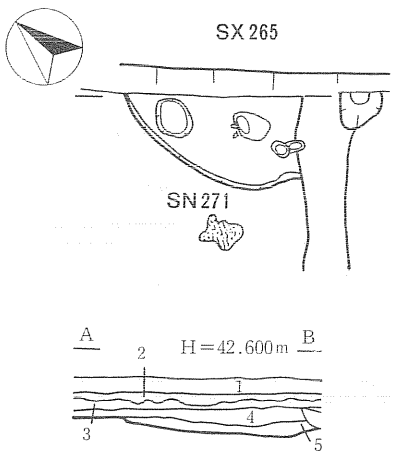
第68図　SD269溝状遺構、SK270土坑、SX209その他の遺構

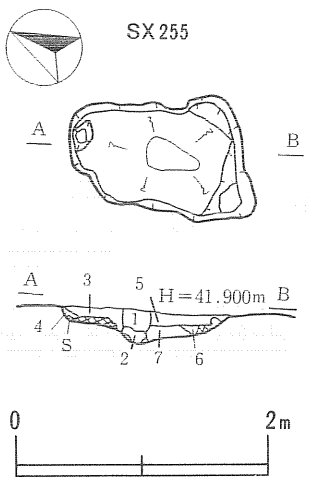


SK280　A－B
1　黒褐色土(10YR⅔)　粘性・しまりあり、地山中粒10%混入。
2　黒褐色土(10YR⅔)　十地山、粘性・しまりあり、褐色土・細砂混入。
3　黒褐色土(10YR⅔)　粘性・しまりあり、地山中粒２～３%混入。
4　黒色土(10YR⅔)　粘性・しまりあり、地山小粒１%混入。
5　黒褐色土(10YR⅔)　粘性・しまりあり、地山中粒５%、サラサラしている。

SX255　A－B
1　黒褐色土(10YR⅔)　地山中粒25%
2　黒色土(10YR⅔)　地山小粒５%
3　黒褐色土(10YR⅔)　炭化物小粒２%、地山ブロック40%混入
4　黒色土(10YR⅔)　炭化物中粒１%地山中粒７%。
5　黒褐色土(10YR⅔)　地山中粒30%一部ブロック
6　黒褐色土(10YR⅔)　地山ブロック状60%混入。
7　暗褐色土(10YR¾)　地山中粒５%
※１～７粒子細、粘性・しまりあり。



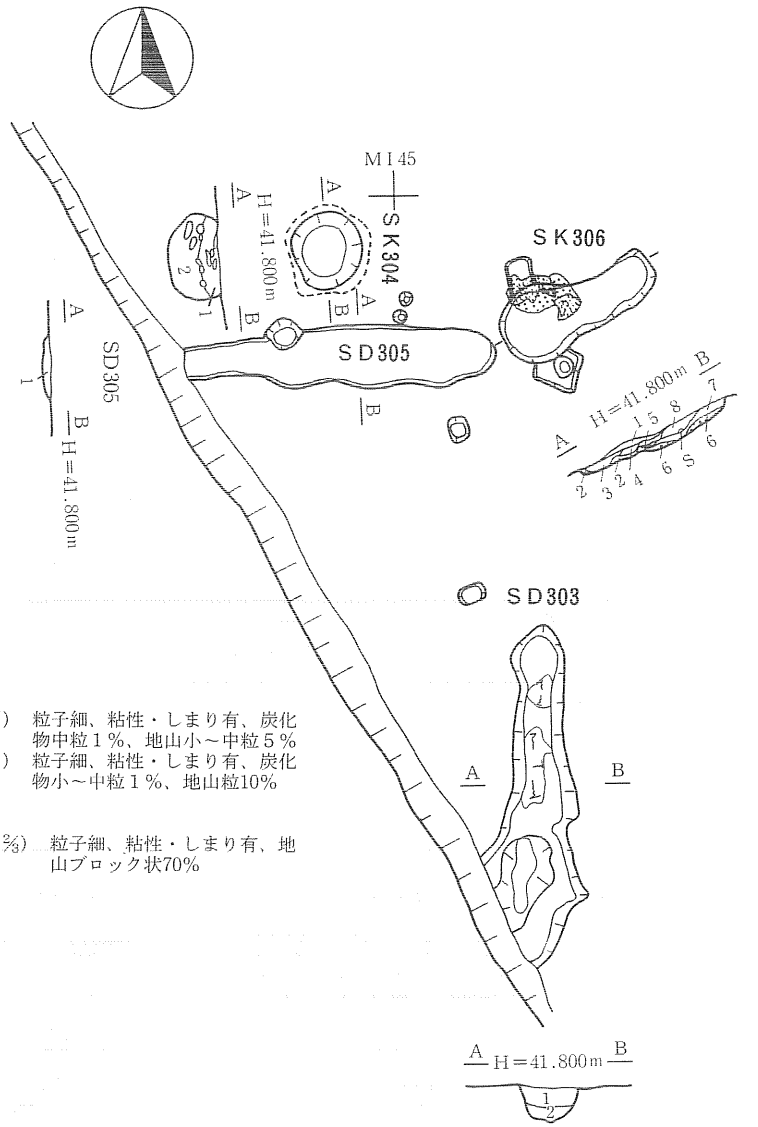




SX183　A－B
1　明黄褐色土(10YR⅝)　砂質おびる。
2　黒色土(10YR⅔)　地山中粒５%。
3　黒色土(10YR⅔)　水分含、地山ブロック５%混入。
※１～３粒子細、粘性・しまりあり

SX265　A－B
1　黒褐色土(５YR⅔)　炭化物１%、石小粒数%草の根はびこる。
2　黒褐色土(５YR⅔)　炭化物１%、明黄褐色土。
3　黒色土(7.5YR⅔)　炭化物１%、明黄褐色土。黒褐色土ブロック混入。
4　黒褐色土(10YR⅔)　炭化物中粒３%、地山小粒10%一部ブロック状。
5　黒褐色土(10YR⅔)　地山中粒20%、炭化物小粒１%一部ブロック。

第69図　SK280土坑、SX183・255・265その他の遺構、SN271焼土遺構



SK304　SPA－B
1　黒色土(10YR2/1)　粒子細、粘性・しまり有、炭化物中粒１％、地山小～中粒５％
2　黒色土(10YR2/1)　粒子細、粘性・しまり有、炭化物小～中粒１％、地山粒10％

SD305　SPA－B
1　黒褐色土(10YR2/3)　粒子細、粘性・しまり有、地山ブロック状70％

SD303　SPA－B
1　黒色土(10YR2/1)　粒子細、粘性・しまり有、炭化物中粒１％、地山小～中粒５％　酸化植物痕数％
2　黒色土(10YR2/1)　粒子細、粘性・しまり有、地山小粒５％、酸化植物痕２％

SD306　SPA－B
1　黒褐色土(10YR2/2)　粒子細、粘性・しまり有、地山小～大粒２％、炭化物小粒１％
2　黒色土(10YR2/1)　粒子細、粘性・しまり有、焼土小粒３％、炭化物小粒２％、地山小～中粒１％
3　黒色土(10YR2/1)　粒子細、粘性・しまり有、地山小～大粒５％
4　黒褐色土(10YR2/2)　粒子細、粘性・しまり有、炭化物小粒１％、地山ブロック10％
5　明赤褐色土(焼土)　粒子細、しまり有
6　黒色土(10YR1/1)　灰層、粒子細、しまり有
7　黒褐色土(10YR2/2)　粒子細、粘性・しまり有、炭化物小粒１％、地山ブロック３％
8　黒褐色土(10YR2/2)　粒子細、粘性・しまり有、小礫５％、地山ブロック５％

0　2m

第70図　SK304・306土坑 SD303・305溝状遺構

色土･黒褐色土と地山粒子･ブロックの混合土が充塡されている。土器は弥生土器４群である。

ＳＲ295　（第71図、図版69）

Ｄ区のＬＭ53グリッドに位置する。掘形は平面プランが42cm×48cmの隅丸長方形で、断面形は、ほぼ平坦になっている底面から南側は直っすぐに、北側はやや緩やかに立ち上がり、深さは22cmである。土器は粗製の深鉢形土器で底部が下を向いており、だいぶ潰れた格好で出土した。底面と底部との間は１cmの隙間があり、黒褐色土と地山の混合土が入っている。掘形の直下には、径22cm×28cm、深さ25cmで、平面プランが楕円形の小ピット状の掘り込みがある。断面形は砲弾形を呈し、埋土の２層中から土器の大破片が３点出土しており、その土器は手取清水４群である。

11. 焼土遺構

ＳＮ015　（第72図）

Ｆ区のＬＧ21グリッドに位置する。24cm～27cmの範囲の焼土が隣接して３ヶ所にあるが、土層の断面からすれば１つの遺構として考えられるもので、全体の範囲は52cm×75cmで、厚さは３cm～７cmである。下に掘り込みはない。

ＳＮ271　（第69図）

Ｄ区のＬＯ55グリッドに位置する。その範囲は32cm×35cmである。

ＳＮ283　（第72図）

Ｂ区のＭＩ48グリッドに位置する。規模は90cm×105cm、厚さは５cmである。黄褐色土･黒褐色土に焼土･炭化物･灰白色粘土の粒子やブロックが混入している。

12. その他の遺構

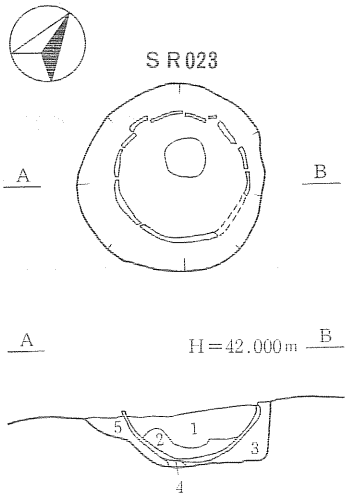
ＳＸ016　（第52図）

Ｆ区のＬＥ･ＬＦ20･21グリッドで検出した。ＳＫ012と切り合うが、その新旧関係は不明である。南東壁側はＳＤ005によって、南東隅側はＳＤ008によって切られているため全容は不明であるが、平面形は方形プランを呈し、北東壁に溝状の張り出し部をもつ遺構である。遺構の規模は坑口部145cm×235cm、坑口部の張り出し部65cm×110cm、坑底部130cm×225cm、坑底部の張り出し部30cm×90cm、深さ14cmである。底面は張り出し部分は緩い起伏があるが、他は全体的に平坦である。

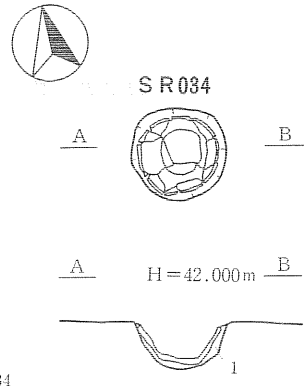
埋土は黒色土の単一層で地山粒を混入する。

遺物は出土しなかった。

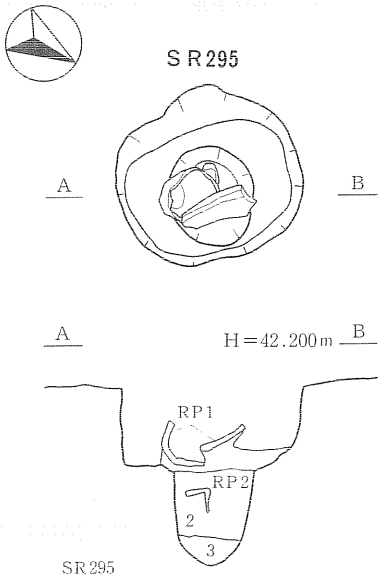
ＳＸ033　（第73図）



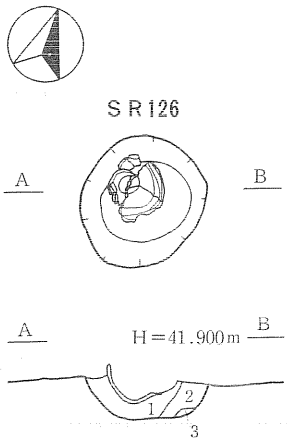
SR023
1　黒色土(10YR2/1)　粘性・しまりあり、ローム粒子５％、炭化物５％混入。
2　黒色土(10YR1.7/1)　粘性・しまりあり。
3　黒褐色土(10YR3/3)　粘性あり、ローム粒子20％混入
4　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　黒褐色土混入
5　黒色土(10YR2/1)　粘性あり、ローム粒子２％混入。



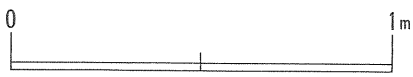
SR034
1　黒褐色土(10YR3/2)　しまりあり、黄褐色土10％混入。



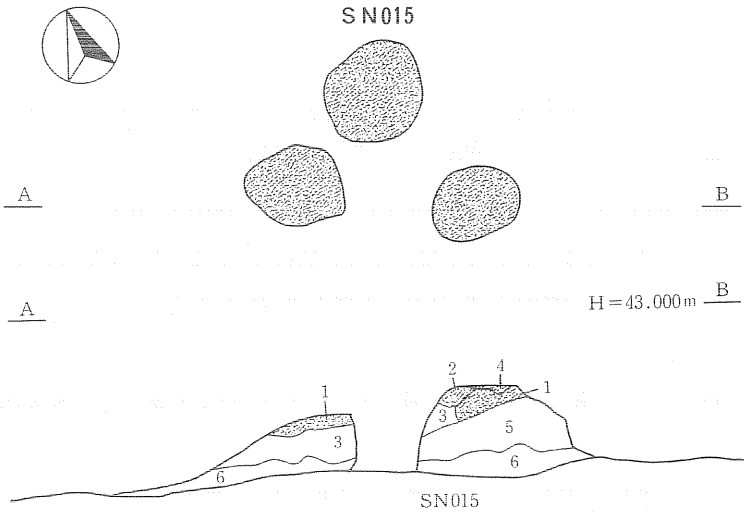
SR295
1　黒褐色土(10YR2/1)　粘性あり、地山小～中粒５％混入、酸化多量混入。
2　黒褐色土(10YR3/2)　粘性強、地山中粒７％混入、一部シミ状に混入。
3　黒色土(10YR2/1)　粘性・しまりあり、地山小～中粒10％、ブロック状20％、炭化物大粒３％混入。



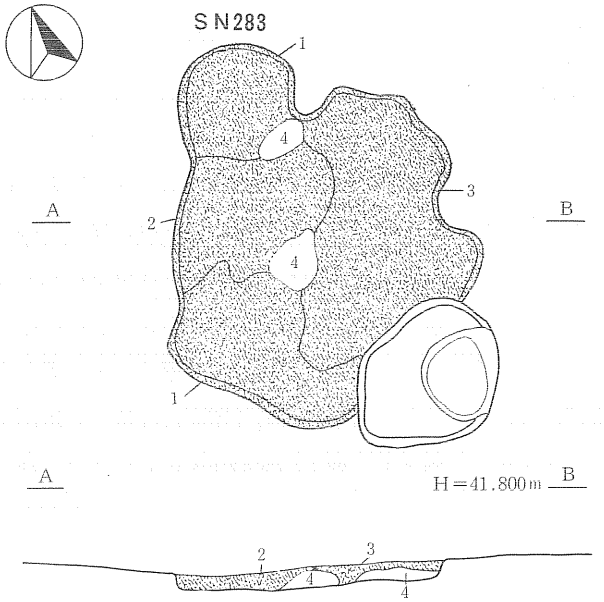
SR126
1　黒色土(10YR2/1)　粘性・しまりあり、地山小～中粒40％、地山ブロック極大粒40％。
2　黒褐色土(10YR3/3)　粘性・しまりあり、地山小～大粒60％混入、一括埋土。
3　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　粘性・しまりあり、黒色土シミ状に混入。



第71図　ＳＲ023・034・126・295土器埋設遺構



SN015
1　褐色土(7.5YR4/4)　焼土
2　黒褐色土(10YR3/2)　焼土粒子３％
3　暗褐色土(10YR3/3)　焼土
4　明褐色土(7.5YR5/6)　焼土
5　黒褐色土(10YR2/3)
6　明黄褐色土(10YR6/6)　暗褐色土の混合土



SN283
1　黄褐色土(10YR5/6)　炭化物小粒５％、焼土小粒３％混入。
2　褐色土(10YR4/4)　炭化物中粒１％、焼土小粒５％。
3　黒褐色土(10YR3/2)　炭化物小粒10％、地山粒５％、焼土ブロック50％混入。
4　灰白色粘土ブロック

0　1m

第72図　SN015・283焼土遺構

Ｄ区のＬＨ・ＬＩ44・45グリッドで検出した。南北に長軸をもつ不整方形を呈するが、ほぼ中央をＳＤ91によって東西に切られ、東端を南北に走るＳＤ027によって切られている。遺構の規模は坑口部420cm×668cm、坑底部365cm×624cm、深さ23cm～44cmである。底面はかなり起伏がある。中央から南側がやや高く盛り上がり、それを中心に壁際に向かって傾斜する。壁は南西壁でほぼ垂直に立ち上がり、北東壁は緩く立ち上がる。

埋土は19層に分層した。黒色土・黒褐色土を主体とし、地山粒・地山ブロックを多量に混入する。層厚のあるものにしまりがわるい層が多く、特に５・６・20層は顕著である。

遺物は９層中から珠洲系陶器１点（ＲＰ）・石斧１点（ＲＱ）が出土した。

ＳＸ050　（第54図、図版70・71）

Ｄ区のＬＱ54・55、ＬＲ55グリッドで検出した。ＳＸ254より新しく、ＳＸ259より古い。上面幅26cm～66cmの溝状を呈する遺構で、ＳＸ254の南西隅部を支点に東西から南西へ向きをかえている。遺構の規模は東西350cm、北西から南東400cm、底面幅18cm～49cm、深さ８cm～42cmである。断面形はＵ字状を呈し、底面は起伏が著しい。向きをかえる部分から南東にかけて幅49cm、長さ224cm、深さ15～25cmの長方形を呈する落ち込みがある。底面は緩い起伏があり、南東から北東に向かって傾斜する。

埋土は６層に分層した。黒色土・黒褐色土を主体とし、炭化物・地山粒を混入する。落ち込みの部分では地山ブロック・灰白色粘土ブロックの混入があり、また、底面には層厚５cmを測る黒色灰がみられる。埋土の状況から人為的堆積と考えられる。

遺物は出土しなかった。

ＳＸ081　（第66図、図版７・71・72）

Ｄ区のＬＬ46・47グリッドで検出した。ＳＫ258より新しくＳＤ080より古い。平面形は楕円形で、遺構の規模は坑口部168cm×302cm、坑底部161cm×286cm、深さ22cm～25cmである。底面はほぼ平坦であるが、中央部に向かって緩く傾斜し、壁はほぼ垂直に立ち上がる。中央部には50cm×70cmの不整形を呈する浅い落ち込みがあるが、底面の緩い起伏に起因すると考える。

埋土は６層に分層した。４層は攪乱であるため実際は５層である。黒色土を主体とし、下層には黒色灰がほぼ全域にみられる。その直上である２層中には焼土と地山ブロックの混合土が多量に混入する。遺物は各層から出土し、埋土の堆積状況から短時間に埋められたと考えられる。

遺物は縄文・弥生土器が出土した。

ＳＸ084　（第74・75図、図版７・72・74）

Ｄ区のＬＫ・ＬＬ47～50グリッドで検出した。中央部分を東西に走るＳＤ99により切られているが、「コ」の字を呈する遺構である。幅100～150cmの溝状落ち込み３条から構成されている

が、プラン確認時にはわずかに「コ」の字状に連続していたものである。遺構の規模は東西700㎝、南北1200㎝で、西に開口している。溝状の落ち込みの長さは500～620㎝で、深さは25㎝～45㎝である。断面形は「U」字状を呈し、底面は起伏が著しい。

埋土は黒色土を主体とし、焼土・黒色灰・土器片を含んでいる。また焼土層・黒色灰層の堆積状況から、溝状の落ち込みは小単位の仕事の反復による堆積過程を観察できるため、遺構全体では若干の時間差があると考えられるがその差は極めて短時間であったと考えられる。

遺物は縄文・弥生土器片、土師器・須恵器片が出土しているが、層位的な集中は見られない。

ＳＸ113　（第34図、図版４・７・74・75）

Ｄ区のＬＮ50・51グリッドで検出した。平面形は不整方形で、断面形は土鍋状を呈し、底面の中央部に円形の落ち込みをもつ遺構である。遺構の規模は坑口部210㎝×275㎝、坑底部145㎝×165㎝、深さ55㎝～62㎝である。円形の落ち込みは口径80㎝×92㎝、底径65㎝～72㎝、深さ20㎝～30㎝を測る。底面は丸底を呈し、緩い起伏があり、円形の落ち込み部では起伏が著しい。壁は全体的に緩い起伏をもちながら立ち上がるが、北壁側では崩壊したためか、起伏が著しい。

埋土は24層に分層したが、堆積状況から二大別できる。円形の落ち込みの底面から70㎝までのアーチ状を呈する埋土と、それ以外の人為的堆積を呈する埋土である。前者は黒褐色土で粘性が強く、炭化物・地山粒を少量混入し、最下層は砂粒を多く含む。後者は地山粒を混入する黒色土と地山ブロックを主体とする。また前者と後者の間には１㎝～５㎝の空洞があることから、埋土の堆積過程が異なったものと考えられる。

遺物は縄文・弥生土器、フレイクが少量、土師器・須恵器が僅少出土した。

ＳＸ114　（第76図、図版）

Ｃ区のＭＡ～ＭＣ63・64グリッドで検出した。調査区の北端に位置し一部調査区外になっているため全容は不明であるが、調査区側に舌状に張り出している。遺構の規模は最大幅（東西）680㎝、最大長（南北）420㎝、深さ（南～北）24㎝～95㎝である。底面はかなり起伏をもちながら、南から北に傾斜するた。また壁もかなり起伏をもって立ち上がる。

埋土は４層に分層した。黒色土を主体とし、多量の地山ブロックを混入する。特に３層は地山土塊である。埋土の状況から、短時間に埋められたと考えられる。また、形態および調査区内における位置関係から人為的なものではなく、自然の可能性が大きい。

遺物は出土しなかった。

ＳＸ117　（第32・34図、図版５）

Ｄ区のＬＯ49グリッドで検出した。北側に位置するＳＸ159を切り、南側に位置するＳＫＩ112により切られているため全容は不明であるが、北西から南東に長軸をもつ長楕円形を呈す

ると思われる。遺構の規模は坑口部210㎝×300㎝、坑底部165㎝×225㎝、深さ22㎝である。底面はほぼ平坦で、壁は緩く立ち上がる。中央部に長軸方向が一致する、幅86㎝、残存長130㎝の溝状の落ち込みがあり、断面形は「Ｖ」字形を呈し、深さ10㎝を測る。底面は起伏が著しい。

埋土は16層に分層した。黒色土を主体とし、黒色灰･炭化物･地山粒を混入する。中位から下層は地山ブロックを微量混入する。黒色灰層は焼土ブロックを含み、平面的には中央落ち込み部の北側にある。埋土の堆積状況から短時間に埋められたと考える。

遺物は縄文･弥生土器が少量、フレイクが僅少出土した。

ＳＸ129　（第76図、図版６･76）

Ｄ区のＬＳ58グリッドで検出した。平面形は楕円形を呈し、遺構の規模は坑口部167㎝×311㎝、坑底部130㎝×280㎝、深さ32㎝×37㎝である。底面は緩い起伏をもち、北壁から東壁はほぼ垂直に立ち上がり、他はそれよりやや緩く立ち上がる。

埋土は６層に分層した。６層は地山ブロック、１～４層は黒褐色土を主体とし、１層が地山ブロックの混入が多く、他は若干の混入である。最下層である５層は張床で、地山ブロックおよび黒色土ブロックを多量に混入し、よくしまっている。遺物が各層にわたり多量に出土している点、また混入物の状況から人為的堆積と考える。また、３層からは若干であるが黒色灰を検出している。

遺物は縄文･弥生土器が出土した。

ＳＸ131　（第58図、図版６）

Ｄ区のＬＳ･ＬＴ57･58グリッドで検出した。北東隅から東部にかけてＳＸ181･182により、南部はＳＸ133により切られているため全容は不明であるが、南北に長軸をもつ不整形を呈すると思われる。遺構の規模は長軸315㎝、幅150㎝～250㎝、底部長軸280㎝、幅100㎝～210㎝、深さ28㎝である。底面は緩い起伏があり、壁は開口部に向かって緩く開き、断面形が逆台形を呈する。

埋土は９層に分層した。黒褐色土を主体とし、炭化物･地山粒を混入する。壁際に近い３･６･７･９層では地山ブロックを多く混入する。遺物は各層に含まれるが、特に層厚のある１･２層に多く含まれる。遺物･埋土の堆積状況から短時間に埋められたものと考える。

遺物は縄文･弥生土器、フレイク、土師器が出土した。

ＳＸ133　（第58図、図版６）

Ｄ区のＬＳ･ＬＴ･ＭＡ56～60グリッドで検出した。上面幅70㎝～150㎝の溝状の落ち込みで、東に開口する「コ」の字状を呈するが、南東端部からさらに南へ300㎝伸びているため実際はクランク状と呼ぶべきかもしれない。遺構の規模は東西650㎝～720㎝、南北1,100㎝、深さ10㎝～40㎝である。断面形はＵ字形･逆台形を呈し、底面は起伏が著しい。

埋土は黒色土・黒褐色土を主体とし、地山粒・地山ブロック・炭化物・焼土・黒色灰・土器片・礫を含んでいる。遺物・焼土および黒色灰は東西に走る深さのある東側の一辺に集中する。調査区内には同様の遺構がＳＸ084・ＳＸ153の２遺構あるが、開口部方向・焼土・黒色灰の分布状況に相違点がみられる。特に本遺構は「コ」の字の一辺に集中する。

遺物は縄文・弥生土器、フレイク、土師器・須恵器が少量出土した。

ＳＸ139　（第59図）

Ｄ区のＬＯ65グリッドで検出した。Ｄ区の北東端部に位置し、その大部分が調査区外になっているため全容は不明である。遺構の規模は坑口部190cm×35cm、坑底部165cm×30cm、深さ10cmである。底面はほぼ平坦である。北西隅部に径30cm×55cm、深さ30cmの落ち込みがあるが、本遺構との関係は不明である。

埋土は黒褐色土の単一層で、炭化物・地山粒を少量混入する。

遺物は出土しなかった。

ＳＸ140　（第59図）

Ｄ区のＬＰ・ＬＯ55・56グリッドで検出した。北東端部をＳＸ139によって切られているが、平面形は略円形を呈すると思われる。遺構の規模は坑口部径250cm×285cm、坑底部径210cm×250cm、深さ25cmである。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面中央部に径35cm、深さ６cmの落ち込みがあるが、本遺構との関係は不明である。

埋土は４層に分層した。３・４層は壁の崩落土で、１層は炭化物・地山粒を混入する黒褐色土、２層は砂質の暗褐色土を呈する。

遺物は少量であるが１層中より出土した。縄文・弥生土器、フレイクがやや出土した。

ＳＸ141　（第59図）

Ｄ区のＬＰ56グリッドで検出した。北西部・東部をそれぞれＳＸ143・ＳＸ141に切られているため、全容は不明であるが、平面形は不整形を呈すると思われる。遺構の規模は坑口部140cm×150cm、坑底部径140cm、深さ５cm～10cmである。底面は平坦であるが、北西から南東にかけて緩く傾斜する。壁はほぼ垂直に立ち上がる。北東壁下および南部に計３基の落ち込みがあるが、本遺構との関係は不明である。

埋土は２層に分層した。黒褐色土を主体とし、炭化物・地山粒を少量混入する。

遺物は出土しなかった。

ＳＸ142　（第59図）

Ｄ区のＬＰ56・57グリッドで検出した。Ｄ区の北東端部に位置し、一部調査区外にかかっている。また、南東・南西部がそれぞれＳＸ144・ピット群によって切られているため、全容は不明であるが、南北に長軸をもつ楕円形を呈すると思われる。遺構の規模は坑口部130cm×

220cm、坑底部100cm×200cm、深さ10cm～35cmである。底面は緩い起伏をもちながら中央やや南壁寄りに傾斜する。したがって最大深部は南壁寄りにあり、50cm×100cmの楕円形を呈する。壁は南壁がほぼ垂直に立ち上がり、他は緩く立ち上がる。

埋土は20層に分層した。地山粒・炭化物を混入する黒褐色土を主体とする。3・10・12・13・15・17層は地山ブロックが多く、2・5・6・8・19層は地山粒を多量に混入する。埋土の堆積状況から短時間に埋められたと考える。

遺物は出土しなかった。

ＳＸ143　（第59図）

Ｄ区のＬＰ56グリッドで検出した。ＳＸ141・144より新しい。平面形は長楕円形で、遺構の規模は坑口部80cm×225cm、坑底部57cm×155cm、深さ35cmである。底面は平坦で、断面形は壁が開口部に向かって開く逆台形を呈する。

埋土は6層に分層した。黒褐色土を主体とし、黒色灰・炭化物・焼土粒・地山粒・遺物を混入する。黒色灰は中位にあり、厚いところで5cmを測る。焼土ブロックを少量混入する。埋土の堆積状況から短時間に埋められたと考えられる。

遺物は縄文・弥生土器がやや、フレイク、土師器・須恵器が少量出土した。

ＳＸ144　（第59図）

Ｄ区のＬＰ56グリッドで検出した。南端部をＳＸ143によって切られているため、全容は不明であるが、平面形は楕円形を呈すると思われる。遺構の規模は坑口部60cm×80cm、坑底部45cm×60cm、深さ17cmである。底面は平坦で、壁は緩く立ち上がる。西壁直下の径15cm×25cm、深さ10cmの落ち込みは、本遺構より古いものである。

埋土は黒褐色土の単一層で、炭化物を少量、地山粒を多量に混入する。

遺物は縄文・弥生土器、フレイクが僅少出土した。

ＳＸ149　（第61図、図版6・78・79）

Ｄ区のＬＲ54・55グリッドで検出した。南東部に位置するＳＫ179・ＳＫ185を切っている。

平面形は楕円形で、遺構の規模は坑口部164cm×251cm、坑底部149cm×235cm、深さ32cm～36cmである。底面はやや起伏があり、部分的に礫層に達している。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

埋土は15層に分層した。黒色灰・黒色混灰土・黒色土の重層を呈する。1・3・5・7・9・11・12層が黒色土、2・4層が黒色混灰土、6・8・10層が黒色灰で、13～15層は壁の崩落土である。黒色土には炭化物・地山粒が小量混入し、黒色灰は水分が多く、厚い部分で6cmを測る。埋土の堆積状況は北東からの流れ込みが考えられる。

遺物は出土しなかった。

ＳＸ153　（第34・77図、図版5・79・80）

D区のLM～LP46～49グリッドで検出した。東に開く「コ」の字を呈する遺構である。北東端部と南東端部がそれぞれSD169・SE152によって切られているためその全容は不明であるが、前者はSD169内で、後者はSE152とほぼ同一位置で完結していたものと考えられる。また南西隅部は途切れているが、確認状況ではわずかに連続していたものである。遺構の規模は、東西幅8m～9m、南北幅10m、上面幅80cm～160cm、深さ13cm～50cmを測り、断面形は逆台形・開口部に向かって緩く開くU字状を呈する。底面は起伏が著しく、特に北辺・西辺では円形・楕円形・長方形状の落ち込みをもつ。埋土は黒色土・黒褐色土を主体とし、黒色灰・炭化物・地山ブロック・骨片・土器片・礫を混入する。黒色灰は底面の起伏と関連し、落ち込みのある部分の底面付近で検出した。骨片は黒色灰に混入しているが、北東端寄りの黒色灰にのみ多量に含まれている。また、土器片・礫は大部分が埋土の中位すなわち黒色灰より上面で出土している。

埋土の状況から本遺構は小単位の溝状の掘り込みを構築し、短時間に埋め戻すという仕事の連続によって「コ」の字に配したものと考えられる。同様の遺構は調査区内に2基(SX084・SX133)あるが、開口部、黒色灰の分布、埋土状況に相違点がみられる。

遺物は縄文・弥生土器がやや、フレイクが少量、土師器・須恵器が僅少出土した。

SX155　(第77図、図版5)

D区のLM47グリッドで検出した。平面形は方形で、遺構の規模は坑口部90cm×95cm、坑底部85cm×90cm、深さ55cm～60cmである。底面は礫層に達しており、多少の起伏をもつ。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

埋土は9層に分層した。黒色土を主体とする。1・3層は地山ブロック・炭化物を少量混入し、5層以下は地山ブロックを多量に混入する。また3層以下では3cm～20cm大の礫を含んでいる。2・4層は砂層である。埋土の堆積状況から人為的堆積と考えられる。

遺物は出土しなかった。

SX159　(第32・34図)

D区のLO49グリッドで検出した。SX117によって南端部を切られているため全容は不明であるが、平面形は楕円形を呈すると思われる。遺構の規模は坑口部173cm×248cm、坑底部157cm×220cm、深さ26cm～30cmである。底面は平坦であるが、中央に向かって緩く傾斜する。壁はほぼ垂直に立ち上がる。中央部分には長軸167cm、短軸100cm、深さ30cmを測る楕円形の落ち込みがあり、断面形は「V」字状を呈し、底面は起伏が著しい。

埋土は12層に分層した。黒褐色土を主体とし、炭化物・地山粒を混入する。炭化物は3層に多く混入し、4層以下では微量である。また4層以下にはしまりの欠ける層が多い。

遺物は出土しなかった。

ＳＸ160　（第34･78図）

Ｄ区のＬＮ48グリッドで検出した。ＳＤ169の底面で確認し、平面形は楕円形を呈する。遺構の規模は坑口部156cm×251cm、坑底部127cm×194cm、深さ11cm～15cmである。底面は緩い起伏をもち、中央部は若干高く盛り上がっている。壁は緩く立ち上がる。

埋土は６層に分層した。黒色土を主体とし、しまりにややかける。地山粒を全体的に少量混入し、最下層の３層には炭化物を混入する。

遺物は出土しなかった。

ＳＸ167　（第38図、図版６･38･48･80）

Ｄ区のＬＲ56グリッドで検出した。平面形は略円形を呈し、北西部分に幅110cmの溝状の張り出しをもつ。この張り出し部分はＳＤ130により切られているため全容は不明である。遺構の規模は坑口部径220cm～240cm、坑底部径222cm、深さ33cmである。底面は起伏があり、張り出し部に向かって緩い勾配をもつ。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

埋土は11層に分層した。黒色土･黒褐色土を主体とする。最下層の11層は地山ブロックと黒色土の混合土でその直上に黒色灰（８層）がある。７層も黒色灰であるが、７・８層間には地山ブロックを多量に混入する間層がある。７層は本遺構の北東部および張り出し部に１cmから10cmほど堆積し、８層は北東部から南西部にかけて２cmの厚層で堆積している。遺物は各層に含まれており、埋土の堆積状況とあわせて、短時間に埋められたと考えられる。

遺物は縄文･弥生土器が出土した。

ＳＸ180　（第79･80図、図版81･82）

Ａ区北西端のＮＨ73･74グリッドに位置する。ＳＬ323河川跡の最下流にあたり、第３層の砂礫層を掘り下げ途中にて確認した。２本の大きな自然木（ＲＷ709･710）が「Ｌ」字状に横に並べられており、北の下流部に向かって開く。南西のＲＷ709は長さ262cm、直径30cmで、木の中心部には、長さ25cm～37cm、直径５～６cmの杭を３本（ＲＷ704～706）に切り目を入れて打ち込んでおり、いずれも下に突き抜けている。木の脇にも長さ28cm、直径６cmの打ち込まれた杭が１本（ＲＷ708）確認された。ＲＷ709の土層断面観察によれば埋められたものかも知れない。北東側のＲＷ710は長さ385cm、直径20cmで、中央部に径12cmの杭（ＲＷ713）が打ち込まれており、これら２本の自然木の下にさらに２本の自然木（ＲＷ711･712）が横に並べられている。ＲＷ711は長さ143cm、幅22cmで、ＲＷ710とほぼ同方向に並び、１箇所に切り目が入る。ＲＷ712は長さ176cm、幅19cmで、ＲＷ709と約80cm離れてやや平行に並ぶ。

さらに、「Ｌ」字状となったＲＷ709･710の交点から北に約１ｍ離れた地点には、28cm～60cm、幅５cm～11cmの杭が６本（ＲＷ245～250）並び、ＲＷ246以外は50cm～90cmの間隔で南から北に向かって並ぶ。

前述したように、本遺構は縄文･弥生土器が多く出土する砂礫層中にて検出したもので、杭･自然木はやや腐食が進んでいる。したがって、杭の上部は摩滅して丸くなっており、この杭が本来の長さであるのか否かは不明であり、上部構造の有無･所属時期についても判然としない。

ＳＸ181　（第58図）

Ｄ区のＬＳ･ＬＴ58グリッドで検出した。ＳＸ131より新しく、ＳＸ182より古い。平面形は楕円形で、遺構の規模は坑口部70cm×150cm、坑底部35cm×90cm、深さ36cmである。底面は平坦で、壁は北東･南西壁がほぼ垂直に立ち上がり、南東、北西壁が緩く立ち上がる。北東壁寄りにある径10cmのピット状の落ち込みは、本遺構に伴うものかは不明である。

埋土は３層に分層した。黒褐色土を主体とし、地山粒･地山ブロックを多量に混入し、下層ほど多くなる。遺物は各層に含まれているが、下部に集中する傾向がみられる。遺物･埋土の堆積状況から、短時間に埋められたものと考えられる。

遺物は縄文･弥生土器、フレイクが少量、土師器･須恵器が僅少出土した。

ＳＸ182　（第58図）

Ｄ区のＬＳ･ＬＴ57･58グリッドで検出した。ＳＸ131･181より新しい。平面形は楕円形で、遺構の規模は坑口部157cm×190cm、坑底部130cm×160cm、深さ15cmである。底面は起伏があり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。南東壁直下にある径30cmのピット状の落ち込みは、本遺構より古いものである。

埋土は５層に分層した。黒褐色土を主体とし、炭化物･地山粒を混入する。３層は炭化物を少量混入する地山ブロックである。遺物は各層に含まれるが、特に２層中の出土が顕著である。埋土の堆積がほぼ南東方向から北西方向に傾斜することから、この方向からの流入が考えられる。

遺物は縄文･弥生土器が少量、土師器･須恵器が僅少出土した。

ＳＸ183　（第69図）

Ｄ区のＬＯ･ＬＰ43グリッドで検出した。ＳＤ169底面の南端で確認した。平面形は長楕円形を呈する。遺構の規模は坑口部45cm×151cm、坑底部37cm×140cm、深さ15cm～22cmである。底面は中心に向かって緩く傾斜し、したがって中央部分が最も低い状態である。全体的に起伏も緩く平坦である。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

埋土は３層に分層した。１層は明黄褐色土でやや砂質があり、ＳＤ169の埋土（最下層）と考える。２･３層は黒色土で下層ほど粘性が強く、地山ブロックを多く混入する。また５cm～15cm大の礫が各層に混入している。

遺物は出土しなかった。

ＳＸ184　（第64･81図）

Ｄ区のＬＳ46･47グリッドで検出した。ＳＤ121･122より古い。平面形は円形を呈し、遺構の規模は坑口部径235cm～250cm、坑底部径190cm、深さ25cm～32cmを測る。断面形は逆台形を呈し、底面は起伏が著しく、壁は坑口部に向かって直線的に開く立ち上がりを呈する。

埋土は７層に分層した。黒色土を主体とし、炭化物･地山粒･土器片･礫を混入する。最下層の４層および壁際の埋土はしまりがあり、地山ブロックを多量に混入するが、中位に相当する２・３層はしまりに欠ける。遺物･埋土の堆積状況から短時間に埋められたと考えられる。　遺物は縄文･弥生土器が少量、フレイクが少量、土師器･須恵器が少量出土した。

ＳＸ192　（第58図）

Ｄ区のＬＳ・ＬＴ56･57グリッドで検出した。「コ」の字状を呈するＳＸ133と環状を呈するＳＤ130が交差する部分に位置する。北側をＳＸ133により、東側をＳＤ130によって切られているため全容は不明であるが、平面形は方形を呈すると思われる。遺構の規模は坑口部135cm×200cm、坑底部110cm×160cm、深さ26cmである。底面は平坦で、壁は開口部にやや開くように立ち上がる。南東隅寄りにある２基のピット状の落ち込みは、本遺構より古いものである。埋土は４層に分層した。黒褐色土を主体とする。炭化物･地山粒を混入するが、中間層では地山ブロックを多く混入する。遺物は各層に含まれているが特に２・３層に多くみられる。

遺物は縄文･弥生土器が多く、フレイクが僅少、土師器･須恵器が少量出土した。

ＳＸ195　（第81図）

Ｄ区のＬＴ46･47グリッドで検出した。ＳＤ121より古く、ＳＢ173･190、ＳＸ196より新しい。平面形は楕円形を呈し、遺構の規模は坑口部218cm×356cm、坑底部178cm×255cm、深さ28cm～42cmである。底面は緩い起伏があり、一部礫層に達している。壁は緩く立ち上がり、断面形は上部が開く逆台形を呈する。

埋土は黒色土を主体とし、縄文･弥生土器片、土師器･須恵器片、５cm～20cm大の礫を多量に混入する。遺物･埋土の堆積状況から短時間に埋められたと考えられる。

遺物は縄文･弥生土器、フレイク、土師器･須恵器が少量出土した。

ＳＸ196　（第64図）

Ｄ区のＬＴ46グリッドで検出した。北側をＳＤ121により、西側をＳＸ195により切られているため全容は不明であるが、残存する形態から径100cmの不整形を呈すると思われる。底面は緩い起伏があり、ＳＤ121側、すなわち北側へ傾斜する。深さは７cm～17cmを測り、壁は緩く立ち上がる。

埋土は７層に分層した。黒褐色土を主体とし、地山粒を混入するが、下層ほど地山粒の混入が多い。

遺物は土師器･須恵器が僅少出土した。

ＳＸ209　（第68図）

Ｄ区のＬＱ57グリッドで検出した。平面形は隅丸方形で、遺構の規模は坑口部136cm×245cm、坑底部115cm×213cm、深さ24cm～31cmである。底面は緩い起伏がある。壁は北西壁が緩く立ち上がり、他はほぼ垂直に立ち上がる。

埋土は14層に分層した。全体的には２つに大別できる。一つは１～４層の黒色土主体層、もう一つは５～13層の灰黄褐色土主体層である。遺物は各層から出土しているが、傾向として５層以下からの出土が多い。遺物および埋土の堆積状況から、短時間に埋められたと考えられる。特に５層以下はこの可能性が強い。

遺物は縄文･弥生土器、フレイクが少量、土師器･須恵器が僅少出土した。

ＳＸ216　（第34･78図）

Ｄ区のＬＮ48グリッドで検出した。ＳＸ217より新しく、ＳＸ160より古い。平面形は略円形で、遺構の規模は坑口部径107cm×127cm、坑底部径70cm×94cm、深さ16cm～22cmである。底面は緩い起伏をもち丸底を呈する。壁は緩く立ち上がる。

埋土は６層に分層した。黒色土を主体とする。地山粒を少量混入するが、４層ではブロック状に多量に混入する。

遺物は縄文･弥生土器、フレイクが少量、土師器･須恵器が僅少出土した。

ＳＸ217　（第34･78図）

Ｄ区のＬＮ･ＬＯ48･49グリッドで検出した。東側がＳＸ216･160によって切られているため全容は不明であるが、平面形は楕円形を呈すると思われる。遺構の規模は坑口部152cm×270cm、坑底部159cm×165cm、深さ28cm～38cmである。底面は緩い起伏をもち、壁はほぼ垂直に立ち上がる。西壁直下に径32cm×60cm、深さ13cmのピット、北壁寄りに径17cm×30cmのピットがあるが、本遺構との新旧は不明である。

埋土は15層に分層した。黒褐色土を主体とし、全体的に地山粒を混入する。炭化物は上層に多く混入し、地山粒･地山ブロックは下層に多く混入する。遺物は少量含まれているが、大部分は８層から出土している。

遺物は縄文･弥生土器、フレイクが少量、土師器･須恵器が僅少出土した。

ＳＸ229　（第67図）

Ｃ区のＭＢ･ＭＣ53･54グリッドで検出した。平面形は不整形を呈し、坑口部330cm×573cm、坑底部300cm×512cm、深さ22cm～34cmを測る。底面は起伏をもち、壁は緩く立ち上がる。中央部に口径170cm、底径138cm、深さ20cmを測る円形状の落ち込みがある。壁は南東が垂直に立ち上がり、他は緩く立ち上がる。

埋土は６層に分層した。黒色土･黒褐色土を主体とし、地山粒･地山ブロック･土器片を混入

する。炭化物の混入は１～４層に多くみられる。グライド化しているせいか粘性が強く、しまりもある。円形状の落ち込みの埋土は褐灰色土を主体とし、炭化物を少量混入する。

遺物は縄文･弥生土器が多量、フレイクが少量、須恵器、中世陶器が僅少出土した。

ＳＸ230　（第67図）

Ｃ区のＭＢ53･54グリッドで検出した。北西壁側をＳＸ229により切られているため全容は不明であるが、平面形は不整形を呈すると思われる。遺構の規模は坑口部290㎝×460㎝、坑底部245㎝×310㎝、深さ35㎝～40㎝である。底面は起伏をもち、南東壁および残存する北西壁はほぼ垂直に立ち上がるが、北東壁･南西壁は底面から立ち上がった後、緩い段をもちながら立ち上がる。

埋土は７層に分層した。黒色土･黒褐色土を主体とする。地山粒･地山ブロックを多く混入し、炭化物･土器片も各層に含まれている。南東部分では最下層に層厚のある褐灰色土がみられ、全体的にグライド化した粘質土でしまりがある。

遺物は縄文･弥生土器が多量、フレイクがやや、土師器･須恵器、炭化物が少量出土した。

ＳＸ233　（第63図）

Ｄ区のＬＲ49･50グリッドで検出した。中央をＳＤ168、北西をＳＸ234に切られ、南西でＳＫ235･ＳＸ328と切り合うため、その全容は不明であるが、平面形は不整楕円形を呈すると思われる。遺構の規模は坑口部168㎝×200㎝、坑底部152㎝×190㎝、深さ12㎝～16㎝である。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。北東部にあるピット（口径35㎝、底径20㎝、深さ14㎝）は本遺構より新しい。

埋土は３層に分層した。黒褐色土であるが、下層ほど炭化物の混入が多い。

遺物は出土しなかった。

ＳＸ234　（第63図）

Ｄ区のＬＲ49･50グリッドで検出した。中央（北西から南東）をＳＤ168に切られているが、平面形は楕円形を呈する。遺構の規模は坑口部173㎝×252㎝、坑底部164㎝×244㎝、深さ８㎝～12㎝である。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。北東壁寄りにあるピットは径19㎝、深さ５㎝を測り、南東隅寄りのピットは径40㎝、底径13㎝、深さ23㎝を測るが、本遺構より新しいピットである。

埋土は５層に分層した。黒褐色土を主体とし、１・２層は地山粒を多量し、焼土粒を少量混入する。埋土の堆積状況から短時間に埋められたと思われる。

遺物は出土しなかった。

ＳＸ238　（第63図）

Ｄ区のＬＲ50･51グリッドで検出した。南北方向に長軸をもつ溝状を呈するが、中央部を東

西にＳＤ244、南端をＳＸ239によって切られているため全容は不明である。遺構の規模は上面幅60cm、底面幅35cm～50cm、深さ22cm～25cmである。底面はほぼ平坦で、壁は緩く立ち上がる。埋土は６層に分層した。黒色土･黒褐色土を主体とする。上層では炭化物を混入し、下層では地山ブロックを多く混入する。

遺物は土師器が出土した。

ＳＸ239　（第66図）

Ｄ区のＬＲ50グリッドで検出した。ＳＸ238の南端を切って構築された、平面形が円形を呈する土坑である。遺構の規模は坑口部径70cm×75cm、坑底部径48cm×52cm、深さ26cm～30cmである。底面は平坦であるが、南から北へ緩く傾斜する。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

埋土は５層に分層した。黒褐色土を主体とし、１・３・４層は地山粒･地山ブロックの混入が多く、遺物は各層に含まれている。埋土の堆積状況から短時間に埋められた可能性が強い。

遺物は縄文･弥生土器が出土した。

ＳＸ248　（第76図）

Ｄ区のＬＳ57･58グリッドで検出した。北東部でＳＸ129と切り合っているため全容は不明であるが、平面形は楕円形を呈すると思われる。遺構の規模は坑口部55cm×75cm、坑底部42cm×69cm、深さ11cm～18cmである。底面は中央に向かって緩く傾斜し、径８cm×14cm、深さ８cmのピット状の落ち込みに移行する。

埋土は３層に分層した。黒褐色土であるが、１層は地山粒･炭化物を多く混入し、３層は湿性がある。

遺物は出土しなかった。

ＳＸ254　（第54図）

Ｄ区のＬＱ55グリッドで検出した。南西隅部はＳＸ50により切られているため全容は不明であるが、平面形は隅丸方形を呈すると思われる。遺構の規模は坑口部212cm×236cm、坑底部190cm×222cm、深さ16cm～20cmである。底面は貼床が施されており、中央に向かって緩く傾斜し、しまりがあって堅緻である。貼床は床面から４cm～17cmである。

埋土は貼床を含めて３層に分層した。１・２層は黒色土で炭化物･焼土粒を少量混入し、貼床は、黒色土と地山ブロックの混合土である。

遺物は縄文･弥生土器がやや、フレイクが少量、土師器･須恵器がやや、鉄製品が僅少出土した。

ＳＸ255　（第69図）

Ｄ区のＬＱ54グリッドで検出した。平面形は不整形で、遺構の規模は坑口部96cm×137cm、坑底部24cm×40cm、深さ26cmである。底面は平坦で、壁がだらだらと緩く立ち上がる土鍋状の

断面形を呈する。

埋土は７層に分層した。黒色土･黒褐色土を主体とするが、全体的に地山粒･地山ブロックの混入が多く、短時間に埋められた様相を示す。

遺物はフレイクが僅少出土した。

ＳＸ259　（第54図）

Ｄ区のＬＱ55グリッドで検出した。ＳＸ50より新しい。平面形は不整方形で、遺構の規模は坑口部45cm×50cm、坑底部40cm×44cm、深さ７cm～16cmである。底面は起伏があり、西寄りに径28cm×21cm、深さ10cmのピットがある。

埋土は３層に分層した。１・２層は黒褐色土、３層は黒色土で、地山粒･地山ブロックを混入する。

遺物は縄文･弥生土器が少量、フレイクが僅少出土した。

ＳＸ265　（第69図）

Ｄ区のＬＯ55グリッドで検出した。調査区の北東端にかかり、さらに南東部をＳＤ134が切っているため全容は不明であるが、平面形は略円形を呈すると思われる。遺構の規模は坑口部径145cm、坑底部径138cm、深さ５cm～10cmである。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面にあるピット状の落ち込みはいずれも本遺構より古い。

埋土は黒褐色土の単一層で、炭化物･地山粒を多量に混入する。また、骨片を少量混入し、土器片は中央部から集中して出土している。遺物の出土状況、埋土の堆積状況から短時間に埋め戻されたと考える。

遺物は縄文･弥生土器が少量、フレイク、土師器･須恵器が僅少出土した。

ＳＸ266　（第64･81図）

Ｄ区のＬＴ･ＭＡ46･47グリッドで検出した。北東隅部でＳＤ121と切り合うが、新旧関係は不明である。平面形は不整方形を呈し、遺構の規模は坑口部196cm×332cm、坑底部190cm×304cm、深さ12cm～25cmを測る。底面は起伏が著しく、一部礫層に達している。壁は北･西壁が緩く、南･東壁がほぼ垂直に立ち上がる。

埋土は４層に分層した。黒褐色土と地山土がブロック状に混合し、炭化物･土器片を少量、礫を多量に混入する。埋土の堆積状況から短時間に埋められたと考えられる。

遺物は縄文･弥生土器が少量、フレイクが少量、土師器･須恵器が少量出土した。

ＳＸ309　（付図３）

Ｄ区のＭＡ･ＭＢ52グリッドで検出した。調査区の西端を南北に伸びるＳＬ323の東辺に位置する。ＳＬ323から東方向に舌状に張り出す溝状を呈し、東西幅210cm、南北幅180cmを測る。西側はＳＬ323に開口していたと考えられる。壁は緩く立ち上がり、底面はＳＬ323に向かって

緩く傾斜する。

埋土は調査時の不手際から詳細な観察ができなかったが、弥生土器片が多く含まれていた。

遺物は細片で図示できなかった。

ＳＸ310　（第39図）

Ｂ区のＭＩ47グリッドで検出した。環状を呈するＳＤ279の内側に位置し、北東隅部がＳＤ279によって切られているため全容は不明であるが、平面形は隅丸方形を呈すると思われる。遺構の規模は坑口部71cm×74cm、坑底部66cm×67cm、深さ10cmである。底面は緩い起伏をもち、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

埋土は4層に分層した。黒褐色土を主体とし、炭化物を多量に混入する。また、2層には焼土粒が少量混入する。

遺物は縄文･弥生土器が少量出土した。

ＳＸ311　（第39図）

Ｂ区のＭＩ46グリッドで検出した。環状を呈するＳＤ279の内側に位置し、平面形は不整形を呈する。遺構の規模は坑口部40cm×52cm、坑底部21cm×48cm、深さ9cmである。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。北壁にある径30cmのピットは本遺構より新しい。

埋土は黒褐色土の単一層で、炭化物･地山粒を少量混入する。

遺物は縄文･弥生土器が僅少出土した。

ＳＸ312　（第40図）

Ｂ区のＭＫ･ＭＬ57グリッドで検出した。北西側がＳＤ281により切られているため全容は不明であるが、北西から南東に長軸をもつ不整楕円形を呈すると思われる。遺構の規模は坑口部200cm×125cm、坑底部80cm×40cm、深さ39cmを測る。底面は起伏が著しく、壁は開口部に向かって起伏をもちながら緩く立ち上がる。

埋土は4層に分層した。1・3層は地山粒･炭化物を少量混入する黒色土で、2・4層は地山粒を多量に混入する黒褐色土である。

遺物は出土しなかった。

ＳＸ313　（第40図）

Ｂ区のＭＫ･ＭＬ58グリッドで検出した。東西に走る溝状を呈し、東端はＳＬ323に開口している。遺構の規模は上面幅150cm、底面幅120cm、上面長390cm、底面長365cm、深さ32cmを測り、断面形は逆台形を呈する。底面は平坦であるが、ＳＬ323(東側)に向かって緩く傾斜する。

埋土は4層に分層した。黒色土を主体とし、炭化物･黒色灰･地山粒を混入する。3層は黒色灰であるが、層厚があまりなく、普通の堆積とはみられない。下層の4～6層は地山粒とともに礫の混入が多い。

遺物は縄文･弥生土器が少量、フレイクが僅少出土した。

ＳＸ314　（第40図）

Ｂ区のＭＫ･ＭＬ59グリッドで検出した。南西から北東に走る溝状を呈し、北東端はＳＬ323に開口している。遺構の規模は上面幅155cm～180cm、底面幅95cm～170cm、上面長315cm、底面長270cm、深さ21cm～30cmを測り、断面形は皿状を呈する。底面は平坦であるが、ＳＬ323(北東側)に向かって緩く傾斜する。

埋土は４層に分層した。黒色土･黒褐色土を主体とし、地山粒を少量混入する。最下層の３層には地山粒とともに礫を多く混入する。

遺物は縄文･弥生土器が僅少出土した。

ＳＸ315　（第40図）

Ｂ区のＭＮ58グリッドで検出した。北東から南西に走る溝状を呈すると思われるが、南西端部は確認の段階でその形跡を留め得なかったため不明である。遺構の規模は上面幅80cm～120cm、底面幅70cm～100cm、残存する上面長275cm、底面長225cm、深さ６cm～15cmを測る。底面は起伏が著しく、北東に向かって緩く傾斜し、北東端部では、径80cmの円形状に凹んでいる。

埋土は２層に分層した。黒褐色土が主体であるが、１層は炭化物･地山粒を少量混入し、２層は地山ブロックを多量に混入する。

遺物は出土しなかった。

ＳＸ316　（第40図）

Ｂ区のＭＬ58グリッドで検出した。環状を呈するＳＤ281の内側、北東部に位置し、平面形は略円形を呈する。遺構の規模は坑口部径85cm、坑底部径70cm、深さ16cmを測る。底面は緩い起伏があり、壁が緩く立ち上がる皿状の断面形を呈する。

埋土は４層に分層した。黒色土を主体とし、炭化物･地山粒を少量混入する。

遺物は縄文･弥生土器が僅少出土した。

ＳＸ317　（第41図）

Ｂ区のＭＰ58グリッドで検出した。環状を呈するＳＤ282の北東部に位置し、本遺構の南端はＳＤ282により切られるているが、西に開口する弧状を呈する。遺構の規模は坑口部上幅35cm×80cm、坑底部幅35cm×55cm、深さ40cmである。平面形が弧状を呈するのに対し、底面は南北に長軸をもつ方形を呈し、平坦でしまりがある。したがって東西壁はほぼ垂直に立ち上がるが、底面から孤端部にかけては緩く立ち上がる。

埋土は５層に分層した。黒色土･黒褐色土が主体で、地山粒を混入する。下層および端部は地山ブロック･黒色土ブロックを多量に混入する。

遺物は出土しなかった。

ＳＸ318　（第58図）

Ｄ区のＬＳ60グリッドで検出した。「コ」の字を呈するＳＸ133の北東端部に位置し、ＳＸ133に切られているため全容は不明であるが、平面形は楕円形を呈すると思われる。また、本遺構の東側には不整形の落ち込みがあるが、新旧関係は不明である。遺構の規模は坑口部長径160㎝、坑底部長径125㎝、深さ７㎝である。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

埋土は４層に分層した。黒褐色土を主体とし、地山粒を混入する。下層には黒褐色土をブロック状に混入する地山土が堆積する。東側の落ち込みは、径60㎝の不整形を呈し、深さ20㎝を測り、埋土は地山粒･炭化物を混入する黒褐色土である。

遺物は出土しなかった。

ＳＸ319　（第34図）

Ｄ区のＬＮ51グリッドで検出した。南側がＳＫＩ113によって切られているため全容は不明であるが、平面形は楕円形を呈すると思われる。遺構の規模は坑口部125㎝×155㎝、坑底部116㎝×148㎝、深さ13㎝～20㎝である。底面は北東壁寄りで起伏があり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

埋土は７層に分層した。黒色土を主体とし、地山粒･地山ブロックを混入する。

遺物は出土しなかった。

ＳＸ321　（第40図）

Ｂ区のＭＮ59グリッドで検出した。北側をトレンチにより削平したため全容は不明であるが、南北に長軸をもつ溝状を呈すると思われる。遺構の規模は上面幅100㎝、底面幅75㎝、深さ15㎝～25㎝を測る。底面は起伏が著しいが、北に向かって若干傾斜する。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

埋土は３層に分層した。黒色土を主体とし、炭化物･地山粒を混入するが、最下層の３層は地山ブロックを多量に混入する。

遺物は出土しなかった。

ＳＸ322　（第40図）

Ｂ区のＭＬ･ＭＮ59グリッドで検出した。北側をトレンチにより、東側をＳＸ314により切られているため全容は不明であるが、南北から東西に「Ｌ字」を呈する溝状遺構と思われる。遺構の規模は上面幅32㎝～60㎝、底面幅14㎝～22㎝、深さ９㎝～18㎝を測り、壁が緩く立ち上がる逆台形の断面形を呈する。底面は平坦で、ＳＸ314に向かって緩く傾斜する。

埋土は黒色土の単一層で、地山粒を多く混入する。

遺物は出土しなかった。

ＳＸ327　（第40図）

Ｂ区のMM58グリッドで検出した。平面形は楕円形で、遺構の規模は坑口部70cm×97cm、坑底部64cm×75cm、深さ８cm～11cmを測る。底面は平坦で、壁は緩く立ち上がる。南西壁際で径35cm、深さ17cmのピットと切り合うが、本遺構のほうが新しい。

埋土は黒色土の単一層で、地山粒･炭化物を少量混入する。

遺物は出土しなかった。

ＳＸ328　（第63図）

Ｄ区のＬＲ49グリッドで検出した。ＳＫ235より新しい。平面形は不整形で、遺構の規模は坑口部55cm×95cm、坑底部46cm×86cm、深さ20cm～25cmである。底面は平坦であるが、北側は一段低くなっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

埋土は３層に分層した。全て黒褐色土であるが、炭化物･地山粒･地山ブロックの混入により分層できた。

遺物は出土しなかった。

第２節　出土遺物

１　縄文･弥生時代

本項では遺構内出土遺物のうち、縄文･弥生時代の遺物のみ取り上げる。

（１）　遺構内出土遺物

①　土器

遺構内出土の土器はすべて取り上げたが、摩滅の著しいものも含まれている。土器の時期を特定できるものについて、縄文土器は型式名またはおおよその時期を明記し、弥生土器は手取清水第１群土器～第８群土器と各段階で示すこととし、本文中では手取清水１群土器～８群土器などと明記した。なお縄文土器･弥生土器の判断のつくものは、器種名の後に(弥生土器)などと記した。詳細は「第６章　１　縄文･弥生時代の遺構と遺物について」の項を参照されたい。

ＳＡ240　（第82図１・２、図版83）

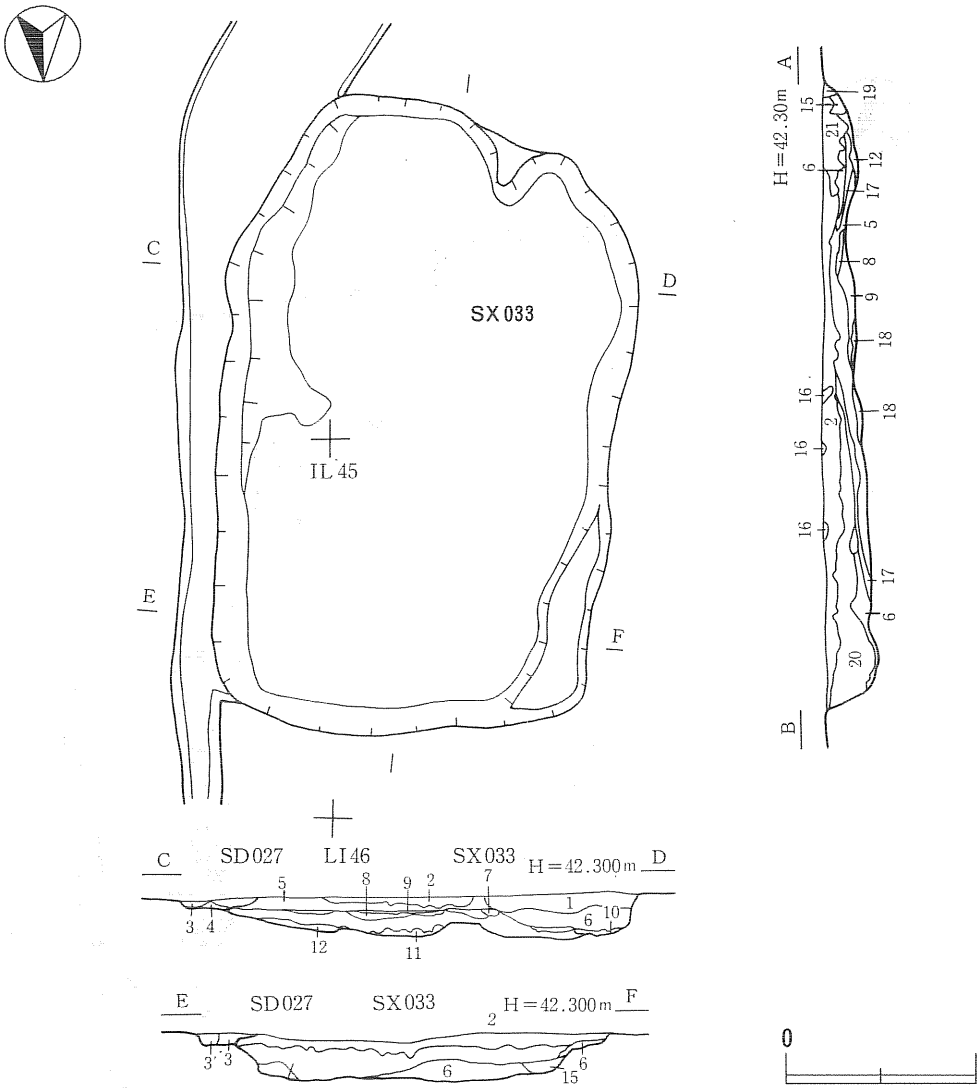
１は鉢形であろう。２は筒形土器か高杯形土器の脚部で、方形文と磨消縄文手法が認められる。２は手取清水４群土器である。

ＳＡ241　（第82図３・４、図版83）

３は甕形、４は鉢形土器である。３は口縁部外面がヘラケズリのあとヘラナデ調整があり、体内面には幅１cm前後の粘土紐痕が残りヘラナデ調整が認められる。

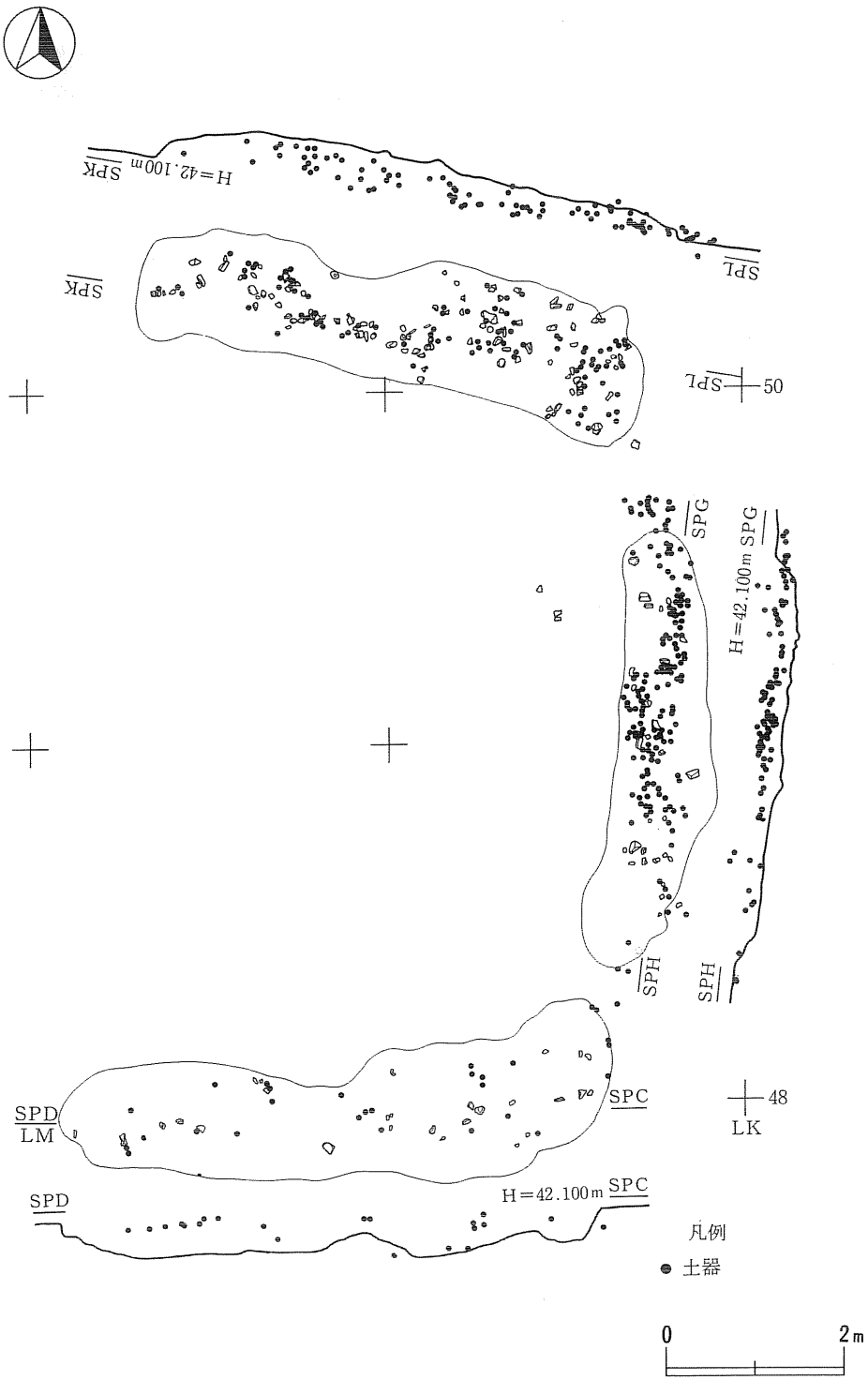
ＳＡ256　（第82図５・６、図版83）

５・６は鉢形(弥生土器)であろう。

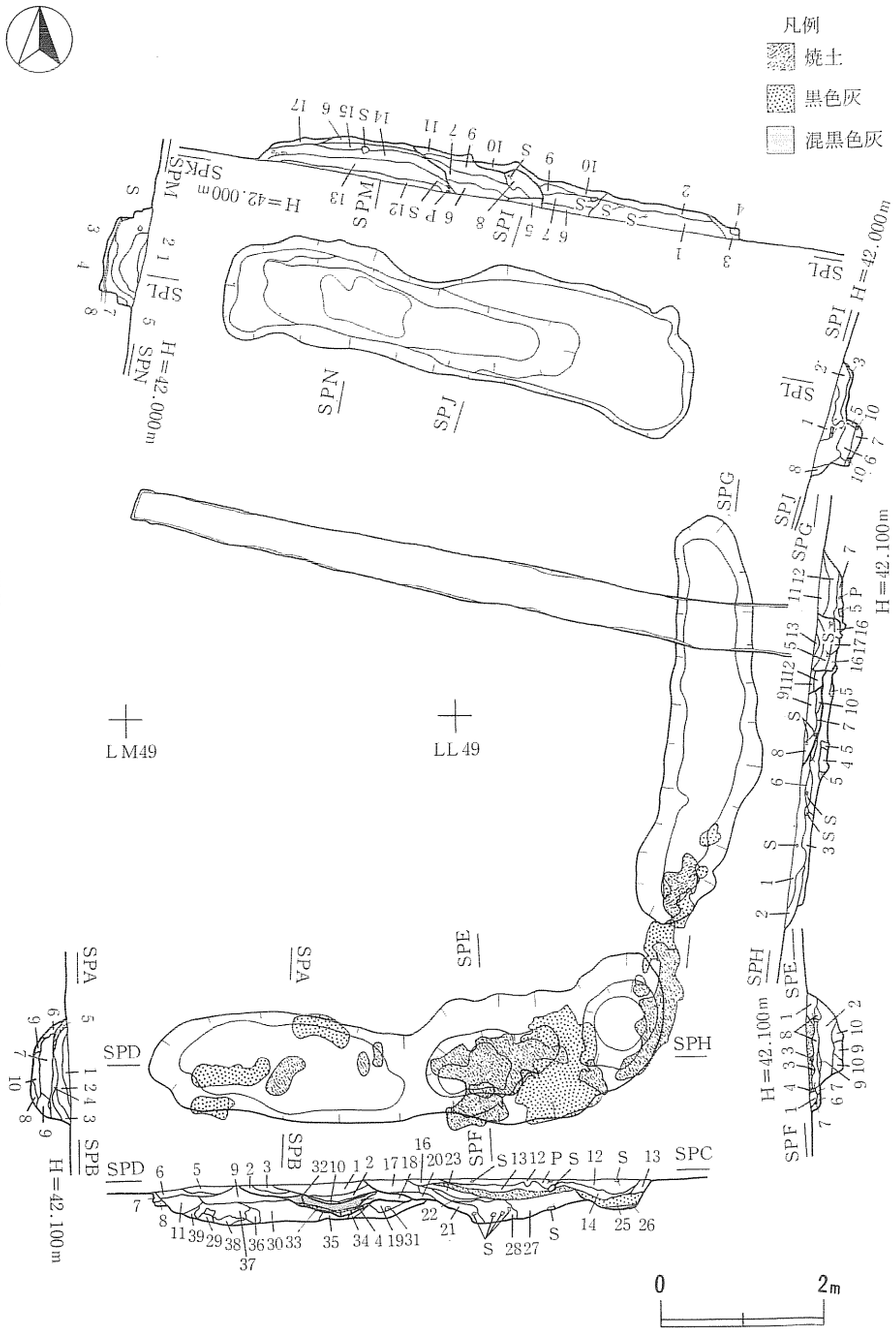


SX033　SD027
1　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性なし、しまり良、ローム粒子３％混入
2　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粘性なし、しまり良、ロームブロック20％混入
3　黒褐色土(10ＹＲ2/3)　粘性なし、しまり良、ローム粒子２％混入、溝の覆土
3　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粘性あり、しまり良、ローム粒子混入なし
4　黒褐色土(10ＹＲ2/3)　と黄褐色土(10ＹＲ5/6)の混合土、粘性あり、しまり良
5　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粘性なし、しまり良、ロームブロック・粒子10％混入
6　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性なし、しまり不良、ロームブロック５％、小礫含む
7　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　と黄褐色土(10ＹＲ5/6)の混合土、粘性なし、しまり不良
8　黒色土(10ＹＲ2/1)　と黄褐色土(10ＹＲ5/6)の混合土、粘性なし、しまり良
9　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粘性なし、しまり良、ローム粒子10％混入
10　明黄褐色土(10ＹＲ6/6)　と鈍い黄褐色土(10ＹＲ5/4)の混合土、粘性あり、しまり良
11　黄褐色土(10ＹＲ5/6)　と明黄褐色土(10ＹＲ6/6)の混合土、砂質
12　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性あり、しまり不良、ローム粒子１％混入
13　黄褐色土(10ＹＲ5/6)　砂質
14　黒色土(10ＹＲ2/1)　粘性あり、しまり不良
15　黒色土(10ＹＲ2/1)　と黄褐色土(10ＹＲ5/6)の混合土、粘性あり、しまり不良
16　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粘性なし、しまり良
17　褐色土(10ＹＲ4/4)　と明黄褐色土(10ＹＲ7/6)の混合土、粘性なし、しまり良
18　褐色土(10ＹＲ4/4)　と明黄褐色土(10ＹＲ7/6)の混合土
19　黒色土(10ＹＲ2/1)　と黄褐色土(10ＹＲ5/6)の混合土、粘性あり、しまり良
20　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粘性あり、しまり不良、ロームブロック・粒子20％混入
21　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粘性なし、しまり良、ロームブロック40％混入
※ロームブロック――褐色土(10ＹＲ4/4)　粘性あり

第73図　ＳＸ033その他の遺構



第74図　ＳＸ084遺物出土状況図



第75図　ＳＸ084その他の遺構

ＳＸ084　Ｍ－Ｎ
1　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまり強、地山小～中粒10%含。
2　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性・しまりあり、地山小～中粒40%、炭化物中粒1%含。
3　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性・しまりあり、地山小～中粒30%、一部ブロック状に混入。
4　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性強、しまりなし、地山中粒20%
5　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粘性強、しまりあり、地山中粒1%含。
6　黒色土(10ＹＲ2/2)　粘性強、しまりなし、地山小～極大粒30%含。
7　灰黄褐色土(10ＹＲ4/2)　粒子細、粘性強、しまりあり。
8　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性強、しまりなし、灰黄褐色粘土ブロック40%、地山中粒20%含。

ＳＸ084　Ａ－Ｂ
1　黒色土(10ＹＲ2/2)　粘性・しまりあり、地山粒子・ブロック7%含。
2　黒色土(10ＹＲ2/2)　しまりあり、地山中粒3%。酸化鉄がクラック状に20%含。
3　黒色土(10ＹＲ2/2)　粘性・しまりあり、地山粒15%含。
4　黒色土(10ＹＲ2/2)　黒色土がシミ状に混入、酸化鉄がクラック状に多量に混入。
5　黒色土(10ＹＲ2/2)　しまりなし、焼土粒子10%・地山ブロック30%混入。
6　黒色土(10ＹＲ2/2)　しまりなし、地山粒1%混入。
7　黒色土(2.5ＹＲ3/8)　粒子細、粘性あり、しまり強、地山ブロック80%、炭化物中粒若干。
8　黒色土(10ＹＲ2/2)　（焼土ブロック）焼土ブロック若干含。
9　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性強、しまりあり、地山中粒3%、酸化鉄がクラック状に20%混入。
10　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまりあり、地山ブロック20%、炭化物小粒若干。

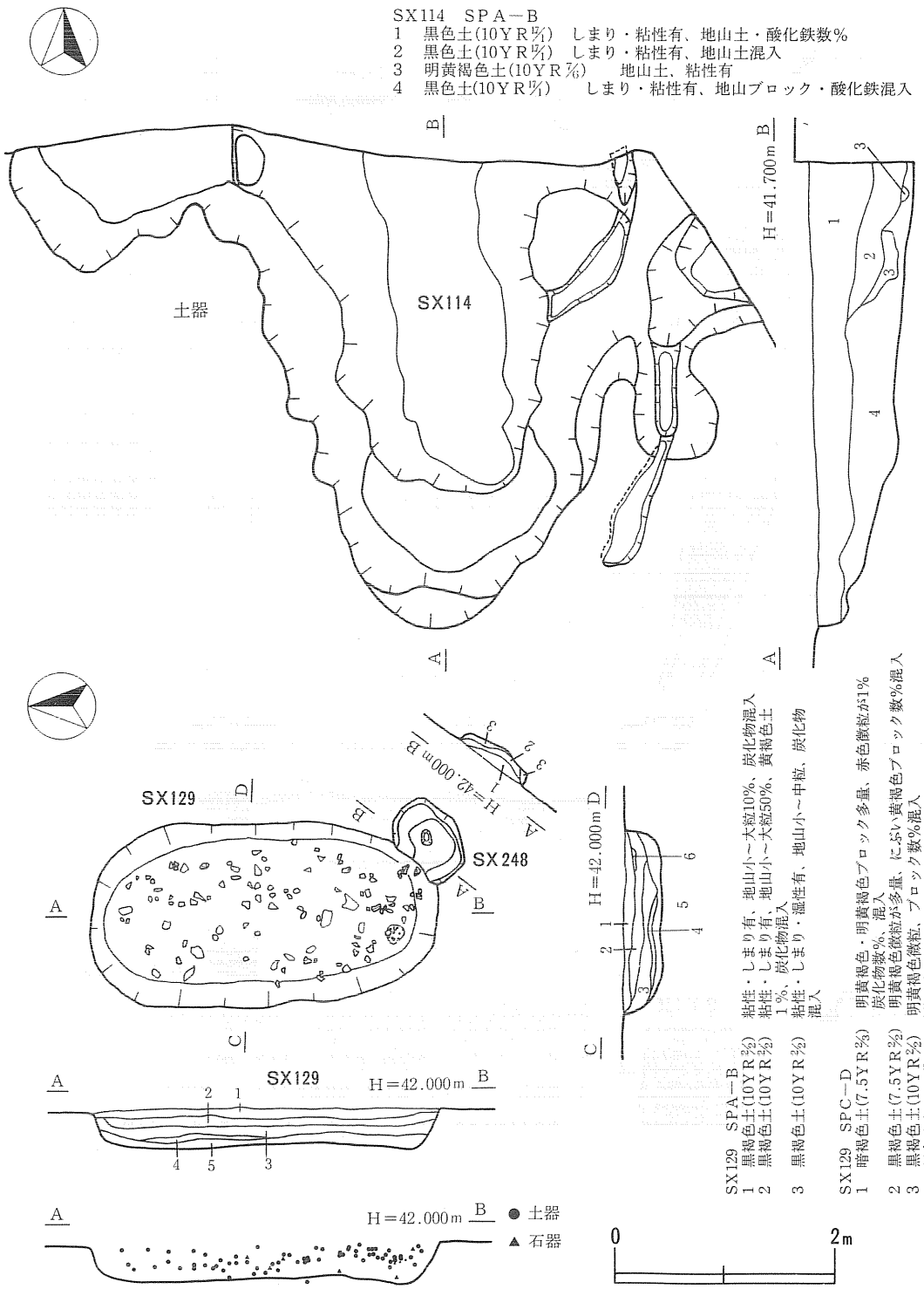
ＳＸ084　Ｄ－Ｃ
1　黒色土(10ＹＲ2/2)　粘性・しまりあり、地山粒子・ブロック7%含
2　黒色土(10ＹＲ2/2)　しまりあり、酸化鉄がクラック状に入る、地山粒子3%含
3　黒色土(10ＹＲ2/2)　粘性あり、しまり強、地山小～大粒30%含
4　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、黒色土がシミ状に混入、酸化鉄がクラック状に多量混入
5　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性なし、しまり強、焼土小粒2%含、地山土がブロック状に3%含
6　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性・しまりあり、焼土極大粒10%含、地山土がブロック状に2%含
7　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性強、しまりあり、地山小～中粒2%含
8　黒褐色土(10ＹＲ3/2)　粒子細、粘性強、地山土シミ状に含
9　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまり強、焼土ブロック中～極大粒8%、地山ブロック大～極大粒30%含
10　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまりなし、灰シミ状に含、焼土小粒若干
11　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性・しまりあり、地山小粒3%、酸化鉄クラック状に多量混入
12　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまり強、焼土中粒1%、地山小～大粒10%含
13　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまり欠、地山ブロック50%、灰がシミ状に混入
14　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまり強、地山小～中粒3%
15　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまり強、焼土がブロック状に70%混入
16　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性・しまりあり、地山小～中粒10%含
17　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性・しまりあり、地山小～中粒2%、地山小～大粒5%含
18　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性・しまりあり、焼土ブロック3%、地山ブロック30%含
19　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまり強、地山中～大粒5%
20　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまり強、地山中～大粒3%、酸化鉄がクラック状に多量混入
21　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性・しまりあり、焼土小～中粒30%、地山ブロック10%
22　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性・しまりあり、黒灰がシミ状に混入
23　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性・しまりあり、酸化鉄少量混入
24　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、しまりなし、湿性あり、焼土小～中粒5%含
25　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、しまりなし、湿性あり、焼土小粒1%、黒灰がシミ状に混入
26　黒色土N1.5（黒灰）　粘性・しまりなし、湿性あり、地山小粒1%
27　黒色土(10ＹＲ2/2)　粘性・しまりあり、酸化鉄がクラック状に多量に混入
28　黒色土(10ＹＲ2/2)　粘性なし、しまりあり、黄褐色土・にぶい黄褐色土が極大粒のブロック状で60%混入
29　黄褐色土(10ＹＲ5/6)　粘性あり、しまりなし、黒色土がシミ状に混入
30　黒色土(10ＹＲ2/2)　粘性あり、しまりなし、黄褐色土、にぶい黄褐色土がブロック状に混入
31　地山ブロック
32　焼土　中～大粒がアトリックス、粘性あり、しまりなし、炭化物混入、にぶい黄褐色土20%、黄褐色土10%混入
33　黒色土N1.5（黒灰）　粘性・しまりなし、焼土中～大粒3%含
34　黒色土(10ＹＲ2/2)　粘性強、しまりあり、地山小～中粒7%混入
35　黒色土(10ＹＲ2/2)　粘性・しまりあり、地山小～中粒30%混入
36　黒色土(10ＹＲ2/2)　粘性・しまりあり、黄褐色土、にぶい黄褐色土がブロック状に混入
37　黒色土(10ＹＲ2/2)　粘性・しまりあり、地山小～中粒10%、地山ブロック極大粒5%、黒灰シミ状に混入酸化鉄がクラック状に多量混入
38　黒色土(10ＹＲ2/2)　粘性・しまりなし、黄褐色土、にぶい黄褐色土がブロック状に入る混合土、酸化鉄がクラック状に多量混入
39　褐色土(10ＹＲ4/4)　粘性なし、しまりなし、粒形大、黒色土5%混入

ＳＸ084　Ｅ－Ｆ
1　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまり強、地山中粒1%含
2　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまり強、焼土小～中粒3%、地山ブロック中粒5%含
3　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまりなし、焼土小～中粒20%、地山小粒若干含
4　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまりあり、黒灰がシミ状に混入
5　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまり強、焼土中粒1%、地山小～大粒10%含
6　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまり強、黒灰がシミ状に混入、焼土小粒若干、地山中粒20%含
7　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまり強、地山ブロック10%含
8　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまりなし、地山ブロック50%、黒灰シミ状に混入
9　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性・しまりあり、地山ブロック80%、炭化物中粒若干
10　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性強、しまりあり、地山小～中粒10%、炭化物小粒若干

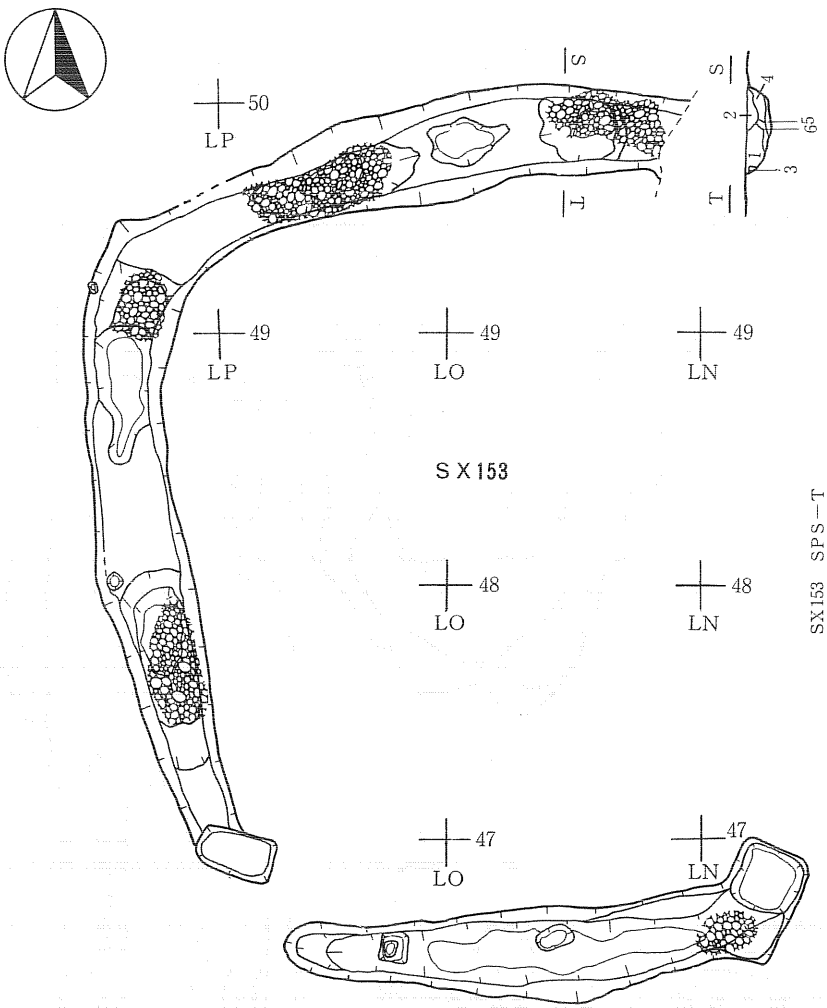
ＳＸ084　Ｈ－Ｇ
1　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性・しまりあり、地山中粒2%、地山ブロック多量含、炭化物中粒若干
2　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性強、しまりあり、地山小～中粒10%
3　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性・しまりあり、地山小～中粒10%、一部ブロック状に入る、酸化鉄クラック状に入る。焼土小粒若干混入
4　黒色土(10ＹＲ2/2)　粘性・しまりあり、地山大粒1%含
5　にぶい黄褐土(10ＹＲ5/4)　（地山土）粘性あり、しまりなし、黒色土シミ状に混入
6　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまり強、地山小粒1%、酸化鉄がクラック状に多量混入
7　黒色土(10ＹＲ2/2)　粘性あり、しまりなし、地山小～大粒10含
8　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまり強、地山中～大粒6%
9　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまり強、地山ブロック状70%含
10　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性強、しまりあり、地山小～中粒10%
11　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性なし、しまり強
12　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまり強、地山小粒3%、酸化鉄がクラック状に多量混入
13　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性なし、しまり強、地山小粒若干
14　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまり強、地山小粒若干、一部ブロック状に入る
15　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまりあり、地山ブロック50%、酸化鉄がクラック状に多量に入る
16　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまりあり、地山小～中粒40%、炭化物中粒1%含
17　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまりあり、地山小粒1%含

ＳＸ084　Ｊ－Ｉ
1　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまり強、地山小～極大粒30%含
2　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまりあり、地山小～中粒5%、酸化鉄クラック状に多量に混入
3　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5/4)　粘性強、しまりあり、黒色土20%、黒褐色土30%混入
4　黒色土(10ＹＲ2/2)　粘性あり、しまりあり、地山小～中粒40%含、一部ブロック状に混入
5　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5/4)　粘性あり、しまりなし、黒色土20%混入
6　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまりあり、地山ブロック80%含
7　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性強、地山小～中粒10%、ブロック状に20%含
8　黒色土(10ＹＲ2/2)　粘性あり、しまりなし、地山小粒1%含
9　黒色土(10ＹＲ2/2)　粘性あり、しまりなし、地山小～小粒10%含
10　地山ブロック

ＳＫ084　Ｌ－Ｋ
1　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまり強、地山ブロック10%、炭化物中粒1%、植物繊維多量
2　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまりあり、地山小～極大粒60%含
3　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまり強、地山小粒2%含
4　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまりあり、地山ブロック10%含
5　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまり強、地山小～極大粒30%含
6　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまり強、地山中粒20%含
7　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまりあり、地山中粒5%、植物繊維多量
8　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまりなし、地山ブロック80%含
9　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまりなし、地山小～中粒40%含
10　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性強、地山ブロック状20%、地山小～中粒10%含
11　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性強、しまりなし、植物繊維多量
12　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性あり、しまり強、地山小～中粒10%含
13　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性・しまりあり、地山小～中粒40%、炭化物中粒1%
14　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性・しまりあり、地山中～中粒30%、一部ブロック状あり
15　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性強、しまりなし、地山中粒20%含
16　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性強、しまりなし
17　黒色土(10ＹＲ2/2)　粒子細、粘性・しまりあり、地山ブロック50%含

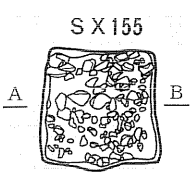


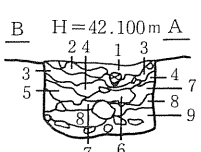
第76図　SX114・129・248その他の遺構



SX153　SPS－T
1　黒褐色土(10YR2/2)　粘性あり、しまり良、小～大粒状含、炭化物混入
2　黒色土(10YR2/1)　粘性強、しまり良、小粒状含、炭化物数%
3　黒褐色土(10YR2/2)　粘性数%、しまり良、地山小粒、炭化物数%
4　黒褐色土(10YR2/2)　粘性あり、しまり良、地山小～大粒、炭化物、骨含
5　黒色土(10YR2/2)　粘性強、地山小～極大粒、炭化物混入
6　黒褐色土(10YR2/2)　粘性強、地山中～大粒、炭化物混入

黒灰の分布範囲

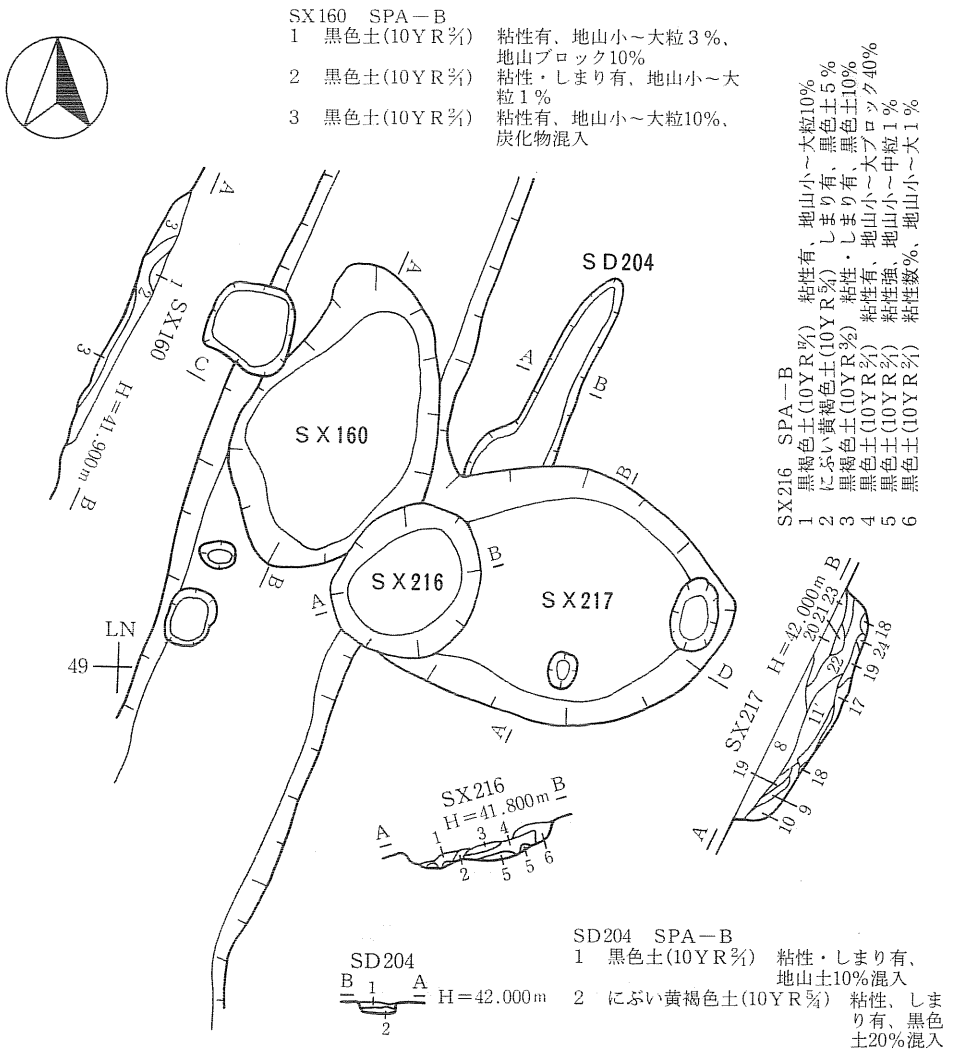




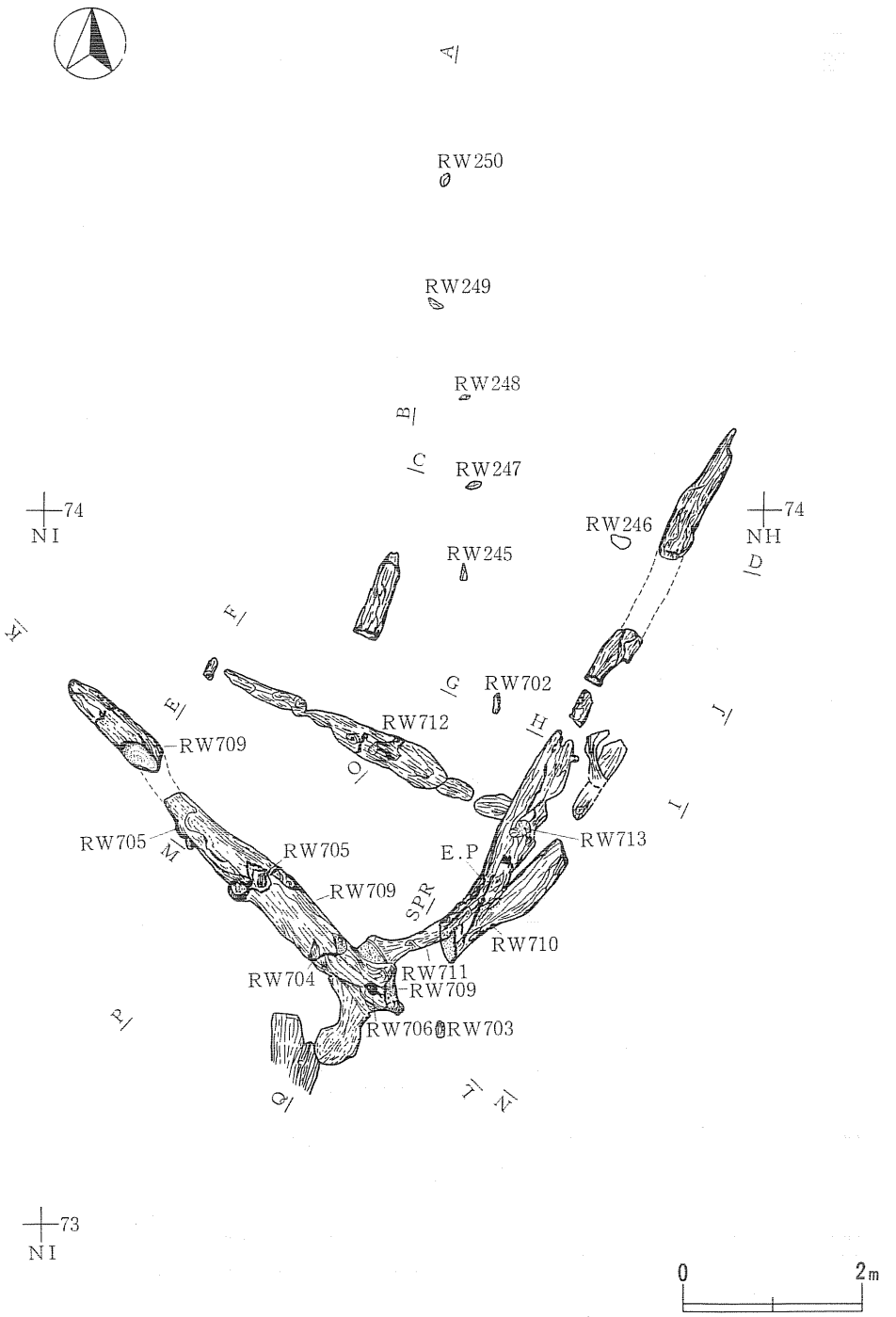
SX155　SPB－A
1　黒色土(10YR2/1)　粘性なし、しまりあり、炭化物小粒、焼土粒あり
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　細砂層、しまり強
3　黒色土(10YR2/1)　粒子細、粘性有、しまり有、地山中粒20%
　　一部ブロック５%
4　黄褐色土(10YR5/3)　粒子細、粘性あり、しまり有、細砂多量
　　地山ブロック状15%
5　黒色土(10YR2/1)　粒子細、粘性有、しまり有、地山ブロック80%
6　黒色土(10YR2/1)　粒子細、粘性有、しまり強、地山ブロック90%
7　黒色土(10YR2/1)　粒子細、粘性有、しまり有、地山ブロック20%
8　黒色土(10YR2/1)　粒子細、粘性有、しまり有、地山ブロック50%
9　黒色土(10YR2/1)　粒子細、粘性強、しまり有、地山ブロック５%

0　4m

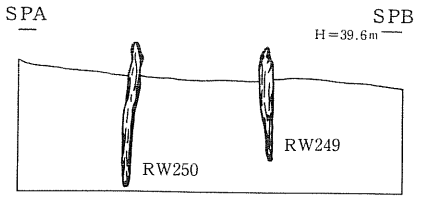
第77図　SX153・155その他の遺構

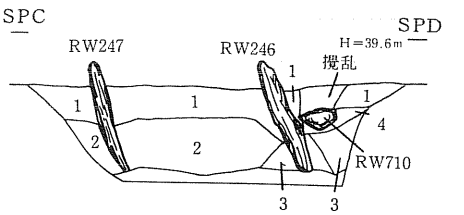


第78図　SX160・216・217その他の遺構

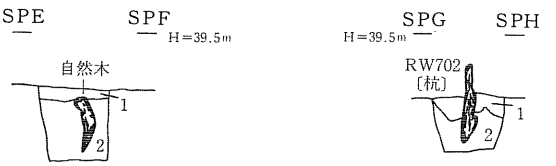


第79図　ＳＸ180その他の遺構



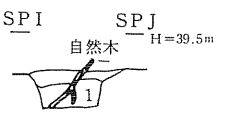


RW—246・247
1　礫層　暗褐色土(10ＹＲ3/3)が全体的にしみるように混入。径１～２cmの礫が中心。径２～５cmの礫が３%、腐敗植物７%。
2　砂礫層　縁灰色(7.5ＧＹ5/1)を中心とした粗砂に径１～３cmの礫７%。径３cm～５cmの礫２%、腐敗植物３%。
3　細砂層　縁灰色(7.5ＧＹ5/1)を中心とした粗砂に腐敗植物２%。径１cm前後の礫が１%。
4　礫層　径１～２cm前後の礫に径５cm前後の礫が３%。腐敗植物２%。立にある木製品に押されたような状態。

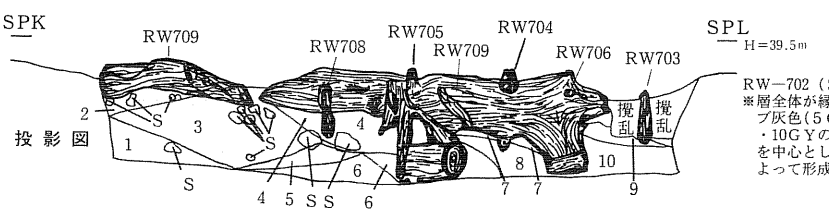


RW—702（SPE—F）
1　砂礫層　オリーブ黒色(５Ｙ3/2)細砂と５～20mmの礫が主体で、その間に黒褐色の腐った植物などが10～15%混入。
2　粘質土　灰色(2.5Ｙ5/1)粘性・しまり強

RW—702（SPG—H）
1　砂礫層　オリーブ黒色(５Ｙ3/2)細砂と５～20mmの礫が主体で、その間に黒褐色の腐った植物などが10～15%混入。
2　砂礫層　オリーブ褐色(2.5Ｙ4/3)10～30mmの礫が主体で、その中に30～50mmほどの礫と褐色シルト混入この層の下は、いわゆる「青砂」である。

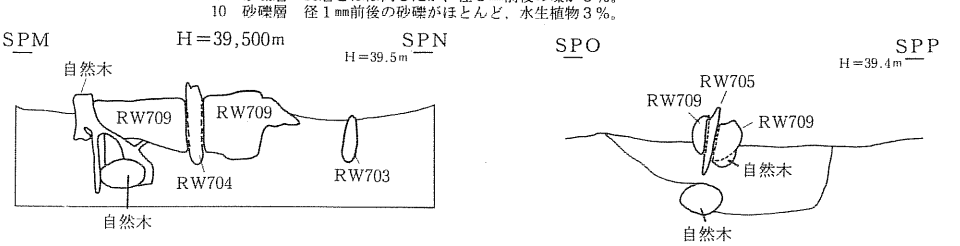


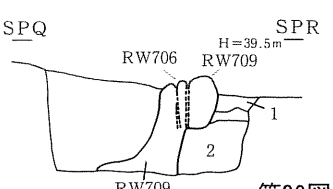
RW—702（SPI—J）
1　砂礫層　オリーブ黒色(５Ｙ3/2)細砂と５～20mmの礫が主体で、その間に黒褐色の腐った植物などが10～15%混入。



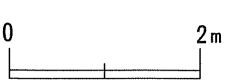
RW—702（SPK—L）
※層全体が縁灰色とオリーブ灰色(５ＧＹ・7.5ＧＹ・10ＧＹの5/1～5/1まで)を中心とした砂及び礫によって形成されている。

1　細砂層　たいへん細かい細砂で、しまりがある。水生植物２%。
2　砂礫層　１の細砂に粗砂が混入。径５mm～２cmの礫10%、水生植物３%。
3　礫　層　径５mm～２cmの礫が中心、径３～５cmも多く15%、水生植物10%。
4　細砂層　１よりはやや粗い、植物根が２%、水生植物10%。
5　粗砂層　４が次才に粗くなっていく。水生植物７%。
6　砂礫層　５の粗砂に径３～５mm前後の礫が多く混入。
7　粗砂層　４より粗く、径２～５mm前後の礫５%、水生植物10%。
8　細砂層　４より細かく１と似た状態、植物根１%、水生植物２%。
9　砂礫層　10層とほぼ同じだが、径５mm前後の礫が５%。
10　砂礫層　径１mm前後の砂礫がほとんど、水生植物３%。





RW—706・709
1　砂利層　黄灰色(2.5Ｙ4/1)。細砂が主体。５～20mmの礫10%混入、灰黄褐(10ＹＲ4/2)土５%混入(上部)。
2　細砂層　灰色(2.5Ｙ5/1)。中に10～20mmの礫５%混入、この反対側では灰色(2.5Ｙ5/1)粘質土、粘性、しまり強となる。埋めた痕跡なし。



第80図　ＳＸ180その他の遺構土層断面図

ＳＡ257　（第82図７、図版83）

７は鉢形であろう。

ＳＢ170　（第82図８、図版83）

８は鉢形(弥生土器)で沈線による菱形文である。手取清水５群土器。

ＳＢ171　（第82図９、図版83）

９は口縁部外面に刷毛目調整のある鉢形(弥生土器)である。

ＳＢ175　（第82図10～14、図版83）

10～14は鉢形(弥生土器)である。11は体部外面は縄文施文後、「変形工字文」的な文様構成を描いている。体部外面と口縁部内面にベンガラのような赤色がわずかに残っている。

ＳＤ056　（第82図15～21、図版83）

15～21はいずれも鉢形である。16は手取清水２群土器であり、21は縄文晩期の大洞Ａ′式である。

ＳＤ089　（第82図22～25、図版83）

22～25は鉢形である。22は大洞Ａ′式であり、23は手取清水２群土器である。

ＳＤ092　（第82図26～28、図版83･84）

26はにぶい橙色を呈する壺形(弥生土器)の肩部であろう。沈線に囲まれた1.3～1.7㎝の範囲は薄く削り取られた後、丁寧なヘラミガキ調整を施している。手取清水２～３群土器頃に相当ものであろう。27はにぶい橙色の壺形(弥生土器)の口縁部であり、口縁部外側が肥厚している。28は口頸部途中が膨らむ壺形(弥生土器)である。手取清水２～３群土器。

ＳＤ099　（第82･83図29～34、図版84）

29～34は鉢形である。31･34は大洞Ａ′式であり、30は手取清水２群土器である。

ＳＤ105　（第83図35、図版84）

35は鉢形(弥生土器)である。手取清水４群土器。

ＳＤ106　（第83図36～40、図版84）

36～40は鉢形(弥生土器)である。36は連弧文である。36･38･40は手取清水４群土器である。

ＳＤ107　（第83図41～43、図版84）

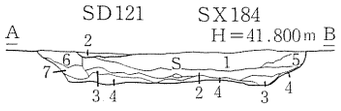
41～43は鉢形である。43は壺形(弥生土器)の体部上半の渦巻文か同心円文である。手取清水５群土器。

ＳＤ119　（第83図44、図版84）

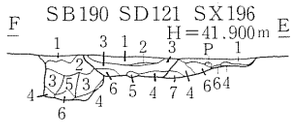
44は鉢形である。

ＳＤ121　（第83図45、図版84）

45は鉢形であり、小孔がある。

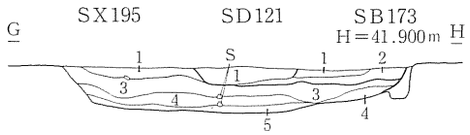


SX184 SPA－B
1　黒褐色土(10YR⅔)　炭化物・地山小～中粒少量
2　黒色土(10YR⅔)　炭化物・地山中粒少量、一部ブロック状
3　黒色土(10YR⅔)　黒色強、地山粒ブロック多量
4　にぶい黄褐色土(10YR⅝)　極細砂層
5　黒褐色土(10YR⅔)　炭化物・地山中粒微～少量
6　黒褐色土(10YR⅔)　炭化物小粒・地山ブロック微～少量
7　黒褐色土(10YR⅔)　地山ブロック多量

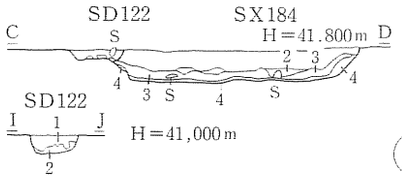


SD121 SPE－F　6
1　黒褐色土(10YR⅔)　炭化物小粒若干、地山小粒少量
2　黒色土(10YR⅔)　地山小粒微量
3　黒褐色土(10YR⅔)　炭化物小粒若干、地山ブロック多量
4　黒褐色土(10YR⅔)　地山ブロック多量
5　黒色土(10YR⅔)　地山中粒少量
6　にぶい黄褐色土(10YR⅝)　1をブロック状に含む

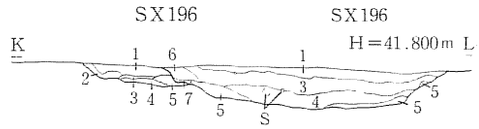
SB190
1　黒褐色土(10YR⅔)　炭化物中粒、地山ブロック少量
2　黒褐色土(10YR⅔)　炭化物中粒少量、地山ブロック多量
3　黒褐色土(10YR⅔)　炭化物小粒微量、地山ブロック多量
4　灰黄褐色土(10YR⅝)　黒褐色土少量を含む
5　黒褐色土(10YR⅔)　炭化物小粒・地山ブロック若干
6　灰黄褐色土(10YR⅔)　極細砂多量、炭化物中粒微量



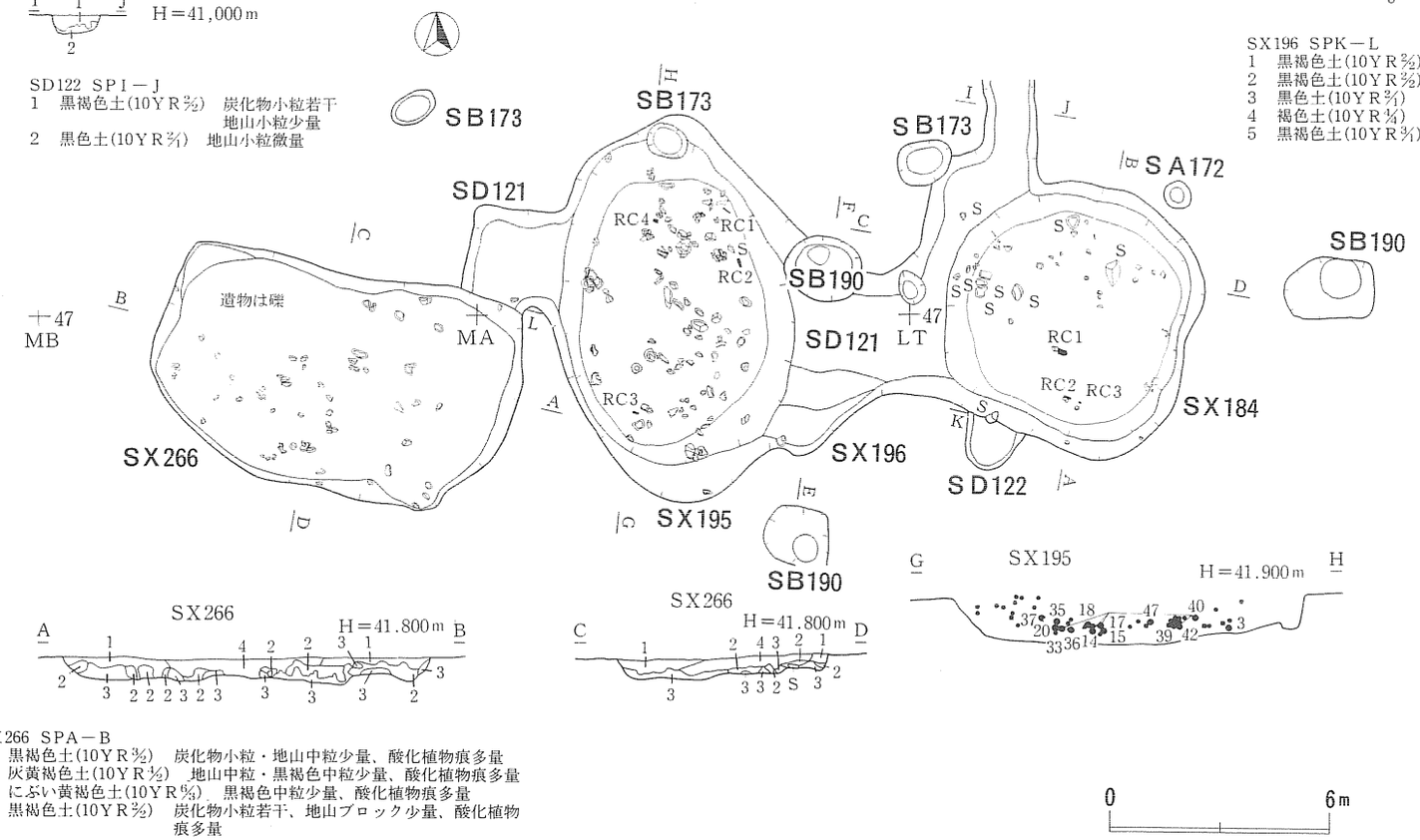
SX195 SPG－H
1　黒褐色土(10YR⅔)　炭化物中～大粒微量、地山小～中粒少量
2　黒色土(10YR⅔)　炭化物中粒若干、地山大粒微量
3　黒色土(10YR⅔)　炭化物小粒若干、地山小～中粒少量
4　黒色土(10YR⅔)　炭化物小粒若干、地山中粒少量
5　灰黄褐色土(10YR½)　砂質を帯びたにぶい黄橙色ブロック多量
6　黒褐色土(10YR⅔)　地山大粒少量
7　黒褐色土(10YR⅔)　地山小粒若干



SD122 SPI－J
1　黒褐色土(10YR⅔)　炭化物小粒若干　地山小粒少量
2　黒色土(10YR⅔)　地山小粒微量



SX196 SPK－L
1　黒褐色土(10YR⅔)　炭化物小粒若干、地山ブロック少量
2　黒褐色土(10YR⅔)　地山ブロック多量
3　黒色土(10YR⅔)　地山中粒少量
4　褐色土(10YR⅝)　極細砂を多量含有
5　黒褐色土(10YR⅔)　地山ブロック多量



SX266 SPA－B
1　黒褐色土(10YR⅔)　炭化物小粒・地山中粒少量、酸化植物痕多量
2　灰黄褐色土(10YR½)　地山中粒・黒褐色中粒少量、酸化植物痕多量
3　にぶい黄褐色土(10YR⅝)　黒褐色中粒少量、酸化植物痕多量
4　黒褐色土(10YR⅔)　炭化物小粒若干、地山ブロック少量、酸化植物痕多量

凡例(SX195)

- 墨書土器　R
  - RP20・35――墨書銘「月力」　土師器坏「第172図53」
  - RP40――墨書銘「月力」　土師器坏「第172図54」
  - RP14・17・33・42―墨書銘「連」　須恵器坏「第173図60」
  - RP39――墨書銘・不明　須恵器坏「第174図82」
  - RP３――墨書銘・不明　須恵器坏「第174図86」
  - RP36――墨書銘・不明　土師器坏「第176図122」
  - 転用硯――RP15・47　須恵器坏「第178図142」
- 土器
- 石製品
- 炭化物

第81図　SX184・195・266その他の遺構、SD121・122溝状遺構

ＳＤ122　（第83図46、図版84）

46は鉢形(弥生土器)であり、沈線文･列点文がある。

ＳＤ130　（第83図47～61、図版84･85）

47～61は鉢形(弥生土器)である。50は口縁外面が縦方向、内面は横･斜方向の刷毛目調整を認める。49の縄文帯はＲＬ原体で丸底の底部となろう。52は甕形土器である。51は手取清水４群土器である。

ＳＤ134　（第83図62･63、図版85）

62･63は甕形土器で同一個体のようである。口唇部外側には径３㎜位の丸い棒のようなものを斜めに押圧した後、下位に沈線がめぐっている。

ＳＤ143　（第83･84図64･65、図版85）

64･65は鉢形であろう。

ＳＤ157　（第84図66、図版85）

66は鉢形であろう。

ＳＤ163　（第84図67･68、図版85）

67は浅鉢形で、浮線様に表現した変形工字紋の交点に彫り込みがあり、大洞Ａ′式であるが古い要素をもっている。68は深鉢形であろう。

ＳＤ169　（第84図69～71、図版85）

70は台付鉢形土器の台部であり、台部の側端に刻み目が施されている。70は晩期後葉の時期である。71は鉢形であろう。小孔の一部が残されている。

ＳＤ191　（第84図72、図版85）

72は鉢形(弥生土器)で、沈線間に列点文が認められる。

ＳＤ201　（第84図73～90、図版85･86）

73～75は甕形であり、76･77･90は小形の甕に近い鉢形である。78～89は鉢形である。80の縄文はＬＲ原体で沈線の中にベンガラのような赤色がわずかに残っている。78は手取清水１群土器で、82は手取清水４群土器である。

ＳＤ203　（第84図91･92、図版86）

91･92は鉢形である。

ＳＤ228　（第84図93、図版86）

93は鉢形のＡ突起であり、大洞Ａ式である。

ＳＤ231　（第84図94、図版86）

94は甕形である。

ＳＤ244　（第84図95、図版86）

95は鉢形(弥生土器)である。手取清水４群土器。

ＳＤ246　(第84図96、図版86)

96は鉢形(弥生土器)である。

ＳＤ251　(第84図97～101、図版86)

99～101は鉢形(弥生土器)であり、手取清水２～３群土器である。97･98は甕形である。

ＳＤ269　(第85図102、図版86)

102は甕形であり、外面全体にススが付着している。

ＳＤ279　(第85図103･104、図版86)

103･104は鉢形である。

ＳＤ303　(第85図105、図版86)

105は浅鉢形である。大洞C_2式。

ＳＥ086　(第85図106～108、図版86)

106～108は深鉢形である。

ＳＥ116　(第85図109～111、図版86)

109は鉢形である。111は底部であり、底面には木葉痕がある。

ＳＫ036　(第85図112～117、図版86･87)

113･114は深鉢形であり、115～117は鉢形である。112は大洞Ａ式である。

ＳＫ040　(第85図118～123、図版87)

120は浅鉢形で大洞C_1式である。121は鉢形で、118･119･122は甕形であり、123は底部である。

ＳＫ043　(第85･86図124～137、図版87･88)

126～127･130･131は鉢形であり、125･129･135は甕形である。124･128･133は浮線状の工字文であり、大洞Ａ式である。132の底部には数条の刻線がある。

ＳＫ059　(第86図138･139、図版88)

138･139は深鉢形･鉢形である。

ＳＫ064　(第86図140～143、図版88)

140～142は晩期の鉢形である。

ＳＫ066　(第86図144～147、図版88)

144は鉢形である。145～147は深鉢形･鉢形であり、146は体部下端である。

ＳＫ082　(第86･87図148～163、図版88･89)

148～162は鉢形ないし深鉢形の口縁および体部である。157は縄文のＬＲ･ＲＬ原体を交互に横位回転させたものである。163の底部は摩滅が著しい。

ＳＫ083　（第87図164～168、図版89）

166は鉢形、他は深鉢形である。

ＳＫ115　（第87図169～177、図版89）

170～175は鉢形、他は甕形か深鉢形である。

ＳＫ118　（第87･88図178～188、図版89･90）

178～184･188は鉢形、他は甕形か深鉢形である。178は大洞C_2～Ａ式である。

ＳＫ123　（第88図189～191、図版90）

189･191は鉢形である。

ＳＫ124　（第88図192～207、図版90･111）

203は壺形（弥生土器）であり肩部に縦刻線が入る。他はすべて鉢形である。194･197･202は方形文と磨消縄文手法で描かれている。手取清水４群土器が主体である。

ＳＫ128　（第88図208･209、図版90）

209は鉢形である。

ＳＫ132　（第88図210～214、図版90）

210～214は鉢形である。210は刷毛目調整がわずかに残り、その上にミガキが認められる。212は手取清水２群土器である。

ＳＫ137　（第88図215、図版90）

215は鉢形（弥生土器）である。

ＳＫ138　（第88･89図216～220、図版90･91）

216～218は鉢形、219は甕形か深鉢形、220は高杯形脚部である。216は径２㎜の小孔が空いている。220は手取清水２群土器である。

ＳＫ145　（第89図221～227、図版91）

222･223は鉢形、221･224～227は甕形ないし深鉢形である。

ＳＫ146　（第89図228～230、図版91）

228は鉢形、229は甕形ないし深鉢形である。230は鉢形であろうが、粘土粒を張り付けた突起のようものがある。

ＳＫ148　（第89図231～235、図版91）

すべて鉢形である。234はＬＲ原体の縄文と磨消縄文手法が認められ、無文部はていねいに研磨されている。234は手取清水４群土器である。

ＳＫ162　（第89図236～239、図版91）

238は深鉢形であり、他は甕形か深鉢形である。239の体内面にナデ調整痕が認められる。

ＳＫ164　（第89図240～242、図版91）

240は鉢形であり、体外面に黒漆漠が付着している。

ＳＫ179　（第89図243～245、図版91）

243は鉢形であり、244･245は深鉢形である。245は手取清水２群土器である。

ＳＫ186　（第89図246･247、図版92）

246は方形文の上･下に３条の平行沈線がめぐる。手取清水３群土器。247は深鉢形であろう。

ＳＫ187　（第89図248、図版92）

248は鉢形(弥生土器)である。

ＳＫ188　（第89･90図249～252、図版92）

249～252は鉢形である。252の胎土に砂粒と微量の金雲母が入っている。

ＳＫ189　（第90図253･254、図版92）

253は鉢形、254は深鉢形の底部である。

ＳＫ193　（第90図255～257、図版92）

255～257は鉢形土器である。

ＳＫ194　（第90図258～269、図版92･93）

261･262は深鉢形、他は鉢ないし浅鉢形である。263は手取清水２～３群土器である。

ＳＫ198　（第90図270･271、図版93）

すべて鉢形(弥生土器)である。271は充塡磨消縄文手法が施文され、小孔があり、手取清水２～３群土器である。

ＳＫ200　（第90･91図272～283、図版93）

247～277･279は鉢形･浅鉢形であり、他は深鉢形ないし鉢形である。279は手取清水２群土器である。

ＳＫ202　（第91図284～287、図版93）

284は甕形、285･286は小形の甕に近い鉢形である。284は口唇部に刻み目文、285は縄文が施文されている。287は浅鉢形で手取清水２群土器である。

ＳＫ211　（第91図288、図版93）

288は甕形である。

ＳＫ213　（第91図289、図版93）

289は鉢形(弥生土器)である。手取清水３群土器。

ＳＫ219　（第91図290･291、図版94）

290･291は鉢形である。291は手取清水２群土器である。

ＳＫ225　（第91図292～295、図版94）

292は甕形であり、他は鉢形であろう。

ＳＫ247　（第91図296、図版94）

296は浅鉢形であり、手取清水１群土器である。

ＳＫ250　（第91図297、図版94）

297は小形の甕形に近い鉢形であり、口唇部にススが付着している。

ＳＫ252　（第91図298、図版94）

298は鉢形であろう。

ＳＫ267　（第91図299～301、図版94）

299～301は鉢形であり、300･301は口唇部上に突起がある。

ＳＫ280　（第91図302、図版94）

302は小形の甕に似た鉢形土器であろう。

ＳＫＩ063　（第91図303、図版94）

303は鉢形であり、工字文は大洞Ａ式である。

ＳＫＩ111　（第91図304～310、図版94）

304～309は鉢形であり、310は蓋である。304･306･308は手取清水４群土器であり、307は手取清水５群土器である。310は壺形であろう。体部中央に十字形文と小さな刺突文、粘土粒が付されている。

ＳＫＩ112　（第91図311～319、図版94）

315は甕形であり、他は鉢形である。316は手取清水１群土器、313･318は手取清水４群土器、311･318は手取清水５群土器である。

ＳＫＩ120　（第10･11図320～323、図版94･95）

320～323はすべて鉢形である。

ＳＲ034　（第92図324･325、図版111）

324は深鉢形で、縄文はＬＲ原体である。325は小形の壺であろうか。縄文は細いＬＲ原体を用いて全面施文後、方形文･同心円文と磨消縄文手法を用いている。縄目と沈線間にベンガラのような赤色がわずかに残っている。

325は手取清水４群土器頃と推定する。

ＳＲ126　（第92図326～330、図版95･111）

326～330は鉢形土器である。330は小波状の口縁であり、全面に斜縄文を施文した後、沈線文･連続山形文･磨消縄文手法を用いて施文している。外底面には円形文･十字形文をモチーフとした文様がある。326は大洞C_2式であり、327は手取清水２群土器、330は典型的な手取清水４群土器である。

ＳＲ295　（第92･93図331～333、図版111･112）

331･333は甕形、332は筒形か鉢形であろう。331の体外面にはススが厚く付着している。底面は網代痕であったらしく、わずかに痕跡をとどめている。333の頸部にはススの付着はないが、他の体外面にはススの付着が認められるので、頸部に何かあてがった痕跡であろう。332の縄文はＬＲ原体施文後、沈線とナデ調整が認められる。手取清水３～４群土器頃と推定する。

ＳＸ084　(第93～95図334～386、図版95～97･112)

336･337･357は甕形、他は鉢形である。378には縦刻線が、379には列点文がある。380の口縁部には刷毛目痕とナデ調整痕が認められる。343･347は大洞Ａ′式、335は手取清水２群土器、363は手取清水３群土器、334･350･361は手取清水４群土器、354･370は手取清水５群土器である。

ＳＸ133　(第95～97図387～444、図版97～99)

388･389･391･443･444は甕形であり、437は高杯形の脚部、438は底部であり、他はすべて鉢形である。437は高杯形脚部に垂下文が施文され、縄目の中にベンガラ様の赤色が残っている。405は刷毛目工具圧痕による斜格子文、ヘラ圧痕文を施文している。刷毛目をもつもの(391･420･425･433･441)、列点文をもつもの(393･404･419･437･442)、刺突文(443)などがある。443の体内面には粘土紐１～２㎝幅の痕跡がみえる。444の体内外面にはススが付着している。392･403･437など手取清水４群土器が目立ち、前後の時期のものも若干含まれている様相とみてよい。

ＳＸ153　(第97･98図445～471、図版99･100)

447･460は甕形であり、471の底部を除いて、他は鉢形である。446･450は口唇部に刻み目があり、445～457･461は小形の甕としてもよい鉢形であり、平行沈線の下位に列点文が並列している。手取清水４～５群土器が主体である。

ＳＸ050　(第98図472･473、図版100)

472は鉢形、473は甕形である。

ＳＸ081　(第98図474～476、図版100)

474～476は鉢形であり、磨消縄文が認められる。

ＳＸ082　(第98図477、図版100)

477は鉢形であろう。

ＳＸ113　(第98図478･479、図版100)

478は鉢形、479は蓋である。479は倒皿形の蓋で、体内面の口唇部から体外面にかけてススが付着している。479の連続山形と磨消縄文手法は手取清水４群土器の典型である。

ＳＸ114　(第98図480～487、図版101)

480～487は鉢形である。481は手取清水１群土器、483は手取清水３群土器である。486は摩滅のため不明。

ＳＸ117　（第98図488～491、図版101）

488～491は鉢形土器である。489は浮線状の工字文が描かれている。489は大洞Ａ式である。

ＳＸ129　（第98図492～500、図版101）

492～500は鉢形である。497は縄文時代晩期の羊歯状文であり、494･499は手取清水４群土器である。

ＳＸ131　（第99･100図501～547、図版101～103）

501･547鉢形であり、摩滅した細破片が多い。528は刺突文である。502は手取清水２群土器、509･534は手取清水４群土器である。手取清水３～４群土器が主体である。

ＳＸ140　（第100図548～552、図版103）

548は甕形、他は鉢形である。550は手取清水２群土器、552は「変形工字文」的文様を細い沈線で描いたもので典型的な手取清水４群土器である。

ＳＸ141　（第100図553、図版103）

553は鉢形（弥生土器）である。

ＳＸ149　（第100図554～560、図版103）

554～560は鉢形である。559は刺突文が認められる。556は大洞Ａ′式、560の方形文は手取清水３群土器、554は手取清水４～５群土器である。

ＳＸ159　（第100･101図561～572、図版103･104）

561～572は鉢形土器である。

ＳＸ160　（第101図573～581、図版104）

573～581は鉢形土器である。580の胎土は砂粒を全く含まず、色調も灰色で、しかも１本施文具、２条間の縄文はＬＲ原体であり、連続連孤文のような文様を意図したものであろうか。他の土器とは異なり、搬入品であろう。

ＳＸ167　（第101図582～598、図版104･105）

583は壺か甕の口縁部、593は高杯形の脚部、他は鉢形である。583は連繋菱形文が描かれている。584～586･593は手取清水２群土器、596･597は手取清水２～３群土器、582･583は手取清水５群土器である。

ＳＸ182　（第101･102図599～602、図版105）

599～602は鉢形（弥生土器）である。599は刺突文が認められる。

ＳＸ184　（第102図603～607、図版105）

603～607は鉢形である。603･604は手取清水４～５群土器である。

ＳＸ192　（第102図608～616、図版105）

608･609は甕形、611･616は壺形、他は鉢形である。609の口縁部外面にはススの付着を認めるが、頸部には付着していないので、ススの付かない使い方あるいは頸部に何かを捲いていたようである。610は壺の口縁部で縄文時代晩期後葉であろう。614は小波状の口縁と頸部に連続する２条の刺突文があり、手取清水５群土器である。

ＳＸ195　（第102図617～621、図版105）

608～606は鉢形(弥生土器)である。620は「変形工字文」的な文様の彫り込みが認められ、青森県の宇鉄Ⅱ式の資料に近いものである。

ＳＸ209　（第102図622～626、図版105･106）

622～624は鉢形(弥生土器)、625･626は鉢形か甕形であろう。622の口縁部の内外にススが付着している。623は刷毛目工具による篦圧痕文が羽状に２、３段重なるようであり、小孔も認められる。

ＳＸ217　（第102･103図627～630、図版106）

627･629･630は鉢形、628は甕形である。629は手取清水４群土器である。

ＳＸ229　（第103･104図631～658、図版106･107･112）

632～636･652は甕形、656は高台付鉢の高台、658は底部、他は鉢形である。文様帯のなかに列点文(638･653)、刺突文(648)のあるものがある。655は体内外面に刷毛目調整痕が残り、文様帯は「変形工字文」的な構成であるので、手取清水４群土器である。この他縄文時代晩期(644･649･656)、手取清水１群土器(637)などが認められる。

ＳＸ230　（第104～106図659～710、図版107～110･112）

659･661～672･674･683･689は甕形、703～707は壺形、他は鉢形であるが、710は蓋の可能性もある。文様帯のなかに刺突文(681･683･691)、列点文(682･689･693･641･698･699)をもつものがある。681の口唇部には縦刻線が認められる。750は文様のモチーフが不明であるが、重菱形文ないし連続山形文に通じるものであろうから、手取清水５群土器と推測する。710は平行沈線と連続山形文があり、手取清水５群土器である。703は壺の肩部であり、沈線文と縦刻線が描かれ、手取清水５群土器である。704～706は壺形の胴部で、同心円文･渦巻文･三角文が描かれているので、手取清水５群土器である。707は壺の頸部で、手取清水５群土器である。710は鉢形でありススの付着はない、しかしこの形態は蓋の可能性もある。

ＳＸ234　（第106図711、図版110）

711は鉢形(弥生土器)である。

ＳＸ238　（第106図712･713、図版110）

712は鉢形、713は甕形である。712は変形工字文の交点に粘土粒が残っている。713は口縁部

外面にていねいな刷毛目調整痕と平行沈線文が認められススが付着している。

ＳＸ239　(第106図714～716、図版110)

714～716は浅鉢形で、胎土･色調ともに近似しているので同一個体と考えられる。

ＳＸ248　(第106図717、図版110)

717は鉢形(弥生土器)で、ていねいな磨消縄文手法が認められる。

ＳＸ254　(第106図718～723、図版110)

718～723は鉢形土器(弥生土器)である。

ＳＸ259　(第106図724･725、図版110)

724は鉢形(弥生土器)である。725は甕形か深鉢形である。

ＳＸ265　(第106図726･727、図版110)

726･727は鉢形(弥生土器)である。726は丸く中空の刺突具による刺突文である。

ＳＸ266　(第106図728、図版110)

728は鉢形である。

ＳＸ313　(第106図729、図版110)

729は鉢形である。

② 石　器

遺構内出土の定形的な石器はほとんど図示した。分類は遺構外出土の石器に準じている。

ＳＡ224　(第107図731、図版113)

731は定角式磨製石斧で、折損している。

ＳＡ256　(第107図732、図版113)

732は石鏃で、凸基有茎鏃である。

ＳＡ281　(第107図733、図版113)

733は擦石で、側面には敲打痕も残る。

ＳＩ060　(第107図734、図版113)

734は篦状石器である。形状は撥形で、刃部は丸みをもち両刃である。ｂ類に属する。

ＳＫＩ112　(第107図735～741、図版113)

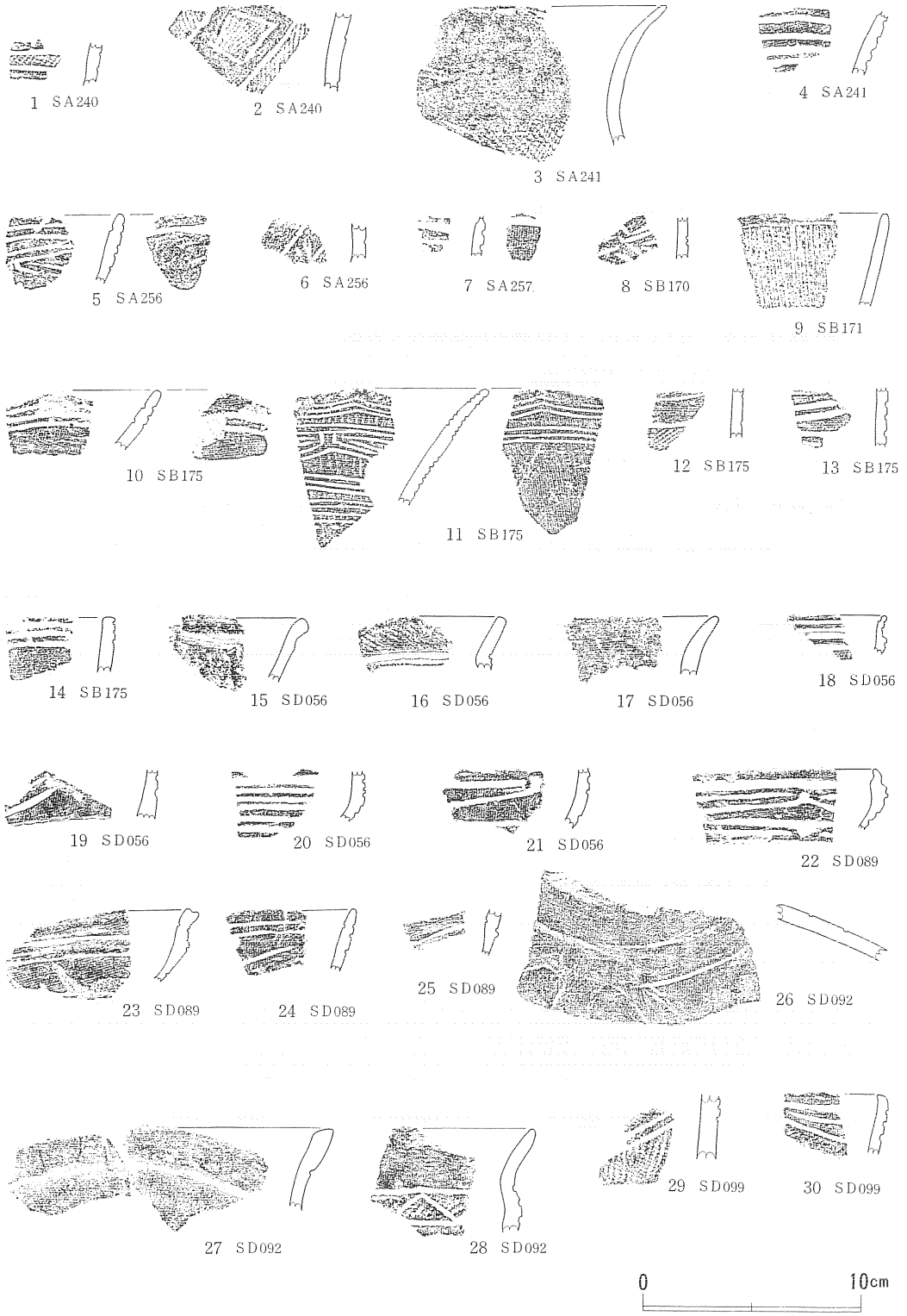
735･736は石鏃で、735は凸基有茎鏃、736は尖基鏃である。737は石槍でｂ類である。738･739は篦状石器で、いずれもｃ類である。740は凹石である。741は掻器である。

ＳＥ116　(第108図742、図版113)

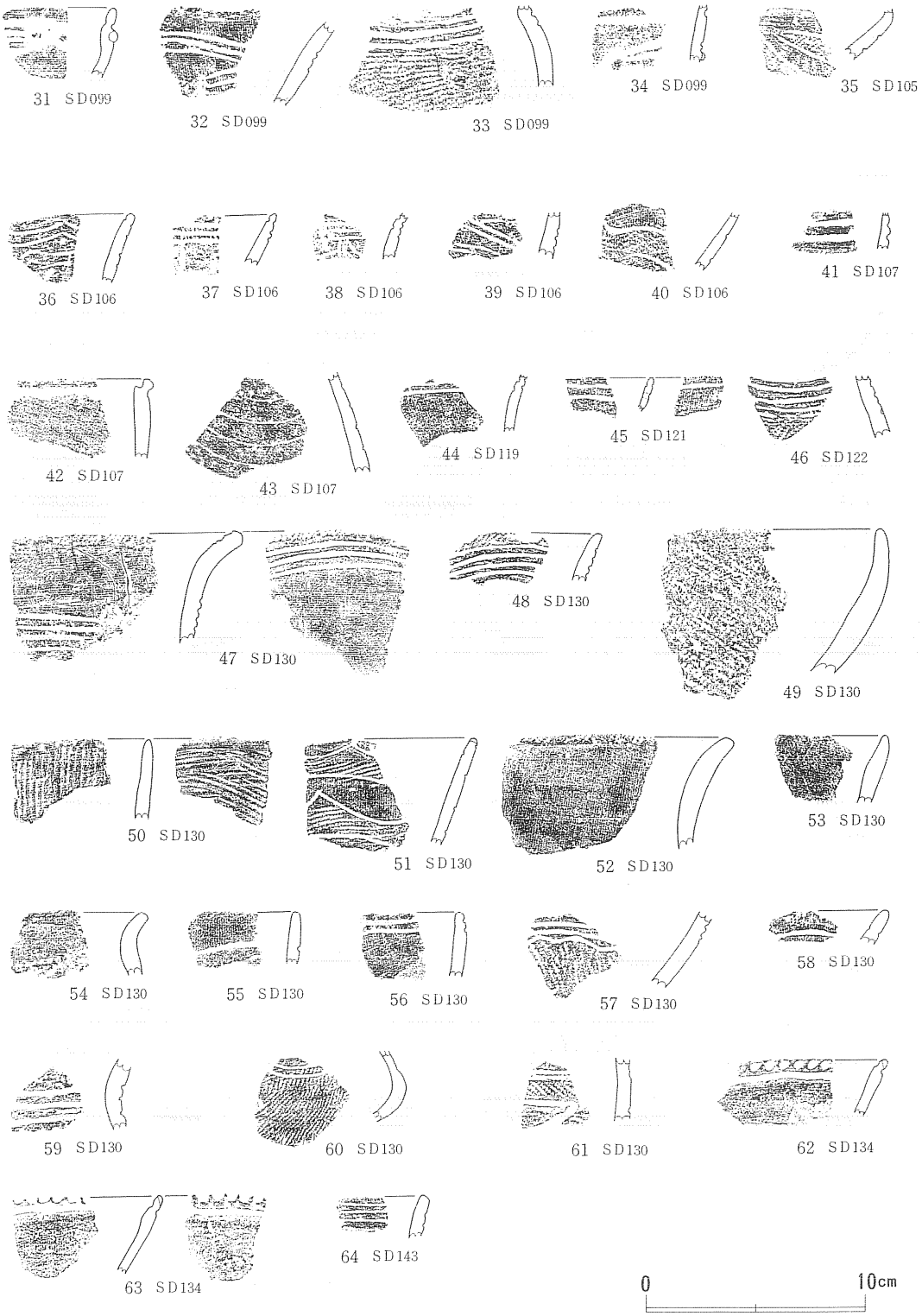
742は掻器である。

ＳＥ125　(第108図743･744、図版113)

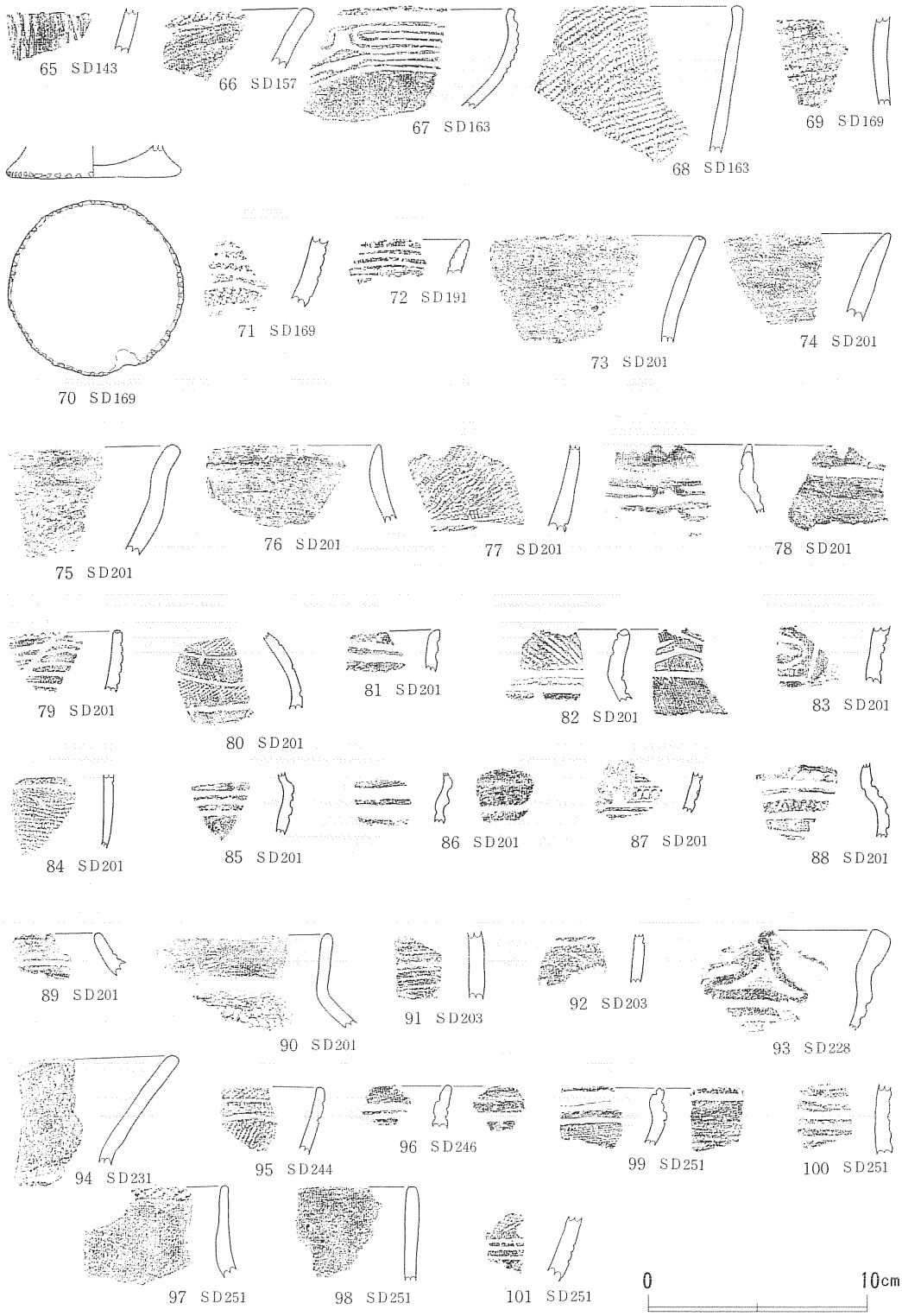
743は凹石で、744は石皿である。



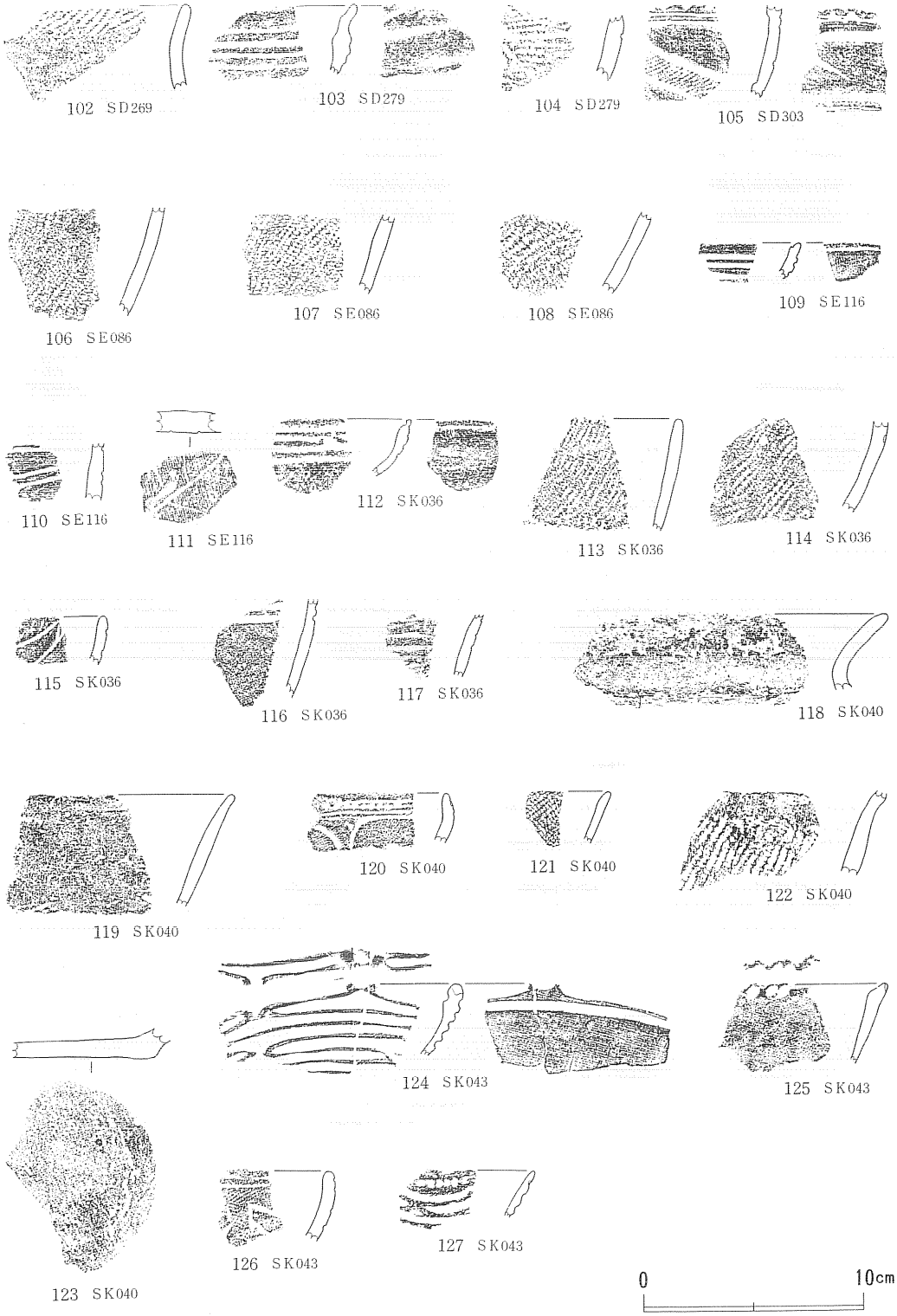
第82図　遺構内出土遺物（縄文・弥生時代）―1



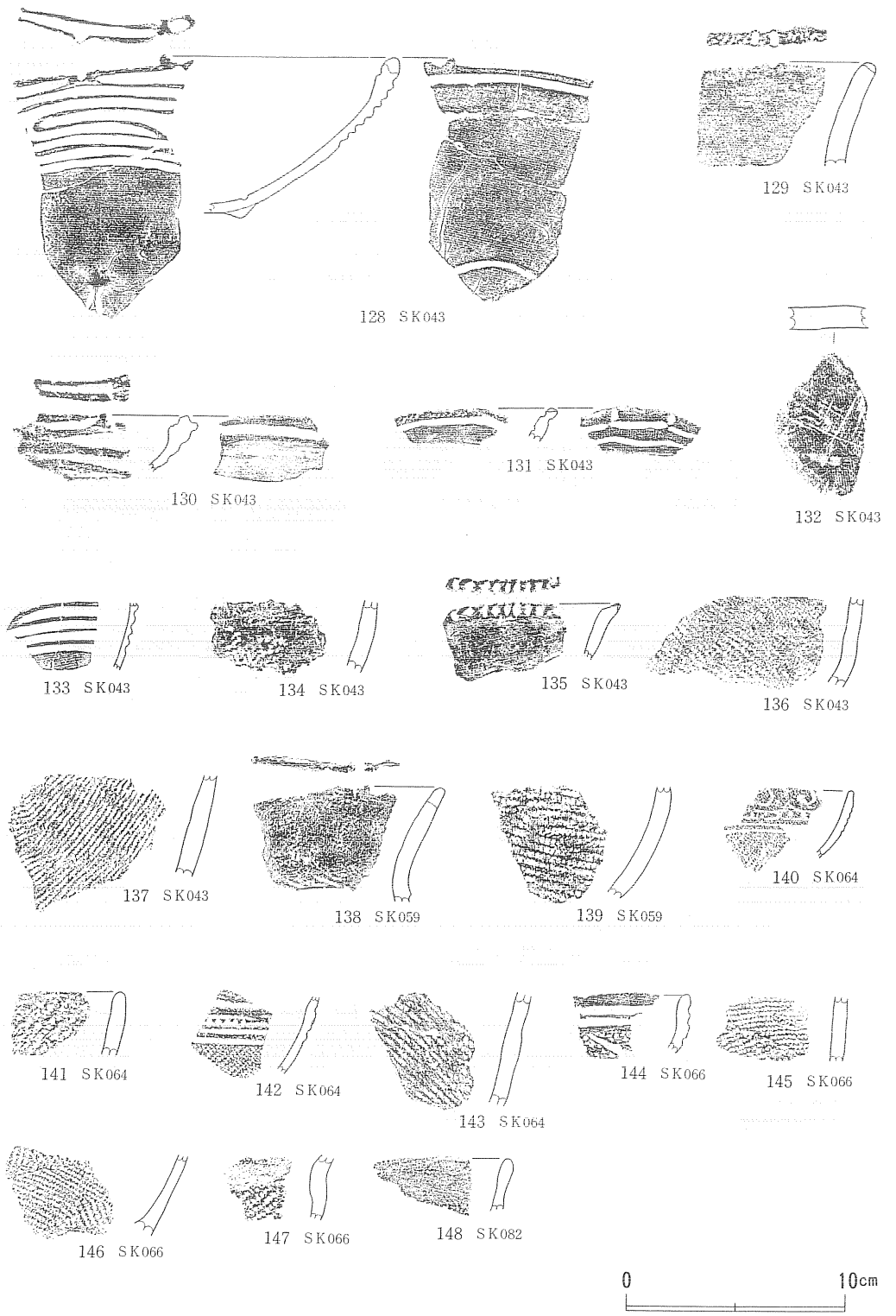
第83図　遺構内出土遺物(縄文・弥生時代)—2



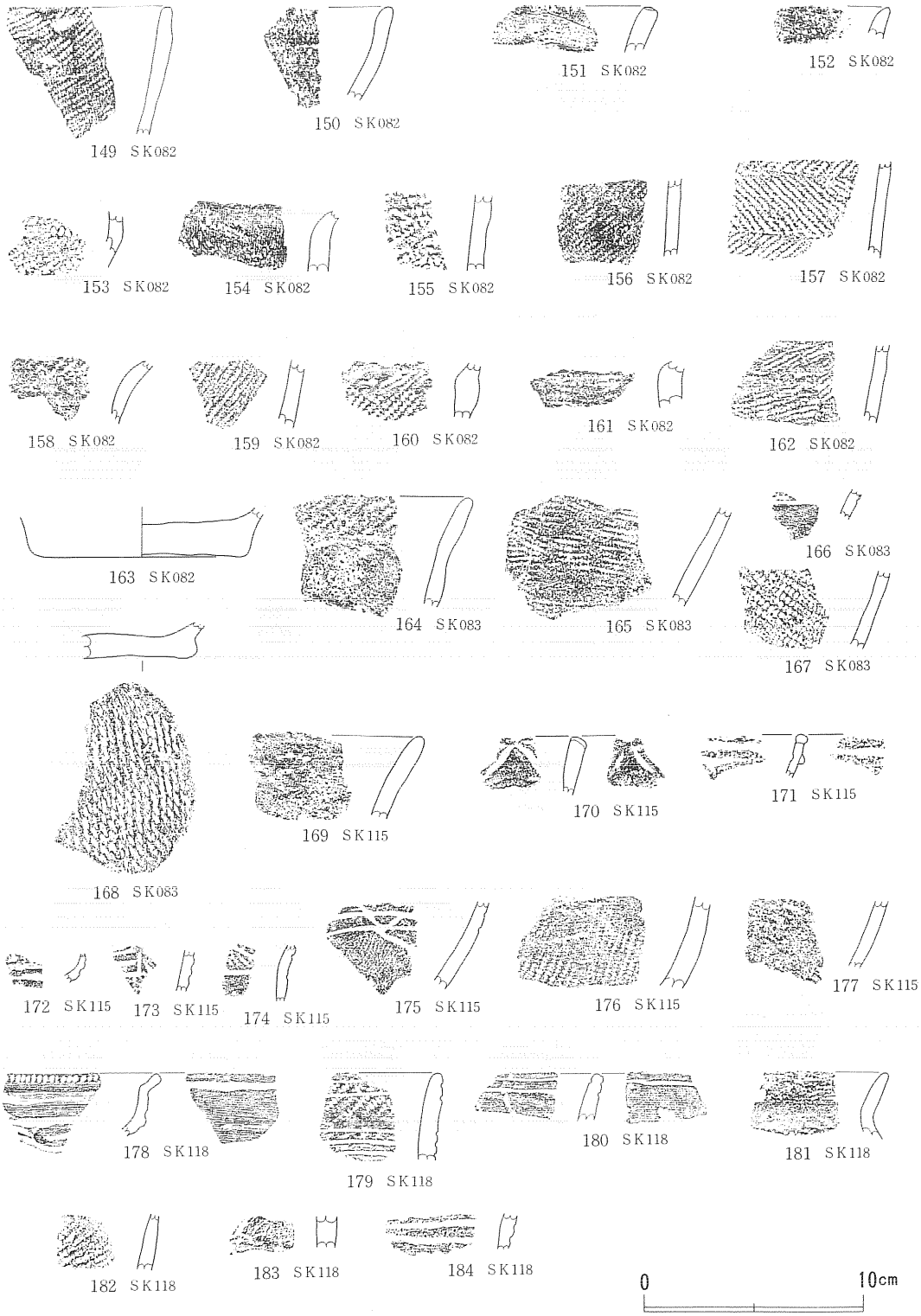
第84図　遺構内出土遺物(縄文・弥生時代)—3



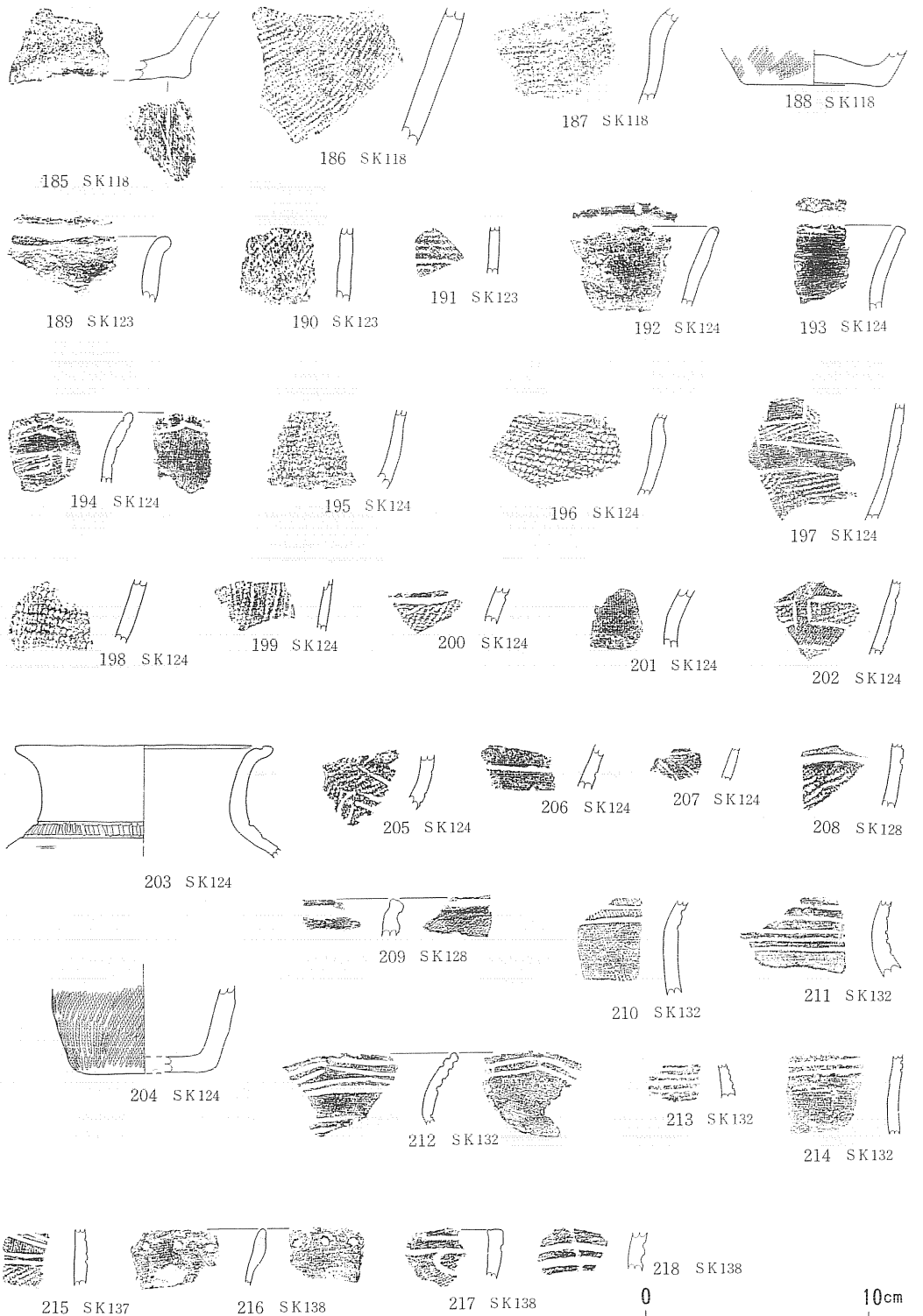
第85図　遺構内出土遺物(縄文・弥生時代)—4



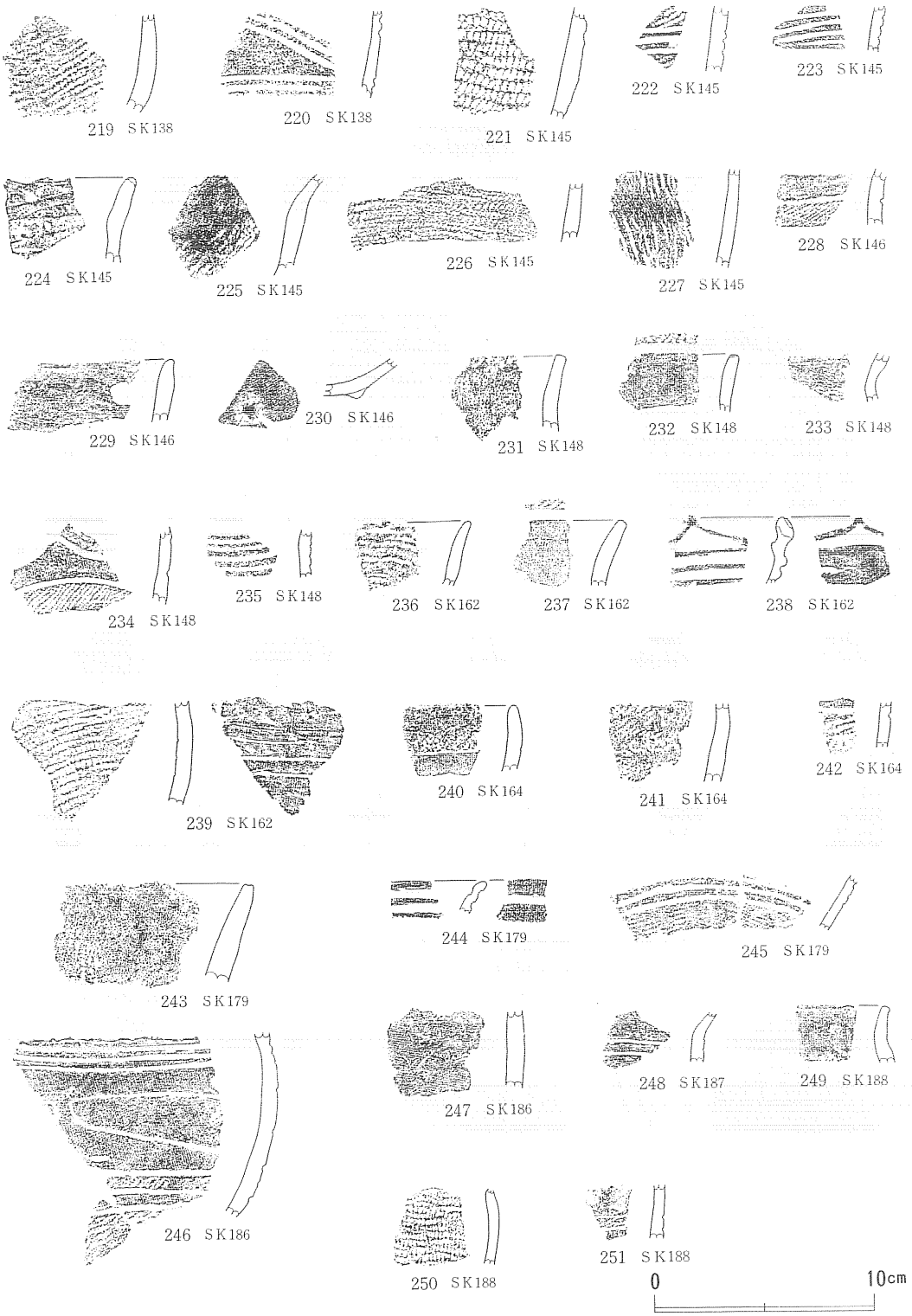
第86図　遺構内出土遺物（縄文・弥生時代）―5



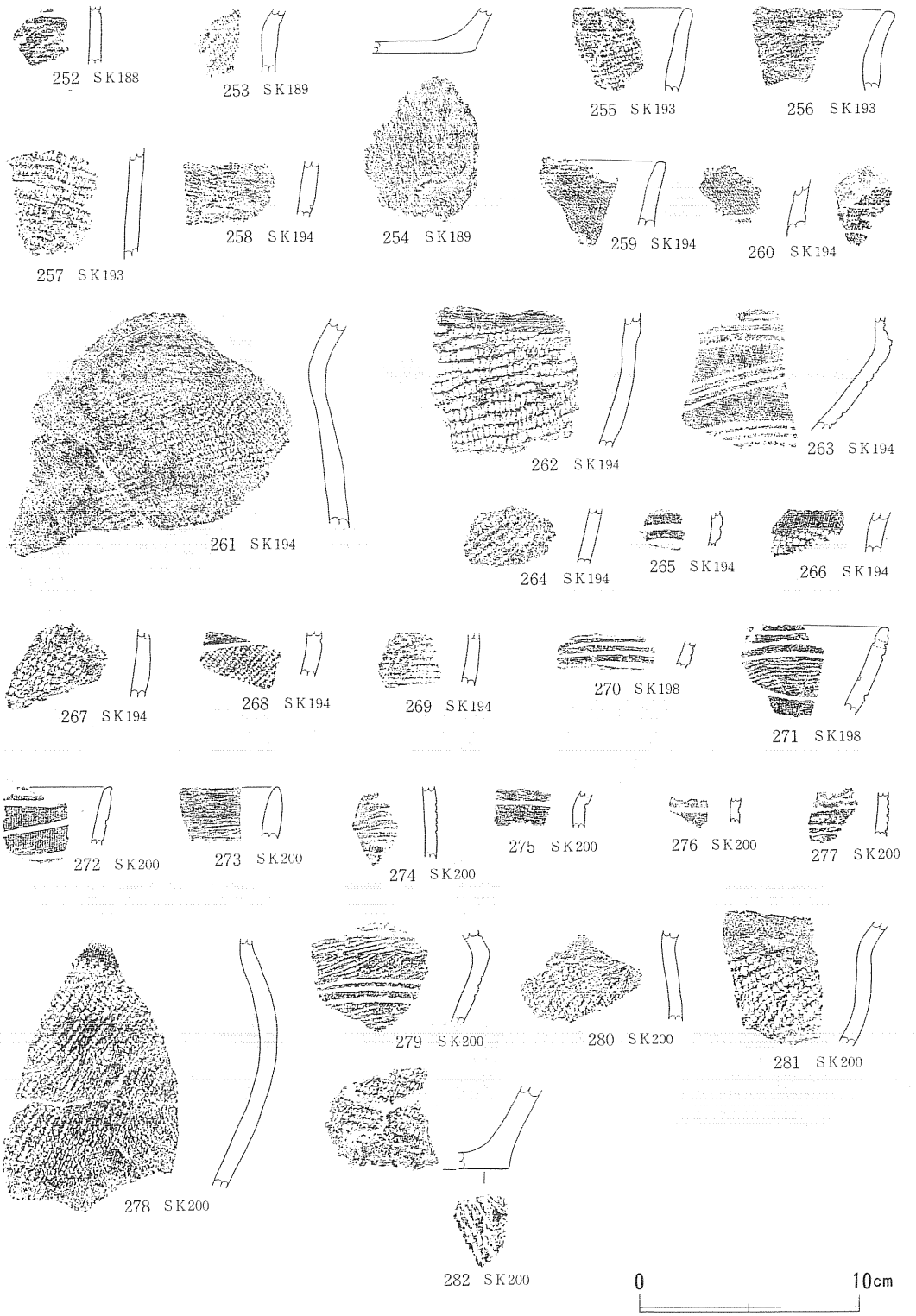
第87図　遺構内出土遺物(縄文・弥生時代)—6



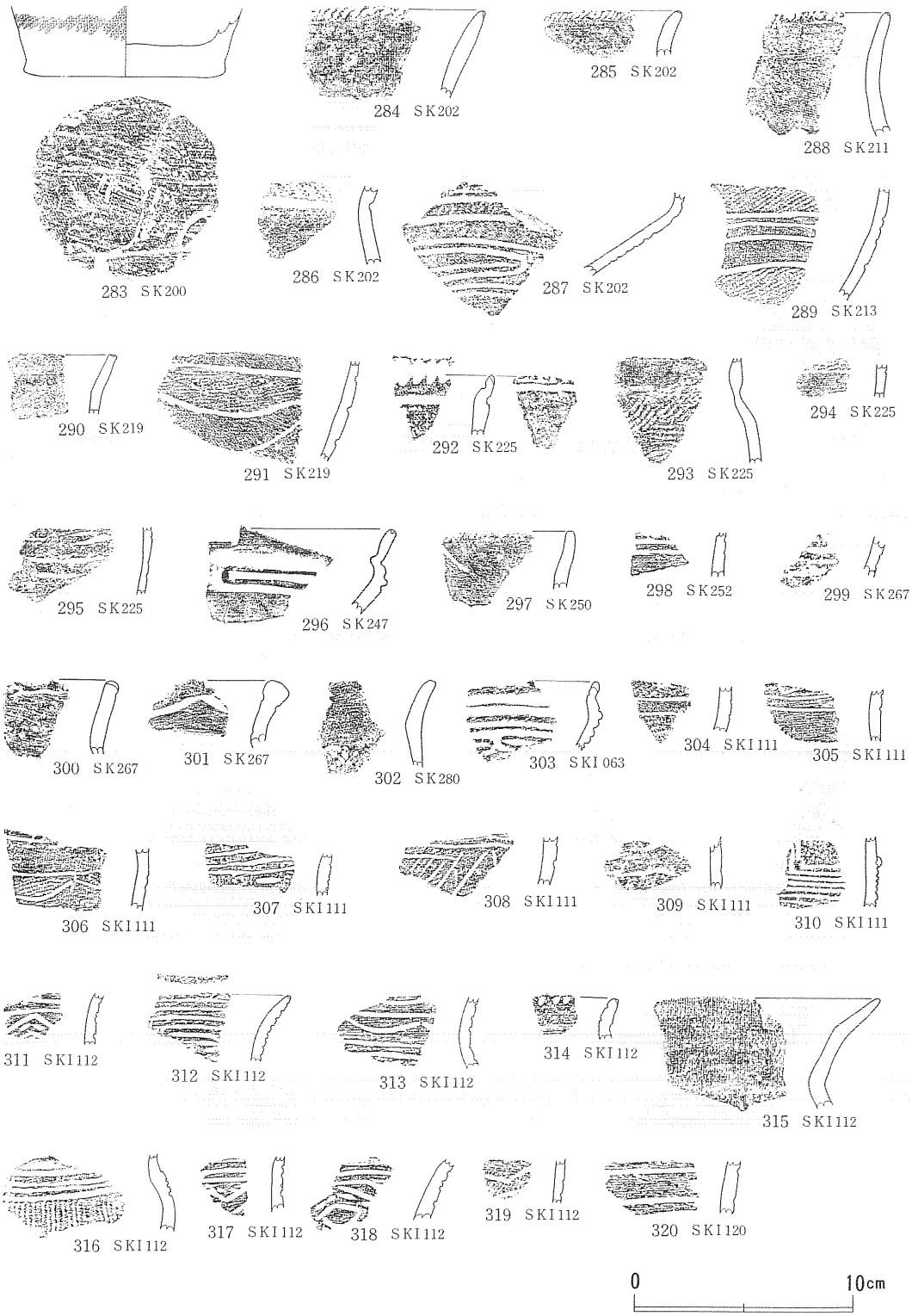
第88図　遺構内出土遺物（縄文・弥生時代）―7



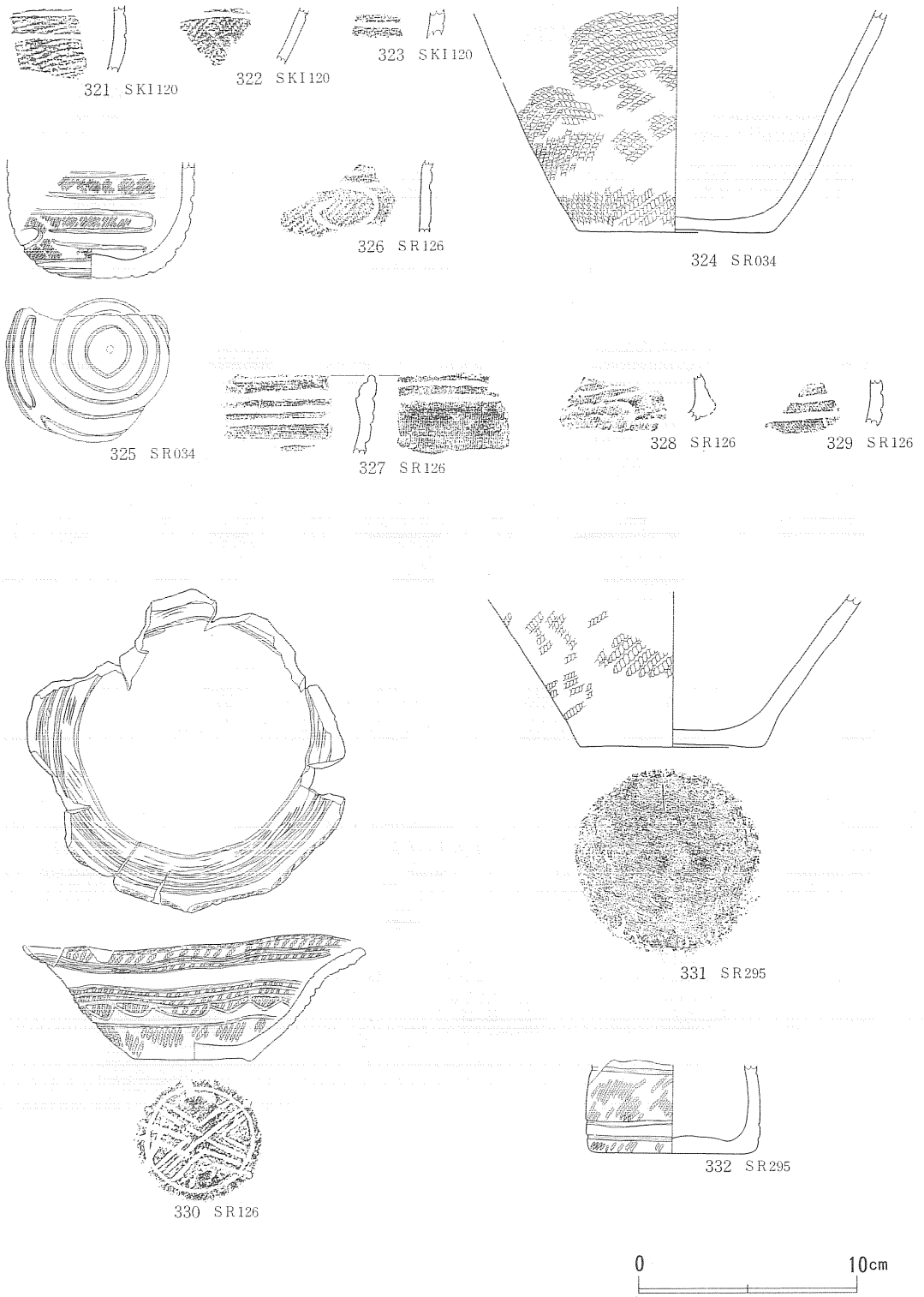
第89図　遺構内出土遺物(縄文・弥生時代)—8



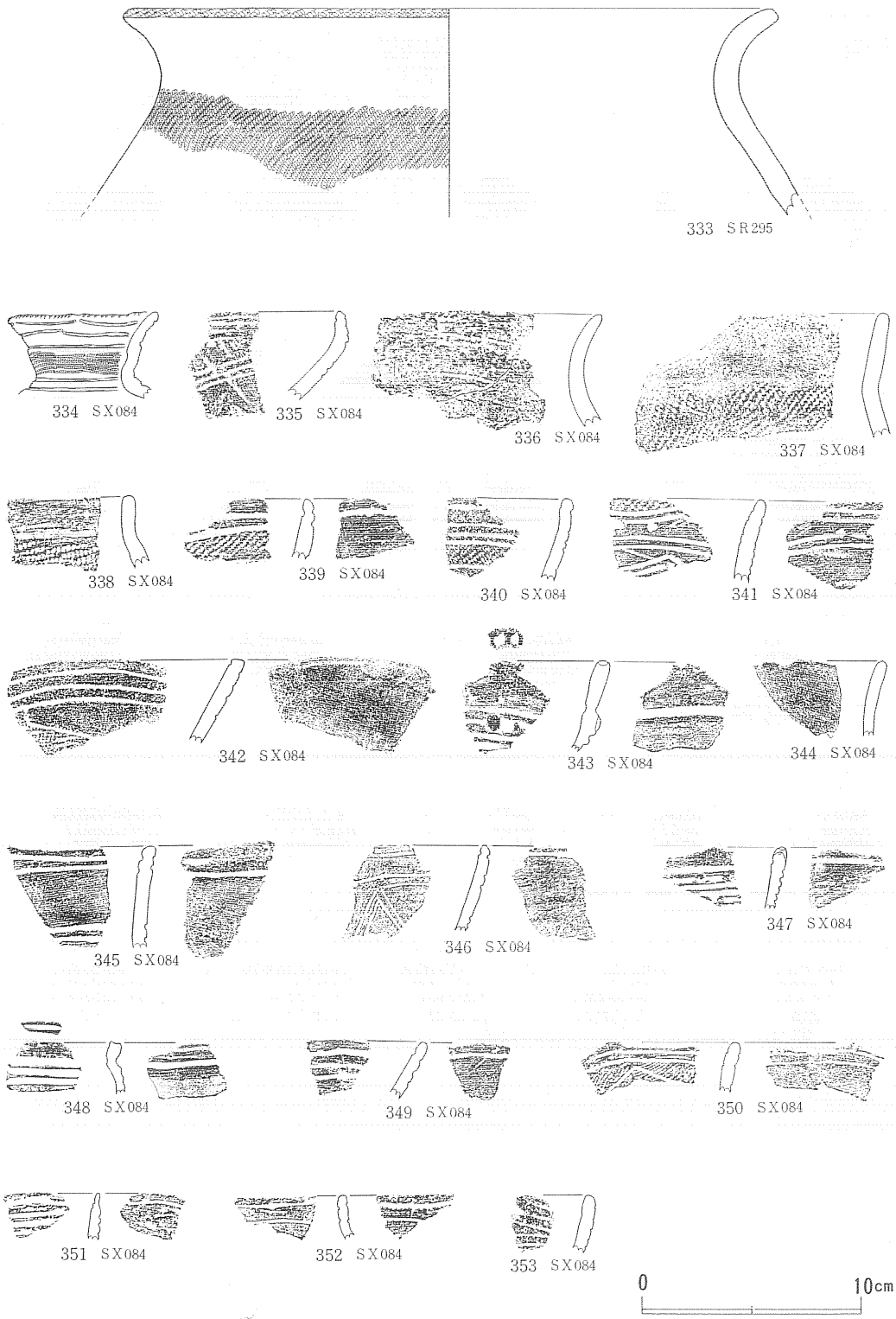
第90図　遺構内出土遺物(縄文・弥生時代)―9



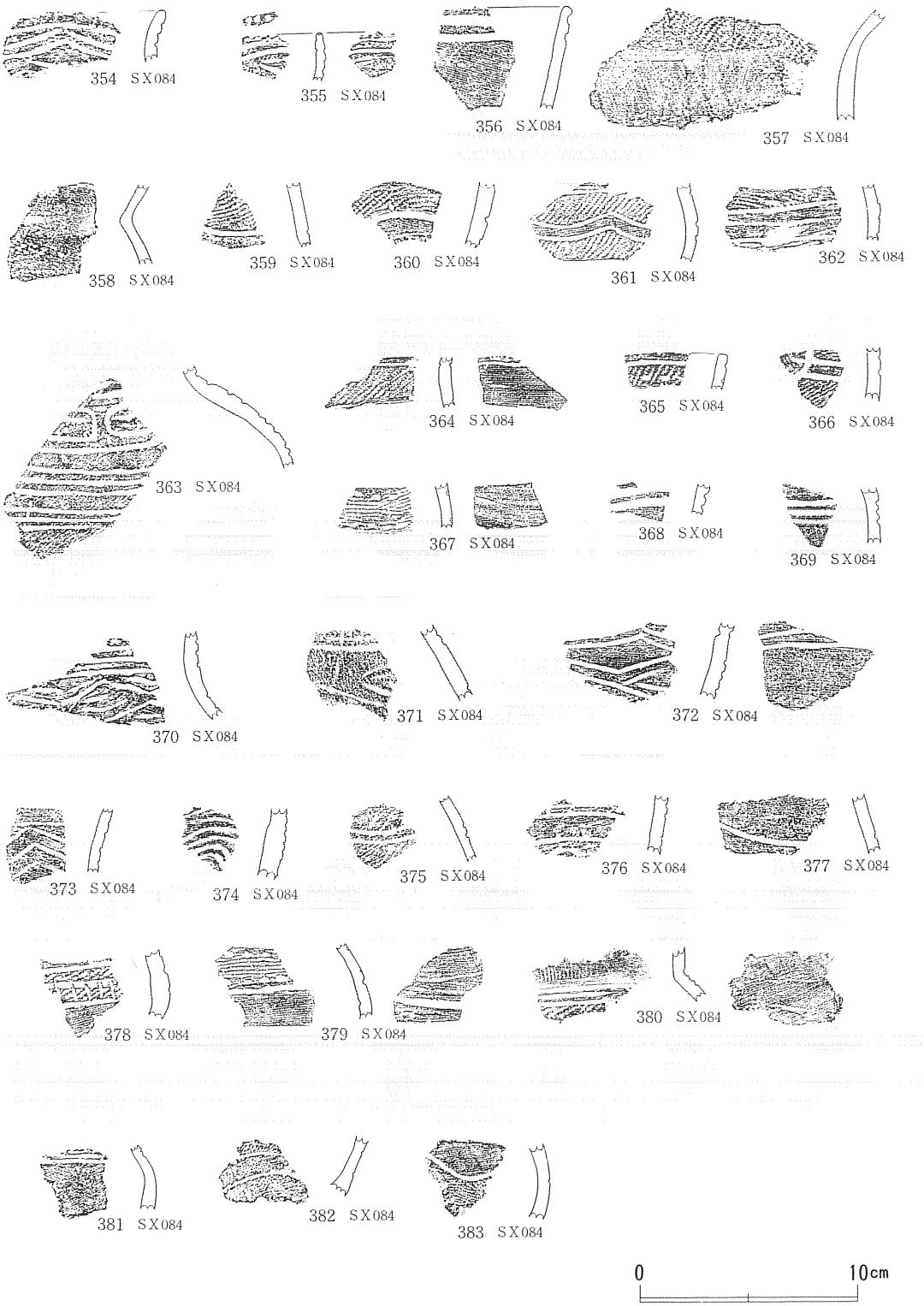
第91図　遺構内出土遺物(縄文・弥生時代)—10



第92図　遺構内出土遺物(縄文・弥生時代)—11

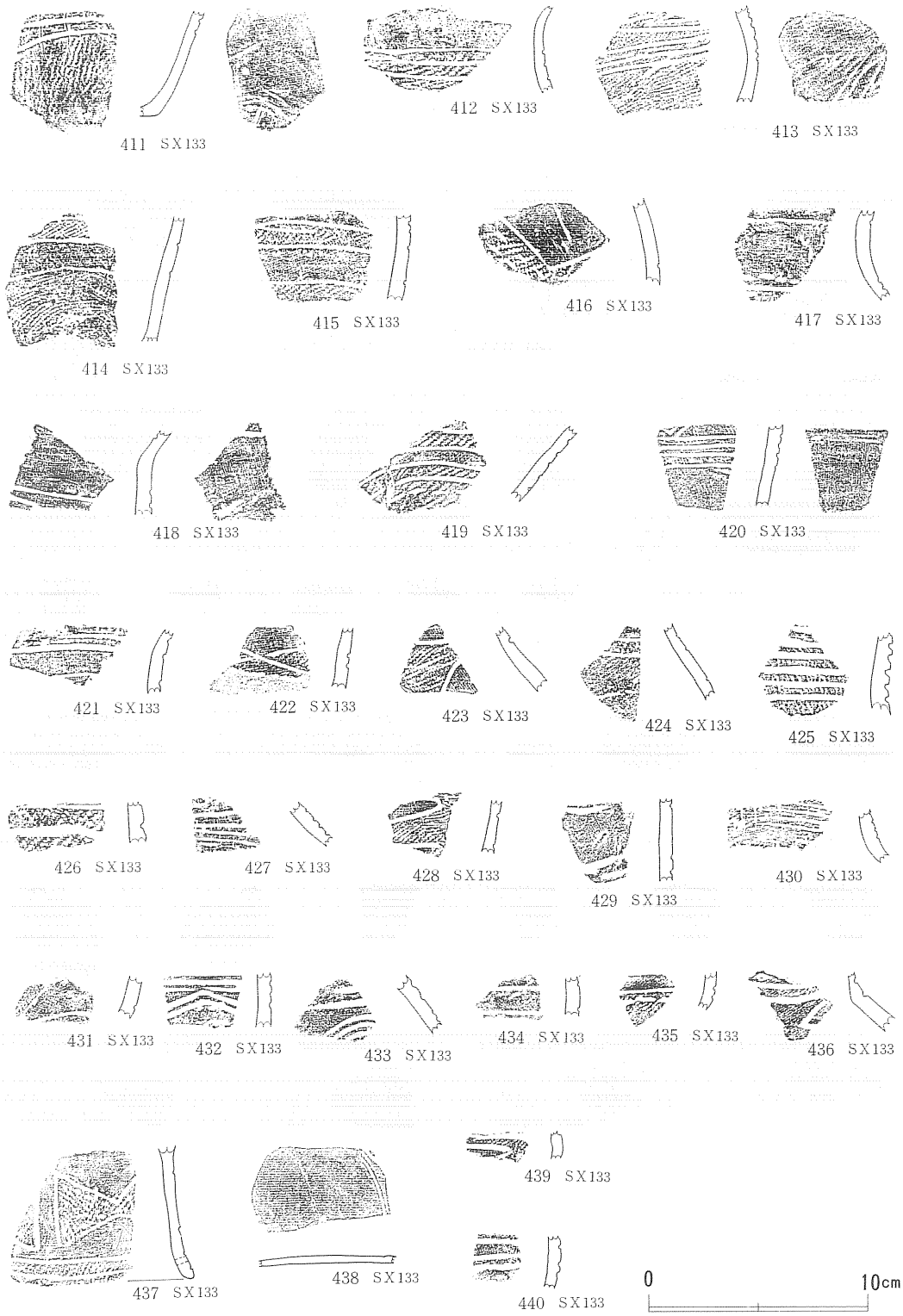


第93図　遺構内出土遺物(縄文・弥生時代)―12

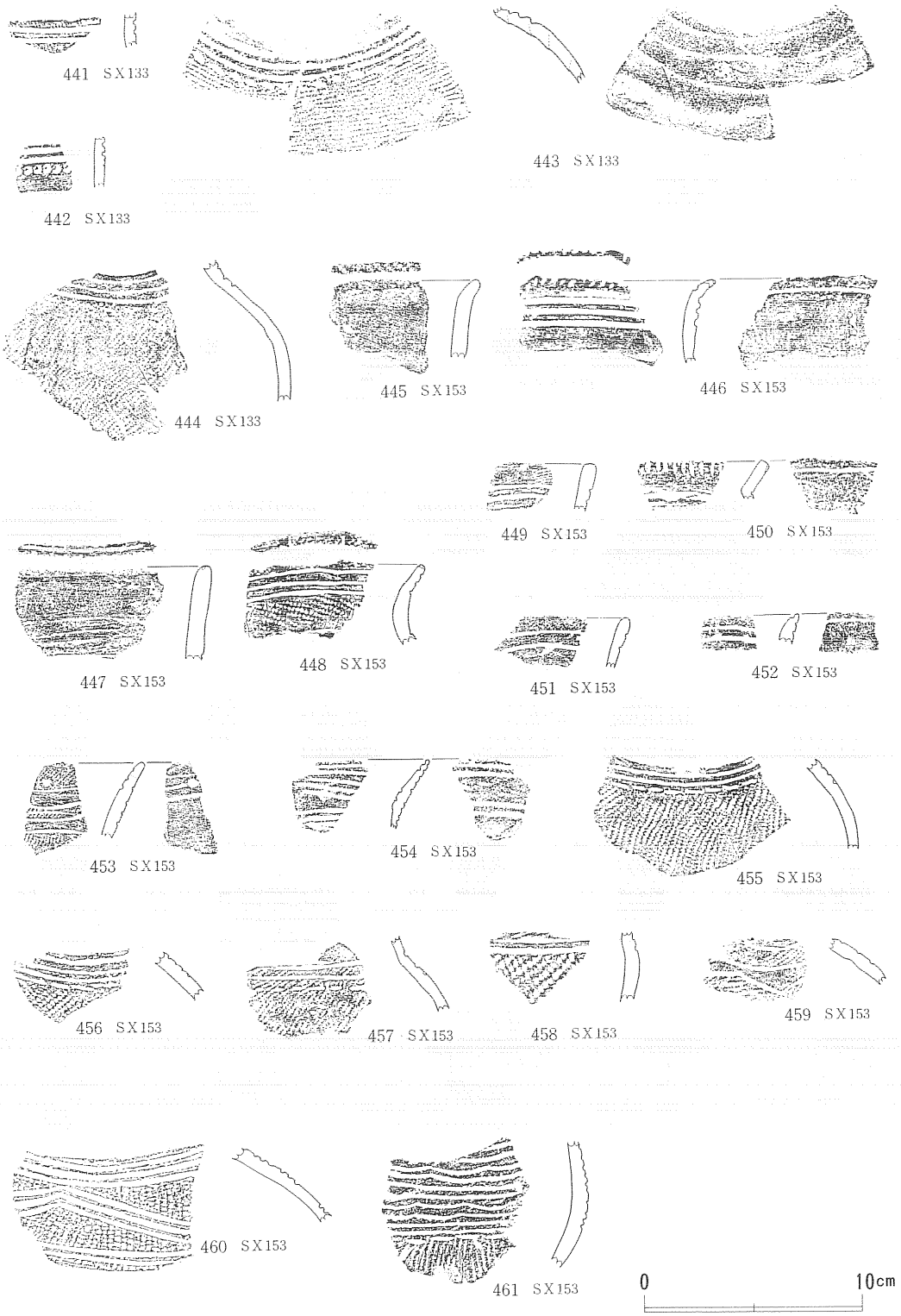


第94図　遺構内出土遺物（縄文・弥生時代）―13

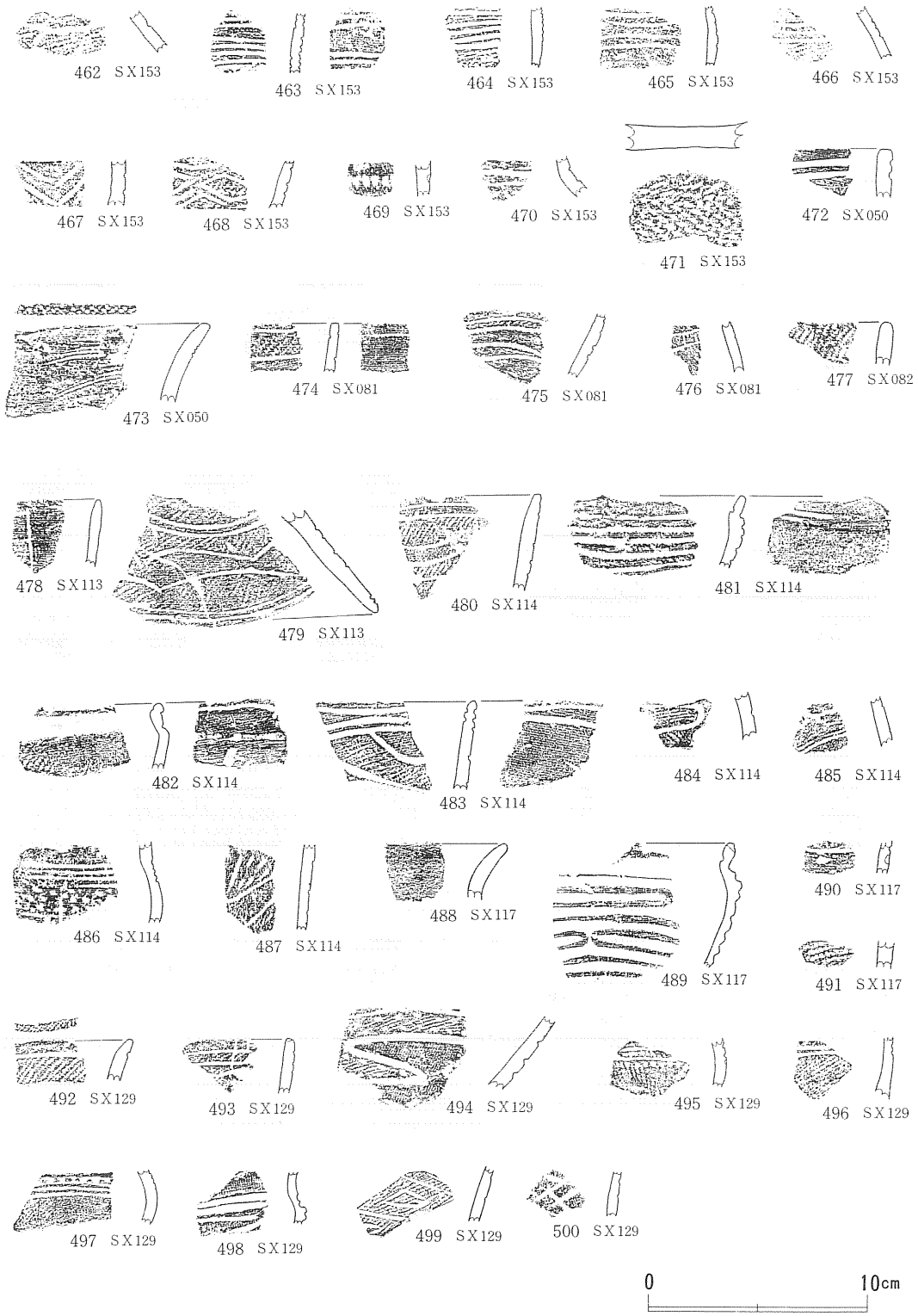
第95図　遺構内出土遺物(縄文・弥生時代)—14



第96図　遺構内出土遺物（縄文・弥生時代）―15



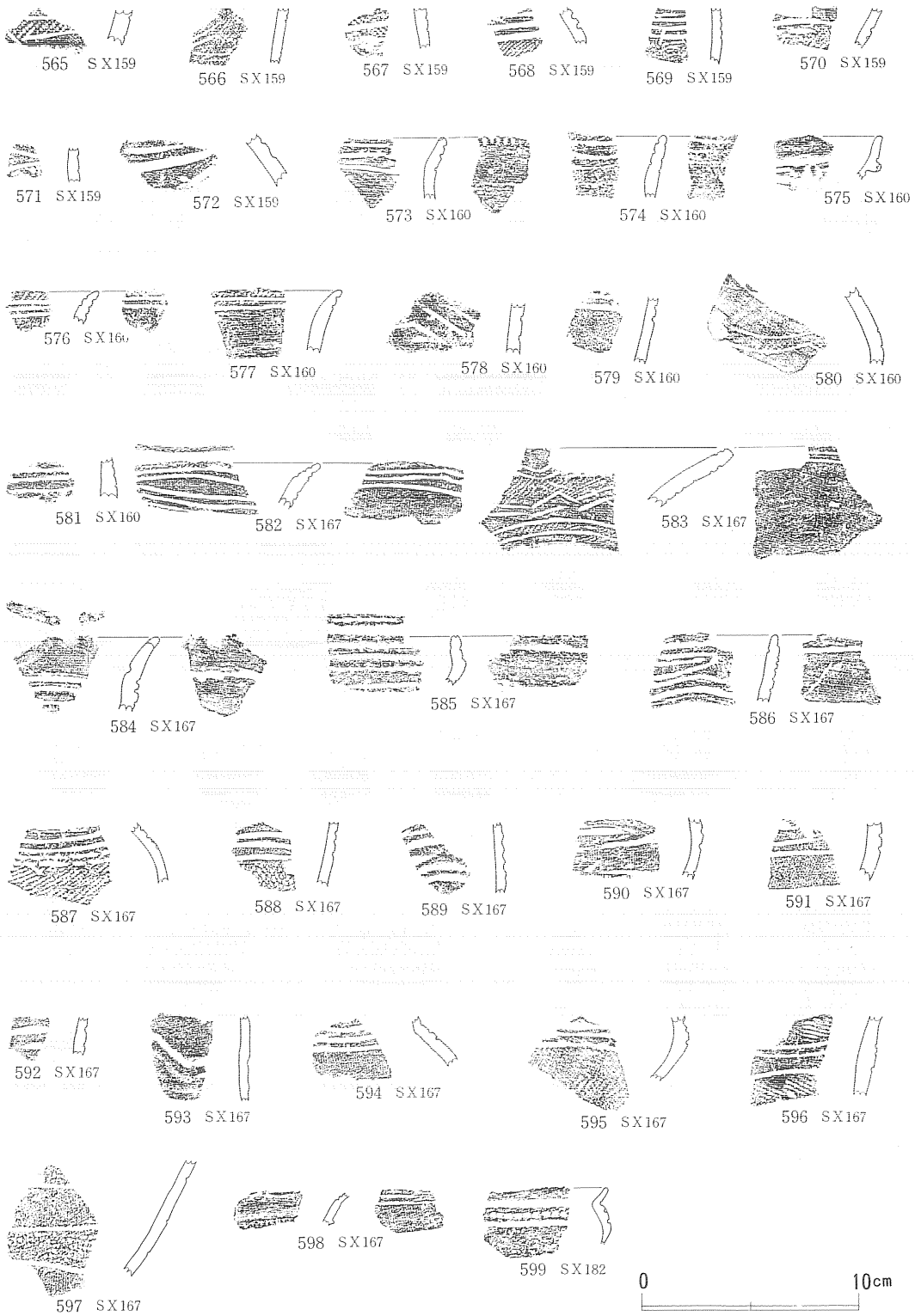
第97図　遺構内出土遺物(縄文・弥生時代)—16



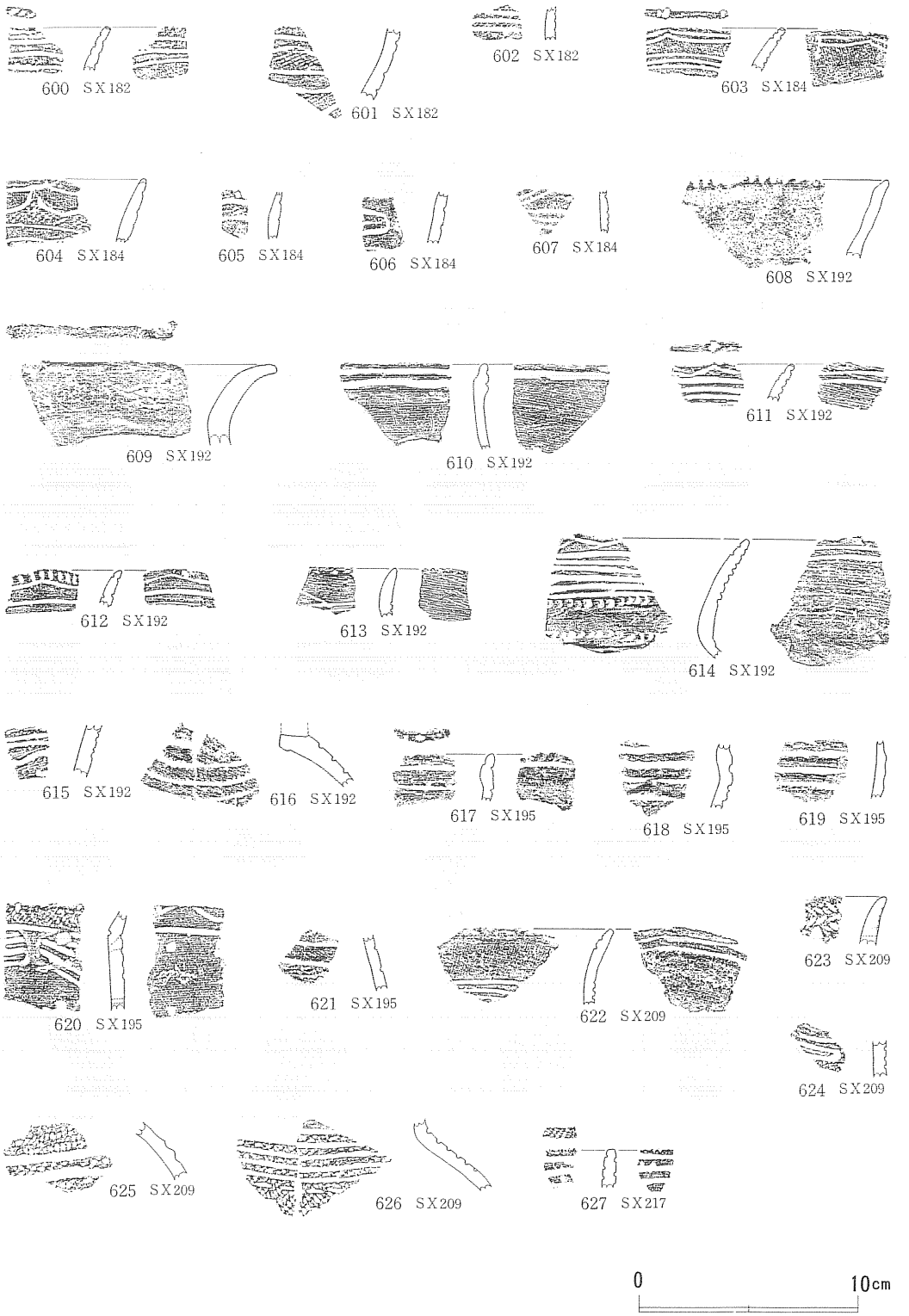
第98図　遺構内出土遺物（縄文・弥生時代）―17

第99図　遺構内出土遺物(縄文・弥生時代)—18

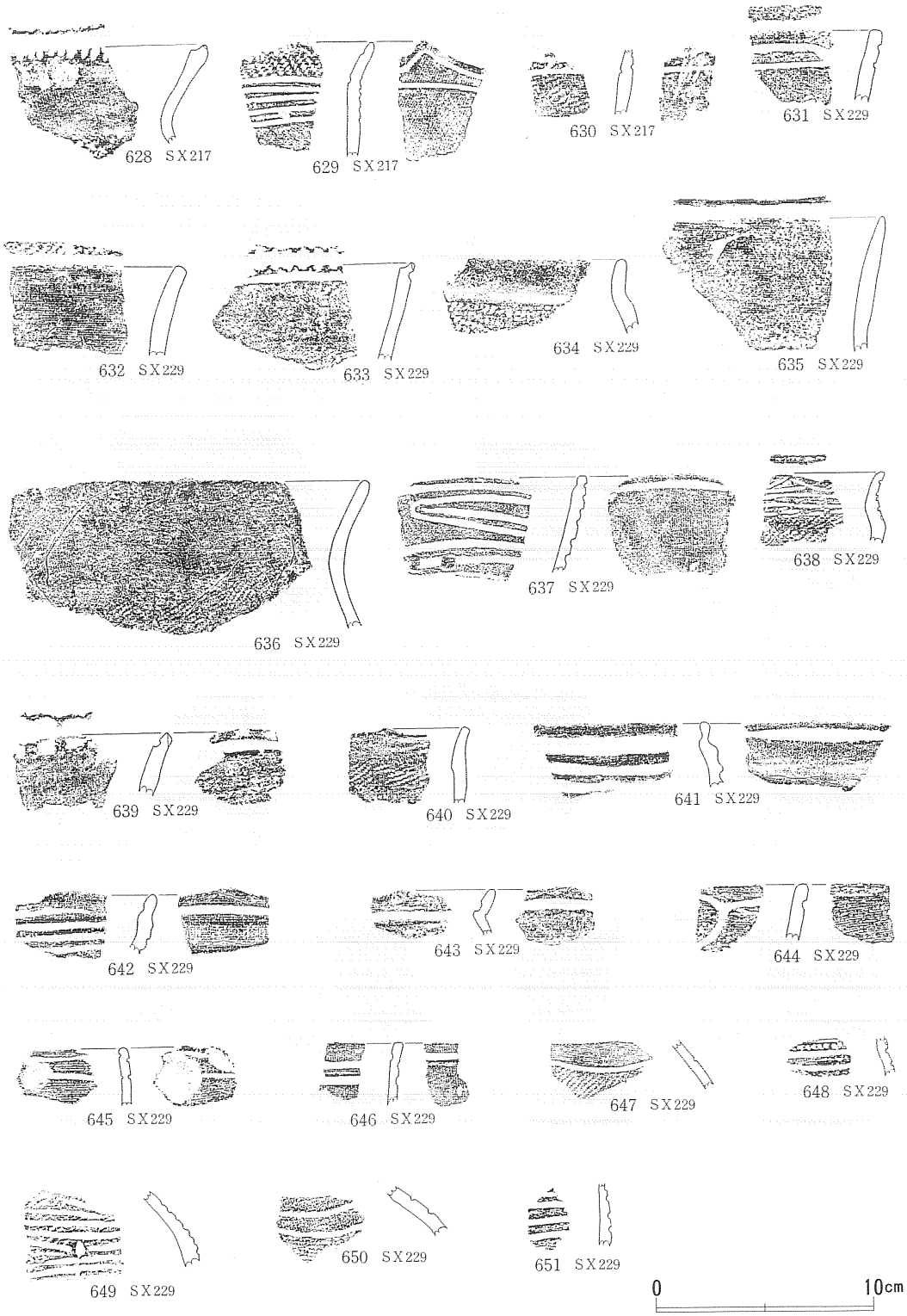
第100図　遺構内出土遺物(縄文・弥生時代)―19



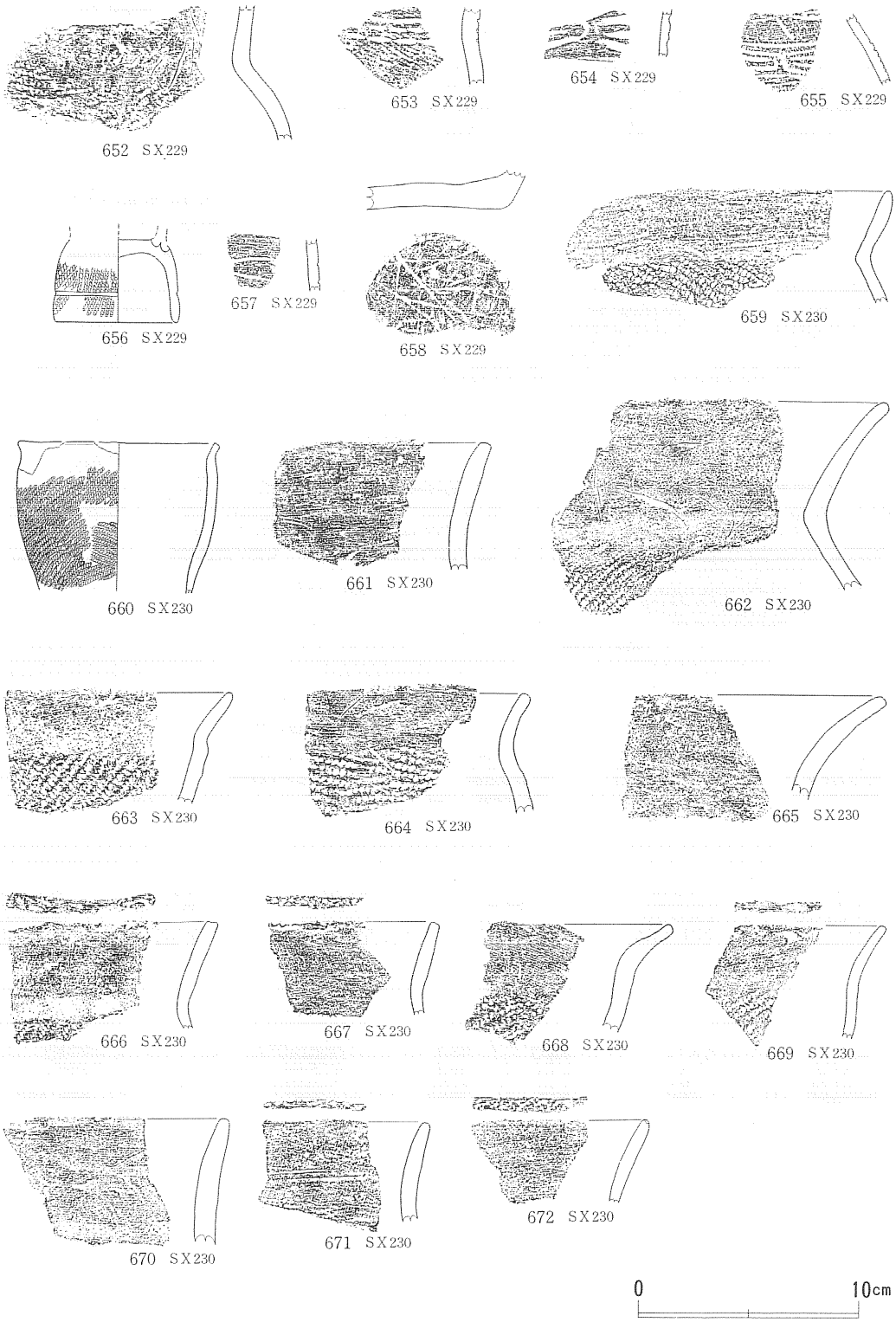
第101図　遺構内出土遺物(縄文・弥生時代)—20



第102図　遺構内出土遺物（縄文・弥生時代）―21

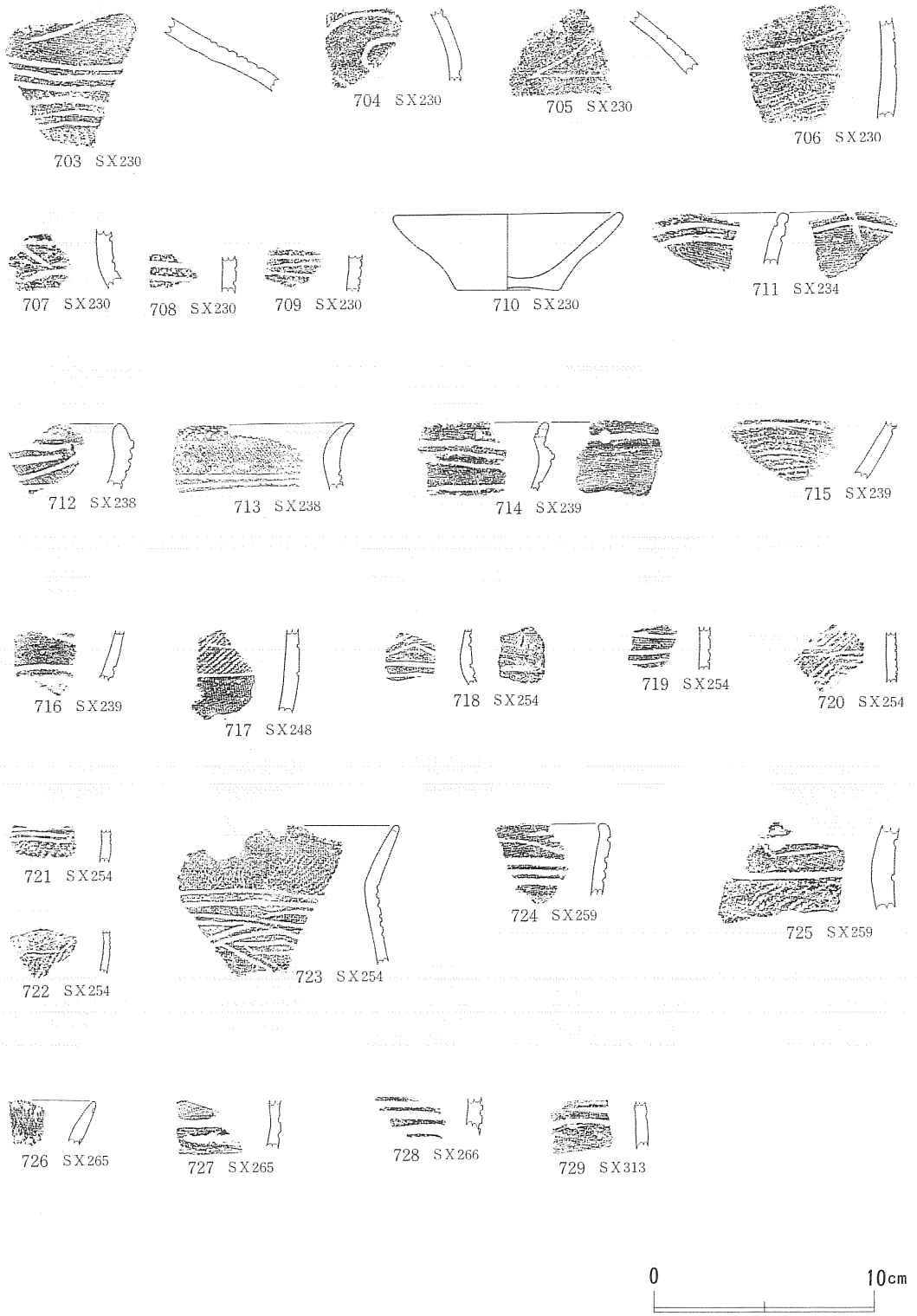


第103図　遺構内出土遺物(縄文・弥生時代)—22



第104図　遺構内出土遺物(縄文・弥生時代)―23

第105図　遺構内出土遺物(縄文・弥生時代)—24



第106図　遺構内出土遺物(縄文・弥生時代)―25

ＳＥ215　（第108図745、図版113）

745は掻器である。

ＳＤ027　（第108図746、図版113）

746は石鏃で、凸基有茎鏃である。

ＳＤ056　（第108図747、図版113）

747は掻器である。

ＳＤ092　（第108図748～750、図版114）

748は石匙で、折損しているが、縦型である。749は掻器、750は石皿である。

ＳＤ099　（第108図751･752、図版114）

751は石皿で、752は掻器である。

ＳＤ104　（第108図753、図版114）

753はフレイクである。

ＳＤ106　（第108図754～759、図版114）

754は石匙で、折損しているが、縦型である。755は石鏃で、尖基鏃である。756･759は石錐、757･758は掻器である

ＳＤ107　（第109図760、図版114）

760は掻器である。

ＳＤ130　（第109図761･762･763、図版114）

761はフレイクである。762は石錐である。763はフレイクである。

ＳＤ166　（第109図764･765、図版114）

764･765は石鏃で、いずれも凸基有茎鏃である。

ＳＤ168　（第109図766～790、図版114･115･116）

766～769は石鏃で、766はアメリカ式石鏃、767･768は凸基有茎鏃、769は尖基鏃である。770･771は石錐、772は石槍、773～776は篦状石器で773はｂ類、774はｃ類、775･776はｄ類である。777～783は掻器である。784･785は凹石で、786は擦石、788は石皿である。789･790は石皿である。

ＳＤ169　（第111図791～795、図版116）

791～793は石鏃で、791は凸基有茎鏃、792は尖基鏃である。794は篦状石器である。795は定角式磨製石斧である。

ＳＤ251　（第111図796～799、図版116）

796～799は石鏃で、796･797は凸基有茎鏃、798･799は尖基鏃である。

ＳＤ282　（第111図800、図版116）

800は石錐である。

ＳＤ303　（第111図801、図版116　）

801は定角式磨製石斧である。

ＳＤ308　（第111図802、図版116）

802は石匙で、横型である。

ＳＫ043　（第112図803、図版116）

803は掻器である。

ＳＫ059　（第112図804･805、図版116）

804は石鏃で、凸基有茎鏃である。805は石匙で、横型である。

ＳＫ064　（第112図806、図版116）

806は掻器である。

ＳＫ082　（第112図807、図版116）

807は掻器である。

ＳＫ115　（第112図808～811、図版116）

808は石鏃で凸基有茎鏃である。809は篦状石器で、ｂ類である。810･811は掻器である。

ＳＫ118　（第112図812･813、図版116･117）

812は篦状石器で、ｃ類である。813は掻器である。

ＳＫ124　（第112図814、図版117）

814は掻器である。

ＳＫ164　（第112図815、図版117）

815は篦状石器で、ｂ類である。

ＳＫ179　（第112図816、図版117）

816は石鏃で、尖基鏃である。

ＳＫ186　（第112図817、図版117）

817は篦状石器で、ｃ類である。

ＳＫ186　（第112図818、図版117）

818は敲石である。

ＳＫ188　（第113図819、図版117）

819は篦状石器で、ｃ類である。

ＳＫ194　（第113図820～824、図版117）

820～824は掻器である。

ＳＫ202　（第113図825、図版117）

825は掻器である。

ＳＫ236　（第113図826、図版117）

826は石鏃で、凸基有茎鏃である。

ＳＫ250　（第113図827、図版117）

827はフレイクである。

ＳＲ295　（第113図828、図版117）

828は磨製石斧で中央部から先まで折損している。

ＳＸ033　（第113図829、図版117）

829は磨製石斧で断面形は長楕円形である。

ＳＸ084　（第113図830～843、図版117･118）

830～833は石鏃で、830･831は凹基無茎鏃、832は平基無茎鏃、833は尖基鏃である。834～839は篦状石器で、834はｄ類、835～838はｂ類、839･840はｃ類である。841は掻器である。842は環状石斧で、石質は頁岩である。843は凹石である。

ＳＸ114　（第114図845･848、図版118）

845･848は石槍でｂ類である。845は尖端が丸味をおびており、あるいは石錐としても使用されたものかもしれない。846･847は篦状石器である。846はｄ類、847はｃ類である。

ＳＸ131　（第114図849～853、図版118）

849～853は石鏃で、いずれも凸基有茎鏃である。854は石槍でｂ類である。

ＳＸ133　（第114図855～863、図版118）

855～857は石鏃で、いずれも凸基有茎鏃である。858は石槍でｂ類である。859～861は篦状石器で859･860はｂ類、861はｄ類である。862･863は掻器である。

ＳＸ149　（第115図864、図版118）

864は石鏃で、凸基有茎鏃である。

ＳＸ153　（第115図865、866、図版118）

865は石鏃で、凸基有茎鏃である。866は篦状石器で、ａ類である。

ＳＸ160　（第115図867･868、図版119）

867･868は石鏃で、凸基有茎鏃である。

ＳＸ184　（第115図869～873、図版119）

869～873は石鏃で、873は尖基鏃、他は凸基有茎鏃である。

ＳＸ229　（第115図874･877、図版119）

874は石鏃で、尖基鏃である。875･877は篦状石器で、875はｂ類、877はａ類である。876は石槍で、ｂ類である。

ＳＸ230　（第115図878～880、図版119）

878～880は篦状石器で、878･879はｄ類、880はｃ類である。

ＳＸ238　（第115図881、図版119）

881は篦状石器で、ａ類である。

ＳＸ254　（第115図882･883、図版119）

882は石鏃で、凸基有茎鏃である。883は篦状石器で、ｂ類である。

③　石製品

ＳＡ205　（第107図730、図版113）

730は石棒である。

ＳＤ168　（第110図787、図版115）

787は石棒である。

ＳＸ111　（第114図844、図版118）

844は石棒である。

ＳＸ310　（第115図884、図版119）

884は石棒である。

（２）　遺構外出土遺物

手取清水遺跡出土の縄文･弥生時代の土器･土製品･石器･石製品の総量はコンテナ250箱以上に達する。出土数量の最も多いＤ区は表土から地山までの土層が25～45cmと比較的薄く水田耕作や耕地整理事業などの影響を受けている。また旧河川出土遺物は周囲から流れ込んで来た遺物であり、摩滅が特に著しい小破片ばかりであると言っても過言ではない。したがって旧河川出土遺物は遺構外として取り扱った。

①　土器

本項で取り上げる遺構外出土土器は、比較的保存の良好な破片を集成したものである。遺構外出土の土器は縄文時代と弥生時代の土器に分けられ、相対的な出土総量は縄文土器(後期･晩期)が少なく、弥生土器が圧倒的に多い。

本遺跡から出土した縄文土器･弥生土器の出土状況は、既述したように遺構内から一括出土したもの、層位的に出土したものであっても、個々の出土土器の検討結果は縄文土器、弥生土器、古代土器、中･近世陶磁器が混在していたというのが実態であった。したがって遺構内出土土器、層位的に出土した土器であっても、縄文時代後期から弥生時代後期までの時期の異なる土器が含まれ、単一の時間幅に製作･使用されたものではない。このような土器群を整理するにあたっては、まず土器の形態を観察して器種を認定し、器種を主として施文･装飾技法の共通性から分類を行い、隣接地域との編年的対応関係から、ある程度の同時性を想定し得る各

器種ごとのまとまりを群として把えることにした。

縄文土器・弥生土器を記述するにあたっては、縄文土器(後期・晩期)は資料が少ないため、時期の古い順に記述することにした。弥生土器は器種分類を行った後、土器群を特定することにした。ただし「底部」については一括して扱った。

弥生土器の器種は、Ⅰ類(甕形土器)、Ⅱ類(鉢形土器)、Ⅲ類(高杯形土器)、Ⅳ類(壺形土器)、Ⅴ類(蓋形土器)とし、Ⅵ類(底部)を付け加えた。以下、取り上げる土器は遺構外出土土器であるが、各類の標式的土器については既に紹介した遺構内出土土器についても取り入れてある。この場合の土器番号は遺構内出土土器に記した同一番号を括弧内に記した。

縄文土器　(第116図1001～1016、図版120・133)

1001・1002は深鉢形土器の口縁部である。1002は縦に長い刻み目文のあと、沈線を施し、突起の下に円形の粘土板を張りつけた上に十字の刻み目を付してある。1003は浅鉢形土器で、いわゆる入組三叉文を施文している。1001～1003は縄文時代後期末葉の土器群である。

1004は鉢形で口縁上にB突起が付き、体部上半には彫り込んだ入組三叉文が施文されている。1005は大きな鉢か壺であろう。1006は横長の長楕円文をもつ小形の壺である。1004・1005は縄文時代晩期C_1～C_2式であり、1006は大洞C_2式である。

1007は浅鉢形土器で、口縁上にはA突起とB突起が交互に付き、底面に四脚のような痕跡がある。1008～1009は鉢形、1011・1012は浅鉢形であり、いずれも浮線状の工字文が施文されている。大洞A式である。

1013・1014は口縁上に山形突起があり、1015・1016は平縁の鉢形土器である。いずれも変形工字文が施文され、1014は変形工字文の交点に粘土粒が付いている。大洞A′式である。

弥生土器

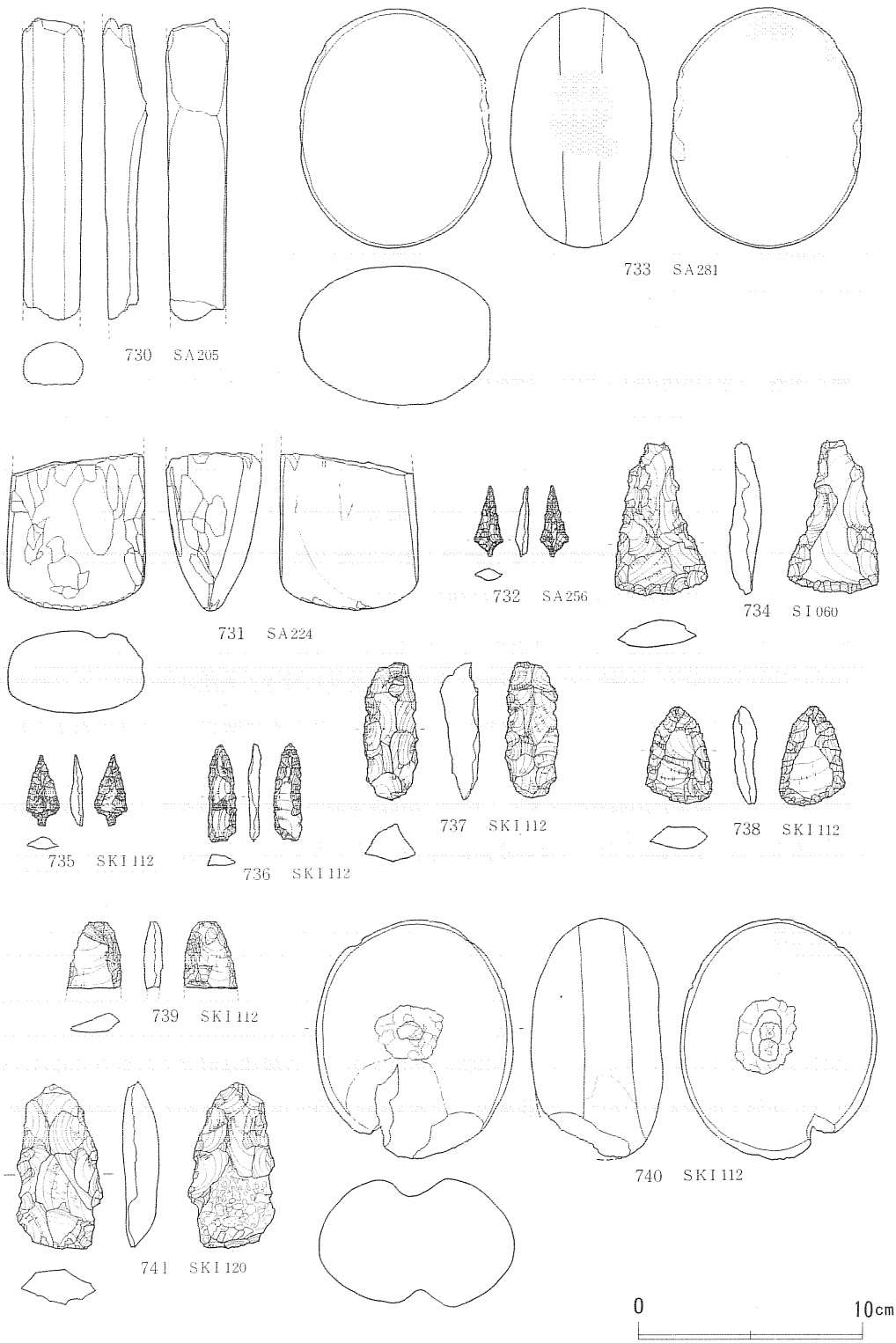
Ⅰ類　甕形土器

Ⅰa類　(第117図1017～1022、図版121)

1017の口縁は小波状であるが、1018～1022は平縁である。口縁部は直立するもの(1017)、内弯ぎみに立ち上がるもの(1018)、外反ぎみになるもの(1019～1021)などがある。口縁部は無文であるが、頸部のくびれから体部下半は縄文帯となる。縄文はLR原体の斜位・横位回転である。小波状の口唇部上は沈線が刻まれるもの(1017)、縄文が付される(1020・1022)などがある。いずれも復原できる口径直径はおおよそ25～30cm位である。

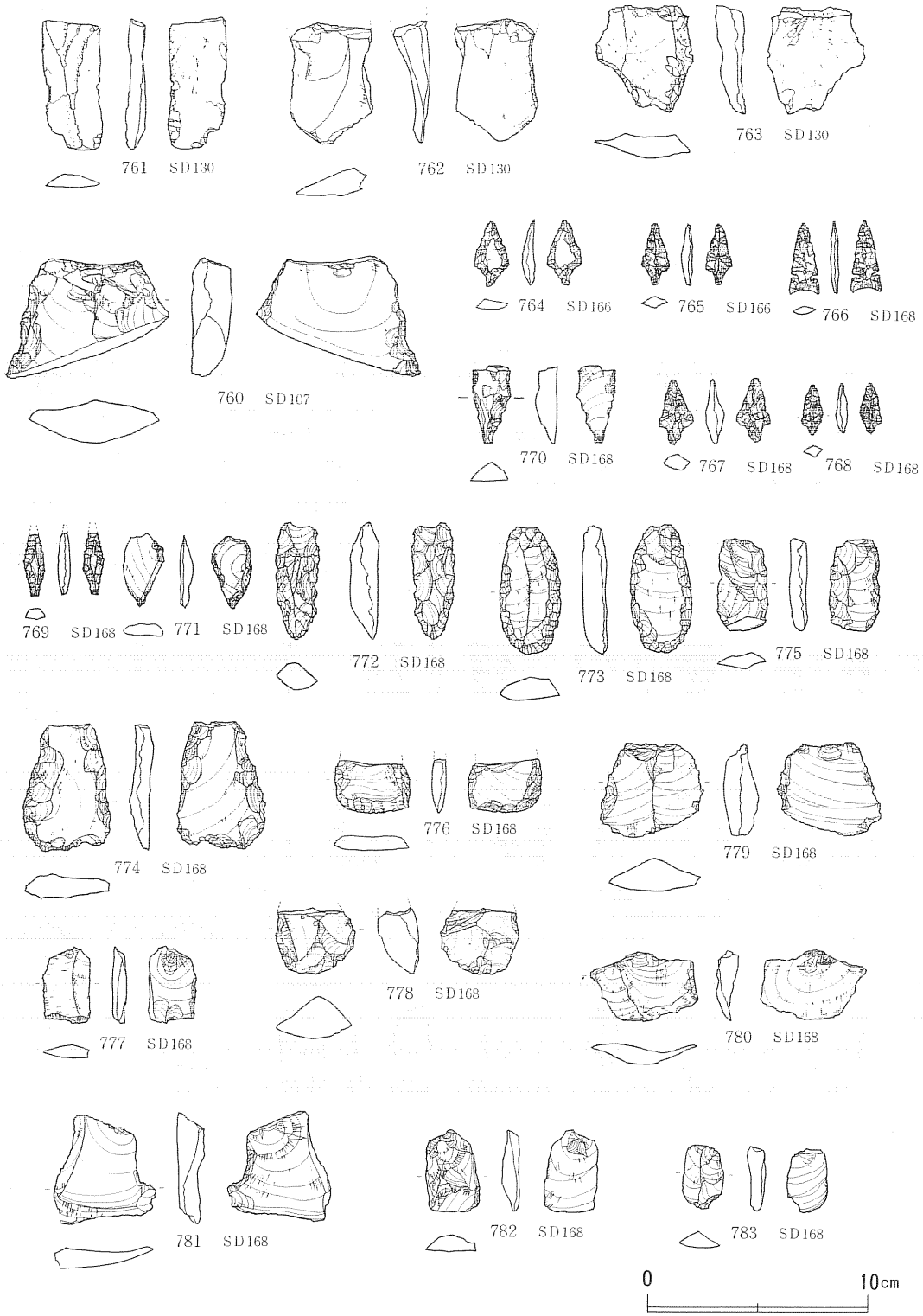
Ⅰb類　(第117図1023～1030、図版121)

口縁部外面には縦の刷毛目調整があり、その上に1～3条の沈線をめぐらすものが多い。口

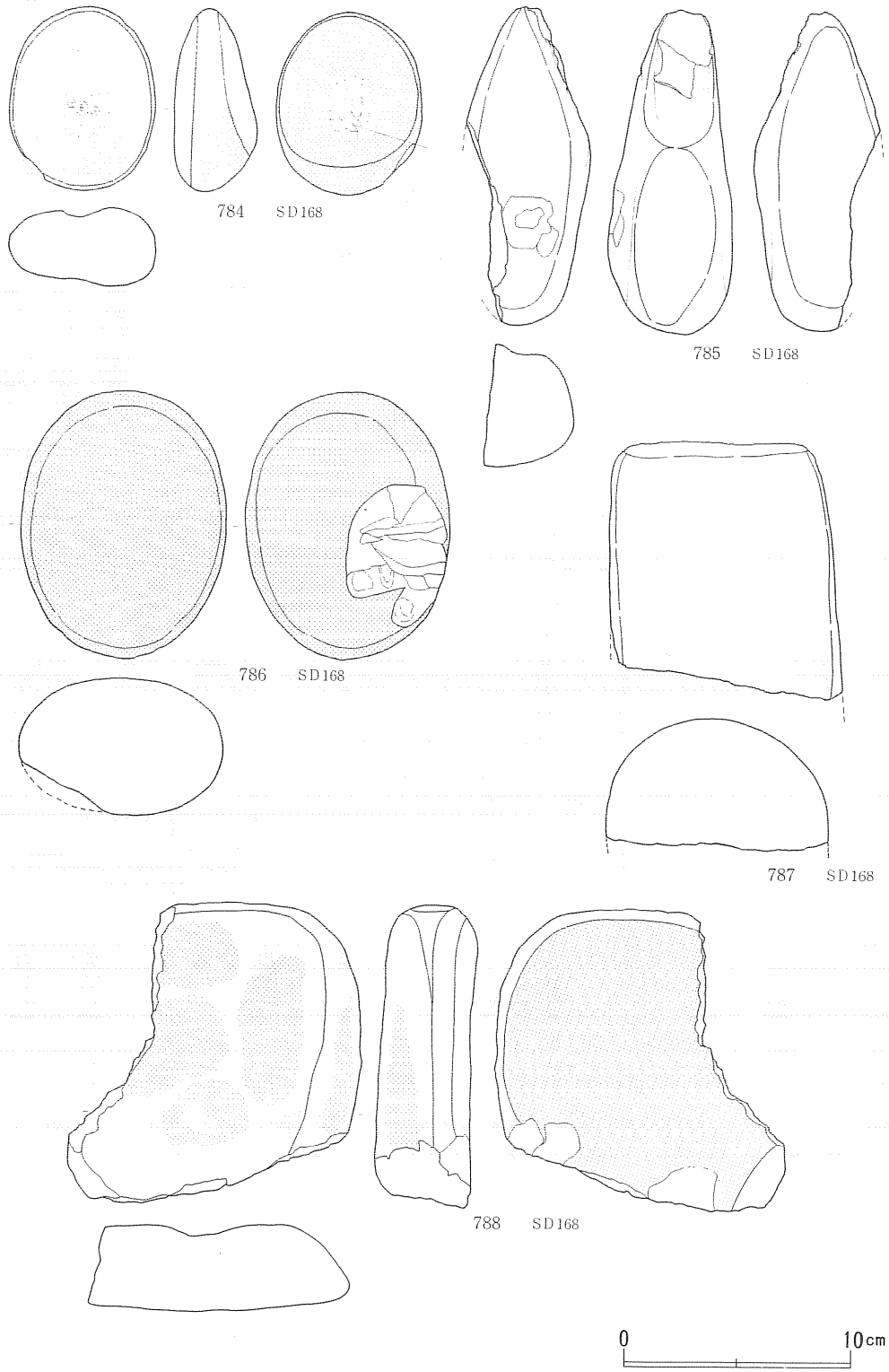


第107図　遺構内出土遺物―１

第108図　遺構内出土遺物―２



第109図　遺構内出土遺物―４



第110図　遺構内出土遺物―４